鳳笙師傳相承　　篳篥師傳相承
郢曲相承次第　　儛樂師傳相承
大家笛血脈
神樂注祕抄（一名梁塵愚案抄）（一條兼良）
儛馬樂注祕抄（同上）（同上）

日本樂道叢書　九編　羽塚啓明編　昭和三至七　和・中　一二冊　チ二　類　三六八九　號

音律通致章（卷第二）（凝然）　一
樂道纂解（宗覺）　二
近家抄（狛近家）　三—四
溫故抄（太秦廣猶）　五
樂書目錄類纂（小川守中）　八
歌儛雜識（小川守中）　九
舞樂記（本居大平）　一〇—一二
尋閒鈔　一三
久米舞考證（河村益根）　一四
樂曲考（田安宗武）　六—七
樂曲目錄（田中大秀）　八
衆清錄（豐原文秋）　一〇—一二
指月話（四辻公說）　一三

○

絲竹口傳　俊鏡撰　和・大（群書類從）　一　イ　四　四八八　四三三
絲竹口傳　俊鏡撰　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　三三五　一一
同　一　イ　四　二一六六　一一
今樣譜　洋・中（日本歌謠集成）　一　ヘ　四　四四一九　一二
郢曲古代今樣譜　儛馬樂今樣譜　寫本　和・小　一　チ　二　三七〇八
郢曲抄　和・大（群書類從）　一　イ　四　四八八　四三五
郢曲抄　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二三五　一一
同　一　イ　四　一二六六　一一
郢曲相承次第　洋・小（續群書類從）　一　イ　四　二八二　二〇

橫笛譜裏書　源時中撰　洋・中（續群書類從）　一冊　イ　四　類　二八二　號
溫故抄　太秦廣猶撰　和・中（日本樂道叢書）　一　チ　二　三六八九　八
音律通致章　卷第二　凝然撰　昭和七　和・中（日本學道叢書）　一　チ　二　三六八九　一
懷竹抄　大神惟季撰　和・大（群書類從）　一　イ　四　四八八　四二七
懷竹抄　大神惟季撰　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二三五　一一
同　一　イ　四　一二六六　一一
雅樂及聲明圖書展覽目錄　大正一五　洋・中　一　チ　二　二七六三
雅樂解　集義外書卷之一五　熊澤伯繼撰　洋・中（日本倫理彙編）　一　ロ　九　八五三　二
雅樂曲調傳　二卷　寫本　岡昌名撰　和・大（新撰樂道類聚大全）　一　チ　一　七〇八　四
雅樂通解　田邊尙雄撰　（大正九）　洋・中　一　チ　二　三二七五
雅樂と伎樂　田邊尙雄撰　昭和六　洋・中（岩波講座日本文學）　一　ヘ　二　四三一八　二
樂章類語抄　小山田與清編　洋・中（日本歌謠集成）　一　ヘ　七　四四一三　二
樂所補任　端隅　和・大（群書類從）　一　イ　四　四八八　五九
樂所補任　端隅　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二三五　三
同　一　イ　四　一二六六　三
樂書目錄類纂　下　昭和六　小川守中編　和・中（日本樂道叢書）　一　チ　二　三七〇八　九
樂調辨覽　岡昌名撰　寫本　和・大（新撰樂道類聚大全）　一　チ　二　七〇八　五
樂道雜記　岡昌名撰　寫本　和・大（新撰樂道類聚大全）　一　チ　二　七〇八　二
樂道纂解　宗覺撰　昭和四・五　和・中（日本樂道叢書）　二　チ　二　三六八九　四

神樂血脈　洋・小（續群書類從）　一　イ　四　二八二　二〇
神樂研究　西角井正慶撰　昭和九　洋・中　一　チ　二　三七三三
藝術としての神樂の研究　小寺融吉撰　昭和四　洋・小（民俗藝術叢書本）　一　チ　二　七〇八　一四
神樂要錄抄　岡昌名撰　寫本　和・大（新撰樂道類聚大全）　一　ヘ　七　四四一九　一二
神樂和琴祕譜　洋・中（日本歌謠集成）　一　イ　四　七三四　三
華原磬考證　黑川眞頼撰　洋・中（黑川眞頼全集）　五　イ　四　一三二〇　一九四
樂家錄　五〇卷・總目一卷　昭和一〇・一一　安倍季尙撰　洋・小（日本古典全集）　六　チ　一　七六　五七—六二
樂器　松平定信撰　和・大（集古十種）　一　チ　二　三六八九　六七
樂曲考　八卷　昭和三・四　田安宗武撰　和・中（日本樂道叢書）　二　チ　二　三六八九　三
樂曲製傳記　二卷　寫本　岡昌名撰　和・大（新撰樂道類聚大全）　一　チ　二　七〇八　三
樂曲目錄　田中大秀撰　和・中（日本樂道叢書）　一　チ　二　三六八九　八
樂律雜記　岡昌名撰　寫本　和・大（新撰樂道類聚大全）　一　チ　二　七〇八　一九
歌儛雜識　小川守中撰　和・中（日本樂道叢書）　一　チ　二　三六八九　一二
歌儛品目　一〇卷　昭和五　小川守中編　洋・小（日本古典全集）　二　イ　四　一三二〇　一四五—一四六
歌儛品目　一〇卷　明治三一　小川守中編・邦岡良弼校　和・小（續史籍集覽）　五　リ　四　三〇〇一　六一—六五
管絃音義　和・大（群書類從）　一　イ　四　四八八　四二五
管絃音義　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二三五　一一
同　一　イ　四　一二六六　一一
管絃記　唐・大（說郛）　一　イ　一二　＊　六六　九六

管絃教錄　六卷　和・大（新撰樂道類聚大全）　三　チ　一　七〇八　六—八
嬉遊笑覽　卷六上（音曲）　喜多村信節撰　和・小（存採叢書）　二　イ　四　五一三　二三—二四
嬉遊笑覽　卷六上（音曲）　喜多村信節撰　洋・中（日本藝林叢書）　一　イ　四　一一三九　七
教訓抄　狛近眞撰　洋・小（續群書類從）　一　イ　四　二八二　二〇
教訓抄　狛近眞撰・山田孝雄校合本景刊—昭和三　洋・小（日本古典全集）　二　イ　四　一三二〇　八〇—八一
魚山私鈔　二卷　長惠撰　正德元　和・大　二　ハ　四　二〇三三
魚山蠆芥集　二卷　長惠撰　（貞享二）　和・大　一　ハ　四　六八九
御遊抄　洋・小（續群書類從）　一　イ　四　二八二　二〇
御遊部類記　洋・小（續群書類從）　一　イ　四　二八二　二〇
近家抄　樂名記　狛近家撰　昭和四　和・中（日本樂道叢書）　一　チ　二　三六八九　五
琴歌譜　天元四年寫本複製—昭和二　和・大（古典保存會刊行本）　一　チ　一一　＊三六八一
久米舞考證　河村益根撰　和・中（日本樂道叢書）　一　チ　二　三六八九　四
胡琴教錄　和・大（群書類從）　二　イ　四　四八八　四二八—四二九
胡琴教錄　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二三五　一一
同　一　イ　四　一二六六　一一
古今樂話　二卷　寫本　岡昌名撰　和・大（新撰樂道類聚大全）　一　チ　二　七〇八　一六
五重十操記　和・大（群書類從）　一　イ　四　四八八　四二五
五重十操記　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二三五　一一
同　一　イ　四　一二六六　一一

古事類苑 樂舞部 洋・大　神宮司廳刊　冊二　イ　三　類　一四六　三六―三七
古事類苑 樂舞部 洋・中　同刊行會刊　二　イ　三　一八一六　四三―四四
同　二　イ　三　一八三七　四三―四四
古代歌謠の研究　藤田德太郎撰 昭和九 洋・中　一　ヘ　七　四五二八
催馬樂古譜　洋・小（日本古典全集）　一　イ　四　一三二〇　一五七
催馬樂師傳相承　洋・小（續群書類從）　一　イ　四　一八二〇
催馬樂抄 天治本　古典保存會刊　古寫本複製―大正一五　和・大　一　ヘ　七　※四二五二
催馬樂抄 天治本　洋・中（日本歌謠集成）　一　ヘ　七　四四一九二
催馬樂略譜　洋・小（日本古典全集）　一　イ　四　一三二〇　一五七
催馬樂錄抄　岡昌名撰　和・大（新撰樂道類聚大全）　一　チ　二　七〇八　一四
祭要樂錄 二卷　寫本　岡昌名撰　和・大（新撰樂道類聚大全）　一　チ　二　七〇八　一八
坐閒筆語 附江賜筆談（覺政新剞）　新井君美筆語・朝鮮・趙泰億編　和・大　一　イ　四　一九八八
坐閒筆語 一名觀樂筆談・又 內殿燕樂筆談・朝鮮・趙泰億編　新井君美筆語・洋・中（新井白石全集）　一　イ　四　四四八　四三一
雜祕別錄　藤原孝道撰　和・大（群書類從）　一　イ　四　四八八　四三一
雜祕別錄　藤原孝道撰　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二三五　二二
同　一　イ　四　一六六　二二
讚嘆　洋・小（日本古典全集）　一　イ　四　一三二〇　一五七
殘夜抄 一名迷路抄　近衛家基撰　和・大（群書類從）　一　イ　四　四八八　四三一
殘夜抄 一名迷路抄　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二三五　二二
同　一　イ　四　一六六　二二
殘夜抄 一名迷路抄　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二三五　二二
指月話　四辻公說撰　和・中（日本樂道叢書）　一　チ　二　三六八九　一一
衆清錄　豐原文秋撰　昭和六　和・中（日本樂道叢書）　二　チ　二　三六八九　一〇一一
十操記　貞保親王撰・林廣坤・岡昌隆圖解評註　寫本　和・大（新撰樂道類聚大全）　一　チ　二　七〇八　五
順德院御琵琶合　和・大（群書類從）　一　イ　四　四四八　四三四
順德院御琵琶合　洋・小（經濟雜誌本群書類從）　一　イ　四　二三五　二二
同　一　イ　四　一六六　二二
鐘鼓類集 五卷　寫本　岡昌名撰　和・大（新撰樂道類聚大全）　三　チ　二　七〇八　九一一
笙序破遠曲譜　寫本　和・小　一　チ　二　三七〇九
正倉院樂器の調査報告　上眞行等撰　洋・大（帝室博物館學報）　一　ト　九　一四九一　二
上代歌謠の研究　安田喜代門撰　昭和六　洋・中　一　ヘ　七　四三七四
上代歌謠の展開と律的現象　橫山青娥撰　洋・中（國文學研究）　一　ヘ　二　四三六九　五
掌中要錄　洋・小（續群書類從）　一　イ　四　二八二　二〇
掌中要錄祕曲　洋・小（續群書類從）　一　イ　四　二八二　二〇
笙譜　伊藤東涯自筆　和・中　二　チ　二　※一三五三
聲明概說　大山公淳撰　昭和八　洋・中（佛教大學講座）　一　ハ　四　二五二　二
聲明集　和・小　一　ハ　四　九三六
聲明本展觀目錄　昭和三年八月於高野山寶龜院　中川善教編　洋・小　一　ハ　四　二七四

殘夜抄 一名迷路抄　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二六六　一一
指月話　四辻公說撰　和・中（日本樂道叢書）　一　チ　二　三六八九　一一
衆清錄　豐原文秋撰　昭和六　和・中（日本樂道叢書）　二　チ　二　三六八九　一〇一一
十操記　和・中（日本樂道叢書）　一　チ　二　七〇八　五
順德院御琵琶合　和・大（群書類從）　一　イ　四　四四八　四三四
順德院御琵琶合　洋・小（經濟雜誌本群書類從）　一　イ　四　二三五　二二
同　一　イ　四　一二六六　二二
鐘鼓類集 五卷　寫本　和・大（新撰樂道類聚大全）　一　イ　四　一三二〇　一五七
笙序破遠曲譜　寫本　和・小　三　チ　二　七〇八　九一一
正倉院樂器の調査報告　上眞行等撰　洋・大（帝室博物館學報）　一　チ　二　三七〇九
上代歌謠の研究　安田喜代門撰　昭和六　洋・中　一　ヘ　七　四三七四
上代歌謠の展開と律的現象　橫山青娥撰　洋・中（國文學研究）　一　ヘ　二　四三六九　五
掌中要錄　洋・小（續群書類從）　一　イ　四　二八二　二〇
掌中要錄祕曲　洋・小（續群書類從）　一　イ　四　二八二　二〇
笙譜　伊藤東涯自筆　和・中　二　チ　二　※一三五三
聲明概說　大山公淳撰　昭和八　洋・中（佛教大學講座）　一　ハ　四　二五二　二
聲明集　和・小　一　ハ　四　九三六
聲明本展觀目錄　昭和三年八月於高野山寶龜院　中川善教編　洋・小　一　ハ　四　二七四

聲明の歷史及び音律　大山公淳撰　昭和五　洋・中　一　ハ　四　二三二
眞言宗聲明沿革史概說　大山公淳撰　洋・中（日本宗教講座）　一　ハ　一　二四六　四
眞言宗聲明沿革史概說　大山公淳撰　洋・中（日本宗教大講座）　一　ハ　一　二〇七　一〇
新撰要記鈔　洋・小（續群書類從）　一　イ　四　二八二　一〇
秦箏相承血脈　和・大（群書類從）　一　イ　四　四八八　四三四
秦箏相承血脈　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二三五　二二
同　一　イ　四　一六六　二二
尋聞鈔 二卷　昭和三　和・中（日本樂道叢書）　一　チ　二　三六八九　二
青海波垣代之圖　寫本　軸　一　チ　二　※一〇八七
箏曲大意抄　洋・小（日本古典全集）　一　イ　四　一三二〇　一五九
箏曲と地唄の味ひ方　藤田斗南撰　昭和五　洋・小　一　チ　二　三七一〇
箏箏師傳相承　洋・中（續群書類從）　一　イ　四　二八二　一〇
箏箏殘樂譜　寫本　和・小　一　チ　二　三七〇三
箏箏延曲譜　寫本　和・小　一　チ　二　三七〇四
箏箏　羯鼓譜　寫本　和・小　一　チ　二　三七〇三
箏箏　高麗鄂曲譜　催馬樂今樣　寫本　和・小　一　チ　二　三七〇五
箏箏延曲譜　寫本　和・小　一　チ　二　三七〇四
箏箏　羯鼓譜　寫本　和・小　一　チ　二　三七〇三
箏箏　高麗鄂曲譜　催馬樂今樣　寫本　和・小　一　チ　二　三七〇五
箏箏師傳相承　洋・中（續群書類從）　一　イ　四　二八二　一〇
箏箏序破遠曲譜　寫本　和・小　一　チ　二　三七〇六
琵琶血脈　和・大（群書類從）　一　イ　四　四八八　四三四
琵琶血脈　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二三五　二二
同　一　イ　四　一六六　二二
風俗譜 文治奧書本　洋・中（日本歌謠集成）　一　ヘ　七　四四一九　二
舞樂記　本居大平撰　和・中（日本樂道叢書）　二　チ　二　三六八九　二二
舞樂裝束書 二卷　寫本　岡昌名撰　和・大（新撰樂道類聚大全）　一　チ　二　七〇八　一三
舞樂小錄　洋・小（續群書類從）　一　イ　四　二八二　二〇
舞樂圖　高島千春等書　明治三八　和・大（故實叢書）　二　ワ　三　二四一　一三五―一三六

舞樂圖說　大槻如電撰　和・中（故實叢書）　一　イ　四　二四八　一三七
舞樂要錄　和・大（群書類從）　一　イ　四　四八八　四三〇
舞樂要錄　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二三五　一二
同　一　イ　四　一二六六　一二
舞曲口傳　豐原統秋撰　和・大（群書類從）　一　イ　四　四八八　四三〇
舞曲口傳　豐原統秋撰　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二三五　一二
同　一　イ　四　一二六六　一二
舞曲集要書　岡昌名撰　寫本　和・大（新撰樂道類聚大全）　一　チ　一一　七〇八　一二
文机談　六卷（有缺）・別册解說添　菊亭本複製—昭和一〇　和・大　文机房隆圓撰　六　チ　二　＊三七四九
平曲　沼澤龍雄撰（岩波講座日本文學）　洋・中　一　ヘ　二　四三一八　八
邦樂實演會詞曲・朗詠譜・法相聲明譜・天台聲明譜　洋・中（啓明會講演集）　一　イ　四　二三八二　一三
鳳笙師傳相承　洋・小（續群書類從）　一　イ　四　二八二　二〇
舞御覽記　元德三年　和・大（群書類從）　一　イ　四　四八八　四四六
舞御覽記　元德三年　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二三五　一二
同　一　イ　四　一二六六　一二
舞御覽記　貞治三年　洋・小（續群書類從）　一　イ　四　二八二　二〇
舞御覽記　文永五年　洋・小（續群書類從）　一　イ　四　二八二　二〇
傀圖　信西古樂圖　景刊—昭和二　洋・小（日本古典全集）　一　イ　四　一三一〇　七九
龍笛高麗鄂曲・催馬樂今樣譜　寫本　和・小　一　チ　一一　三七〇〇
龍笛笙拍子譜　寫本　和・小　一　チ　一一　三七〇七
龍笛序破遠曲譜　寫本　和・小　一　チ　一一　三七〇一
龍笛琵琶羯鼓拍子譜　寫本　和・小　一　チ　一一　三六九九
龍鳴抄　大神基政撰　和・大（群書類從）　一　イ　四　四八八　四二六
龍鳴抄　大神基政撰　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二三五　一二
龍鳴抄　洋・小（日本古典全集）　一　イ　四　二三三三　一二
梁塵祕抄口傳集　卷一斷簡　御白河院御撰・佐々木信綱校（梁塵祕抄後附）　一　ヘ　七　三三三三　七
梁塵祕抄口傳集　卷一〇　御白河院御撰（群書類從）　一　イ　四　一二六六　一二
梁塵祕抄口傳集　卷一〇　御白河院御撰（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　四八八　四三七
梁塵祕抄口傳集　卷一〇　御白河院御撰（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二三五　一二

明應二年鳳管灌頂記　洋・小（續群書類從）　一　イ　四　二八二　二〇
木師抄　和・大（群書類從）　一　イ　四　四八八　四三三
木師抄　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二三五　一二
同　一　イ　四　一二六六　一二
夜鶴庭訓抄　和・大（群書類從）　一　イ　四　四八八　四三二
夜鶴庭訓抄　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二三五　一二
同　一　イ　四　一二六六　一二
吉野吉水院樂書　端裂　洋・小（續群書類從）　一　イ　四　二八二　二〇
洛北曼殊院の續教訓抄について　岩橋小彌太撰　洋・中（日本演劇史論叢）　一　チ　一三　三八四七
龍笛高麗鄂曲・催馬樂今樣譜　寫本　和・小　一　チ　一一　三七〇〇
龍笛笙拍子譜　寫本　和・小　一　チ　一一　三七〇七
龍笛序破遠曲譜　寫本　和・小　一　チ　一一　三七〇一
龍笛琵琶羯鼓拍子　寫本　和・小　一　チ　一一　三六九九
龍鳴抄　大神基政撰　和・大（群書類從）　一　イ　四　四八八　四二六
龍鳴抄　大神基政撰　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二三五　一二
龍鳴抄　洋・小（日本古典全集）　一　イ　四　二三三三　一二
梁塵祕抄口傳集　卷一　斷簡　御白河院御撰・佐々木信綱校（梁塵祕抄後附）　一　ヘ　七　三三三三　七
梁塵祕抄口傳集　卷一〇　御白河院御撰（群書類從）　一　イ　四　一二六六　一二
梁塵祕抄口傳集　卷一〇　御白河院御撰（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　四八八　四三七
梁塵祕抄口傳集　卷一〇　御白河院御撰（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　二三五　一二

梁塵祕抄口傳集　卷一〇　御白河院御撰（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ　四　一二六六　一二
梁塵祕抄口傳集　卷一〇　後白河院御撰（日本歌謠集成）　一　ヘ　七　四四一九　一二
梁塵祕抄口傳集　卷一・二・一〇至一四　佐々木信綱校（岩波文庫本・梁塵祕抄後附）　一　ヘ　七　四五七七
梁塵祕抄口傳集　卷一〇至一二・一四・梁塵祕抄口傳第一二　志田延義校（日本古典全集）　一　イ　四　一三一〇　一五七
梁塵要錄抄　神樂要錄抄・催馬樂要錄抄　岡昌名撰寫本　和・大（新撰樂道類聚大全）　一　チ　二　七〇八　一四
朗詠九十首抄　洋・小（日本古典全集）　一　イ　四　一三三〇　一五七
朗詠要集法隆寺所傳本　（大正四）　和・大（珍書同好會刊行書）　一　イ　四　八六八　五
我が國の古舞古樂　高野辰之撰　洋・中（日本演劇の研究）　一　チ　一三　三六三二
我が國の古舞古樂に就きて　高野辰之撰　昭和元　洋・中（啓明會講演集）　一　イ　四　一二六二　三
和琴血脈　洋・小（續群書類從）　一　イ　四　二八二　二〇

近世邦樂（文學ノ歌謠）（ヘ七參照）

糸竹初心集　中村宗三撰　洋・中（新群書類從）　一　イ　四　五三六　六
同　一　イ　四　六四九　六
絲竹初心集　中村宗三撰　寫本　和・大（玉晁叢書）　一　イ　四　＊九六六　四三
糸竹大全　和・小　二　チ　一一　＊一六三五
今昔操年代記　西澤一風撰　洋・中（新群書類從）　一　イ　四　五三六　六
同　一　イ　四　六四九　六
歌系圖　流石庵羽積撰　洋・中（浪速叢書）　一　イ　四　一二六六　一二
歌系圖　流石庵羽積撰・周峯・五岳等畫　天明二　和・小　一　ヘ　七　四四一九　一二
新繪入淨瑠璃史　水谷不倒（弓彥）撰　昭和一一　洋・中　一　ヘ　七　四五七七
江戸時代音樂通解　町田博三撰　大正一〇　洋・中　一　チ　二　三二七四
江戸節根元集　愚性庵可柳撰・有錢堂清霞補　洋・小（未刊隨筆百種）　一　イ　五　一二二九　一〇
東都江戸節根元集　一名江戸節根元集　愚性庵可柳撰　洋・中（燕石十種）　一　イ　四　六二一　一〇
江戸節根元由來記　洋・中（歌舞演劇講話）　一　イ　四　六四七　二
同　一　イ　四　八六八　五
江戸長唄略說　高野辰之撰　洋・中（歌舞演劇講話）　一　チ　一三　三六六四
延壽清話　第一至一一册　大正一三至一五　洋・中　二　ヘ　三　四二四六
大薩摩の代々　宮內壽松編　昭和五　洋・中　一　ヘ　七　四三六八
大ぬさ　三味線初心書　複製　和・小　一　チ　二　三七四二
音曲鼻毛拔　松屋耳鳥齋述　洋・中（國書刊行會叢書ノ內雜藝叢書）　一　イ　四　七九九　二四
獨奏音譜琵琶歌　城西琵琶歌俱樂部編　明治四五　一一版　洋・小　一　チ　一一　二八一七
自在音譜琵琶歌　義太夫節中節　大江山の竝演に就いて　義太夫の大江山衣洗ひの段外一項附　細川智茂撰　和・小　一　チ　一一　二七七〇
歌舞伎音樂の研究　町田嘉章撰　洋・中（日本文學講座）　一　ヘ　二　四三六〇　一〇
義太夫新論　副島八十六撰　大正三　再版　洋・小　一　チ　一一　二七七九
義太夫の花　長博景編　明治三九　洋・中　一　チ　一一　二一四八
義太夫論　副島八十六撰　洋・中　一　チ　一一　三七一三
同　一　チ　一一　三七一四

今古參考南水漫遊 一五卷 濱松歌國撰 洋・中 (新群書類從) 一冊 イ 四類 五二六號

同 一 イ 四 六四九 二

近世邦樂年表 東京音樂學校編 明治四五至昭和二 洋・大 三 チ 一一 三三一 二

常磐津・富本・清元の部 一 江戸長唄・大薩摩淨瑠璃の部 三 二

近世邦樂年表 義太夫節の部 昭和二 洋・大 東京音樂學校編 一 チ 一一 三六七五

近代歌謠史略 藤田德太郎撰 洋・中 (近代歌謠集ノ內) 一 ヘ 七 四二七〇

近代歌謠の研究 藤田德太郎撰 昭和一二 洋・中 一 ヘ 七 四五七五

劇場音曲の話 黒木勘藏撰 和・中 (稀書複製會刊行稀書解說) 一 イ 四 一一六五 四三

元祿風花見踊 竹柴瀧助作・高折周一譯譜・許屋正次郎節附 明治三六・和・大 一 チ 一一 一六六

古淨瑠璃の新研究 慶長・寬文篇 若月保治撰 昭和一三 洋・中 一 ヘ 七 四五八三

薩摩琵琶歌圖式の曲譜 第一至三集 明治四二 南波李庵作譜 洋・小 三 チ 一一 一七四一

參考今昔操淨瑠璃外題年鑑 一學子編 洋・中 (新群書類從) 一 イ 四 五三六 七

同 一 イ 四 六四九 七

尺八ひとりけいこ 元祿一二 和・小 一 チ 一一 *一六三六

首都の邦樂分布 高野辰之撰 洋・小 (歌舞音曲考說) 一 チ 一三 三三七五

淨瑠理原始 竹本播磨掾口傳・順四軒編 (嘉永四) 和・小 一 チ 一一 三七二九

淨瑠璃史 寺山啓介撰 明治二七 再版 洋・小 一 チ 一一 一六〇

同 一 チ 一一 四〇九

操曲入門口傳之卷 洋・小 (未刊隨筆百種) 一 イ 五 一一二九

竹本劇と其作家 岡本綺堂撰 大正一一 洋・小 (文化叢書本) 一 チ 一三 一〇二一

竹本豊竹淨瑠璃譜 洋・小 (近古藝文溫知叢書) 一 イ 四 一二六 四

竹本豊竹淨瑠璃譜 洋・中 (燕石十種) 一 イ 四 六二一 二

同 一 イ 四 六四七 二

近松が音樂上に於ける大集成 高野辰之撰 洋・中 (日本演劇の研究) 一 チ 一三 三八六三

現存近松淨瑠璃曲年表・解說各一枚 細川鴻聲撰 (大正三) 和・大 一 チ 一一 三七二七

近松人形淨瑠璃の研究 若月保治撰 昭和九 洋・大 一 ヘ 七 四四二

竹豊故事 浪速散人一樂撰 (寶曆六) 和・中 三 チ 一一 三七五五

竹豊故事 浪速散人一樂撰 洋・中 (新群書類從) 一 イ 四 五三六 六

淨瑠璃史 水谷不倒撰 洋・中 (日本文學講座) 一冊 ヘ 二類 四三六〇 一〇

淨瑠璃史要 黒木勘藏撰 洋・中 (日本風俗史講座) 一 ヲ 六 三〇七四 八

淨瑠璃大系圖 竹本筑太夫・小鹿翁考・狂言堂近松春掌訂 天保一三・和・小 三 チ 一一 三七五四

淨瑠璃の話 高野辰之撰 洋・小 (日本趣味十種) 一 リ 五 五三一五

淨瑠璃祕曲抄 竹本播磨掾撰 寶曆七 和・小 一 チ 一一 三七一六

神傳八雲琴譜 中山琴主編 (安政五) 和・大 一 チ 一一 三七三五

聲曲類纂 五卷 齋藤幸成編・雪堤書屋 弘化四・和・大 六 チ 一一 一四六四

同 六 チ 一一 三七一七

聲曲類纂補遺 齋藤幸成撰 洋・中 (國書刊行會叢書ノ內新燕石十種) 一 イ 四 七六五 四

操曲入門口傳之卷 洋・小 (未刊隨筆百種) 一 イ 五 一一二九 一

竹本劇と其作家 岡本綺堂撰 大正一一 洋・小 (文化叢書本) 一 チ 一三 一〇二一

竹本豊竹淨瑠璃譜 洋・小 (近古藝文溫知叢書) 一 イ 四 一二六 四

竹本豊竹淨瑠璃譜 洋・中 (燕石十種) 一 イ 四 六二一 二

同 一 イ 四 六四七 二

近松が音樂上に於ける大集成 高野辰之撰 洋・中 (日本演劇の研究) 一 チ 一三 三八六三

現存近松淨瑠璃曲年表・解說各一枚 細川鴻聲撰 (大正三) 和・大 一 チ 一一 三七二七

近松人形淨瑠璃の研究 若月保治撰 昭和九 洋・大 一 ヘ 七 四四二

竹豊故事 浪速散人一樂撰 (寶曆六) 和・中 三 チ 一一 三七五五

竹豊故事 浪速散人一樂撰 洋・中 (新群書類從) 一 イ 四 五三六 六

竹豊故事 浪速散人一樂撰 洋・中 (新群書類從) 一 イ 四 六四九 六

洞簫曲三卷 洋・中 (國書刊行會叢書ノ內雜藝叢書) 一 イ 四 七九九 三三

德川時代の音樂 兼常清佐撰 洋・中 (岩波講座日本歷史) 一 リ 四 四七六三 七

都山流史 都山流編輯部編 昭和七 洋・大 一 チ 一一 三七三二

都山流史 唄のうたひ方三絃の彈き方鳴物の打ち方 町田博三編述 大正一二 洋・小 一 チ 一一 三四八六

浪花其末葉 竹遊三笑撰 洋・中 (浪速叢書) 一 イ 四 一一二一 一五

浪花其末葉 洋・中 (國書刊行會叢書ノ內德川文藝類聚) 一 イ 四 一一二一 一七

竹豊故事 浪速散人一樂撰 洋・中 (新群書類從) 一 イ 四 六四九 六

竹豊故事 浪速散人一樂撰 洋・中 (浪速叢書) 一 イ 四 七九九 一四

東西評林 洋・中 (浪速叢書) 一 イ 四 六一一 三

邦樂界の現狀 高野辰之撰 洋・中 (日本演劇の研究) 一 イ 四 六四七 三

邦樂の將來 高野辰之撰 洋・中 (日本演劇の研究) 一 チ 一三 三八六三

十寸見聲曲編年集 川尻蕙洲撰 洋・小 (未刊隨筆百種) 一 イ 五 二一二九 一九

柳亭淨瑠璃本目錄 柳亭種彥撰 洋・小 (未刊隨筆百種) 一 イ 五 二一二九 一八

洋樂 附歌劇

音樂と音樂家 グロッセ・シューマン撰・鈴木寶之進譯 昭和九至一一 洋・小 (世界大思想全集) 四 イ 四 一一二六 八二—八五

音程の對數値及び其樂律上の應用 田邊尙雄撰 洋・大 (東洋學藝雜誌第三三二號拔刷) 一 チ 一一 三七八四

音程の對數値及び其樂律上の應用 一 チ 一一 三七八五

和聲學及作曲法 山田耕筰撰 昭和一二 洋・中 (音樂叢書) 一 チ 一一 三七五一 六

樂器圖鑑 近衛秀麿・菅原明朗撰 昭和一二 洋・中 (音樂叢書) 一 チ 一一 三七五一 五

熊谷定男作曲集 一二の一・二 昭和四・五 和・大 一 チ 一一 三七三〇

同 一 チ 一一 三七三一

國民歌 教化團體聯合會選 大正一五 洋・中 一 チ 一一 三七八九

聲樂 湯淺永年等撰 昭和一一 洋・中 (音樂叢書) 一 チ 一一 三七八六

西洋音樂解說 米メースン撰・阿部謙太郎譯 昭和一〇 洋・小 一 チ 一一 三七五一 三

西洋音樂解說 米メースン撰・阿部謙太郎譯 昭和一一 洋・小 一 チ 一一 三七三九

西洋音樂解說 米メースン撰・阿部謙太郎譯 昭和一二 洋・小 一 チ 一一 三七五二

西洋音樂概說 兼常清佐撰 洋・中 (大思想エンサイクロペヂア) 一 イ 四 一一三五 一二

西洋音樂概說 辻荘一撰 昭和八 普及版 洋・小 一 チ 一一 三七二六

西洋音樂物語 大田黒元雄撰 昭和七 洋・中 一 チ 一一 三七三〇

世界音樂講座 第一至六・八・一〇至一三回 昭和八至一〇 洋・中 春秋社・松柏館刊 九 チ 一一 三七二八

第一部 音樂總論

近代ドイツ音樂 (山田定忠) 外二篇 一

第二部 音樂理論

和聲法 (池譲) 外一篇 一

第三部 ピアノ音樂

ピアノ音樂概說 (クレーベイル撰・野村光一譯) 外三篇 二

第四部　聲　樂　二

發聲法（樣孫龍男）外四篇　チ一一　三七二七　一

第五部　ヴアイオリン音樂　三

ホーマン解說（栗原大治・兎東龍夫）外二篇　ヲ九　三七二一　二

第六部　絃　樂　三

ギタア音樂（澤口忠左衛門）外一篇　チ一一　三七五七　一

第七部　管絃樂　三

樂器論（鈴木賢之進）外一篇　チ一一　三七五六　一

第八部　作曲法　四

作曲法概說（弘田龍太郎）外三篇　チ一一　三七二八　一

第一〇部　音樂鑑賞　五

聲樂鑑賞法（伊庭孝）　チ一一　三七八四　一

第一一部　音樂教育　五

音樂教育論（青柳善吾・近藤一重）外四篇　チ一一　九一七　一

第一二部　音樂學　五

音心理學（高野劉）外二篇　チ一一　三七八七　一

第一三部　音樂史　五

西洋音樂史（門馬直衛譯編）外三篇　イ四　七七一　一

第一四部　傳　記　六―八

ヴアーグナア（鈴木德太郎）　チ一四　三五九一　一

第一五部　名曲解說　八

標題樂名曲解說（森本覺丹）　チ一一　三七四六　一

第一六部　雜　九

舞踏法（玉置眞吉）外二篇　チ一一　三七二七　一

總譜（スコア）の讀み方　服部龍太郎撰　昭和八　洋・小　一冊　チ一一類　三七二七號

ヴアーグナーの立場　音樂書の問題　關・ニーチエ撰・鈴木賢之進譯　洋・小　（世界大思想全集）　一　イ四　一一二六　八五

バッハからシューベルトまで　音樂史的レコード蒐集（上）　野村良一撰　昭和七　洋・小　一　チ一一　三七二一　一

ピアノ音樂　野村光一等撰　昭和一二　洋・中　（音樂叢書）　一　チ一一　三七五一　四

支那樂　九

燕樂考原　清・凌廷堪撰　唐・小　（粵雅堂叢書）　一　イ四　二八九　二四

淵鑑類函樂部　清・張英等編　唐・中　（清版）　五　イ三　四二七　八四―八八

雅琴名錄　宋・謝希逸撰　唐・大　（說郛）　一　イ一二　＊　六　九六

樂記　漢・劉向校　唐・中　（玉函山房輯佚書）　一　ロ一一　一二三六　三二

樂經　唐・中　（玉函山房輯佚書）　一　ロ一一　一二三六　三二

奉悼歌　千家尊福作歌・東京音樂學校作曲　大正三　洋樂鑑賞法　湯淺永年撰　昭和一一　洋・中　（音樂叢書）　一　チ一一　三七五一　一

レコード音樂名曲解說全集　東四郎・神保璟一郎撰　昭和八・九　洋・小　二　ヲ九　三七二一

レコードによる古典音樂　あらえびす（野村長一）撰　昭和一二　洋・小　一　チ一一　三七五七

レコードによるロマン派の音樂　あらえびす（野村長一）撰　昭和一二　洋・小　一　チ一一　三七五六

○

オペラ史　伊庭孝撰　昭和八　洋・中　（世界音樂講座）　一　チ一一　三七二八　八

過ぎし日の音樂家　附錄樂譜　昭和三　佛・ロオラン撰・大田黑元雄重譯　洋・中　一　チ一一　三六八四

常闇　坪内逍遙作歌・東儀鐵笛作曲　明治三九　洋・大　一　チ一一　九一七

歌劇羽衣　小松耕輔撰　明治三九　洋・大　一　チ一一　三七八七

舞踊と歌劇　中村吉藏譯　大正二　洋・中　（大日本文明協會刊行書）　一　イ四　七七一　一四

舞踊と歌劇　中村吉藏譯　大正二　洋・中　（大日本文明協會刊行書本）　一　チ一四　三五九一

名作歌劇解說　伊庭孝撰　昭和一〇　洋・小　一　チ一一　三七四六

支那樂

燕樂考原　清・凌廷堪撰　唐・小　（粵雅堂叢書）　一　イ四　五五七　二六

淵鑑類函樂部　清・張英等編　唐・中　（清版）　一　イ四　一二五五　九

雅琴名錄　宋・謝希逸撰　唐・大　（說郛）　一　イ一三　＊　六　九八

樂記　漢・劉向校　唐・中　（玉函山房輯佚書）　一　ロ一一　一三二六　三二

樂經　唐・中　（玉函山房輯佚書）　一　ロ一一　一三二六　三二

樂元語　漢・劉德撰　唐・中　（玉函山房輯佚書）　一　ロ一一　一三二六　三二

樂縣考　清・江藩撰　唐・小　（粵雅堂叢書）　一　イ四　二八九　五二

樂考　新井君美撰　洋・中　（廣白石叢書）　一　イ四　五八八　一五

樂考　新井君美撰　洋・中　（新井白石全集）　一　イ四　一九八八　六

樂社大義　梁・武帝撰　唐・中　（玉函山房輯佚書）　一　ロ一一　一三二六　三二

樂書　後魏・信都芳撰　唐・中　（玉函山房輯佚書）　一　ロ一一　一三二六　三二

樂書目錄類纂　上　小川守中編　昭和六　和・中　（日本樂道叢書）　一　チ一一　三六八九　九

樂書要錄　卷五至七　唐・中　（佚存叢書）　一　イ四　五六三　五

樂書要錄　卷五至七　唐・小　（正覺樓叢書）　一　イ四　六〇四　六

樂對　新井君美撰　洋・中　（新井白石全集）　一　イ四　一九八八　六

樂部　唐・中　（玉函山房輯佚書）　一　ロ一一　一三二六　三二

樂譜集解　隋・嘉吉撰　唐・中　（玉函山房輯佚書）　一　ロ一一　一三二六　三二

樂律義　後周・沈重撰　唐・中　（玉函山房輯佚書）　一　ロ一一　一三二六　三二

樂律集解　岡（太秦）昌名撰　寫本　和・大　（新撰樂道類聚大全）　一　チ一一　七〇八　一

歌者葉記　唐・沈亞之撰　唐・小　（唐代叢書）　一　イ四　一三九　一七

歌者葉記　唐・沈亞之撰　唐・小　（唐人說薈）　一　イ四　一二七五　八

樂器製造記　岡（太秦）昌名撰　寫本　和・大　（新撰樂道類聚大全）　一　チ一一　七〇八　二

羯鼓錄　唐・南卓撰　唐・大　（續百川學海）　一　イ四　一二三〇　一六

羯鼓錄　唐・南卓撰　唐・小　（唐代叢書）　一　イ四　一三九　一九

羯鼓錄　唐・南卓撰　唐・中　（五朝小說）　一　イ四　五五七　二六

羯鼓錄　唐・南卓撰　唐・小　（唐人說薈）　一　イ四　一二七五　九

羯鼓錄　唐・南卓撰　唐・大　（說郛）　一　イ一三　＊　六　九八

碣石調幽蘭　陳・邱公明撰　景舊鈔卷子本　唐・大　（古逸叢書）　一　イ四　六〇七　四七

樂府雜錄　唐・段安節撰　唐・小　（唐代叢書）　一　イ四　一三九　一九

樂府雜錄　唐・段安節撰　唐・中　（五朝小說）　一　イ四　五五七　二五

樂府雜錄　唐・段安節撰　唐・大　（續百川學海）　一　イ四　二一三〇　一六

樂府雜錄　唐・段安節撰　唐・小　（唐人說薈）　一　イ四　一二七五　九

樂府雜錄　唐・段安節撰　唐・大　（說郛）　一　イ一二　＊　六　九六

樂府指迷　明・張玉田撰　唐・大　（說郛）　一　イ一三　＊　一四九

樂府小論　高倉克己撰　洋・中　（立命館三十論文集）　一　イ四　一三三一

樂府傳聲　清・徐大椿撰　唐・小　（正覺樓叢書）　一　イ四　六〇四　一八

魏氏樂譜　魏子明撰・平信好考訂　昭和五　和・小　二　イ四　九四六　四九―五〇

竟山樂錄　清・毛希齡撰　唐・大　（西河合集）　一　チ一一　三七三六

竟山樂錄　清・毛希齡撰　唐・小　（龍威祕書）　一　イ四　四九〇　五九

竟山樂錄　清・毛希齡撰　唐・小　（藝苑捃華）　一　イ四　二一五六　二三

玉海　樂　宋・王應麟編・清・康基田校　唐・大　（清版）　四　イ三　一七九四　四九―五二

琴學八則　清・程雄撰　唐・小　（美術叢書）　一　チ一一　三七二一　三

琴曲譜錄　宋・居月撰　唐・中　（五朝小說）　一　イ四　五五七　四三

琴曲譜錄	宋・居月撰 唐・大（說郛）	一冊	イ一二＊	九六	子史精華	樂部 清・張廷玉等編 唐・中（清版）	二冊	イ一三	四二六—二四
琴史	宋・朱長文撰 唐・小（棟亭十二種）	二	イ一四	一〇〇六—六	支那思想音樂	兼常清佐撰 昭和九 洋・中	岩波書店東洋思潮	一	ロ一一	二九三—三
琴書	唐・趙惟暕撰 唐・中（玉函山房輯佚書）	一	ロ一一	一二三六	一二三	苟勗笛律圖注	清・徐養原撰 唐・小（美術叢書）	一	チ一	三七二—一六
琴清英	漢・揚雄撰 唐・中（玉函山房輯佚書）	一	ロ一一	一二三六	一二三	初學記	樂部 唐・徐堅等編 唐・大（明版）	一	イ三	一七七五 八
琴聲經緯	宋・陽暐撰 唐・大（說郛）	一	イ一二＊	九六		鍾律緯	梁・武帝撰 唐・中（玉函山房輯佚書）	一	ロ一一	一二三六 三二
琴聲十六法	清・莊臻鳳撰 唐・中（檀几叢書）	一	イ四	三九八 三		增補事類統編	音樂部 清・黃葆眞增輯 道光二九 唐・小	一	イ三	四一八 二〇
琴箋	明・屠隆撰 唐・小（美術叢書）	一	チ一	三七二 二二		太平御覽	樂部 宋・李昉等編 安政二 和・中	四	イ三	四〇三 八八—九一
琴箋圖式	唐・大（說郛） 明・陶宗儀撰	一	イ一二＊	九六		唐樂曲譜	宋・高似孫撰 唐・大（說郛）	一	イ一二＊	九六
欽定古今圖書集成	樂律典 清・蔣廷錫等編 圖書集成鉛印書局重印 光緒一〇 唐・小	二二	イ一三	二四〇—四九 四七八—四九九		唐類函	樂部 明・俞安期編・徐顯卿校 唐・大（明版）	三	イ一三	二四〇 三八—四〇
琴譜	元・熊朋來撰 唐・小（粵雅堂叢書）	一	イ四	二八九 二三		俳優考	新井白石撰 洋・中（新井白石全集）	一	イ四	一九八八 六
琴歷	唐・中（玉函山房輯佚書）	一	ロ一一	一二三六 三二		醫栗格	唐・段成式撰 唐・大（說郛）	一	イ一二＊	九六
藝文類聚	樂部 唐・歐陽詢編・明・王元貞校 唐・大（明重刊）	二	イ一三	一七五八 九一—一〇		驃國樂頌	唐・大（說郛）	一	イ一二＊	九六
江氏音樂叙錄	江有誥撰 唐・大（廣倉學宭叢書）	一	イ四	一〇七八 一八		琵琶錄	唐・段安節撰 唐・大（說郛）	一	イ一二＊	九六
古琴疏	宋・虞汝明撰 唐・大（說郛）	一	イ一二＊	九六		北堂書鈔	樂部 唐・虞世南編 光緒一四 重刊 唐・大	二	イ三	一七五九 一三—一四
古今樂錄	陳・智匠撰 唐・中（玉函山房輯佚書）	一	ロ一一	一二三六 三二		籟紀	陳・王叔齋撰 唐・大（說郛）	一	イ一二＊	九六
古今事文類聚	樂器部 宋・祝穆・元・富大用・祝淵編 和・大	二	イ三	一六〇 二七—二八		李氏學樂錄	清・李塨撰 唐・大（西河合集）	二	イ四	九四六 五二—五三
雜書琴事	宋・蘇軾撰 唐・大（說郛）	一	イ一二＊	九六		李氏學樂錄	清・李塨撰 唐・小（龍威秘書）	一	イ四	四九〇 六〇
山堂肆考	音樂 唐・大 明・彭大翼編・張幼學增	二	イ一二	四一—四二		李鶱吹笛記	唐・楊瓦源撰 唐・小（唐人說薈）	一	イ四	一二五 八
算律和解	岡昌名撰 寫本 和・大	一	チ一二	七〇八 一七		李鶱吹笛記	唐・楊瓦源撰 唐・小（唐代叢書）	一	イ四	一三九 一八

小學唱歌集	三編 明治一八・二一 再・四版 和・小	三	チ一二	三七二二	帝國軍歌大成	一二三編刊 明治三二 五版 洋・小	一	チ一二	三七六八
同		二	チ一二	三七三一	討淸軍歌	若山庫三編 明治二七 洋・小	一	チ一二	三七六七
新調文	青年唱歌集 第一・二 山田美妙齋撰 明治二四 和・小	二	チ一二	三七三七	日淸戰爭新調樂唄	討淸珍々集 岡本半溪撰 明治二七 洋・小	一	チ一二	三七七七
朝鮮の歌と滿洲の歌	沼波瓊音作歌・島崎赤太郎作曲 大正一〇 和・小	一	チ一二	三三一五	討淸武勇軍歌	銀花堂刊 明治二七 洋・小	一	チ一二	三七七四
明治唱歌	第一至四集 大和田建樹・奧好義編 明治二一・二二 洋・小	一	チ一二	三七七八	日淸韓軍歌	松成保太郎撰 明治二七 洋・小	一	チ一二	三七六九
○					連戰連捷	日淸戰鬪軍歌 城北西夫編 明治二七 洋・小	一	チ一二	三七七二
朝日軍歌大全	音風子撰 明治三三 洋・小	一	チ一二	三七六五	日淸對戰軍歌	闘由藏撰 明治二七 增補三版 洋・小	一	チ一二	三七五九
音曲ちやん〳〵征伐	鐵拳散史撰 明治二七 洋・小	一	チ一二	三七七五	士氣鼓舞	北淸征討軍歌 編島安正・滄成隊某氏作歌・山田武城作曲 明治三三 洋・小	一	チ一二	三七六六
軍人學生	海陸軍歌新集 織田直太郎編 明治三三 八版 洋・小	一	チ一二	三七六三	ポケット軍歌集	大日本雄辯會講談社刊 昭和一二 洋・小（雄辯第二八卷第一〇號附錄）	一	チ一二	三七八二
新軍歌	明治二六 一〇版 洋・小	一	チ一二	三七六二	明治軍歌	納所辨次郎・鈴木米次郎編 明治二七 洋・中	一	チ一二	三七六六
淸國征討軍歌大全	愉々快々樓主人撰 明治二七 洋・小	一	チ一二	三七六〇					
一讀快哉	新撰討淸軍歌 太田武和（耻堂）撰 明治二八 四版增補 洋・小	一	チ一二	三七六四					
繪入	征淸軍歌 叢書閣刊 明治二七 洋・小（敵愾餘聲本）	一	チ一二	三七六八					
淸征伐軍歌	高橋鋤郎撰 明治二七 一七版 洋・小	一	チ一二	三七六一					
敎材適要	大捷軍歌 七編 山田源一郎編 明治二八至三〇 初・再・五版 洋・小	一	チ一二	三七七九					
大東軍歌	三卷 鳥居忱編 明治二八 洋・中	二	チ一二	三七八〇					
忠勇軍歌集	第一・二卷 小山作之助編 明治三二 再・七版 洋・小	二	チ一二	三七七〇					
新帝國軍歌編	中村秋香撰 明治二八 三版 洋・小	一	チ一二	三七七三					

雜書

音樂と日本文學	田邊尙雄撰 洋・中（日本文學講座）	一	ヘ二	四三六〇—一五	於御本丸管絃御聽聞御次第書	文政六年寫本 和・中	一	チ一二	三七八三
耕筰樂話	山田耕筰撰 昭和一〇 洋・小	一	チ一二	三七四三	夕雨俗話	後附霜夜學談 跡部良顯撰 寫本 和・大	一	チ一二	四三七
於御本丸管絃御聽聞御次第書	文政六年寫本 和・中	一	チ一二	三七八三	臺灣及琉球の音樂に就きて	田邊尙雄撰 大正一二 洋・中（啓明會講演集）	一	イ四	一二八二 一
夕雨俗話	後附霜夜學談 跡部良顯撰 寫本 和・大	一	チ一二	四三七	家庭に於ける必要な音機の知識	田邊尙雄撰 大正一一 洋・小	一	ヲ九	三七四九
臺灣及琉球の音樂に就きて	田邊尙雄撰 大正一二 洋・中（啓明會講演集）	一	イ四	一二八二 一	南葵音樂事業部摘要	第一（昭和三年）南葵音樂圖書館編 昭和四 洋・中	一	チ一二	三七九〇
家庭に於ける必要な音機の知識	田邊尙雄撰 大正一一 洋・小	一	ヲ九	三七四九	同		一	チ一二	三七五八
南葵音樂事業部摘要	第一（昭和三年）南葵音樂圖書館編 昭和四 洋・中	一	チ一二	三七九〇					
同		一	チ一二	三七五八					

日本の言葉と唄の構造 兼常清佐撰 昭和一三 洋・中 冊 ホ 類 二 號 四五六

名家蓄音器批判（答案） 音樂春秋會グラフ編輯部編 大正一三 洋・小 一 ヲ 九 五九七

文部省推薦認定レコード目錄（第一輯） 文部省普通學務局編 大正一四 洋・小 一 ヲ 九 三六七八

琉球の音樂に就いて 山内盛彬撰 洋・中（啓明會講演集） 一 イ 四 一二八二 ニ

倭漢三才圖會 樂器類 寺島尚順編 和・大 一 イ 三 一九五 一七

雜誌

音樂界 年一五・二・三（號一五九至二六二・有缺） 音樂社刊 大正四至一二 洋・大 三 サチ 二九

音樂研究 卷一號一（昭和一〇年一〇月）ヨリ 共益社刊 洋・中 一 サチ 九三

音樂新報 卷一號一至卷三二號八（缺） 音樂新報社刊 明治三七至三九 洋・中 二 サチ 二七

音樂世界 卷三號一〇至卷四號五 十字屋樂器部刊 明治四二・四三 洋・中 一 サチ 二四

音樂と蓄音機 卷一〇號二至卷一三號五（有缺） 音樂と蓄音機社刊 大正二至一五 洋・中・大 四 サチ 三六

月刊樂譜 卷一號四至卷一九號一二（有缺） 山野樂器店刊 昭和三至五 洋・中 二 サチ 五四

世界音樂號一至二〇（號七・九缺） 春秋社刊 昭和八至一〇 洋・中（世界音樂講座附錄） 二 サチ 六三

レコード音樂 卷五號二（昭和六年二月）ヨリ レコード音樂社刊 洋・中 サチ 五九

○

三曲 年六號七（大正一五年七月）ヨリ（年九號六缺） 美妙社刊 洋・中 サチ 四〇

聲曲界 號一一至一二三（號一一九缺） 聲曲社刊 大正一三・一四 洋・大 二 サチ 六四

長唄 卷二號一至卷三號六 長唄書院刊 昭和八・九 洋・中 二 サチ 五八

長唄協會々報 號二〇・二一 同協會刊 昭和六 洋・中 一 サチ 五二

無聲 號一至七・九至一二 旭穰會文藝部刊 昭和五・六 洋・大 冊 サチ 鄭 二 號 五一 一一二

靜潮 號一三・一五・一六 旭穰會文藝部刊（無聲ノ改題） 昭和六 洋・中 一 サチ 五一 ニ

一二 能樂

總記

音曲玉淵集 時中翁庾安編 寶曆一二 和・中 五 チ 二 一〇四

覺習條々 世阿彌撰 洋・中（世阿彌十六部集） 一 チ 一二 一四九九

同 一 チ 一二 一五〇〇

覺習條條 世阿彌撰 洋・小（日本哲學全書） 一 ロ 一 三〇一九 一一

花傳書 能勢朝次撰 洋・中（岩波講座日本文學） 一 ヘ 二 四三一八 八

花傳書 八篇 明治三一 和・中 一 チ 一二 八七

同 一 チ 一二 一四八

花傳書 八篇（內第一篇缺） 和・大 七 チ 一二 一五四四

花傳書 八篇（內第四・五・七篇缺） 和・大 五 チ 一二 一六五六

八帖花傳書考 野々村戒三撰 和・中（能苑日涉） 一 チ 一二 三三七九

花傳書 五篇 世阿彌撰 洋・中（世阿彌十六部集） 一 チ 一二 一四九九

同 一 チ 一二 一五〇〇

花傳書逸文 吉田東伍編 洋・中（世阿彌十六部集） 一 チ 一二 一四九九

同 一 チ 一二 一五〇〇

花傳書別紙口傳 世阿彌撰 洋・中（世阿彌十六部集） 一 チ 一二 一四九九

同 一 チ 一二 一五〇〇

花傳書の和州申樂風體論 成瀨一三撰 洋・中（國文學と日本精神） 一 ヘ 二 四四一八

花傳書・物眞似の人體の順序について 成瀨一三撰 洋・中（日本演劇史論叢） 一 チ 一三 三八四七

歌舞音曲考說 高野辰之撰 大正四 洋・小 一 チ 一二 三三七五

田樂史
曲舞沈疑
幸若舞曲
室町時代の小歌
近松研究の手引
近松著作考
近松の脚本
しげる考
助六淨瑠璃年代考
首都の邦樂分布

延年の能と猿樂の能
能舞臺の松
女歌舞伎
十二段草子考
近松が世話淨瑠璃の初作
近松著作雜考
近松の用ひし自誓の詞
文彌淨瑠璃
梅の春考
淺間淨瑠璃考

六輪一露之記
五音三曲集
文正應仁記
五音の能の心持の事

禪風篇

毛端私珍抄
禪風申樂談儀

下問少進篇

童舞抄
舞臺之圖

附錄

一休題頌
栗田口章應准后猿樂記
秦宿禰竹田金春家略系

拾玉得花
至道要抄
圓滿井座法式
百ケ條

反故裏の書

叢傳抄
開書

桃華老人申樂後證記
金春家祖先竝藝傳來之由緒帳

申樂問書 洋・小（續群書類從） 一 イ 四 二八二 二〇

申樂免廢論 菅原齊泰撰 昭和九・和・大 一 チ 一二 三三六九

至花道書 世阿彌撰 洋・中（世阿彌十六部集） 一 チ 一二 一四九九

同 一 チ 一二 一五〇〇

至花道書 世阿彌撰 洋・小（日本哲學全書） 一 ロ 一 三〇一九 一一

至道要抄 禪竹撰 洋・中（禪竹集） 一 チ 一二 二六二〇

同 一 チ 一二 三三六〇

至道要抄 禪竹撰 洋・中（金春十七部集） 一 チ 一二 三三六六

至道要抄 禪竹撰 洋・小（日本哲學全書） 一 ロ 一 三〇一九 一二

秦曲正名閾言 三卷 勃海保撰・木田爲邦校 寶曆一〇 和・大 二 チ 一二 三四〇七

禪竹篇

五音次第

歌舞髓腦記

チ 藝術 一二 能樂 總記

新猿樂記 藤原明衡撰 和・大（群書類從）
新猿樂記 藤原明衡撰 洋・小（經濟雜誌社本群書類從）
同
能樂古典 世阿彌十六部集 吉田東伍編校 明治四二 洋・中
花傳書（五箇）
五音曲條々
九位次第
至花道書
能作書
風曲集
世子六十以後申樂談儀
世子七十以後口傳（一題却來華）
附錄
花傳書逸文
同
同
世阿彌の能樂論に於ける「位」の問題 西尾實撰 洋・中（日本文學論攷）
世阿彌の「花鏡」に就いて 川瀨一馬撰 洋・中（日本文學論攷）
世子六十以後申樂談儀 校訂並補闕謬 世阿彌造・秦元能聞書・吉田東伍校 明治四一 洋・中
同
世子六十以後申樂談儀 世阿彌撰 洋・中（世阿彌十六部集）
同

冊	類	號	
一	イ	四	四八八一八一
一	イ	四	二三五六
一	イ	四	一六六六
一	チ	一三	一四九九
一	チ	一三	一五〇〇
一	チ	一三	一五三三
一	ヘ	二	四四三八
一	ヘ	二	四四三八
一	チ	一三	一四三〇
一	チ	一三	一四四三
一	チ	一三	一四九九
一	チ	一三	一五〇〇

能樂古典 禪竹集 吉田東伍編校 大正四 洋・中
五音次第（金春禪竹・以下同）
六輪一露
五音三曲集
禪竹文正應仁記
一休題頌
栗田口韋應准后猿樂記
禪鳳習道目錄第一册
同第三册
同
能 研究と發見 昭和五 野上豐一郎撰 洋・中
能樂概說 小宮豐隆撰 洋・中（日本文學講座）
能樂研究書誌 野々村戒三撰 和・中（能苑日涉）
能樂考 瀧澤馬琴（解）撰（百家隨筆）
能樂大觀 廣田光吉撰 明治三七 和・中
能樂圖書陳列品目錄 東京音樂學校刊 大正三 洋・中
同
能樂祕傳書 一噌又六郎自筆 和・中
能樂百物語 橫井春野撰 大正五 洋・小
能樂百話 廣田光吉撰 明治三六 洋・中
能樂文獻に關する考證斷片 野々村戒三撰 洋・小（近畿能樂記）
能樂諸曲大辭典 別册附圖添 正田章次郎撰・雨谷美文編 昭和六 再版 洋・中

冊	類	號	
一	チ	一三	三三六〇
一	チ	一三	三三五四
一	ヘ	二	四三六〇一〇
一	チ	一三・一三	三三七九
一	イ	四	八八二八
一	チ	一三	三三五五
一	チ	一三	三三七七
一	チ	一三	三三七八
一	チ	一三	＊一三五〇
一	チ	一三	二六七七
一	チ	一三	六三三
一	チ	一三	三三六七
二	ヘ	七	四三九四

歌舞盛腦記
拾玉得花
至道要抄
圓滿井座法式
桃華老人申樂後證記
毛端私珍抄（金春禪鳳・以下同）
同上第二册
能本作者註文（吉田兼持）

冊	類	號	
一	チ	一三	二六二〇

能作書 世阿彌撰 洋・中（世阿彌十六部集）
同
能作書 世阿彌撰 洋・小（日本哲學全書）
能の再生 野上豐一郎撰 昭和一〇 洋・中
能の舞臺的特質 野上豐一郎撰 昭和六 洋・中（岩波講座日本文學）
能の物學の人體と風流 成瀨一三撰 洋・中（國文學踏査）
能謠祕訣 大和田建樹撰 大正二 洋・小
遊樂習道見風書 世阿彌撰 洋・中（世阿彌十六部集）
同
遊樂習道見風書 世阿彌撰 洋・中（日本哲學全書）
謠曲大觀 觀音卷（能學書譜・能學總說・謠曲細說） 佐成謙太郎撰 昭和六 三版 洋・中
亂舞之雜錄 小寺廣路編寫本 和・大（玉梘叢書）
六輪一露 禪竹撰 洋・中（禪竹集）
同
六輪一露 禪竹撰 洋・小（日本哲學全書）
六輪一露之記 禪竹撰 洋・中（金春十七部集）

冊	類	號	
一	チ	一二	一四九九
一	チ	一二	一五〇〇
一	ロ	一	三〇一九一一
一	チ	一二	三三七一
一	ヘ	二	四三八一二
一	ヘ	二	四三三六
一	チ	一二	二二五七
一	チ	一二	一四九九
一	チ	一二	一五〇〇
一	ロ	一	三〇一九一一
一	ヘ	七	四三七一一
一	イ	四	＊六九六二九
一	チ	一二	二六二〇
一	チ	一二	三三六〇
一	ロ	一	三〇一九一一
一	ヌ	五	四八〇二
一	チ	一二・一三	三三六六

史傳

大藏太夫考 能勢朝次撰 洋・中（日本演劇史論叢）
歌舞音樂略史 小中村清矩撰 明治二一 和・中
チ 藝術 一二 能樂 史傳

冊	類	號	
一	チ	一三	三六四七
二	チ	一一	三六

歌舞音樂略史 小中村清矩撰 明治三六 訂正三版 和・中
觀阿彌研究 小林靜雄撰 洋・中（國文學研究）
觀氏家譜 淺野榮足編寫本 和・大
近畿能樂記 野々村戒三撰 昭和八 洋・小
謠曲作者に關する疑義 觀世信光と其子孫
喜多流祖と金剛流 觀世の遺蹟
貴志喜太夫一件 淺野榮足と其の著書
「素謠世々の蹟」と其の著者 京都片山家系考
京都金剛家の人々 茂山忠三郎良豐
明治初年に於ける京阪能樂師の動靜 京都の狂言
能學文獻に關する考證斷片 中京能樂記
伊勢猿樂の隆替 脇方の發生と其の傳統
阿錄・優者年表
猿樂沿革考 一名茶番由來 川崎重恭撰 洋・中（燕石十種）
同
猿樂傳記 一名倭樂傳記 二卷 洋・小（近藝叢書 文藝温知叢書）
猿樂傳記 一名倭樂傳記 二卷 洋・中（燕石十種）
同
諸藝人名錄 西村隼太郎編 明治八 和・小
素謠世々之蹟 一名徒歌原始錄 鶴鶴春行撰 洋・小（未刊隨筆百種）
「素謠世々の蹟」と其著者 野々村戒三撰 洋・小（近畿能樂記）
世阿彌と其の藝術思想 野上豐一郎撰 昭和一一 洋・中（日本精神叢書）

冊	類	號	
二	チ	一一	三六八六
一	ヘ	二	四三六九七
一	ヌ	四	一六六二
一	チ	一二	三三六七
一	イ	四	六一一一
一	イ	四	六四七一一
一	イ	四	一二六八
一	イ	四	六二一一
一	イ	四	六四七一一
一	ヌ	五	四八〇二
一	イ	五	一二一九一三
一	チ	一二	三三六七
一	リ	四	四八二一〇

世阿彌元清　西尾實撰　岩波講座日本文學　洋・中　冊一　類へ二　號四三一八

世阿彌元清の研究　能勢朝次撰　洋・中（日本文學講座）　一　へ二　四三六〇　一〇

薪猿樂　長谷川孝撰　洋・中（京都帝國大學國文學會二十五周年記念論文集）　一　へ二　四三九三

南葵謠曲沿革史　林紅溪（善一）編　昭和八　和・中　二　チ二　三三七六

能苑日涉　野々村戒三撰　昭和一三　和・中　一　チ二　三三七九

世阿彌父子の失脚
觀世黑雪の高野山入り
澁谷流に就いて
薗・井上兩家及び井上家の文書に就いて
地方能樂の片影
「實生流謠傳諺察形子」と其著者
能面に關する貴族の著書
能樂研究書誌
室町時代の演能時間
實生源流考
實生友干の實父

能樂古今記　野々村戒三撰　昭和六　洋・中　一　チ二　三三六二

能樂諸流篇

觀世四代史考
喜多源流考
觀世梅若兩家の確執
金春史考
福王氏族考

地方能樂篇

泉州堺と能樂
加賀藩の能樂
京觀世の由來
明治維新後の京阪能樂界

能樂史　佐成謙太郎撰　洋・中（日本風俗史講座）　一　ヲ六　三〇七四　九

能樂史　野々村戒三撰　洋・中（日本文學講座）　一　へ二　四三六〇　一〇

能樂史餘錄　和田萬吉撰　洋・中（日本風俗史講座）　一　ヲ六　三〇七四　九

能樂史料　第一輯　昭和八　小林靜雄編　洋・小　一　へ二　四三六〇　一〇

能樂大和四座考　高野辰之撰　洋・中（日本文學講座）　一　チ二　三六六三　二

能と其歷史　富岡信仰撰　昭和六　洋・中　一　チ二　三三六三

能評判うそ咄二卷　洋・中（國書刊行會叢書ノ內德川文藝類聚）　一　イ四　七九九　一四

法隆寺をめぐる猿樂　能勢朝次撰　洋・中（京都帝國大學國文學會二十五周年記念論文集）　一　へ二　四三九三

本邦樂舞史並に先行舞臺史の研究日本劇場史の序論　須田敦夫撰　洋・大（早稻田建築學報別刷）　一　チ二三　三八四五

室町能樂記　小林靜雄撰　昭和一〇　和・中　一　チ二　三三七四

俳優考　新井白石撰　洋・中（新井白石全集）　一　イ四　一一七九　六

○

栗田口猿樂記　尊應撰　和・大（群書類從）　一　イ四　四八八　四四八

栗田口猿樂記　尊應撰　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ四　二三五　一二

同　一　イ四　一二六六　一二

栗田口猿樂記　尊應撰　洋・中（新校群書類從）　一　イ四　一三八九　一五

糺河原勸進猿樂日記　伊勢宗悟撰　和・大（群書類從）　一　イ四　四八八　四四八

糺河原勸進猿樂日記　伊勢宗悟撰　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ四　二三五　一二

糺河原勸進猿樂日記　伊勢宗悟撰　洋・中（新校群書類從）　一　イ四　一三八九　一五

異本糺河原勸進申樂記　牛尾重親撰　和・大（群書類從）　一　イ四　四八八　四四八

異本糺河原勸進申樂記　牛尾重親撰　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ四　二三五　一二

異本糺河原勸進申樂記　牛尾重親撰　洋・中（新校群書類從）　一　イ四　一三八九　一五

能乃留張　番組記　寫本　和・大

文安田樂能記　實意撰　和・大（群書類從）　一　イ四　四八八　四四八

文安田樂能記　實意撰　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ四　二三五　一二

文安田樂能記　實意撰　洋・中（新校群書類從）　一　イ四　一三八九　一五

文祿貳癸巳年十月五日於禁裏御能組　洋・小（續群書類從）　一　イ四　二八二　一〇

能舞・囃子

觀世流小鼓手　寫本　和・中　一　チ二　＊五八九

能樂泰斗舞影一斑　飼田辰一編　明治三七　和・大　一　チ二　三三三

金剛謠之助　寶生勸進能繪卷　齋藤月岑（幸成）編　嘉永元　二卷　チ四　＊二〇六

矢野一宇聞書　寫本　和・大　一　チ二　一〇七一

能具

假面譜　喜多古能撰　洋・中（續々群書類從）　一　イ四　五五三　一六

同　一　イ四　六五〇　一六

能樂畫譜　深見玆郎畫　洋・中（諸曲大觀）　一　へ七　四三七一

能裝束模樣百佳選　一〇卷　能樂書院刊　大正八・九　和・大　一〇　チ二　二九九八

能面　洋・大（日本精華及建築工藝畫鑑合本）　一　チ一　一九六七　一二

能面史話　橫井春野撰　昭和三　和・中　一　チ二　三三五八

能面大鑑序卷・三卷　齋藤芳之助編　大正九・一〇　和・大　四　チ二　＊三一〇六

能面に關する貴族の著書　野々村戒三撰　和・中（能苑日涉）　一　チ二　三三七九

早稻田大學圖書館主催能樂源流表彰展覽會　枚　七二

出陳物寫眞　同館編　明治四三撮　一　ト一〇　一三九五　一二八一九九

宴曲抄　二六—二五　一四四　世阿彌筆阿古屋の松の謠　一六五

金春元安筆ていこの松の謠　一六六　晉阿彌筆藝道心得書　一六五

近衞龍山公筆忠度　一六六　觀世小次郎元賴筆まつやの松の謠一六七

能樂源流表彰會圖書展覽會場　一六八　太鼓夕顏（枇杷屋作）　一六九

大小鼓筒面箱・祕傳書箱　一六九　裝束唐織・葛桶　一七〇

裝束唐織　一七一　裝束厚板唐織　一七二

裝束唐織　一七三　縫衣裳　一七三

狩衣紺地蜀紅錦袷　一七四　獸盡縫箔　一七五

蜀紅錦　一七六　片身替蜀紅錦　一七七

厚板紅地總輪違繫鳳凰　一七八　唐織鳥獸盡縫取　一七九

武惡（赤鶴作）　一八〇　子ノ面（辰右衞門作）　一八一

童子　一八一　大黑　一八二

孫次郎（田目常守作）　一八二　瘦男　一八三

顰　一八三　弱法師　一八四

野干　一八四　慈童　一八五

增女　一八五　萬媚　一八六

生成　一八六　石王尉　一八七

橋姬　一八七　白藏主　一八八

狐　一八八　眞角　一八九

連面　一八九　鈴　一九〇

秋草仕舞扇（土佐光成筆）　一九一　浮舟仕舞扇　一九二

裝束唐織　一九二　唐織金地芭蕉葉蝶模樣　一九四

唐織鳥獸畫縫衣裳　一九五　同上　一九六

片身替蜀紅錦　一九七　蜀紅錦（表面）　一九八
同上（背面）　一九九

謠（文學ノ散謠（ヘ七）中謠曲・狂言參照）

觀世流改訂謠本　紅葉狩外一四番　同刊行會刊　一一冊　ヘ類七號　四五九
大正八至一一　和・中

鳴立澤　大淀三千風撰　元祿版復製—昭和七　和・中（稀書複製會刊行書）　一　イ四　一二九〇七
素謠世々之蹟　一名徒歌原始錄　鶴鳴春行撰　洋・小（未刊隨筆百種）　一　イ五　一二九—三
道成寺　喜多六平太撰　大正一二　改訂七版　和・中　一　チ一二　三三七〇
寶生流謠本　內一〇〇番・外一二〇番　寬政版寫本　和・中　四二　ヘ七　四四〇八
松浦之能　紙背假名暦・解說附　觀世世阿彌（二代）撰竝書・古典保存會刊複製—昭和三　和・大　一　チ一二　※三三五三

拍子

謠曲手引　八拍子　明治三三　和・中　三　チ一二　一八四二
實驗謠曲拍子の入門　安間哲郎撰　昭和五　洋・中　一　チ一二　三三五六

狂言

狂言記　內題狂言書　寬文五　和・中　二　ヘ七　四三九〇
狂言記　正・續・拾遺（縮入）　嘉永元　和・小　六　ヘ七　八八
狂言記　正・續・拾遺・外篇　大正三　洋・小　野村八良校（有朋堂文庫）　二　ヘ二　三三二七
狂言記　正・續・拾遺・外編　山崎麓校註　昭和三　再版　洋・小（註日本文學大系）　一　ヘ二　四四二一
狂言研究　笹野堅撰　洋・中（日本文學講座）　一　ヘ二　四三六〇—一〇
狂言師の追憶　野々村戒三撰　和・中（能苑日涉）　一　チ一二　三三七九

狂言

狂言集　すゑひろかり外七五番　寫本　和・小　一九八
狂言集成　解說（笹野堅附）　昭和六　洋・中　野々村戒三・安藤常次郎編　一　ヘ七　四五二五
狂言全集　狂言記正・續・拾遺　明治三六　和・小　幸田成行編　三　ヘ七　七六五
狂言全集　狂言記正・續・拾遺・外篇・補遺　明治四三　洋・中（國民文庫）　一　ヘ二　三七二一
狂言二十番　鷺流　芳賀矢一校　明治三六　洋・小（名著文庫）　一　ヘ二　九一八七
狂言の文獻に就いて　野々村戒三撰　洋・中（國文學研究）　一　ヘ二　四三六九三
狂言の文獻に就いて　野々村戒三撰　和・中（能苑日涉）　一　チ一二　三三七九
狂言評註　大和田建樹撰　明治二六　洋・中（通俗文學全書本）　一　ヘ七　五一五
京都の狂言　野々村戒三撰　洋・小（近藏能樂記）　一　チ一二　三三六七
古本能狂言・間につきての研究　笹野堅撰　洋・中（日本演劇史論叢）　一　チ一三　三八四七
古本能狂言・間につきての研究　笹野堅撰　洋・中（國文學研究）　二　ヘ二　四三六九七—八
能狂言　笹野堅撰　洋・中（岩波講座日本文學）　一　ヘ二　四三八八
能狂言の說明　高野辰之撰　洋・中（歌舞演劇講話）　一　チ一三　三八六四
謠曲狂言名作新選　野々村戒三編　昭和七　洋・小　一　ヘ七　四四一三

田樂

筑後の美麗田樂　森末義彰撰　洋・中（日本演劇史論叢）　一　チ一三　三八四七
田樂史　高野辰之撰　洋・小（歌舞音曲考說）　一　チ一二　三三七五
田樂法師由來之事　和・小（史籍集覽本）　一　チ一二　三三六四
田樂法師由來之事　洋・小（改定史籍集覽）　一　リ四　三五九—八

狂言集成　解說（笹野堅附）　昭和六　洋・中　野々村戒三・安藤常次郎編　五冊　ヘ七類　四五二〇號
狂言全集　狂言記正・續・拾遺　明治三六　和・小　幸田成行編　三　ヘ七　七六五
狂言全集　狂言記正・續・拾遺・外篇・補遺　明治四三　洋・中（國民文庫）　一　ヘ二　三七二一
狂言二十番　鷺流　芳賀矢一校　明治三六　洋・小（名著文庫）　一　ヘ二　九一八七
狂言の文獻に就いて　野々村戒三撰　洋・中（國文學研究）　一　ヘ二　四三六九三
狂言の文獻に就いて　野々村戒三撰　和・中（能苑日涉）　一　チ一二　三三七九
狂言評註　大和田建樹撰　明治二六　洋・中（通俗文學全書本）　一　ヘ七　五一五
京都の狂言　野々村戒三撰　洋・小（近藏能樂記）　一　チ一二　三三六七
古本能狂言・間につきての研究　笹野堅撰　洋・中（日本演劇史論叢）　一　チ一三　三八四七
古本能狂言・間につきての研究　笹野堅撰　洋・中（國文學研究）　二　ヘ二　四三六九七—八
能狂言　笹野堅撰　洋・中（岩波講座日本文學）　一　ヘ二　四三八八
能狂言の說明　高野辰之撰　洋・中（歌舞演劇講話）　一　チ一三　三八六四
謠曲狂言名作新選　野々村戒三編　昭和七　洋・小　一　ヘ七　四四一三

田樂

筑後の美麗田樂　森末義彰撰　洋・中（日本演劇史論叢）　一　チ一三　三八四七
田樂史　高野辰之撰　洋・小（歌舞音曲考說）　一　チ一二　三三七五
田樂法師由來之事　和・小（史籍集覽本）　一　チ一二　三三六四
田樂法師由來之事　洋・小（改定史籍集覽）　一　リ四　三五九—八

文安田樂能記　實憲撰　和・大（群書類從）　一　イ四　四八八四四八
文安田樂能記　實憲撰　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ四　二三五一一
同　一　イ四　二六六一一
鳳來寺田樂　高野辰之撰　洋・中（日本演劇の研究）　一　チ一三　三八六三二
洛陽田樂記　大江匡房撰　和・大（群書類從）　一　イ四　四八八四四八
洛陽田樂記　大江匡房撰　洋・小（經濟雜誌社本群書類從）　一　イ四　二三五一一
同　一　イ四　二六六一一

幸若舞

曲舞考　高野辰之撰　洋・中（日本演劇の研究）　一　チ一三　三八六三二
幸若舞曲　高野辰之撰　洋・小（歌舞音曲考說）　一　チ一二　三三七五
幸若舞曲研究　高野辰之撰　洋・小（國劇史概說）　一　チ一三　三七八三
幸若舞の研究　岡田希雄撰　洋・中（日本文學講座）　一　ヘ二　四三六〇四
幸若舞の現在　高野辰之撰　洋・中（日本演劇の研究）　一　チ一三　三八六三一
しつか　和・大　一　ヘ七　※一九三八
新群書類從　舞曲（くるか外四〇篇）　國書刊行會刊　明治三九　洋・中　幸田成行校・　一　イ四　五三六八
大しよくはん　寫本　和・大　一　ヘ七　一九三七
築島　寫本　和・大　一　ヘ七　※二〇三八
舞の本　未來記外一四篇　明治三七　洋・中　土田萬年校　一　ヘ七　一三四七
舞の本　硫黃が島外二四篇　洋・小（近代日本文學大系）　一　ヘ二　四四三二

やしよ　和・大（古版）　一　ヘ七　※二〇三三

雜書

日本の能樂　英・イェーツ撰・長澤才助譯　昭和七　洋・小（新時代學藝叢書本）　一　チ一二　三三六五
能樂禮讚　附錄實盛外六種　戶川明三撰　昭和六　洋・小　一　チ一二　三三五七
用心能與行　寫本　和・大（玉晃叢書）　一　イ四　※六九六一三

雜誌

謠の友　卷一號一至卷八號一（有缺）　能樂書院刊　大正五至一二　洋・大　七　サチ　三〇
能樂　卷二號六至卷一五號一〇（有缺）・新卷一號一至卷三號七　能樂節・能樂發行所刊　明治三七至大正六・昭和九至一一　洋・中　二三　サチ　六三
謠曲界　卷一號一至卷二號三（卷二・一〇・一二各號三缺）　謠曲界發行所刊　大正三至一二　洋・大・小・中　一九　サチ　二八

一三　演劇

總記

英國劇講話　阿部孝撰　昭和四　洋・中　一　チ一三　三七二四
演劇社會學　獨・バップ撰・千賀彰譯　昭和九　洋・中　一　チ一三　三七八九
演劇の本質　新關良三撰　洋・中（日本文學講座）　一　ヘ二　四三六〇一〇
革命期の演劇と舞踊　昇曙夢撰　大正一三　洋・小（新ロシヤ・パンフレット本）　一　チ一三　三七五二
歌舞伎　小宮豐隆撰　岩波講座　洋・中（岩波講座日本文學）　一　ヘ二　四三一八一二
歌舞伎概說　岡本綺堂撰　洋・中（日本文學講座）　一　ヘ二　四三六〇一〇
歌舞伎狂言往來　附錄歌舞伎名作一覽　昭和二　洋・小　湯淺清太郎撰　一　チ一三　三七一三

歌舞伎狂言細見　飯塚友一郎撰　大正八　洋・中　一冊　チ一三　類二九八〇　登一

歌舞伎劇の見方　濱村米藏撰　大正九　再版　洋・小　一　チ一三　三〇八四

戯曲の本質　劇藝術及び演劇の原理　島村民藏撰　大正一四　洋・小（學藝叢書本）　一　ヘ八　四二五四

舊劇と新劇　小山内薫撰　大正八　洋・小　一　チ一三　三三九八

同　一　チ一三　三七四八

嬉遊笑覽　巻五（歌舞）　喜多村信節撰　和・小（存採叢書）　二　イ四　五一三　二一二二

嬉遊笑覽　巻五（歌舞）　喜多村信節撰　洋・中（日本藝林叢書）　一　イ四　一二九六　二一九

希臘劇・沙翁劇・近代劇　中村吉藏撰　大正一三　洋・小（早稲田文學パンフレット本）　一　チ一三　三七五一

近代演劇の理論と實際　御ハアダマン撰・島村民藏譯撰　大正九　洋・小　一　チ一三　三二二六

同　一　チ一三　三七二九

同　一　チ一三　三七五三

近代劇研究　英・モーダーウェル撰・横山有策譯　大正一〇　洋・小（文明協會刊行書）　一　イ四　九七五　四

近代劇十二講　楠山正雄撰　大正一一　洋・小　一　チ一三　三七五九

藝術と家庭　坪内雄藏撰　洋・中（逍遙選集）　一　イ四　一二三　九

文化力としての童話及び童話術　私の希望する家庭童話劇

兒童劇の三種類　兒童劇に關する若干の疑問

演劇と青年教育　兒童劇の進化

兒童劇の種類及び使命　兒童劇の效用

兒童劇に對する種々の杞憂　兒童劇の扱ひ方

家庭用兒童劇の地方巡回公演に際して　實際上から見た兒童劇

兒童劇の模範實演の必要

初等教育に於ける演劇

復興期藝術に關する豫測

附錄・家庭用兒童劇及びペーヂエント上演顚末（伊達豐・大村弘毅）　一　チ一三　類二四一二　號

藝術ト家庭ト社會　坪内雄藏撰　大正一二　洋・小　一　チ一三　三〇八四

藝術と社會　坪内雄藏撰　洋・中（逍遙選集）　一　イ四　一二一三　九

新時代に對する藝術の職能　民衆教化と演劇

民衆本位と我が劇の前途　民衆娯樂問題

禍亂の防止策としての公共藝術の奬勵　新民衆劇を起さんとする理由

熱海町の爲のペーヂエント　ペーヂエントの適用範圍

新國民演藝としての英米のペーヂエント

戸外劇三種　ペーヂエントと戸外劇

近松ペーヂエント　教育上に於ける遊戯の職能

劇場漫錄　一名顯微鏡（けんびきょう）　默々漁隱撰　洋・小（隨筆文學選集）　一　イ五　一二四　二

現代演劇の展望　山田肇撰　洋・中（現代藝術の展望）　一　チ一　三七六八

現代の支那劇　榛原茂樹撰　洋・小（大支那大系）　一　ル五　二九八八　七

國劇要覽　坪内博士記念演劇博物館編　昭和七　洋・小　一　チ一三　三七六九

戯場三座（ザレイシ）例遺誌　前編　曲廬庵主人撰　亨和三　和・小　一　チ一三　二一九四

兒童教育と演劇　坪内雄藏撰　大正一二　洋・小　一　チ一三　三四四八

同　一　チ一三　三四四九

支那劇研究　第一輯　支那劇研究會刊　大正一三　洋・中　一　チ一三　三六〇四

芝居見物心得二編　赤塚錦三郎編　明治一五　和・小　一　チ一三　三七四四

自由劇場　市川左團次・小山内薫編　大正元　洋・小　一　チ一三　三七六〇

新劇原論　クレイグ撰・渡平民譯　大正九　洋・小　一　チ一三　三三九九

同　一　チ一三　三七五〇

新劇と舊劇　附錄著作目錄　飯塚友一郎撰　昭和一二　洋・中　一　チ一三　三八四〇

西洋芝居土産　坪内士行撰　大正五　洋・小　一　チ一三　三七五八

ソヴエト演劇の印象　園池公功撰　昭和八　洋・中　一　チ一三　三七八〇

唐土奇談　巻三之乾　繪入　畠中正盈撰　寛政二　和・中　一　チ一三　一六四一

唐土奇談　三巻　繪入　畠中正盈撰・内藤虎次郎解說　寛政二年本覆刻―昭和四　和・大　一　チ一三　三七三八

ラヂオ演劇　鑑賞と作方　佐々健治撰　昭和九　洋・小　一　ツ六　三〇〇〇

目錄

芝居繪本菟藏之記　澁井清編　昭和一一　洋・中　一　チ一三　三八三六

新補伊勢歌舞伎年代記　三巻・附江戸芝居年代記刪修　吉田暎二編　昭和八　洋・小　一　チ一三　三七七七

江戸芝居年代記　寛永元至文政二年　昭和三　洋・小（未刊隨筆百種）　一　イ五　一二二九　二

演劇史研究　昭和八年第三輯　東京帝國大學演劇史學會編　昭和八　洋・中　一　チ一三　三七九〇

複式能の化現本體（成瀨一三）　白石噺の作者（三井高大）

下り八島上り八島の全貌（瀧田英二）　女形の先行者（戸田松三郎）

歌舞伎劇の惱みと女形藝術（吉川義雄）　演出上より見たる花道の意義（鈴木英輔）

運命悲劇論（新關良三）　歌舞伎狂言本解題

演劇史研究　二（元祿劇篇）　東京帝國大學演劇史研究學會編　昭和一一　洋・中　一　チ一三　三八三三

元祿劇概說（高野辰之）　元祿劇以前（鈴木英輔）

元祿期の世話狂言に就て（瀧田英二）

元祿期歌舞伎劇の音樂に就て（草野悟朗）

社會經濟より見たる元祿劇（高井重德）

俳優分業の完成まで（吉川義雄）

自由劇場　市川左團次・小山内薫編　大正元　洋・小　一　チ一三　三七六〇

新劇原論　クレイグ撰・渡平民譯　大正九　洋・小　一　チ一三　三三九九

同　一　チ一三　三七五〇

新劇と舊劇　附錄著作目錄　飯塚友一郎撰　昭和一二　洋・中　一　チ一三　三八四〇

西洋芝居土産　坪内士行撰　大正五　洋・小　一　チ一三　三七五八

ソヴエト演劇の印象　園池公功撰　昭和八　洋・中　一　チ一三　三七八〇

唐土奇談　巻三之乾　繪入　畠中正盈撰　寛政二　和・中　一　チ一三　一六四一

唐土奇談　三巻　繪入　畠中正盈撰・内藤虎次郎解說　寛政二年本覆刻―昭和四　和・大　一　チ一三　三七三八

ラヂオ演劇　鑑賞と作方　佐々健治撰　昭和九　洋・小　一　ツ六　三〇〇〇

目錄

芝居繪本菟藏之記　澁井清編　昭和一一　洋・中　一　チ一三　三八三六

新補伊勢歌舞伎年代記　三巻・附江戸芝居年代記刪修　吉田暎二編　昭和八　洋・小　一　チ一三　三七七七

江戸芝居年代記　寛永元至文政二年　昭和三　洋・小（未刊隨筆百種）　一　イ五　一二二九　二

演劇史研究　昭和八年第三輯　東京帝國大學演劇史學會編　昭和八　洋・中　一　チ一三　三七九〇

複式能の化現本體（成瀨一三）　白石噺の作者（三井高大）

下り八島上り八島の全貌（瀧田英二）　女形の先行者（戸田松三郎）

歌舞伎劇の惱みと女形藝術（吉川義雄）　演出上より見たる花道の意義（鈴木英輔）

運命悲劇論（新關良三）　歌舞伎狂言本解題

演劇史研究　二（元祿劇篇）　東京帝國大學演劇史研究學會編　昭和一一　洋・中　一　チ一三　三八三三

元祿劇概說（高野辰之）　元祿劇以前（鈴木英輔）

元祿期の世話狂言に就て（瀧田英二）

元祿期歌舞伎劇の音樂に就て（草野悟朗）

社會經濟より見たる元祿劇（高井重德）

俳優分業の完成まで（吉川義雄）

岩井半四郎さいご物語　正德追善曾我

梅幸集（附尾上菊五郎一代狂言記）　中山文七一代狂言紀

眠獅選（八文字自笑）　西澤文庫傳奇作書追加（西澤一鳳）

娘孝行記（富永平兵衛）　熊野山開帳（同上）

業平河内通（同上）　御曹司初寅詣（近松門左衛門）

傾情一張弓（津打治兵衛）　傾城三鱗形

京ひながた（山下半左衛門）　一谷坂落

當麻中將姫まんだらの由來　箱傳受

女筆　今川假名手本　有卦入万倍曾我

花江都歌舞妓年代記續編（石塚豐芥子編）

新群書類從　演劇　國書刊行會編刊　明治三九・四一　洋・中　三　イ四　六四九　一―三

全集・選集

史傳

西澤文庫脚色條錄　一　チ一三　三七七七

西澤文庫綺語文章　二

役者論語（八文字自笑編）　二

芝居乘合話（中村重助）　三

並木正三一代咄　三

叢書

新群書類從　演劇　國書刊行會編刊　明治三九・四一　洋・中　三　イ四　五三六　一―三

西澤文庫都々逸　一

西澤文庫讀佛乘　二

今古參考南水漫遊（濱松謌國）　二

古今いろは評林（同上）　三

作者店おろし（三升屋二三治）　三

元祿歌舞伎から次の時代へ（伊原青々園）
アストン氏の近松觀（菅原太郎譯）　近松と山本角太夫（高橋宏）
附錄・狂言本解題（上方之部江戸之部）外五篇

坪内博士記念演劇博物館略誌　同館刊　昭和八　洋・小　冊　一　ト　類九　號一七〇

大歌舞伎外題年鑑　洋・中（浪速叢書）　一　イ　四　一二一一五

歐洲演劇史潮　米・マシュース撰・中村吉藏譯　洋・中（文明協會刊行書）　一　イ　四　七七一八

歐米演劇史潮　チェニイ・マツケイ撰・渡平民抄譯　大正一〇　洋・小　一　チ　一三　三三九三

尾張芝居雀　小寺玉晁撰　寫本　和・中　一　チ　一三　三六五五

女歌舞伎　高野辰之撰　洋・小（歌舞音曲考說）　一　チ　一二　三三七五

畫證錄　喜多村信節撰　寫本　和・大　一　イ　五　一三三四

各國演劇史　永井徹撰　明治一七　洋・小　一　チ　一三　四四三

歌舞演劇講話　高野辰之撰　昭和四四　洋・中　一　チ　一三　三八六四

第一　歌舞篇

御大禮の歌舞　創造藝術
音樂と感化　日本佛教音樂
佛教聖歌募集を贊す　佛法僧鳥
短歌と民謠　國歌歌詞の變遷
萬葉集の遊女　隆達の小歌
歌謠の力　江戸長唄略說
異本道成寺繪詞

第二　演劇篇

能狂言の說明　近松忌
近松の作品　近松が世話淨瑠璃の初作
淺間淨瑠璃　竹の屋劇評集

歌舞演劇書追憶

附錄

第二の元祿時代

歌舞音曲考說　高野辰之撰　大正四　洋・小　冊　一　チ　一二　類　號三三七五

田樂史　延年の能と猿樂の能
曲舞沈疑　能舞臺の松
幸若舞曲　女歌舞伎
室町時代の小歌　十二段草子考
近松研究の手引　近松が世話淨瑠璃の初作
近松の著作考　近松著作雜考
近松の脚本　近松の用ひし自誓の詞
しげる考　文彌淨瑠璃
助六淨瑠璃年代考　梅の春考
首都の邦樂分布　淺間淨瑠璃考

歌舞伎及び淨瑠璃の起源　高柳光壽撰　洋・中（日本文學講座）　一　ヘ　二　四三六〇一〇

歌舞伎畫證史話　坪内雄藏撰　昭和六　洋・中　一　チ　一三　三七六六

歌舞伎通鑑　守隨憲治撰　昭和一二　洋・中　一　ヘ　八　四三五八

歌舞伎の風俗　伊原青々園（敏郎）撰　洋・中（日本風俗史講座）　一　ヲ　六　三〇七四九

上方演劇史　堂本彌太郎撰　昭和九　洋・中　一　チ　一二　三七九五

希臘古代の演劇に就いて　坪内雄藏撰　洋・中（逍遙選集）　一　イ　四　一一三一五

近世演劇考說　黒木勘藏撰　昭和四　洋・小　一　チ　一三　三七四五

近世演劇雜考　石割松太郎撰　昭和九　洋・中　一　チ　一三　三八〇〇

同　一　チ　一三　三八〇二

近世劇壇史　歌舞伎座篇　本村錦花（錦之助）撰　昭和一一　洋・中　一　チ　一三　三八三九

近世日本演劇史　伊原青々園（敏郎）講　洋・中（早大文學科明治四一年度講義錄）　一　チ　一三　一八〇九

近世日本演劇史　伊原青々園（敏郎）撰　大正二　洋・中　一　チ　一三　三八六一

近世演劇史論　中村吉藏・河野義博撰　大正一〇　洋・小（近代史論叢書本）　一　チ　一三　三七五七

同　一　チ　一三　三七六七

劇と上代文學　近藤忠義撰　洋・中（上代日本文學講座）　一　ヘ　三　四二六七二

後期文藝協會　河竹繁俊撰　洋・中（逍遙撰集）　一　イ　四　一二四一三

國劇史概論　高野辰之撰　昭和九　洋・小　一　チ　一三　三七八三

日本演劇史概說　幸若舞曲研究
歌舞伎史上の元祿期　歌舞伎叢說
近松の時代淨瑠璃　役者評判記

草稿古袖町勾欄（シバイ）記　小寺玉晁編　寫本　和・中　一　チ　一三　三八五二

古今いろは評林　八文字自笑編　洋・中（新群書類從）　一　イ　四　五三六三

壽十八番歌舞妓狂言考　石塚豐芥子（國書刊行會叢書ノ内新燕石十種）　洋・中　一　チ　一三　三八五六

明治十丁丑年勾欄（シバイ）雜集記　小寺玉晁編　寫本　和・中　一　チ　一三　三八五四

芝居町（シバイ）御觸書　慶安至寶曆　洋・中（燕石十種）　一　イ　四　六一一三

勾欄（シバイ）叢の中　文政元至一三年　小寺玉晁編　寫本　和・中　一　チ　一三　三八五四

少年時に觀た歌舞伎の追憶　坪内雄藏撰　大正九　洋・中　一　チ　一三　三一二五

明治七勾欄（シバイ）類見聞　小寺玉晁編　寫本　和・中　一　チ　一三　三八五七

甲戌年勾欄（シバイ）類雜集錄　小寺玉晁編　寫本　和・中　一　チ　一三　三八五八

文久四甲子より明治六癸酉迄勾欄（シバイ）類雜集錄

新劇史　中村吉藏撰　洋・中（日本文學講座）　一　ヘ　二　四三六〇一〇

續續歌舞伎年代記　乾三六卷（安政六至明治三六年）　田村成義編　大正一一　洋・中　一　チ　一三　三七〇九

同　一　チ　一三　三七九一

獨逸演劇史　内山貞三郎撰　昭和九　洋・中　一　チ　一三　三七八八

東都劇場沿革誌　第一・二・四卷　大正五・六　洋・小（芝居双紙本）　三　チ　一三　三七八五

名古屋勾欄（シバイ）續々誌　寬政四至文化一四年　寫本　和・中　一　チ　一三　三八五三

日本演劇史　伊原青々園（敏郎）撰　明治三七　洋・中（文學叢書本）　二　チ　一三　一七四

同　一　チ　一三　一二一一

洛北曼殊院の續敎訓抄について（岩橋小彌太）
筑後の美麗田樂（森末義彰）　大藏太夫考（能勢朝次）
花傳書・物眞似の順序について（成瀨一三）
古本能狂言・間につきての研究（笹野堅）　能狂言のかぶき化（瀧田英二）
淨瑠璃詞章の鑑賞について（藤村作）　西鶴と演劇・歌謠（瀧田貞治）
義太夫出現年代の訂正（若月保治）
元祿歌舞伎と宇治加賀掾の淨瑠璃（高野正巳）
近松研究の過去と將來の命題（高橋宏）　忠臣藏四段目の由良之助役（山田忠一）
「菅原」と「忠臣藏」の改作（伊原青々園）　宴遊日記別錄について（福井久藏）
世話物略史（三井高大）　南蠻紅毛人の渡來と歌舞伎（秋山謙藏）
江戸末期歌舞伎に現れた惡魔主義（本間久雄）　草雙紙・洒落本の芝居趣味（小池藤五郎）
色彩から見た隈取（小林勝）
東八ヶ國國名論附伊達（手塚昇）　佛足石歌碑は斷じて藥師佛のために建てられず（高瀨承厳）
歌物語について（近藤忠義）　木繪考（池田龜鑑）

高野博士還暦記念日本演劇史論叢　東京帝國大學演劇史研究學會編　昭和一二　洋・中

定家の歌に於ける象徴性（久松潜一）　神道集と近古小説（筑土鈴寛）
遊女俳人歌川（志田義秀）　唐詩選と句題和歌（宇佐美喜三八）
日宋文化交渉に於ける人的要素（森克己）　六十年前の古書店街（水谷不倒）

日本演劇の研究　高野辰之撰　大正一五・昭和三　洋・中　一冊　二　チ　一三　類　三六六三　號

第一集

第一部　演劇舞踊篇

古代東洋劇概観　一
日本木偶劇の傳統　一
近松縦談　一
碁盤太平記　一
近松が音樂上に於ける大集成　一
郷土舞踊　一

第二部　歌謡篇

弱者の歌謡　一
歳旦物　一
邦樂の将来　一

第二集

前編　歌舞伎劇以前

我が國の古舞古樂　二
藥師寺の花會式　二
歌舞伎劇以前の女形　二
能樂大和四座考　二

後編　歌舞伎劇以後

阿國歌舞伎から元祿劇迄　二
禰宜町往來　二
傾城佛の原の三の後日「三階蔵」　二

附錄

地方舞踊の危機　二
民謡と世相　二

日本演劇の展開　高野辰之撰　昭和七　洋・中　（岩波講座日本文學）　一　ヘ　二　四三一八　二

俳優考　黒川眞頼撰　洋・中　（黒川眞頼全集）　一　イ　四　一冊　七三四　號　五

日本古代演劇史　高野辰之撰　洋・中　（日本文學講座）　一　ヘ　二　四三六〇　一〇

花江都歌舞妓年代記　五篇九巻　立川焉馬撰・勝川春亭等畫　一五　チ　一三　三七六四
文化八至一二　和・中

花江都歌舞妓年代記　三巻　立川焉馬撰・勝川春亭等畫　三　チ　一三　二一
明治二六　和・中

花江都歌舞妓年代記　九巻　立川焉馬撰・勝川春亭等畫　一〇　チ　一三　三七四二
明治三八　和・中

花江都歌舞妓年代記　九巻　立川焉馬撰・勝川春亭等畫・吉田暁二校　一　チ　一三　三七〇三
大正一五　洋・中

花江戸歌舞妓年代記　九巻　立川焉馬撰・勝川春亭等畫　三　イ　四　一三二〇
昭和三・四　洋・小　（日本古典全集）　一四二一一四四

花江都歌舞妓年代記續編　三巻　石塚豊芥子撰　一　イ　四　五三六
明治四〇　洋・中　（新群書類從）　四四

尾陽戯場事始　指峯堂撰　洋・小　（隨筆文學選集）　一　イ　五　一二四
七

尾陽戯場事始　指峯堂撰　洋・小　（未刊隨筆百種）　一　イ　五　一二九
五

古風舞曲扇林　二巻　繪入　寫本　河原崎權之助撰　一　チ　一三　一四〇四

古風舞曲扇林　二巻　繪入　和・大　河原崎權之助撰　舊版複製―
今樣舞曲扇林　大正七　和・大　（稀書複製會刊行書本）　二　チ　一三　三八六〇

古風舞曲扇林　二巻　繪入　和・大　河原崎權之助撰　舊版複製―
今樣舞曲扇林　大正七　和・大　（稀書複製會刊行書）　二　イ　四　八九八
七―八

文藝協會史料　坪内雄藏編　洋・中　（逍遙選集）　一　イ　四　一二三四
二二

文藝協會組織一新の趣意　「ハムレット」公演に先きだちて
文藝協會々則　文藝協會内規
文藝協會演劇研究所規定　余丁町の演劇研究所
日本に沙翁劇を興さんとする理由　日本で演ずる「ハムレット」
「ハムレット」に就いて　「ハムレット」公演後の所感
「故郷」に就いて　教化の目的と文藝協會
何故に新しき劇を必要とするか？　文藝協會研究所創立まで

三升屋二三治戯場書留　洋・中　（燕石十種）

同　明治演劇史　伊原青々園（敏郎）撰　昭和八　洋・中　一　チ　一三　三七七九

同　東都明治演劇史　秋庭太郎撰　昭和一二　洋・中　一　チ　一三　三八四二

○

操・人形芝居の研究　石割松太郎撰　洋・中　（日本文學講座）　一　ヘ　二　四三〇〇
樂屋圖會拾遺　松好齋半兵衛撰並畫　洋・中　（浪速叢書）　二　一〇

桐竹紋十郎手記　洋・小　（未刊隨筆百種）　一　イ　五　一二九
聲曲類纂　五巻　齋藤幸成編・長谷川雪堤畫　弘化四　和・大　一四六四

同　竹田機關座　高野辰之撰　洋・中　（日本演劇の研究）　六　チ　一一　三七一七

竹本劇と其作家　岡本綺堂撰　大正一一　洋・小　（文化叢書本）　一　チ　一三　三八六三

竹本豊竹淨瑠璃譜　洋・小　（近古文藝温知叢書）　一　イ　四　一二六
四

同　竹本豊竹淨瑠璃譜　洋・中　（燕石十種）　一　イ　四　六二一

同　近松人形淨瑠璃の研究　若月保治撰　昭和九　洋・大　一　イ　四　六四七
二

竹豊故事　浪速散人一樂撰　洋・中　（浪速叢書）　一　イ　四　一四六四

チ　藝術　一三　演劇　史傳

竹豊故事　（寶暦六）　浪速散人一樂撰　和・中　三　チ　一一　三七九五

同　竹豊故事　浪速散人一樂撰　洋・中　（新群書類從）　一　イ　四　五三六
六

同　浪花其末葉　竹遊三笑撰　洋・中　（浪速叢書）　一　イ　四　六四九
六

浪花其末葉　竹遊三笑撰　洋・中　（國書刊行會叢書ノ内德川文藝類聚）　一　イ　四　一二一
一五

日本木偶劇の傳統　高野辰之撰　洋・中　（日本演劇の研究）　一　チ　一三　三八六三
一

人形芝居の研究　石割松太郎撰　昭和八　洋・小　一　チ　一三　三七七六

○

市川七世狂言年代記　立川焉馬撰・清長等畫　和・小　一　チ　一三　三七九九

市川團十郎　伊原青々園（敏郎）撰　明治三五　洋・小　一　チ　一三　一〇七

市川團十郎乃代々　伊原青々園（敏郎）撰　大正六　和・中　二　チ　一三　二八六五

市川白猿　追善數珠親玉　文化四　和・小　一　チ　一三　＊一五六一

市村竹之丞由緒書寫　洋・中　（史籍雜纂ノ内諸由緒）　一　リ　四　三三一九
三

追善狂言　以代美満壽　立川焉馬編・歌川國貞等畫　和・小　一　チ　一三　三七九八

岩井半四郎さいご物語　洋・中　（新群書類從）　一　イ　四　五三六
三

同　歌右衛門自傳　中村歌右衛門述・伊原青々園（敏郎）編　昭和一〇　洋・小　一　イ　四　六四九
三

演藝無線電話　田村成義撰　大正七　洋・小　一　チ　一三　二八三一

演藝逸史　老の樂　二世團十郎撰・山東京傳抄　洋・小　（續帝國文庫ノ内俳優全集）　一　チ　一三　三七六三

一　ヘ　七　四四二　一二三　一七

一　ヘ　二　一六五　二八

老のたのしみ　二世團十郎撰・山東京傳抄　洋・中（燕石十種）　冊 一　類 四　號 六一　イ　一　三

同　洋・中（燕石十種）　一　四　六四七　イ　一　三

尾上菊五郎一代狂言記「初代」　洋・中（新群書類從ノ内楳幸集附錄）　一　四　五三六　イ　一　三

同　一　四　六四九　イ　一　三

尾上菊五郎自傳　時事新報社刊　明治三六　洋・中　一　三　一一五　チ

嘉永七年八月六日八代目團十郎辭世同繪圖　版畫　和・大（成山帖）　一　一　*二三六三　チ

歌舞伎相續年表　石塚豐芥子撰　寫本　和・大　二　一三　八二八　チ

乞丐優伶名流列傳　清・蔣延錫等編（圖書集成鉛版印書局刊　光緒一〇・唐・小（欽定古今圖書集成）　一　三　二四〇　九七二　イ

劇界珍話　洋・中（珍書刊行會叢書）　一　四　八三六　九　イ

劇に關する回想　坪内雄藏撰　洋・中（逍遙選集）　一　四　一一三四　イ

内地で初めて觀た外國俳優のシェークスピヤ劇の印象　古河（河竹）默阿彌　九世團十郎　五世菊五郎　九世團十郎・五世菊五郎

五代目菊五郎自傳　伊坂梅雪編　昭和四　洋・小　一　一三　三七三五　チ

西澤脚色餘錄三編　洋・中　西澤一鳳撰（新群書類從）　一　四　五三六　二　イ

同　一　四　六四九　二　イ

猿若勘三郎於三御當地一芝居被二仰付一候由諸書寫　洋・中（史籍雜纂ノ内諸由緒）　一　四　三三九　三　リ

三座家狂言幷由緒書　洋・中（燕石十種）　一　四　六一　二　イ

同　洋・中（燕石十種）　一　四　六四七　二　イ

三都役者水滸傳　序之卷　五柳亭德升撰・歌川國貞畫　文政一二　和・中　二　一三　七三五　チ

三年寄三芝居吉原長吏由緒書　寫本　和・大（玉晃叢書）　一　四　*六九六　三八　イ

市正德追善曾我　洋・中（新群書類從）　一　四　五三六　三　イ

同　一　四　六四九　三　イ

諸藝人名錄　西村隼太郎編　明治八　和・小　一　一三　一一五　チ

女優生活廿年　森律子撰　昭和五　洋・小　一　四　六四九　三　イ

同　一　四　六四八〇二　ヌ

團菊以後續其　伊原青々園（敏郎）撰　昭和一二　洋・小　一　一三　三七四六　チ

團洲百話　松居松葉（眞玄）編　明治三六　洋・中　二　一三　三八四三　チ

團十郎の芝居　伊原青々園（敏郎）撰　昭和九　洋・小　一　一三　一四六九　チ

同　一　一三　三七五五　チ

中古戲場說二卷　洋・中（燕石十種）　一　一三　三八〇四　チ

同　一　四　六一　イ

千代見草　一名梅幸年譜　梅曆山人撰　和・大（祖父恩）　一　四　六四七　イ

同　一　五　一二六七　ヘ

手前味噌　中村仲藏撰　洋・小（續帝國文庫ノ内俳優全集）　一　二　一六五　ヘ

西澤傳奇作書　洋・中（新群書類從）　二　四　五三六　イ

役者論語　洋・中（新群書類從）　一　四　五三六　イ

同　一　四　六四九　イ

役者論語　八文字自笑編　洋・中（新群書類從）　一　四　六四九　イ

同　一　五　一一九五　チ

役者論語　八文字自笑編　洋・中（新群書類從）　一　四　一一二九　イ

同　一　一三　三七四八　チ

中山文七一代狂言紀　洋・中（新群書類從）　一　一三　三八四八　チ

同　一　四　六四九　三　イ

舞臺の人人　野口米次郎撰　昭和二　洋・小（野口米次郎ブックレット本）　一　五　一〇二二　ヌ

俳優忌辰錄　關根正亮編　和・中（名人忌辰錄附錄）　一　五　一九九六　ヌ

同　帖　五　一三　二一九五　チ

俳優世々の接木　俳優堂夢遊撰　和・小　折　五　一三　一五三七　チ

同　一　五　二一二九　イ

一本草　洋・小（未刊隨筆百種）　一　一三　二三八四　チ

舞臺の團十郎　伊原青々園（敏郎）撰・安部豐編　大正一二　和・大　一　一三　*三四六一　チ

舞臺の人人　野口米次郎撰　昭和二　洋・小（野口米次郎ブックレット本）　一　一三　三七六一　チ

ぼたん法語「八代目團十郎」寫本　和・中　一　一三　*一五五八　チ

眠獅選　三卷　八文字自笑撰　洋・中（新群書類從）　一　四　五三六　イ

同　一　四　六四九　イ

森田勘彌由緒書寫　洋・中（史籍雜纂ノ内諸由緒）　一　四　三三一九　リ

劇子系話餘稿　卷上　大正六　和・小（演藝圖書同好會本）　一　一三　二八二二　チ

役者論語　八文字自笑編　安永五　和・小　一　一三　一六三二　チ

舞臺百箇條（杉九兵衛）　藝鑑（富永平兵衛）

あやめ艸（福岡彌五郎編）　耳塵集（金子吉左衛門編）

續耳塵集（民屋四郎五郎編）　賢外集（東三八編）

佐渡嶋日記（佐渡嶋長五郎）

チ　藝術　一三　演劇　劇場・舞臺裝置・演技・扮裝

江戸時代初期東都劇場本質論　須田敦夫撰（昭和一一）　洋・中（「演劇學」昭和一一年五月號拔刷）　一　一三　三八三七　チ

江戸時代上期・日本劇場史論　須田敦夫撰　洋・大（東洋經濟第一卷第一號拔刷）　一　一三　三八四八　チ

近世日本劇場復原圖考　須田敦夫撰（早稻經濟學報第二號拔刷）　一　一三　三八三四　チ

劇場史概說　飯塚友一郎撰　洋・中（日本文學講座）　一　へ　四三六〇　一〇

現代の劇場　モダウエル撰・菊岡進一郎譯　大正九　洋・小　一　一三　三七四七　チ

沙翁舞臺とその變遷　西洋劇場史研究　上田整次撰　大正一四　洋・中　一　一三　三八三〇　チ

猿樂町芝居三座ノ見取圖　覆刻　和・大（知新帖）　一　一　*二四七〇　チ

戲場樂屋圖會　二卷　松好齋半兵衛撰並畫　寬政一二　和・大　二　一三　三七四三　チ

戲場樂屋圖會　拾遺共　松好齋半兵衛撰並畫　洋・中（浪速叢書）　一　四　一二一　一五　イ

戲場訓蒙圖彙　式亭三馬撰　文化三　和・中　五　一三　一六四二　チ

東都劇場沿革誌　第五卷　關根只誠撰　大正六　洋・小（演藝圖書同好會本）　一　一三　二八二三　チ

日本劇場圖史　第一・二冊　竹内芳太郎撰　昭和一〇　洋・大　二　一三　三八二七　チ

同　二　一三　三八二八　チ

日本劇場讀史表　須田敦夫撰　洋・中（藝術殿）昭和十年一至三月號拔刷）　一冊　チ一三　類　三八三五　號
能樂以前の野外舞臺　高野辰之撰　洋・中（日本演劇の研究）　一　チ一三　三八六三　二
本邦樂舞史並に先行舞臺史の研究　日本劇場史の序論　須田敦夫撰　洋・大（早稲田建築學報拔刷）　一　チ一三　三八四五

○

田中良　舞臺裝置圖集　別册國劇向上會現種附　早大坪内博士演劇博物館編　昭和五　洋・大　一　チ一三　三七六五

○

歌舞伎劇に於ける型の研究　三宅周太郎撰　洋・中（日本文學講座）　一　へ　四三六〇　一〇
歌舞妓雜談　百戯園芝甕撰・獨醉舍國直畫　文化一五　和・小　一　チ一三　二六一
沙翁劇朗讀レコード　解説附　坪内雄藏口演・日本コロムビア蓄音器株式會社作　枚　四・一　チ一三　※三八三五
ハムレット（生死疑問獨白の場）一―二　ヂニスの商人（法廷の場）三―四

役者氷面鏡　繪入　百示齋編　舊版複製―昭和八・九　三　イ四　一二九〇　二八―三〇
身振　和・小（稀書複製會刊行書）
六方ことは　延寶版複製―大正一二　一　イ四　一〇一〇　一九
和・小（稀書複製會刊行書）

○

支那俳優ノ隈取　一四圖　和・大（石版刷）（成山帖）　一　チ一　※二三六三　二

番附

親船太平記　「安永四年市村座類見世狂言」　鳥居清經畫　一　イ四　八九八　二六
安永版複製　和・小（稀書複製會刊行書）
元祿歌舞伎小唄番附盡　和・大（稀書複製會刊行書）　二　イ四　九六〇　三九
菊慈童酒宴岩屈　「安永四年森田座類見世狂言」　舊版複製　和・小（稀書複製會刊行書本）　一　チ一三　※三八〇六

菊慈童酒宴岩屈　「安永四年森田座類見世狂言」　舊版複製　和・小（稀書複製會刊行書）　一　イ四　八九八　三五
待宵千里鐘　若狹國雞娘　けいせい夫戀櫻　和・中　一　チ一三　※一七〇〇
三都藝人番附　「役者・相撲・淨瑠璃等」　貼込帖　和・大　二　チ一三　※三九四
支那芝居繪番附　西遊記外一種　摺本　和・大（成山帖）　一　チ一三　三八四五
支那芝居繪番附　二種　摺本　和・大（知新帖）　一　チ一　※二三六三　一
芝居番附　明和五至文久三年（有缺）　小寺玉晁蒐集　一　チ一　※四七〇　三
芝居番附　明和五至文久三年（有缺）　小寺玉晁蒐集　一七　チ一三　三八五九
勾欄（シバイ）戲の中　文政元至一三年　小寺玉晁編寫本　和・中　一　チ一三　三八五四
名古屋續々誌　寛政四至文化一四年　小寺玉晁編寫本　和・中　一　チ一三　三八五三
勾欄　和・中
花相撲源氏張膽（ヒイキ）　「安永四年中村座類見世狂言」　安永版複製　和・小（稀書複製會刊行書）　鳥居清經畫　一　イ四　八九八　三九
文化五年三月中村座繪番附　和・大（溫故雜帖）　一　チ一　※二七一五　七
やのね五郎柱（ヨリ）　繪入　和・小　一　チ一三　※三七八六

筋書

粟嶋金龍瀧　繪入　正德版複製―昭和六　一　チ一三　三八二〇
和・中（稀書複製會刊行書本）
粟嶋金龍瀧　繪入　正德版複製―昭和六　一　イ四　一二一五　二五
和・中（稀書複製會刊行書）
一谷坂落　洋・中（新群書類從）　一　イ四　五三六　三
同　女筆今川假名手本　洋・中（新群書類從）　一　イ四　五三六　三
名古屋城主加藤淸正記　洋・中（新群書類從）　一　イ四　五三六　三
同　洋・中（新群書類從）　一　イ四　五三六　三
同　洋・中（新群書類從）　一　イ四　五三六　三
同

市川團十郎評判圖會 後附書樓上草履 壽亭豐丸撰並畫 和・小 — 一冊 — チ一三類 ※三七二號

うしの年京大坂役者ともぐい評判幷ニ

しょげいぶたいかゞみ 元祿版複製—大正一三 和・中（稀書複製會刊行書本） — 一 — チ一三 三八〇九

うしの年京大坂役者ともぐい評判幷ニ

しょげいぶたいかゞみ 元祿版複製—大正一三 和・大（稀書複製會刊行書） — 一 — イ四 一〇一〇 三四

物眞似鸚鵡石 狂言盡 近黑道人撰 明和九 和・小 — 一 — チ一三 ※三七七一

鋸くず 繪入 元祿版複製—昭和一〇 和・中（稀書複製會刊行書） — 一 — イ四 一三四四 三三

おしゆん傳兵衞十七年忌 繪入 享保版複製—昭和二 和・中（稀書複製會刊行書本） — 一 — チ一三 三八一四

おしゆん傳兵衞十七年忌 繪入 享保版複製—昭和二 和・中（稀書複製會刊行書） — 一 — イ四 一二一七 二二

菊の離架 繪入 元祿版複製—昭和九 和・中（稀書複製會刊行書） — 一 — イ四 一三四四 三二

役者諸藝 金之揮 近藤清春撰並畫 享保版複製 洋・中（珍書刊行會叢書） — 一 — イ四 八三六 五

九百年忌九重西來繪盡 舊版複製—大正一三 和・中（稀書複製會刊行書本） — 一 — チ一三 三八三三

九百年忌九重西來繪盡 舊版複製—大正一三 和・中（稀書複製會刊行書） — 一 — イ四 一〇九四 四

古今四場居百人一首 繪入 和・大 元祿版複製—昭和六（稀書複製會刊行書本） — 二 — チ一三 三八一七

古今四場居百人一首 繪入 和・大 元祿版複製—昭和六（稀書複製會刊行書） — 二 — イ四 一二一五 一五—一六

寶曆年中古代役者せりふほめ言葉 寫本 和・中 — 一 — チ一三 三七九七

三ケ津役者評判記 和・小 — 一 — チ一三 三七九三

芝居細見 三葉艸 市村座上下・森田座上 天保七 和・小 立川焉馬撰・歌川國貞畫 — 三 — チ一三 ※三七九四

なごや山三 狂言の評判入 上 繪入 和・小 — 一 — チ一三 ※三〇二三

夏の富士 歌川國貞畫 和・中 — 一 — チ一三類 三八三三號

難波昔語 繪入 和・中 貞享版複製—昭和一一（稀書複製會刊行書） — 一 — イ四 一二四四 二八

難波昔語三番續 繪入 和・中 貞享版複製—大正八（稀書複製會刊行書） — 一 — イ四 八九八 二四

難野郎古たゝみ 繪入 和・小 舊版複製—昭和七（稀書複製會刊行書本） — 一 — チ一三 三八一八

難野郎古たゝみ 繪入 和・小 舊版複製—昭和七（稀書複製會刊行書） — 一 — イ四 一二一五 二七

簑張草 繪入 和・中 元祿版複製—昭和二・三（稀書複製會刊行書） — 二 — イ四 一二一七 二九—三〇

剝野老（ムギトコロ） 繪入 和・小 寬文版複製—大正七（稀書複製會刊行書本） — 一 — チ一三 三七四〇

剝野老 繪入 和・小 寬文版複製—大正七（稀書複製會刊行書） — 一 — イ四 八九八 二

むさし鐙 繪入 和・中 元祿版複製—昭和九（稀書複製會刊行書） — 一 — イ四 一三四四 三二

やくしや雷 繪入 和・大 元祿版複製—昭和九（稀書複製會刊行書） — 一 — イ四 一二九〇 四三

三蔵場俳優三十二相 東子樵客撰・歌川豐國畫 享和二 和・小 — 一 — チ一三 三七四一

役者評判記 和・小 — 一二六 — チ一三 ※三八四九

三國役者舞臺鏡（元祿一一年） — 一 — 役者口三味線（京・江戸）（同一二年） — 二

役者一代男（京）（同一三年） — 三 — 武藏野役者談街（江戸）（同年） — 四

役者二挺三味線（京・大坂）（同一五年） — 五 — 京大阪役者評判色三味線（同一六年） — 六

役者舞扇子（江戸）（同一七年） — 七 — 役者色景圖（大坂・江戸）（正德四年） — 八

役者懷世帶（京・江戸）（同五年） — 九 — 役者正月詞（大坂）（享保一一年） — 一〇

役者登志男（京）（同一四年） — 一一 — 役者名古屋帶（名古屋）（同一七年） — 一二

役者三津物（三都）（同一九年） — 一三 — 役者禍若志（三都）（同二一年） — 一四

役者柱伊達（三都）（寬保二年） — 一五 — 役者子佳算（三都）（同四年） — 一六

役者三叶和（大坂・江戸）（延享三年） — 一七 — 〔延享五年名古屋芝居役者評判記〕 — 一八

役者大雛形（三都）（寬延二年） — 一九 — 役者歌計劃（名古屋・岐阜）（同年） — 二〇

役者劇家系（三都）（寶曆五年） — 二一 — 役者懸想文（三都）（同六年） — 二二

役者眞壺銘（京）（同七年） — 二三 — 役者花くるま（名古屋）（同年） — 二四

役者談合膝（三都）（同九年） — 二五 — 役者段階子（三都）（同一〇年） — 二六

役者初白粉（三都）（同一一年） — 二七 — 役者年越草（三都）（同一二年） — 二八

役者手はじめ（三都）（同年） — 二九 — 役者籤筥（三都）（同一三年） — 三〇

役者吉野山（三都）（同年） — 三一 — 役者初庚申（京・江戸）（同一四年） — 三二

役者久意物（三都）（明和二年） — 三三 — 役者年内立春（三都）（同三年） — 三四

役者巡炭（三都）（同四年） — 三五 — 役者黨紫選（三都）（同五年） — 三六

役者言葉花（三都）（同年） — 三七 — 役者不老花（三都）（同七年） — 三八

役者歲且帳（三都）（同八年） — 三九 — 役者萬年曆（三都）（同九年） — 四〇

役者一陽來（三都）（安永二年） — 四一 — 役者有難（三都）（同三年） — 四二

役者大通鑑（三都）（同五年） — 四三 — 役者世鳳凰（三都）（同六年） — 四四

役者金色（三都）（同七年） — 四五 — 役者男紫花（三都）（同八年） — 四六

役者三ケの角文字（三都）（同年） — 四七 — 役者三曆面（名古屋）（天明二年） — 四八

役者鬼の手柄（京・大坂）（同三年） — 四九 — 役者夕圖居（名古屋）（同年） — 五〇

役者千兩箱（三都）（同四年） — 五一 — 役者紋選（三都）（寬政二年） — 五二

役者節用集（三都）（同三年） — 五三 — 役者名所圖會（三都）（同四年） — 五四

役者松囃子（三都）（同六年） — 五五 — 役者人相鏡（三都）（同七年） — 五六

役者御吉慶（三都）（同八年） — 五七 — 役者渡初（三都）（同九年） — 五八

役者結樽（三都）（同一〇年） — 五九 — 役者初相場（三都）（同一一年） — 六〇

役者年中行事（三都）（同一二年） — 六一 — 役者寶舟（三都）（享和二年） — 六二

役者弓初（京・大坂）（同三年） — 六三 — 役者壽（三都）（同四年） — 六四

役者正札附（三都）（文化二年） — 六五 — 役者よし〳〵（三都・名古屋）（同年） — 六六

役者大極丸（三都）（同三年） — 六七 — 役者大學（三都・名古屋）（同六年） — 七〇

役者新綿船（三都）（同七年） — 七一 — 役者出世噺（三都・名古屋）（同八年） — 七二

役者呂世噺（三都・名古屋）（同一〇年） — 七三 — 役者目利自慢（大坂・名古屋）（同年） — 七四

役者繁榮話（三都・名古屋）（同一二年） — 七五 — 役者拳角力（京・大坂）（同年） — 七六

役者譬節（三都）（同一二年） — 七七 — 役者謎懸論（三都・名古屋）（同一三年） — 七八

役者名物合（三都・名古屋）（同一四年） — 七九 — 役者當撰鏡（三都）（同一五年） — 八〇

役者優眼合（三都・名古屋〈文政三年〉） — 八一 — 役者開帳（三都）（同三年） — 八二

役者早料理（京・大坂）（同五年） — 八四 — 役者珠玉盡（三都）（同七年） — 八五

役者神事競（三都）（同七年） — 八六 — 役者始開曆（三都）（同一三年） — 九一

役者三都鑑（三都）（同一一年） — 八七 — 役者名古屋帶（名古屋）（天保三年） — 九四

役者舞遊問答（三都）（天保三年） — 八八 — 役者三世相（三都）（同五年） — 九五

役者夕圖居（名古屋）（同年） — 八九 — 役者手柄競（三都・名古屋）（同七年） — 九六

役者三都鑑（三都）（同一一年） — 九〇 — 役者ひめ飾（三都・名古屋〈同九年〉） — 一〇〇

役者始開曆（三都）（同一三年） — 九一 — 役者金剛力（三都）（同一一年） — 一〇三

役者名古屋帶（名古屋）（天保三年） — 九四 — 役者投扇曲（三都）（同一三年） — 一〇四

役者三世相（三都）（同五年） — 九五 — 役者豐年歲（下）（同五年） — 一〇六

役者手柄競（三都・名古屋）（同七年） — 九六 — 役者早料理（京・大坂）（同五年） — 一〇七

役者ひめ飾（三都・名古屋〈同九年〉） — 一〇〇 — 役者神事競（三都）（同七年） — 一〇八

役者金剛力（三都）（同一一年） — 一〇三 — 役者珠玉盡（三都）（同九年） — 一〇九

役者投扇曲（三都）（同一三年） — 一〇四 — 役者三都鑑（三都）（同一一年） — 一一〇

役者豐年歲（下）（同五年） — 一〇六 — 役者始開曆（三都）（同一三年） — 一一一

役者名古屋帶（名古屋）（天保三年） — 一一三

役者舞遊問答（三都）（天保三年） — 一一三

役者三世相（三都）（同五年） — 一一四

役者手柄競（三都・名古屋）（同七年） — 一一五

役者名古屋帶（名古屋）（同一七年） — 一一七

役者新世帶（京・大坂）（同年） — 一一九

役者金剛傳（三都）（文久二年） — 一二二

役者當世競（三都）（同四年） — 一二三

同（大阪）（同年） — 一二五

役者評判記 和・小

役者初庚申（京・江戸）（寶曆一四年） — 一

役者有難（三都）（安永三年） — 二

役者大通鑑（京・大坂）（同五年）　三
役者松嚊子（三都）（寛政六年）　五
役者渡初（京・大坂）（同九年）　七
役者大極丸（京・大坂）（文化三年）　九
役者出情噺（名古屋）（同一〇年）　一一
役者譬節（京・大坂）（同一二年）　一三
役者優眼合（三都・名古屋）（文政三年）　一五
役者多見賑（大坂・名古屋）（同六年）　一七
役者三都鑑（京・大坂）（同一一年）　一九
役者内百番（京・大坂・名古屋）（同一二年）　二一
役者手柄競（三都・名古屋）（天保七年）　二三
役者早速砲（大坂・名古屋）（同八年）　二五
役者ひめ飾（大坂・江戸・名古屋）（同九年）　二七
役者舞臺扇（三都）（同一二年）　二九
役者産物合（三都・名古屋）（嘉永二年）　三一
役者早料理（三都・名古屋）（同三年）　三三
役者都名所（三都・名古屋）（安政四年）　三五
役者群言草（大坂・江戸）（萬延二年）　三七
役者評判記古今題名通覽　生川春明編　寫本　和・小　冊　チ　三　三八五〇　號
役者評判記年表稿本　松適舍主人撰　明治四二　和・中　一　チ　三　一六一九　三八
同　一　チ　三　一六七三　三九
野良關相撲　繪入　和・中　元祿版複製—昭和七・八（稀書複製會刊行書）　二　イ　四　一二九〇—二　四〇
野郎大佛師　繪入　和・小　寛文版複製—昭和七（稀書複製會刊行書本）　一　チ　三　三八一九　四一
野郎大佛師　繪入　和・小　寛文版複製—昭和七（稀書複製會刊行書）　一　イ　四　一二一五　四二
野郎にぎりこぶし　繪入　和・中　舊版複製—昭和一一（稀書複製會刊行書）　二　イ　四　一三四四　四三
野郎蟲　萬治版複製—大正一一　和・小（稀書複製會刊行書）　一　イ　四　二九—三〇　一〇一〇　五
古今俄選　五卷　洋・中　（國書刊行會叢書ノ内雜藝叢書）　一　イ　四　七九九　二四
役者評判記古今題名通覽　生川春明編　寫本　和・小　冊　チ　三　三八五〇　號
役者評判記年表稿本　松適舍主人撰　明治四二　和・中　一　チ　三　一六一九　三八
同　一　チ　三　一六七三　三九
野良關相撲　繪入　和・中　元祿版複製—昭和七・八（稀書複製會刊行書）　二　イ　四　一二九〇—二　四〇
野郎大佛師　繪入　和・小　寛文版複製—昭和七（稀書複製會刊行書本）　一　チ　三　三八一九　四一
野郎大佛師　繪入　和・小　寛文版複製—昭和七（稀書複製會刊行書）　一　イ　四　一二一五　四二
野郎にぎりこぶし　繪入　和・中　舊版複製—昭和一一（稀書複製會刊行書）　二　イ　四　一三四四　四三
野郎蟲　萬治版複製—大正一一　和・小（稀書複製會刊行書）　一　イ　四　二九—三〇　一〇一〇　五
古今俄選　五卷　洋・中　（國書刊行會叢書ノ内雜藝叢書）　一　イ　四　七九九　二四
坐鋪狂言早合點　洋・中　（國書刊行會叢書ノ内雜藝叢書）　一　イ　四　七九九　二四
茶番狂言早合點　二卷　洋・中　式亭三馬編　（國書刊行會叢書ノ内雜藝叢書）　一　イ　四　七九九　二四
素人狂言古本茶番三階圖繪　明和版複製—大正一三　和・小（稀書複製會刊行書本）　一　チ　三　三八一〇
素人狂言古本茶番三階圖繪　明和版複製—大正一三　和・小（稀書複製會刊行書）　一　イ　四　一〇一〇　三三
博多仁和加集　附錄博多の方言　竹田秋樓編　大正三　洋・小　一　ヘ　八　三四九七
風流俄天狗　五卷（天保三）　村上杜陵（甚藏）撰　和・中　二　チ　三　一六五九
風流俄天狗　五卷（天保二）　村上杜陵（甚藏）撰・浦川公左畫　和・中　五　チ　三　三七九六
古今東名所　毛利元義撰　洋・小　（未刊隨筆百種）　一　イ　五　一一二九　七
明月餘情　三編・繪入　和・小　安永版複製—大正九（稀書複製會刊行書）　三　イ　四　九六〇　一五—一七
明月餘情　繪入　和・小　安永版複製—大正九（稀書複製會刊行書本）　一　チ　三　三八〇七
夕烏後日の兼言　毛利元義撰　洋・小　（未刊隨筆百種）　一　イ　五　一一二九　七
吉原春秋二度の景物　桐屋五兵衞撰　洋・小　（未刊隨筆百種）　一　イ　五　一一二九　二

俄・茶番類

坐鋪狂言早合點　洋・中　（國書刊行會叢書ノ内雜藝叢書）　一　チ　三　※三七七〇　一三
茶番狂言早合點　洋・中　式亭三馬編　（國書刊行會叢書ノ内雜藝叢書）　一　イ　四　七九九　二四
素人狂言古本茶番三階圖繪　明和版複製—大正一三　和・小（稀書複製會刊行書本）　一　チ　三　三八一〇
素人狂言古本茶番三階圖繪　明和版複製—大正一三　和・小（稀書複製會刊行書）　一　イ　四　一〇一〇　三三
博多仁和加集　附錄博多の方言　竹田秋樓編　大正三　洋・小　一　ヘ　八　三四九七
風流俄天狗　五卷（天保三）　村上杜陵（甚藏）撰　和・中　二　チ　三　一六五九
風流俄天狗　五卷（天保二）　村上杜陵（甚藏）撰・浦川公左畫　和・中　五　チ　三　三七九六
古今東名所　毛利元義撰　洋・小　（未刊隨筆百種）　一　イ　五　一一二九　七
明月餘情　三編・繪入　和・小　安永版複製—大正九（稀書複製會刊行書）　三　イ　四　九六〇　一五—一七
明月餘情　繪入　和・小　安永版複製—大正九（稀書複製會刊行書本）　一　チ　三　三八〇七
夕烏後日の兼言　毛利元義撰　洋・小　（未刊隨筆百種）　一　イ　五　一一二九　七
吉原春秋二度の景物　桐屋五兵衞撰　洋・小　（未刊隨筆百種）　一　イ　五　一一二九　二
同　一　チ　三　一六七三　三九

劇場圖

猿樂町芝居三座ノ見取圖　覆刻　和・大　（知新帖）　一　チ　一　※二四七〇　二
東榮戲臺之圖　市村座　明和版複製—昭和五　（稀書複製會刊行書本）　折　チ　三　三八一六
同　折　イ　四　一一六五　四一

東榮戲臺之圖　中村座　明和版複製—大正一〇　（稀書複製會刊行書）　折　イ　四　※九六〇　四一

芳居繪

古歌舞伎繪　高野辰之撰　洋・中　（日本演劇の研究）　一　チ　一三　三六三　二
芝居繪　坪内雄藏撰　洋・中　（逍遙選集）　一　イ　四　一二一三　七
世界に類例のないわが芝居繪の價値　『芝居錦繪集成』序　活動寫眞とわが劇の過去
『舞臺の圖十郎』序　廣義に謂ふ演劇の定義幷びに芝居錦繪の分類　演劇史料としての我が國の芝居繪幷びに其圖表　わが劇書に現はれたパセチツクなアプナ趣味　女歌舞伎に關する古書八種
芝居繪と豐國及其門下　坪内雄藏撰　大正九　洋・中　一　チ　五　三〇四〇
芝居繪と豐國及其門下　坪内雄藏撰　洋・中　（逍遙選集）　一　イ　四　一一一三　七
古今役者物かたり　菱川師宣畫　延寶版複製—大正四　和・大　一　チ　三　三七八四
歌舞伎草紙繪卷　考古學會刊　尾張德川家藏本複製—明治四四　一　チ　五　※三七五七
歌舞伎草帋繪卷　考古學會刊　尾張德川家藏本複製—昭和二　再版　一　イ　四　八九八　三五
菊慈童酒宴岩屈　「安永四年森田座額見世狂言」　安永版複製　和・小　（稀書複製會刊行書）　一　チ　三　三八三三
九百年忌九重西來繪盡　舊版複製—大正一三　和・中　（稀書複製會刊行書本）　一　チ　三　三八三三
九百年忌九重西來繪盡　舊版複製—大正一三　和・中　（稀書複製會刊行書）　一　イ　四　一〇九四　四
けいせい筑波山　享保版複製—大正八　和・中　（稀書複製會刊行書本）　一　チ　三　三八〇五
けいせい筑波山　享保版複製—大正八　和・中　（稀書複製會刊行書）　一　イ　四　八九八　二五
古今役者物かたり　菱川師宣畫　延寶版複製—大正四　和・大　一　チ　三　三七八四
皐需曾我橘上　「寶曆四年市村座春芝居」　鳥居清滿畫　寶曆版複製—大正一四　和・小　（稀書複製會刊行書本）　一　チ　三　三八一三
皐需曾我橘上　「寶曆四年市村座春芝居」　鳥居清滿畫　寶曆版複製—大正一四　和・小　（稀書複製會刊行書）　一　イ　四　一〇九四　一二
三芝居役者繪本　勝川春好畫　和・中　稿本複製—昭和三　（稀書複製會刊行書本）　一　チ　三　三八二四
三芝居役者繪本　勝川春好畫　稿本複製—昭和三　和・中　（稀書複製會刊行書）　一　イ　四　一一一七　四六
芝居錦繪集成　山村豐成・町田博三編　大正八　洋・大　一　チ　三　※二九六三
芝居繪本　壽萬歲會我外遊題二種　和・小　翠釜亭畫　天明版複製—昭和一〇　和・中　（稀書複製會刊行書）　一　チ　三　※一五三〇
翠釜戲畫譜　末二圓滾島椿岳畫　自筆本複製—大正九　（稀書複製會刊行書）　一　イ　四　一三四四　三八
歌舞伎十八番の圖　「享保四年市村座額見世狂言」　享保版複製　大正一三　和・小　（稀書複製會刊行書）　一　イ　四　一三四四　三四
竹之二呟　「享保四年市村座額見世狂言」　享保版複製—大正一三　和・小　（稀書複製會刊行書本）　一　チ　三　三八一一
竹之二呟　「享保四年市村座額見世狂言」　享保版複製　大正一三　和・小　（稀書複製會刊行書）　一　イ　四　一〇九四　二
歌舞伎圖說　一二冊・圖說一冊　守隨憲治・秋葉芳美編撰　昭和七・八　包　一二・一　冊　チ　三　三七一二
千草結び色葉八卦　天明版複製—昭和七　和・小　（稀書複製會刊行書）　一　イ　四　一二一五　三三
歌舞伎草帋繪卷　「初期浮世繪選集刊行會刊　尾張德川家藏本複製—昭和三　（初期浮世繪選集特輯）　巻　一　チ　五　※三七〇九
道外形大盡舞　元文版複製—昭和一一　和・中　（稀書複製會刊行書）　一　イ　四　一三四四　三四

浮世繪歌舞伎畫集

日本浮世繪協會編・井上和雄解說　昭和二　洋・大　一　チ　一三　三七一
繪本舞臺扇　附解說　一筆齋文調・勝川春章畫　和・大　（風俗圖畫刊行會叢書）　四　チ　四　二六八七　三六—三九
繪本水や空　耳鳥齋畫　安永版複製—昭和一〇　和・中　（稀書複製會刊行書）　三　イ　四　一三四四　三五—三七
親船太平記　「安永四年市村座額見世狂言」　鳥居清經畫　安永版複製　和・小　（稀書複製會刊行書）　一　イ　四　八九八　二八
歌舞伎繪版畫集　第一・二　大正二—五　歌舞伎出版部刊　包　二　チ　四　三六九二
歌舞伎十八番の圖　末二圓滾島椿岳畫　自筆本複製—大正九　（稀書複製會刊行書）　包　一　イ　四　八九八　三六
歌舞伎圖說　一二冊・圖說一冊　守隨憲治・秋葉芳美編撰　昭和七・八　包　一二・一　冊　チ　三　三七一二
歌舞伎草帋繪卷　「初期浮世繪選集刊行會刊　尾張德川家藏本複製—昭和三　（初期浮世繪選集特輯）　巻　一　チ　五　※三七〇九

烏居清滿芝居看板圖取 三枚 和・大（溫故雜帖）		一冊	チ一	寫	＊二七一五	一二
奈良繪本阿國歌舞妓 二八枚（稀書複製會刊行書）		一包	イ四		＊九六〇	三七
花相撲源氏張膽「安永四年中村座額見世狂言」						
金井三笑撰・鳥居清經畫 安永版複製 和・小（稀書複製會刊行書）		一	イ四		八九八	三九
風流四方屏風 鳥居清信畫 和・大（稀書複製會刊行書）		二	イ四		一〇一〇	一三
本田善光日本鑑繪盡 堀尾守保畫 元文版複製—昭和四 和・中（稀書複製會刊行書本）		一	チ一三		三八一五	
本田善光日本鑑繪盡 堀尾守保畫 元文版複製—昭和四 和・中（稀書複製會刊行書）		一	イ四		一二六五	一二
明治文化版畫大鑑第三卷（明治演劇篇） 昭和七 蘇武綠郎等編 洋・大		一	チ五		三七六八	二
諸藩奧州黑上「寶曆二年中村座秋芝居」 寶曆版複製—大正一四 和・小（稀書複製會刊行書本）	鳥居清滿畫	一	チ一三		三八一三	
諸藩奧州黑上「寶曆二年中村座秋芝居」 寶曆版複製—大正一四 和・小（稀書複製會刊行書）	鳥居清滿畫	一	イ四		一〇九四	一三
新役者繪盡し 古山師重畫 元祿版複製—大正九・一〇 和・大（稀書複製會刊行書本）		一	イ四		一〇九四	一三
新役者繪盡し 古山師重畫 元祿版複製—大正九・一〇 和・大（稀書複製會刊行書）		三	チ一三		三八〇八	
戲子井六歌撰櫓色紙 瀧澤馬琴撰竝畫 自筆本複製—大正一〇 和・大（稀書複製會刊行書）		三	イ四		九六〇	二〇一三
旦生言語備（ヤクシャモノイヘバ） 俳說添 流光齋如圭畫 大正五・昭和二 和・中（歌舞伎圖繪刊行會複刻本）		一	イ四		九六〇	三二
役者略姿（ヤクシャナリスガタ）上 鳥居清倍・同清滿畫 寶曆版複製—昭和五 和・小（稀書複製會刊行書本）		一	チ一三		三七〇八	
役者略姿上 鳥居清倍・同清滿畫 寶曆版複製—昭和五 和・小（稀書複製會刊行書）		一	チ一三		三六二一	
劇第一卷第一號 大正一一 洋・大 東京俳優組合事務所刊		一	イ四		一二一五	五
支那俳優寫眞 一四枚 和・小		一	チ一三		三六九〇	
名優寫眞畫集四〇枚 演藝畫報社刊		一包	チ一三		三七一九	

論說

印象より表現へ 山岸光宣撰 大正一三 五版 洋・小（新演藝叢書本）		一冊	チ一三	類	三五六五	號
演劇往來 三宅周太郎撰 大正一一 洋・小		一	チ一三		三七五四	
演劇改良意見 末松謙澄述 洋・中（明治文化全集）		一	イ四		一二三二	
演劇改良論私考 外山正一撰 洋・中（明治文化全集）		一	イ四		一二三二	
演劇改良論駁議 無一庵無二撰 洋・中（明治文化全集）		一	イ四		一二三二	
演劇新聲 小山內薰撰 明治四五 洋・小		一	チ一三		三三九五	
演劇新潮 小山內薰撰 明治四一 洋・小		一	チ一三		一四八八	
同		一	チ一三		三三九四	
同		一	チ一三		三七四九	
演劇に於ける「實驗」を中心として見たる現代米國劇 杉本喬撰 洋・中（遠藤先生華甲壽記念論文集）		一	イ四		一二九三	
演劇評論 小宮豐隆撰 大正三 洋・小（反響叢書本）		一	チ一三		三七八七	
演劇論 高田早苗撰 洋・中（明治文化全集）		一	イ四		一二三二	
演劇論集 小山內薰撰 大正五 洋・小		一	チ一三		三三九七	
演劇論叢 附錄役の性根 小宮豐隆撰 昭和一二 洋・中		一	チ一三		三八四一	
鷗外全集第三卷前半 森林太郎撰・同刊行會刊 洋・中		一	イ四		一〇三五	三

演劇改良論者の偏見に驚く　再び劇を論じて世の評家に答ふ

正本と臺帳と　演劇場裏の詩人
ハアゲマン　ハアゲマン氏の事
演藝協會の事につきて忍月居士に告ぐ
西洋定芝居の始　歐洲の劇場
劇場の大き　西洋芝居の番附
獨逸の劇場年報　奉天の一劇場
歌劇のことども　答俳優某論自憲書
答某論劇評故實書　劇品劇評
演劇中の實物　名優破型の理由
市川團十郎序　新宮街の劇を督見す
歌舞伎座合評より　齊行記
明治座のオセロ　俳優渡英の議に就て
西洋脚本の幕切　答評劇者某論夢幻劇書
戲曲の分類　讀罪過論
ユリウス・バアブの戲曲論　
自然主義を論じて我が脚本作家に及ぶ（天潮記）　
觀潮樓一夕話　文學上の創造權
劇を見て俗に還る　劇としての罪と罰と
フイデリオの鏃形　笠雲雀
基督教劇　春朝秋夕
シルレルが醫たりし時の事を記す　獨逸の新戲曲
ゲルハルト・ハウプトマン　「革財布」出典
ハムレットと烏鷄國太子と　標新領異錄よりその二
卒堵婆小町合評より　心中萬年艸合評より
情死　天誅
壺阪寺　春雨傘の評
助六は下劣か　鵜飼掻その二
歌舞伎第六十一號を讀みて　第一回應募脚本の選拔に就いて
斷簡一則　新作脚本と舊俳優
普通の見物人の好まぬ劇　大正五年の我が劇壇

チ 藝術 一三 演劇 論說

教化と演劇 坪內雄藏撰 大正四 洋・小		一	チ一三		二四五七	
教化と演劇 坪內雄藏撰 大正四 再版 洋・小		一	チ一三		三七七三	
劇場改良法 坪內雄藏撰 洋・中（明治文化全集）		一	イ四		一一三二	
劇壇の最近十年 坪內雄藏撰 大正六 洋・小		一	チ一三		二八五五	
劇と文學 坪內雄藏撰 明治四四 洋・中		一	チ一三		二〇八七	
劇に關する論說 坪內雄藏撰 昭和二 洋・中（逍遙選集）		一	イ四		一二一三	一〇
國劇小史	明治劇界小史					
歌舞伎劇の微低的研究	日本演劇全史の編著に就いて					
舞臺構造樣式の分類及び進化	むかしの若女がた					
女形の前途と歌舞伎の前途	女形優待論					
文學としての我が在來脚本	舊狂言作者及び舊脚本					
時代おくれの脚本	新演劇の現在					
わが舊劇に似た外國の劇	暗い芝居對明るい芝居					
『市川團十郎の代々』序	初代櫻田治助の傳					
『歌舞伎脚本傑作集』第三卷緒言	並木五瓶の傳					
四世鶴屋南北の傳	『河竹默阿彌傳』序					
默阿彌作「網模樣燈籠菊桐」	劇壇の現在及び未來					
作の上より見たる我が劇壇の現在及び未來	觀る方からの演劇の趣味					
我が演劇の前途	昨今の劇評					
親劇の目安	翻譯劇					
寫實劇と素人俳優	劇と舞臺面との調和					
演劇刷新の依然として困難なる所以	自意識の過ぎた藝術					
近頃の劇の面白からぬ理由	演劇界の未來					
歌舞伎劇に對する希望	新作脚本と舊俳優					
新脚本と共前途	大正五年の我が劇壇					
普通の見物人の好まぬ劇						

近松の新改作　日本演劇の前途
帝國劇場と歌舞伎劇　新しい劇と新しい觀客
舊派の俳優は新劇の俳優として尙ほ大いに用ふるに足るか？
東京劇壇の現況と外國劇界の趨勢　何故に日本人が沙翁を記念するか？
老近松を世界に紹介すべし　近松對シェークスピヤ對イブセン
『假名手本忠臣藏』の劇としての價値　『菅原傳授手習鑑』
『妹背山婦女庭訓』　大震災より得たる敎訓
自己を失はない程度の新藝術　大阪と新しい藝術
新民衆藝術の發祥地としての大阪

現代演劇論　岸田國士撰　昭和一一　洋・小　一冊　チ一三類　三八三八號
道遙劇談　坪内雄藏撰　大正八　洋・小　一　チ一三　二九四三
新樂劇論　坪内雄藏撰　明治三七　洋・小　一　チ一三　二四一
それからそれ　坪内雄藏撰　大正一〇　洋・小　一　チ一三　三一三六
東西の煽情的悲劇　坪内雄藏撰　昭和八　洋・小（春秋文庫本）　一　チ一三　三七七五
梨園の落葉　坪内雄藏撰　明治二九　洋・中　一　チ一三　一六一
同　一　チ一三　三九四
歷史小說・歷史畫・歷史劇　坪内雄藏撰　洋・中（逍遙選集）　一　イ四　一一三四　七
歷史小說に就きて　我が國の史劇
三たび夢幻劇を論ず　四たび夢幻劇を論ず
志賀松節一代記　史劇に就きての疑ひ
史劇に關する疑ひを再び『太陽』記者に質す
藝術上に所謂歷史的といふ語の眞義如何
再び歷史畫を論ず　史劇及び史劇論の變遷
我等の劇場　岸田國士撰　大正一五　洋・小　一　チ一三　三七五六

市川左團次歌舞伎紀行　附錄歐洲巡遊記（淺利鶴雄）　大隈俊雄編　昭和四　洋・小　一冊　チ一三類　三七三六號
演劇外題要覽　日本放送協會刊　昭和一一　洋・中　一　ヘ八　四三五四
歐米歌舞伎紀行　市村羽左衛門撰　昭和四　洋・小　一　チ一三　三七三七
踊之著慕駒連　洋・小（未刊隨筆百種）　一　イ五　一二九　一五
官廳指令及屆書綴　明治一二至二三年　寫本　和・大　一　チ一三　＊一六五〇
歌舞伎劇の經濟史的考察　山本勝太郎・藤田儀三郎撰　昭和二　洋・中　一　ヨ四　三四〇一
史實より觀た歌舞伎芝居　三田村玄龍撰　大正一二　洋・小　一　ヘ七　四〇七四
同　一　ヘ七　三七六三
紙芝居に關する調査　東京市社會局編　昭和一〇　洋・中　一　チ一三　三八二六
藝界きくまゝの記　續稿共　矢島飛蝶撰　洋・小（未刊隨筆百種）　一　イ五　二一二九　一〇
劇場新話　洋・中（新燕石十種）　一　イ四　六二一
同　一　イ四　六四七　二
劇場新話　洋・小（隨筆文學選集）　一　イ五　一二四　六
劇場新話　洋・小（近代文藝温知叢書）　一　イ四　一二六　三
劇場新話　洋・小（續燕石十種）　一　イ四　六二一
作者式法戲財錄　並木五瓶撰　洋・中（續燕石十種）　一　イ四　六二二　一
同　一　イ四　一二三〇　一
今古參考南水漫遊　初篇・續篇・拾遺各五卷　寫本　和・中　一五　チ一三　四一四
今古參考南水漫遊　一五卷　洋・中　濱松謌國撰（新群書類從）　一　イ四　五三六　二

今古參考南水漫遊　一五卷　洋・中　濱松謌國撰（新群書類從）　一　イ四　六四九　二
聲色早合點　歌川豐國畫　和・小　一　チ一三　＊三七九二
猿の毛衣　繪入　旭眞葉雪編（寬政一二）　和・小　一　チ一三　三八〇一
芝居と史實　三田村玄龍撰　明治四四　洋・中　一　ヘ七　三一八三
芝居年中行事　洋・中（珍書刊行會叢書）　一　イ四　八三六　九
芝居乘合話　中村重助撰　洋・中（新群書類從）　一　イ四　五三六　三
同　一　イ四　六四九　三
淨瑠璃所作事全覽　坂東護助・利倉幸一編　昭和一二　洋・中（舞踊藝話別冊附錄）　一　チ一四　三五九八　二
三芝居新大改雜書　繪入　天明版複製—昭和七　洋・小（稀書複製會刊行書本）　一　チ一三　三八二三
三芝居新大改雜書　繪入　天明版複製—昭和七　和・小（稀書複製會刊行書）　一　イ四　一二二五　二九
攝陽奇觀　卷八　濱松謌國編　洋・中（浪速叢書）　一　イ四　一二二一
東京演藝地圖　大正六年二月調査　玄文社刊　大正六（新演藝第二卷第三號附錄）　折　一　チ一三　三八六二
俳優生活　栗島狹衣（山之助）・坂田高方撰　大正二　洋・小　一　イ四　八三六　九
北里戲場隣の痴氣　原盛和撰　洋・小（近古文藝温知叢書）　一　イ四　二二六　九
北里戲場隣の痴氣　原盛和撰　洋・中（燕石十種）　一　イ四　六二一　三
同
艷二子冊六歌撰檜色紙　龍澤馬琴讀迎畫　自筆本複製—大正一〇　和・大（稀書複製會刊行書）　一　イ四　九六〇　三二
役者手鑑　繪入　舊版複製—大正一五　和・中（稀書複製會刊行書本）　一　チ六　三七四四
役者夏の富士　市場通笑撰・春章畫　安永版複製　洋・中（珍書刊行會叢書）　一　イ四　八三六　五
創作戲曲　卷一號至卷六號九（有缺）　築地小劇場刊　大正一三至昭和四　洋・小　築地小劇場　一　サチ　八一
芝居と評判記　卷一號二至八　日本演藝社刊　映畫筋書　昭和四　洋・中　一　サチ　三
劇と評論　卷一號至卷六號一（卷四號三・一一缺）　玄文社刊　大正一一至昭和四　洋・中　二　サチ　五
劇と評論　卷一號二至卷九號一一（有缺）　玄文社刊　大正一一至昭和九　洋・中　七　サチ　七三
劇　卷二號二・三・五・六　陽西學院劇研究會刊　昭和五　洋・中　一　サチ　二四四
演藝世界　號二三至二六・二八・二九　演藝世界社刊　明治三六　洋・中　一　サチ　一二
演劇博物館　卷一號一至八　演劇博物館後援會刊　昭和四　洋・大　一　サチ　四九
演劇博物館　號一（昭和一一年七月）ヨリ　國劇向上會刊　洋・中　サチ　九〇
歌舞伎　號二〇至一四六（有缺）　歌舞伎發行所刊　明治三五至四五　洋・中　一八　サチ　四三
藝術殿　卷一號一至卷六號三　國劇向上會刊　昭和一至一一　洋・中　一〇　サチ　五三
劇　卷二號二・三・五・六　陽西學院劇研究會刊　昭和五　洋・中　一　サチ　四四
劇と評論　卷一號二至卷九號一一（有缺）　玄文社刊　大正二至昭和九　洋・中　七　サチ　七三
劇と評論　卷一號至卷六號一（卷四號三・一一缺）　玄文社刊　大正一一至昭和四　洋・中　二　サチ　五
芝居と筋書　卷一號二至八　日本演藝社刊　昭和四　洋・中　一　サチ　三
創作戲曲　卷一號一至卷六號九（有缺）　築地小劇場刊　大正一三至昭和四　洋・小　二　サチ　七八
築地小劇場　卷一號一至卷六號九（有缺）　築地小劇場刊　大正一三至昭和四　洋・中　六　サチ　五六

トロイカ　號三至五　トロイカ小劇場文藝部刊
大正一三　洋・小

舞臺　卷一號一至卷六號六　舞臺社刊
昭和五至一〇　洋・中

舞臺戲曲　卷一號四至卷二號六　舞臺戲曲社刊
昭和四・五　洋・中

舞臺藝術　號一・二・七・九・一一　舞臺藝術社刊
大正一〇　洋・中

舞臺轉換　卷一號一至卷二號三　早大劇研究會刊
昭和三・四　洋・中

舞臺評論　號六九至九三（有缺）　大阪演劇聯盟出版部刊
昭和二至四　洋・中

民族藝術　卷一號一至卷五號六　民族藝術の會編
昭和三至七　洋・中

一四　舞踊・舞踏

繪本おどりつくし　都浪關助撰・竹原春朝繪畫　一　チ一四　三五九六
安永版復製　昭和五　和・中　（稀書復製會刊行書本）

繪本おどりつくし　都浪關助撰・竹原春朝繪畫　一　イ　一四　一一六五
安永版復製　昭和五　和・中　（稀書復製會刊行書）　三三

音樂舞踊と宗教教育　牛山充撰　一　ハ　一　三〇八
洋・中　（宗教教育講座）　六

革命期の演劇と舞踊　昇曙夢（直隆）撰　一　チ一三　三七五三
大正一三　洋・小

歌舞伎舞踊の研究　小寺融吉撰　一　ヘ　二　四三六〇
洋・中　（日本文學講座）　一〇

嬉遊笑覽　卷五（歌舞）　喜多村信節撰　二　イ　四　五一三
和・小　（存採叢書）　二一—二二

嬉遊笑覽　卷五（歌舞）　喜多村信節撰　一　イ　四　一一三九
洋・中　（日本藝林叢書）　六

郷土舞踊　高野辰之撰　一　チ一三　三八六三
洋・中　（日本演劇の研究）　一

郷土舞踊と民謠　第一・四・八回全國郷土舞踊民謠大會番組解說　日本青年館刊　三　チ一四　三六〇〇
大正一四至昭和九　和・中

郷土舞踊の研究　小寺融吉撰　一　ヘ　二　四三六〇
洋・中　（日本文學講座）　一〇二

近代舞踊史論　小寺融吉撰　一　チ一四　三五九二
大正一一　洋・小　（近代史論叢書本）

同　一　サチ　四一　七〇

久米舞考　黒川眞頼撰　一　サチ　七〇
洋・中　（黒川眞頼全集）

淨瑠璃所作事全覽　坂東簑助・利倉幸一編　二　サチ　八三
昭和二　洋・中　（舞踊藝話別册附錄）

舞臺藝術　號一・二・七・九・一一　一　サチ　四三
大正一〇　洋・中　舞臺藝術社刊

舞臺轉換　卷一號一至卷二號三　一　サチ　四六
昭和三・四　洋・中　早大劇研究會刊

舞臺評論　號六九至九三（有缺）　一　サチ　八二
昭和二至四　洋・中　大阪演劇聯盟出版部刊

民族藝術　卷一號一至卷五號六　五　サチ　四
昭和三至七　洋・中　民族藝術の會編

白拍子　阪本健一撰　一　ヲ　六　三〇七四
洋・中　（日本風俗史講座）　九

新興バレエの道　光吉夏彌撰　一　チ　一　三七六八
洋・中　（現代藝術の展望）

地方舞踊の危機　高野辰之撰　一　チ一三　三八六三
洋・中　（日本演劇の研究）　二

日本近世舞踊史　小寺融吉撰　一　チ一四　三五九四
昭和六　洋・中　（東洋藝術史講座本）

日本のおどり　久保田金僊撰　一　チ一四　三六〇二
昭和一三　再版　洋・中

日本のレヴュー　佐藤貢雄撰　一　チ　一　三七六八
洋・中　（現代藝術の展望）

日本舞踊史　岩橋小彌太撰　一　ヲ　六　三〇七四
洋・中　（日本風俗史講座）　九

日本舞踊文化史　麻田滿洲野撰　一　チ一四　三五九九
昭和一二　洋・中

日本民謠辭典　小寺融吉撰　一　ヘ　七　四五五七
昭和一〇　洋・中

初代花柳壽輔　吉村繁俊編　一　チ一四　三六〇一
昭和一一　洋・小

古風舞曲扇林　二卷　繪入　一　チ一三　一四〇四
今樣　和・大　寫本　河原崎權之助撰

古風舞曲扇林　二卷　繪入　二　チ一三　三八六〇
今樣舞曲扇林　二卷　繪入　蕉服復製　河原崎權之助撰　大正七　（稀書復製會刊行書本）

古風舞曲扇林　二卷　繪入　一　イ　四　八九八
今樣舞曲扇林　二卷　繪入　蕉服復製　河原崎權之助撰　大正七　（稀書復製會刊行書）　七—八

舞臺の人人　野口米次郎撰　一　チ一三　三七六一
昭和二　洋・小　（野口米次郎ブックレット本）

舞踏史一　アーリン撰・門馬直衛譯編　一　チ一二　三七二八
昭和九　洋・中　（世界音樂講座）　九

舞踏法　玉置眞吉撰　一　チ一二　三七三八
昭和八　洋・中　（世界音樂講座）　九

舞踊藝術教程　木村駒子撰　一　チ一四　三五九七
昭和一二　洋・中

舞踊藝話　別册附錄淨瑠璃所作事全覽　昭和一二　坂東簑助・利倉幸一編　二　チ一四　三五九八
坂東三津五郎述　洋・中

舞踊史概說　岩橋小彌太撰　一　ヘ　二　四三六〇
洋・中　（日本文學講座）　一〇

舞踊と歌劇　中村吉藏譯　一　チ一四　三五九一
大正二　洋・中　（文明協會刊行書本）

舞踊と歌劇　中村吉藏譯　一　イ　四　七七一
大正二　洋・中　（文明協會刊行書）　一四

舞踊論　坪内雄藏撰　一　チ一四　三五八七
大正一二　洋・小　（近代名著文庫本）

舞踊論　坪内雄藏撰　一　イ　四　一一三
洋・中　（逍遙選集）　三

新樂劇論　『浦島』を作せし顚末　一　チ一五　二三
『浦島』の寓意　『赫映姫』について　一　チ一五　二三
『竹取』について　一　チ一五　一三
國民樂の將來　一　ヘ　二　四三六〇
謠曲文は歌なりや文なりや　一〇
謠ひものゝ文章　一　チ一五　一三
宗教と樂劇　一　チ一五　一一
音樂と文學　一　チ一五　二四
舞踊劇に對する予が作意の過去及び將來　一　チ一五　三〇
外國の舞踊劇と將來の振事　一　チ一五　二四
歌劇の輸入　一　ヘ　二　四三六〇
明治の舞踊　一〇
音樂と其背景　一　チ一五　一一
名畫の筆意にもとづく新舞踊劇　一　イ　四　八九八
わが在來の舞踊に就いて　七—八
をどり　一　チ一三　三七六一

代表的型物　劇場振附及び舞踊師系譜　史料參考寫眞帖　電風館内寫眞帖出版部刊　一　チ一五　二二
わが六大舞踊派の特質　日本舞踊改造の最後の一策　大正三　和・大
『近代舞踊史論』序　わが舞踊の行くべき道

レキウの軌跡　光吉夏彌撰　一　チ　一　三七六八
洋・中　（現代藝術の展望）

露西亞舞踊　英・テリー撰・永田龍雄譯　一　チ一四　三五九五
昭和二　大正一〇　洋・大

一五　映畫

映畫王チャップリン　その評傳と旅行記　鈴木傳明撰　一　チ一五　一三
昭和五　三版　洋・小

映畫概說　森岩雄撰　一　ヘ　二　四三六〇
洋・中　（日本文學講座）　一〇

映畫學入門　内田岐三雄撰　一　チ一五　一二
昭和三　洋・小

映畫脚本論　映畫劇脚本の理論及び實際　武田晃撰　一　チ一五　一一
昭和三　洋・小

映畫教育便覽　大毎・東日新聞社刊　一　チ一五　三〇
昭和二　洋・小　（映畫教育第九五輯附錄）

映畫經濟史　武田晃譯編　一　チ一五　二四
昭和八　洋・小　（映畫科學研究叢書本）

映畫藝術　寺田寅彦撰　一　ヘ　二　四三六八
昭和七　洋・中　（岩波講座日本文學）

映畫藝術と映畫作家　森岩雄撰　一　イ　四　一二三五
洋・中　（大思想エンサイクロペヂア）

ルジュウン映畫藝術と映畫作家　上野一郎譯　一　チ一五　三一
昭和一二　洋・小

映畫劇その心理學と美學　獨・ミュンスタアベルヒ撰・久世昂太郎譯　一　チ一五　一四
大正一三　洋・小

映畫劇その心理學と美學　獨・ミュンスタアベルヒ撰・久世昂太郎譯　一　チ一五　三
大正一三　再版　洋・小

映畫劇概論　川添利基撰　昭和二　洋・小　一冊　チ・一五類　一〇號
泰西映畫劇精通　川添利基・菅省三編　大正一三　洋・小　一　チ・一五　四
映畫劇と演劇　橋高廣撰　大正一一　洋・小　一　チ・一五　二
映畫國營論　岡村紫峰撰　昭和八　和・小　一　チ・一五　二六
映畫國策に就て　山崎三郎撰（遠藤先生華甲壽記念論文集）　洋・中　一　イ　四　一三九三
映畫製作論　ブキャナン撰・藏田國正譯　昭和一三　洋・小　一　チ・一五　三四
映畫年鑑　一九三六年版　飯島正等編　昭和一一　洋・中　一　チ・一五　二九
映畫用語便覽　附略語解外一編　昭和一〇　洋・小　全日本映畫教育研究會編（映畫教育第八三輯附錄）　一　チ・一五　二七
北海の海豹島　全一卷　文部省普通學務局撰　奇觀　（大正一四）　洋・小　一　チ・一五　六
活動寫眞劇の創作と撮影法　附錄活動寫眞參考書外五篇　歸山敎正撰　大正六　洋・小　一　チ・一五
文部省製作　活動寫眞「フイルム」目錄　文部省普通學務局刊　大正一四　洋・小　一　チ・一五
教育映畫研究資料　第一・六至九・一四・一六輯　文部省普通學務局社會教育課・社會教育局編　昭和三至一三　洋・中　七　ト　九　一六八〇
現行映畫興行と教育との關係に關する調査概要　一　二
映畫番組に關する調査
道府縣及び都市に於ける教育映畫利用狀況（昭和五・六・一〇年度）　三・五・七
青少年の映畫興行觀覽狀況調査概要（下）　四
道府縣・市に於ける利用映畫に關する調査　六
教育映畫目錄　附錄文部省製作映畫目錄外一項　文部省社會教育局編　（昭和五）　洋・小　一　チ・一五
文部省　教育映畫時報　4至9・11　文部省社會教育局刊　昭和六至八　洋・小　七　チ・一五　一八
文部省　教育映畫時報　4至9　文部省社會教育局刊　昭和六至七　洋・小　六　チ・一五　一九
空中映畫目錄　日本航空輸送株式會社編　洋・小　一　チ・一五　二〇
同　一　チ・一五　二一
現代映畫藝術の理論的展望　清水光撰　洋・中　（現代藝術の展望）　一　チ・一　三七六八
興行映畫調査　一至三　文部省社會教育局編　（昭和六至八）　洋・中　（民業娛樂調査資料）　三　ヲ　九　三七〇九　二―四
支那映畫の過去と現在　村田孜郎撰　洋・小　（大支那大系）　一　ル　五　二九八八　七
素顏のハリウツド　附錄外紙所載「草人」評抄譯（石本純吉譯）外一編　上山草人撰　昭和五　洋・小　一　チ・一五　一七
定本世界映畫藝術發達史　映畫評論社編撰　昭和八　洋・中　一　チ・一五　二五
日本篇（奧平英雄）　アメリカ篇（安田清夫）
ドイツ篇（碧崎昶）　フランス篇（飯島正・內田岐三雄）
ロシヤ篇（來島雪夫）　北歐・南歐篇（松井壽夫）
世界文藝映畫傑作集　1至3　文藝日本社刊　大正一四　洋・小　三　チ・一五　五
トーキー　中井將一撰　昭和一二　洋・中　（無線工學叢書）　一　ム　三　四三三　二六
東京に於ける活動寫眞　附錄活動寫眞興行の實際的方面（權田保之助・秋山晖二）　文倉平三郎撰　（大正八）　（謄寫版）　和・中　一　チ・一五　一
日本アルプス縱走　鳥類子岳より巒岳へ　文部省普通學務局社會教育課刊　（大正一四）　洋・小　一　チ・一五　九
日本映畫書誌　山口竹美撰　昭和一二　洋・中　一　チ・一五　三三
日本教育映畫總目錄　昭和一二年版　全日本映畫教育研究會編　昭和一二　洋・小　（映畫教育第一〇七輯附錄本）　一　チ・一五　三三

トーキー日本帝國史　町邊章一撰　昭和一〇　洋・小　一　チ・一五　二八
文部省推薦映畫目錄　第一輯　（大正一四）　文部省普通學務局刊　洋・小　一　チ・一五　八
○
映畫教育　號三六至五八（號四八・四九・五二缺）　昭和六・七　洋・中　大阪每日新聞社刊　二　サ　チ　五〇―一二
映畫と演藝　卷六號一至一二　昭和四　洋・大　一　サ　チ　五〇四一
キネマ旬報　號五二八至五九（有缺）　昭和一〇　洋・大　キネマ旬報社刊　三　サ　チ　六八
國際映畫新聞　號九〇至一二八（有缺）　昭和七至九　洋・大　國際映畫通信社刊　三　サ　チ　七七
活映　號五九至七〇　昭和八　洋・中　大阪每日新聞社刊　一　サ　チ　五〇三
芝居と映畫　筋書　卷一號二至八　昭和四　洋・中　日本演劇社刊　一　サ　チ　三
映畫教育　號七二（昭和九年一月ヨリ活映ノ改題）　洋・中　大阪每日新聞社刊

書名索引

本館使用假名遣表

イ	キ	シユウ・シフ
エ	ヱ	ジユウ・ジフ・ヂユウ
オ	ヲ	シヨウ・セウ・セフ
オウ	アウ・アフ・オフ・オホ・ワウ	ジヨウ・ゼウ・ゼフ・ヂヨウ・デウ・デフ
カ	クワ	ズ
カイ	クワイ	ソウ
カク	クワク	チユウ
カツ	クワツ	チヨウ
カン	クワン	トウ
キユウ	キウ・キフ	ニユウ
キヨウ	キヤウ・ケウ・ケフ	ニヨウ
コウ	カウ・カフ・クワウ・コフ	ノウ
ジ	ヂ	バ

シユウ	シウ・シフ
ジユウ	ジウ・ジフ・ヂユウ
シヨウ	シヤウ・セウ・セフ
ジヨウ	ジヤウ・ゼウ・ゼフ・ヂヨウ・デウ・デフ
ズ	ヅ
ソウ	サウ・サフ
チユウ	チウ・チフ
チヨウ	チヤウ・テウ・テフ
トウ	タウ・タフ
ニユウ	ニウ・ニフ
ニヨウ	ネウ・ネフ
ノウ	ナウ・ナフ
バ	ヴァ・ヴ

ビ	ヴィ・ヰ
ビユウ	ビウ
ヒヨウ	ヒヤウ・ヘウ
ブ	ヴ
ベ	ヱ
ホウ	ハウ・ハフ
ミヨウ	ミヤウ・メウ
モウ	マウ
ユウ	イウ・イフ
ヨウ	エウ・エフ・ヤウ
リユウ	リウ・リフ
リヨウ	リヤウ レウ・レフ
ロウ	ラウ・ラフ

書名索引

ア

	頁
相合傘花見之圖	九
愛吾鼎齋藏器目	一五
濊時代古蹟圖譜	六
アイヌの民族舞踊	二四二
アイヌ文様	一四〇
愛らしき少女	八
青木秀枝筆梅花	四
青森縣畫譜	八
青山延光筆月湧橋下流	五〇
秋草仕舞扇	三一
闇田刈寢	四九
秋野嬉戲之圖	一九
秋萩帖	一五三
あきはぎ帖跋文	一九五
秋元安民筆詠夏人事	二〇六
安幾良計起色紙帖	一九七・二〇六
總角と助六	一四
赤穗義士眞筆帖	二〇
赤穗義士切腹之圖	五〇
赤穗義士切腹の見取圖	二六
赤穗義士人乃鑑	一二
赤穗四十七士委繪版畫	六六
朝川善庵筆文政庚辰二月感懷	二二
淺草文庫本複製一枚	一三三
朝寢髪	一三三
淺野茂枝筆ほとゝぎす	五〇
淺野長祚米帖臨本	二六
淺野梅堂長祚摹本	三三
淺野梅堂筆山水	四九
淺野榮足と其の著書	一九九
アサヒカメラ	一五三
朝日軍歌大全	一九五
淺間淨瑠璃考	二〇六
アジアは一なり	一九七・二〇六
足利學校活字	一四
足利學校所藏宋板文選外題	二〇
跋文	二〇
足利時代の世相	六六
足利時代の美術	二
足利時代風俗畫	六六
足利章氏開板大般若波羅蜜	
多經	二六
足利直義願文	三
足利本周易古版本	九九
足利本春秋左傳	九九
足利義敎畫像	八〇
足利義政畫像	八〇
足利義滿畫像	八〇
足利義滿之筆札	三三
足利義持畫像	八〇
蘆屋寫鶴首	三三
蘆屋八景釜圖	三一
飛鳥井中納言雅威書	三一
飛鳥時代寺院趾の研究	三一三
飛鳥時代の建築	一三〇・一三四
飛鳥時代の美術（世界美術	
全集）	二一
飛鳥時代の美術（内藤藤一郎）	四二
飛鳥時代佛像	一九
飛鳥奈良時代の佛敎建築	一三三
飛鳥文様の起源に就いて	一三〇・一三四
飛鳥山碑始末	一五六
安土桃山時代の繪畫	六六
アストン氏の近松觀	二〇六
東遊歌圖	一八三
東澤瀉筆四君子	四九
あづま錦繪	八八
東にしきゑ	二
東八ケ國國名論附伊達	六六
愛宕神護寺鐘銘	
熱海町の爲のペーヂェント	二六
新しい毛絲編物	三
新しい劇と新しい觀客	一九五
新しい寫眞術の字引	二六
厚板紅地總輪違繫鳳凰	一三〇
敦盛繪卷物	一五六
アトリエ美術年鑑	六六
阿難四事經題箋	二〇六
姉小路公知筆放生會に八幡	
參向の時の歌二首	四九
淡路國三原郡上八太邑鎭坐	八四
大和大國魂社印	三
粟嶋金龍瀧	七
油繪獨步記	五六
油繪の描き方	七七
阿弗利加の河馬島	三三
亞弗利加のゴリラ狩	三三
阿部正弘筆忘食忘憂	五〇
阿房宮賦	一三三
あぼろ	四二
アポロ西洋美術史	四二
天野白華翁信景鹽尻零本	一二九
アミエルの日記の一節	四
阿彌陀院寶物目錄	六
阿彌陀悔過料資財帳	六
阿彌陀咒（拓本）	一六八
操・人形芝居の研究	二〇九
あやめ艸	二一
新井白石肖像	二七
洗張浮世模樣	一四〇
荒木竹翁追善三曲大會古童	
裝内狀	二六
アラビヤ藝術圖彙	三〇
あらはるゝ戀	一三五
アリストテレスの藝術論	一〇二
有馬中務大輔書簡	二・三・四二
アルス寫眞大講座	三一
アルス大美術講座	一四七
アルト（Arte）	一〇
アルミ製版印刷術	四一
淡路國三原郡上八太邑鎭坐	一三〇
大和大國魂社印	二五・一七
粟嶋金龍瀧	二三三
粟田口猿樂記	一九七・一九八・二〇〇
粟田口尊應准后猿樂記	一九七・一九八・二〇〇
安永年間小使帳斷片	三五
安徽金石略	一五八
行脚僧の往來一札	三三
アンコオル景觀	一三五
安吳論者	三・一〇五
暗室の設計	一四七
安祥寺資財帳	六
安政二年江戸關東大地震竝	
出火方角附	三一
安政二年十月之地震武鑑見立	三三
安政五年十一月十五日江戸	
大火細見圖	二七
安政年間の日米條約書	三三
安貞三年三月六日付古文書	三三
安島帶刀・高橋多一郎及金子	
孫二郎尺牘	五〇
安藤廣重筆摘草	一〇五
安藤廣重筆花娵	一〇五
安藤廣重筆武陽金澤八勝夜景	一〇五
安藤廣重筆名所江戸百景	一〇五
安藤廣重筆兩國大花火	一〇五
アントニーとクレオパトラ	三三三
安南國主の日本に贈れる書翰	三三
安南大磊故城發掘の古瓦	一三〇・一三四
安陽侯家莊出土之甲骨文字	二六四
安陽發掘報告	二六四
安樂豆賣之圖	三三

意匠圖案研究應用試作品集 一四〇・一四四
圯上漫草 四六・一〇五・一〇六・一〇九
石渡中主計墓碑銘 一六五
維新志士遺墨 四八・五〇
維新志士遺墨展覽會陳列目錄 四五
維新志士血盟狀 三三
維新前ノ製作ニ係ル漆器 九・一四六
維新朝臣遺墨集 五〇
偉人の俤 一三六
於伊豆國君澤郡國海軍軍人造船竣工之圖 三三・八一
出雲に於ける上代玉作の遺跡と遺物の研究 一五三
伊勢歌舞伎年代記 二〇五
伊勢家花押譜 一一七
伊勢皇太神宮印 二五・一七七
伊勢猿樂の隆替 一九九
伊勢神宮本玉篇 二四
伊勢新名所歌合繪巻 八九
伊勢大神宮 一三〇・一三四
伊勢古市杉本屋彦十郎（いせおんど） 二四
伊勢古市備前屋小三郎（いせおんど） 二四
石上朝臣宅嗣卿顯彰碑 一六五
石上私淑言 一三・三五
潮來詞 二一九
板碑概説 一五六
イタリア寺院様式史のイタリア式歌唱法 一四〇・一四四
垣上漫草 四六・一〇五・一〇六・一〇九
石渡中主計墓碑銘 一六五
維新志士遺墨 四八・五〇
維新志士遺墨展覽會陳列目錄 四五
維新志士血盟狀 三三
維新前ノ製作ニ係ル漆器 九・一四六
維新朝臣遺墨集 五〇
偉人の俤 一三六
於伊豆國君澤郡國海軍軍人造船竣工之圖 三三・八一
出雲に於ける上代玉作の遺跡と遺物の研究 一五三
伊勢歌舞伎年代記 二〇五
伊勢家花押譜 一一七
伊勢皇太神宮印 二五・一七七
伊勢猿樂の隆替 一九九
伊勢神宮本玉篇 二四
伊勢新名所歌合繪巻 八九
伊勢大神宮 一三〇・一三四
伊勢古市杉本屋彦十郎（いせおんど） 二四
伊勢古市備前屋小三郎（いせおんど） 二四
石上朝臣宅嗣卿顯彰碑 一六五
石上私淑言 一三・三五
潮來詞 二一九
板碑概説 一五六
イタリア寺院様式史のイタリア式歌唱法 一四〇・一四四
一提案 三四
以哲學的眼光談談跳舞 三六
糸印譜 一七七
伊藤家所藏書畫錦繪器物入札目錄 七
伊藤（祐德）君紀功碑 一六五
伊藤春畝筆天籟拂雲々盡散願堂先生糖霜譜 一四
伊東忠太建築文獻 一三九
伊東忠太建築文獻 一八三・一八四
絲竹口傳 一八九
絲竹初心集 一八九
糸竹大全 八一
いなこ 八四
委寧（イナ）能中路 二〇・一六五
威奈眞人大村墓誌 一三
稻葉子爵家・平岡家御藏品入札目錄 七
稻荷大明神勸進の文書 三三
犬追物圖 九〇
犬百人一首 一〇〇
伊能忠敬畫像 八一
猪熊關白記 一八
異病草紙 九〇
伊浮九山水畫譜 八一
伊孚九・大雅ニ所贈シ墨（拓本） 三〇
異本糺河原勸進申樂記 二〇〇・二〇一
異本道成寺繪詞 二〇六
今川假名手本 二〇五・二一三
今切關所の女手形 三三
今宿板碑表 一五六
一立齋廣重 九七
一位齋廣重旅日記 九八
一老人の幼時の追憶 一三七
一休和尚ノ筆 三三
一休和尚筆床菜庵の法度 三四
一休禪師書 三三
一休題頌 一九七・一九八
いつくしま國寶 一五
嚴島と其の建造物 一三〇・一三四
嚴島百選 一五
嚴島扁額縮本 五〇
一切經刊行以前の一切經について 三七
就て 八一
一茶遺墨鑑 八四
一茶櫻草ノ句 一九
逸詩文鈔 二七
一生の儀式 三三
一九二五年巴里萬國裝飾美術工藝博覽會政府參同事務報告 一三八
一掃百態 八一
一蝶寫大石氏祇園一力康樂圖 三一
一蝶流譜考 六九
一般藝術學考 四
一般圖案法 一九
一筆書譜 一〇〇
一遍聖繪 八八・八九
一遍聖行狀繪傳 二
一遍上人繪詞奥書 八九
一遍上人繪傳 二四
イデオロギーの發生 三四
以哲學的眼光談談跳舞 三六
糸印譜 一七七
伊藤家所藏書畫錦繪器物入札目錄 七
伊藤（祐德）君紀功碑 一六五
伊藤春畝筆天籟拂雲々盡散願堂先生糖霜譜 一四
伊東忠太建築文獻 一三九
伊東忠太建築文獻 一八三・一八四
絲竹口傳 一八九
絲竹初心集 一八九
糸竹大全 八一
いなこ 八四
委寧（イナ）能中路 二〇・一六五
威奈眞人大村墓誌 一三
稻葉子爵家・平岡家御藏品入札目錄 七
稻荷大明神勸進の文書 三三
犬追物圖 九〇
犬百人一首 一〇〇
伊能忠敬畫像 八一
猪熊關白記 一八
異病草紙 九〇
伊浮九山水畫譜 八一
伊孚九・大雅ニ所贈シ墨（拓本） 三〇
異本糺河原勸進申樂記 二〇〇・二〇一
異本道成寺繪詞 二〇六
今川假名手本 二〇五・二一三
今切關所の女手形 三三
今宿板碑表 一五六
今昔操年代記 一八九
今樣職人盡百人一首 一〇〇
今樣美人 一〇〇
今樣譜 一八四
今樣吉原たん歌 一四五
『妹背山婦女庭訓』伊豫道後温泉碑文について 一三六
以代美滿壽 二〇九
いるか 二〇三
色の千くさ 三八・一四六
岩井半四郎さいど物語 二〇五・二〇九
岩木繪つくし 九九・一〇〇
岩倉具視筆夏歌六首 四九
岩佐又兵衛派筆三美人 一〇五
岩下方平筆高千穗の歌 五〇
岩瀨蟾洲筆紫陽花 四九
岩手縣金石志 一三三
委波氏通夜麼 八四
岩村透と近代美術 一四
巖谷一六書 一九
巖谷一六絕筆 二
所謂新しい畫と古い畫 四
印苑 八〇
印學管見 一七六
印學集成 八〇
印畫修正仕上法 一四八
印畫の仕上 一四八
殷墟出土白色土器の研究 一四四
殷虛書契 一四四
殷虛書契考釋 一六四
殷虛書契菁華 一六四
殷虛書契待問編 一六四
殷虛文字待問編 一六四
殷虛文字類編 一六四
印經 一七五・一七六
殷契粹篇 一六四
印言 一七四・一七六
印刷局沿革錄 一五一
印刷局官制 一五一
印刷局五十年略史 一五一
印刷術 一五〇
印刷術及石版術 一五〇
印刷の志をり 一五一
印刷文化展覽會歷史的列品目錄 一五一
印刷文明史 一五一
印旨 一七四・一七五
因州池田侯爵家御藏品入札目錄 七
印述 一七四・一七六
印章 一七六
印章考 一七四・一七五・一七六
印章雜考 一七六
印章集說 一三・一七四・一七五・一七六
印象主義の思想と藝術 一五六
印商貞卜文字考 一七六
印象派初期の美術 一四八
印象派の重鎭モネー 四
印象派の人々 七二
印章備考及附記 一七四
印章備正 一七四
印章要論 一七四・一七五・一七六
印象より表現へ 二三
印人傳 九八
院政時代の供養目錄 九九
印正附說 四九
韻石齋筆談 四八
印籍便覽 二〇一
印說（萬壽祺） 一〇五
印說（陳鍊） 一〇五
印斐說 九六
印典 九六
印度ガンダーラの美術 二八
印度敎建築集 九六
印度敎の美術 九六
印度窟院精華 九七
印度毬多朝以前の美術 九七
印度毬多朝の美術 九七
印度藝術總覽 九七
印度建築史 九七
印度建築と回敎建築との交涉 九六
印度行記 九六
印度國民性と藝術思想 九六
印度古代佛敎美術研究 九六
印度審美說 三三
印度彫刻集 九八
印度に於ける禮拜像の形式研究 一〇五
印度美術思想 九六
印度美術の主調と表現 九六
印度佛陀伽耶ノ菩提樹葉 三三
印度佛敎美術考 一一
印度モグール朝の美術 一四〇
印度模樣總覽 一三〇
印度旅行茶話 一一七
印判祕決集 一三・四〇
印譜考略 一三・一七四
印譜篇（書道全集） 一七四・一七六・一八〇
印譜辨妄竝辨妄餘言 一七四・一七六
印辨 一四・一四四
飲流齋說瓷 三五
隱綠軒題識 一七四・一七五・一七六
雨華抱一 六九
うかれきやうげん 二三
浮繪歌舞伎之圖 九八
浮繪新吉原仲之町之圖 九九
宇喜多一蕙筆花菖蒲 四九
宇喜多松菴筆宋畫摹寫 四八
浮舟仕舞扇 二〇一
浮世繪（師宣等畫） 九八・一〇〇
浮世繪（浮世繪社） 一〇五
浮世繪（田中喜作） 九六
浮世繪（藤懸靜也） 九六
浮世繪色刷繪手本 二八
浮世繪解說 九六
浮世繪鑑 九六
浮世繪畫集（衆精堂） 九六
浮世繪畫集（田中けい） 九六
浮世繪歌舞伎畫集 九六・二七
浮世繪師傳 九七
浮世繪師百家美人畫譜 九七
浮世繪師便覽 九七
浮世繪展覽會目錄 九七
浮世繪と插繪藝術 九六
浮世繪と廢頹派 九六
浮世繪と風景畫 九六
浮世繪と我が舞踊劇 三三
浮世繪に表はれたる風俗研究 九八
浮世繪に表はれたる風俗 一〇五
浮世繪年表 一〇・九七
浮世繪の印象 九六
浮世繪の概念 九六

殷虛書契菁華 一六四
殷虛書契待問編 一六四
殷虛文字待問編 一六四
殷虛文字類編 一六四
印經 一七五・一七六
殷契粹篇 一六四
印言 一七四・一七六
印刷局沿革錄 一五一
印刷局官制 一五一
印刷局五十年略史 一五一
印刷術 一五〇
印刷術及石版術 一五〇
印刷の志をり 一五一
印刷文化展覽會歷史的列品目錄 一五一
印刷文明史 一五一
印旨 一七四・一七五
因州池田侯爵家御藏品入札目錄 七
印述 一七四・一七六
印章 一七六
印章考 一七四・一七五・一七六
印章雜考 一七六
印章集說 一三・一七四・一七五・一七六
印象主義の思想と藝術 一五六
印商貞卜文字考 一七六
印象派初期の美術 一四八
印象派の重鎭モネー 四
印象派の人々 七二
印章備考及附記 一七四
印章備正 一七四
印學管見 一七六
印學集成 八〇
印畫修正仕上法 一四八
印畫の仕上 一四八
殷墟出土白色土器の研究 一四四
殷虛書契 一四四
殷虛書契考釋 一六四

ウ

禹域出土墨寶紀年表 一〇七
禹域出土墨寶書法源流考 一〇七
うひ學 一四六
ウイリアム・ブレイク キリアム・ブレーク彼の生涯と製作及びその思想 七二
上杉謙信畫像 八〇
上杉謙信願文考證 一七二
上杉鷹山畫像 八一
上田秋成書損短册 一三三
上野池之端櫻之景圖 九九
上野寛永寺ニ於ケル故フェノロサ氏追悼會寫眞 一〇五
雨華抱一 六九
うかれきやうげん 二三
浮繪歌舞伎之圖 九八
浮繪新吉原仲之町之圖 九九
宇喜多一蕙筆花菖蒲 四九
宇喜多松菴筆宋畫摹寫 四八
浮舟仕舞扇 二〇一
浮世繪（師宣等畫） 九八・一〇〇
浮世繪（浮世繪社） 一〇五
浮世繪（田中喜作） 九六
浮世繪（藤懸靜也） 九六
浮世繪色刷繪手本 二八
浮世繪解說 九六
浮世繪鑑 九六
浮世繪畫集（衆精堂） 九六
浮世繪畫集（田中けい） 九六
浮世繪歌舞伎畫集 九六・二七
浮世繪師傳 九七
浮世繪師百家美人畫譜 九七
浮世繪師便覽 九七
浮世繪展覽會目錄 九七
浮世繪と插繪藝術 九六
浮世繪と廢頹派 九六
浮世繪と風景畫 九六
浮世繪と我が舞踊劇 三三
ウキヨエ内史 九八
浮世繪に表はれたる風俗研究 一〇五
浮世繪年表 一〇・九七
浮世繪の印象 九六
浮世繪の概念 九六

浮世繪の三大揮畫家　六六
浮世繪の話　六六
浮世繪派畫集　六六
浮世繪版畫志　六六
浮世繪版畫史畫集　六六
うきよゑはん畫集　六六
浮世繪版畫集成　六六
浮世繪版畫の形狀及種類　六六
浮世繪備考　六七
浮世繪美人大首畫の研究　六六
浮世繪美人畫幕本　六六
浮世繪編年史　六七
浮世繪略史　九七・一〇〇
浮世繪類考　六七
浮世繪歷史展覽會品目　六七
浮世畫人傳　六七
浮世畫譜　九九
浮世續　一〇〇
浮世辻うらない　三三
ウクライナ大衆樂劇場の構築　一三一
有卦入万倍曾我　二〇五・二一三
宇治黃檗山什寶陳賢筆觀音圖　八一
宇治加賀掾の正本研究　九七
うしの年京大坂役者ともぐい評判并ニしよげいぶた　二一四
宇治橋斷碑　二〇・二七・二六五
うづまき　四
太秦牛祭畫卷　八一
太秦廣隆寺藏秦河勝木像　二三
越畫見聞　一四・七〇
越佐先賢墳墓誌　一五六
越人墨寫眞帖　五〇
繪傳殘缺　九〇
江戸大地震摺物三種　二九
江戸大地震道化歌　二八
江戸大地震當座見立三人生酔　二八
江戸大地震當時ノ一枚摺　三二
江戸現在廣益諸家人名錄　一〇・四六
江戸(洪水)方角付　三〇
江戸三十六城門畫帖　八八
江戸時代音樂通解　一八九
江戸時代上期・日本劇場史論　二二一
江戸時代初期東都劇場本質論　一六
江戸時代圖鑑　六六
江戸時代の繪畫　六六
江戸時代の工藝　二九
江戸芝居年代記　二〇五
江戸芝居年代記刪修　一二四
江戸じまん　九〇
江戸將軍錢形屏風圖　一三二
江戸城建築史料展覽會目錄　三〇
江戸城内曲輪之圖　一三〇・一三四
江戸城の保存　一三〇・一三四
江戸書肆和泉屋金右衞門引札　一五六
江都諸名家墓所一覽　一四二
江戸須々女表題　一〇・四六
江戸鑄工名譜　九四
江戸當時諸家人名錄　一八九・二〇六
畫と鳥　一〇〇・一〇一
江戸長唄略說　一〇〇・一〇一
江都二色　八二
江戸の建築　一三〇・一三四
江戸版畫集　九九
江戸美術展覽會々場光景　一〇五
江戸風俗浮世繪大鑑　六五・九九
江戸節根元集　一八九
江戸節根元由來記　一八九
江戸末期歌舞伎に現れた惡魔主義　二〇七
江戸末期の浮世繪　九六
江戸名所圖會畫稿　八一
江戸名所百人一首　一〇一
エトルスクの美術　一〇
繪の事　六四・六五・九九
江島辨天什空海ノ名アル掌ノ拓本　二一・六五
繪の旅　三八
繪葉書趣味　九四
繪葉書世界　九五
繪葉書帖　七八
繪表帶のかず〳〵　八一
繪文匣　三三
烏帽子岳より燒岳へ　二三四
繪本(逸題)　一〇一
繪本淺香山　九九・一〇一
繪本吾妻抉　一〇〇・一〇一
繪本吾妻の花　一〇〇・一〇一
繪本東わらは　六五・一〇一
繪本威武貴山　八一
繪本榮家種　六五・一〇一
繪本江戸繪簇屏風　一〇〇・一〇一
繪本江戸土産(西村重長)　一〇一
繪本江戸土産(安藤廣重)　一〇〇・一〇一
繪本江戸紫　一〇〇・一〇一
繪本艷哥仙　一〇一
繪本小倉錦　一〇〇・一〇一
繪本小倉山　一〇〇・一〇一
繪本御伽品鏡　一〇〇・一〇一
繪本御伽帳　九
繪本おどりつくし　三三
繪本家賀御伽　九九・一〇〇・一〇一
繪本鏡百首　九九・一〇一
繪本五種　一〇〇・一〇一
繪本子供あそび　一〇〇・一〇一
畫本古鳥圖賀比　一〇〇・一〇一
繪本時世粧　六四・六五・九九
繪本趣向盡　三八
繪本女中風俗艷鏡　九四
繪本隅田川兩岸一覽　六五
繪本青樓美人合　六五・一〇一
繪本續江戸土産　一〇四
繪本對歌實　六五・九九
繪本實能縷　一〇四
繪本旅の旭　一〇一
繪本玉かづら　一〇一
繪本徒然草　九九・一〇一
繪本當世淺井話　一〇〇・一〇一
繪本答話鑑　一〇〇・一〇一
繪本常盤草　六五・一〇一
繪本花葛籠　八一
繪本早滿奈飛　六五・一〇一

エ
烏石臨摹三昧起請文　二三
羽前宮内町發掘經筒蓋　二三・六五
羽前宮内町別所山田土經筒蓋　二三
雨窓漫筆　六六
歌合第六一部　一二九
右大臣實朝公日課觀音　二一
諺の友　二〇三
諺ひものに引直したる『竹取』について　六六
諺ひものゝ文章　二三三
諺文選語心註　六六
歌右衞門自傳　一八一
歌川豐國畫稿　二〇五
歌川豐春筆餝寶　一〇五
歌系圖　一八九
歌と草假名　一〇六
歌麿浮世繪集　一〇〇
歌麿と北齋　九七
歌麿の風景畫　六六
哥麿筆古代にしき盃壽五六　三〇・一〇〇
歌麿名畫集　一〇〇
歌物語について　二〇七
内野五郎三藏慶長版伊曾保物語　二四
内野五郎三藏天正版太平記　二四
拔書目錄竝卷頭　一五二
うちひも　一〇〇・一〇一
園扇繪づくし　一〇〇
美しい子供用毛絲編物集　一五二
美しき魂　八一
鬱崗齋法帖目錄　二四
孟鼎銘考釋　三三・六五
孟鼎銘抄　三三・五九
烏羽玉靈抄　二九
烏羽玉靈抄集　二一
烏碑考證　二〇三
烏の圖　三九
梅田雲濱筆松濤宛尺牘　四〇
梅田雲濱筆梁川星巖宛尺牘　八四
梅の花湯の記　一九七・二〇六
梅の春考　二〇九
『浦島』を作せし顚末　二六・一〇〇
『浦島』の寓意　一〇五
宇良乃笛多幾　三
雲煙過眼錄　三
雲煙過眼錄續集　三
雲煙所見略傳　三
雲烟帖　三〇
ウンエンドリツ(ユエ・メロディ)岡一極旋行　一〇
雲鶴帖　三
雲笈印範　二〇七
雲崗石窟　三
雲室隨筆　三
蘊眞堂法帖　四九
運命悲劇論　三
雲林石譜　三
永濯漫畫　八一
衞夫人飛白書　二四
英勇畫譜　一〇一
繪入淨瑠璃史　一八九
英領印度及蘭領印度ニ於ケル工藝品圖案調査報告　三九
楹聯彙編　三三
繪を配した圖案文字　四〇
江川坦庵書五更牖背滿祀霜　五〇
益公題跋　五二
板齋狩谷先生墓碣銘　六五
益州名畫錄　四六・五九・六三・七〇
驛鈴圖　三
驛路鈴圖　三〇
繪師草紙　三一・六八・九〇
埃及藝術圖解　一五
エジプトの美術(一氏義良)　四三
エジプトの美術(世界美術全集)　一〇
エジプトの文化と建築　三三
埃及美術史　四三
繪圖指南　九六
蝦夷喧辭辯　八五
蝦夷通手布利　八四
繪そらごと　六四・六五・九四
枝吉神陽筆瓊浦蕃客其姓陳　四九
越後伊夜比古社藏神代字　二七・六五
越後謙信小判　三
越後新發田溝口家御判集　一七
越後守顯時消息　三五

映畫王チヤツプリンその評傳と旅行記　三三
映畫概說　二四
映畫學入門　三三
映畫脚本の理論及び實際　三三
映畫脚本論　三三
映畫教育　三五
映畫教育便覽　三三
映畫經濟史　三三
映畫藝術(寺田寅彥)　三三
映畫藝術(森岩雄)　三三
映畫藝術と映畫作家　三三
映畫劇概論　三四
映畫劇精通　三三
映畫劇その心理學と美學　三三
映畫劇と演劇　三四
映畫國營論　三四
映畫國策に就て　三四
映畫製作論　三四
映畫と演藝　三一・三五
映畫年鑑　三四
映畫番組に關する調査　三四
映畫用語便覽　三四
鄙曲催馬樂今樣古代今樣譜　一八四
鄙曲抄　一八三・一八四
鄙曲相承次第　一八四
英國劇講話　二〇三
英國水彩畫展覽會記念圖錄　八七
榮山寺鐘銘　一五四
永字八法　一〇九・一一一
判記　三四
延慶三年在銘鎌倉比企ヶ谷發見板碑　三五・六五
延享板江戸圖　一七〇
衍極　一〇六
宴曲抄　二〇一
演藝逸史無線電話　二〇九
演藝協會の事につきて忍月居士に告ぐ　二九
演藝世界　三三
演劇　三三
演劇往來　二八
演劇界の未來　二九
演劇改良意見　二八
演劇改良論私考　二八
演劇改良論者の偏見に驚く　二八
演劇改良論駁議　二八
演劇學　三三
演劇外題要覽　三〇
演劇月報　三三
演劇刷新の依然として困難なる所以　二九
演劇史研究　二〇五
演劇社會學　二〇五
演劇場裏の詩人　二九
演劇史料としての我が國の芝居繪幷びに其圖表　二七
演劇新靡　二八
演劇新潮(小山内薫)　二八
演劇新潮(新潮社)　三三

演劇新派　三一
演劇中の實物　三九
演劇と青年教育　二〇四
演劇に於ける「實驗」を中心として見たる現代米國劇　三八
演劇の本質　三〇三
演劇博物館　三一
演劇博物館略誌　二〇六
演劇評論　三八
演劇論集　三八
演劇論叢　二八
緣山聚芳　一五
袁氏萩文金石錄　一九
遠州平田寺藏詔書　二五
延壽清話　一九
演出上より見たる花道の意義　二〇五
緣女塗り一札　三三
艷色京紅　九
艷中八仙の內琴高　一〇〇
圓通禪師遺墨　五一
延年の能と猿樂の能　九七・一〇六
圓滿院宸殿　一二五
圓滿井座法式　一九七・一九八
宴遊日記別錄について　二〇七
延曆寺古印　三一・一七
延曆寺古銅印　三一・一七
延曆四年古文書　二九
延曆六年曝涼帳　八
延曆十二年曝涼帳　八

オ

御家古狀揃　一二五
御家支流文明消息帖　一二六
御家流書法　一二五
老のたのしみ　二一〇
老の樂　二〇六
御鑄物師椎名氏　一四二
御鑄物師椎名氏由緒書　一四三
追分繪　一〇一
歐亞の咽喉　一三〇
應安四年藤原道建立寺銘　二七・二五
大井川越賞況の圖　三四
王維山水論　四六・六三・七四
大石內藏介書翰　三三
大石良雄自畫像並記　二六
大石良雄肖像版畫　二六
大石良雄の勘定帳　三三
大石良雄和歌　三〇
大分縣臼野村出土湖州鏡　三三
大分の石佛に就きて　二七
奥羽軍記繪卷　九〇
大歌所御歌　一二九
應永三十年八月在銘板碑　三〇・六五
應永三十五年在銘板碑　二五・六五
應永難波古圖　三〇
大江山の圖　六六・八一
大江山の並演に就いて　一八九
鷗外全集第一卷　三四
鷗外全集第三卷　二八
應化大士帖　八一
大川源兵衛が事　五九
大川端の夕立の圖　九
王羲之　五七・一〇八
王羲之行書斷碑　一七
王基斷碑　一三
王基斷碑　一六五
大阪と新しい藝術　二四
大阪難波村御場所座方穴藏之圖　一四四
大坂誹歌仙　六六・八一
大阪版飲食養生鑑　一四・六七
大阪版西鄉隆盛腹の內圖　六六・八一
大阪版妻女之服中圖　一四・六七
大阪版房事養生鑑　五〇
大阪訪碑錄　二
大阪落城圖　六
大阪落城當時の瓦版　八
大阪落城當時ノ讀賣　三三
大薩摩の代々　八九
大鹽平八郎施米の書付　一七
王氏書苑　三
汪氏珊瑚網書據　二三・六三
汪氏珊瑚網書纘　二三・五九
汪氏珊瑚網書法　二三・七四
王氏書苑　一〇七
王氏書畫苑　四六
奧州敵討口說　三
歐洲淨世繪書史　一〇七
歐洲演劇史　二〇六
歐洲學者の東方探檢　三七
歐洲近代建築の主潮　一三〇
歐洲近代の美術　一一
歐洲山水奇勝　四三
歐洲寫眞の旅　八一
歐洲巡遊記　一四八
歐洲都市の近代相　一三〇
歐洲に於ける理想都市案　三六
歐洲の劇場　二二九
翁松禪手札　一三三
王震筆額面　一三三
應瑞應震印譜　一〇・一七
大空武左衞門肖像　八一
鶯村書譜　八一
太田垣蓮月尼筆松　四九
大田蜀山人自筆反故　二五
大田蜀山人十五歲ノ詩稿　二六
大谷家（本派本願寺）舊御藏品入札目錄　七
大谷友右衞門舞臺姿之圖　九九
大谷廣次・嵐龍藏舞臺姿圖　九九
大谷廣次・中村助五郎松切之圖　九八
太田藤齋遺作品集　八八
王稚子二闕　一五九
王忠文祠記　一三三
大津繪　九六
大津街道の奴茶屋　三三
大塚博士還曆記念美學及藝

衙史研究　二・四二
大槻玄澤筆挹芳齋詩會五律　五〇
大槻如電藏蘭學階梯卷下六丁ノ版木（拓本）　二四
大槻金澤金山之圖　九〇
大津みやげ　一〇一
橫笛譜裏書　八三・八四
大ぬさ　八九
大場一眞齋筆崇德院天皇御製長歌　五〇
大場一眞齋筆源俊賴朝臣述懷長歌　五〇
大橋陶菴筆天鶩斯文　四九
大橋圖書館所藏圖按及び意匠に關する圖書目錄　二九
大橋訥菴筆人生如電光石火　四八
大原重德筆松下雙鶴　四九
王文成公書橋亭記　三三
歐米演劇史潮　二〇六
歐米各國美術工藝圖案ニ關スル報告　二九
歐米歌舞伎紀行　三〇
歐米現代の美術　二
歐米に於ける最近流行の陶器　一四四
歐米の浮世繪版畫　二・四二
歐米の博物館巡り　三六
歐米博物館の施設　三六
歐米美術館施設調査報告　二・三六
淡海槐堂筆蓮　四九
近江國蒲生郡安土總見寺圖　一三五
近江八景圖繪　二九
逢身八契の內お七吉三郎　一〇〇
鸚鵡石　二四
王右軍筆經　一三
王右軍游目帖　一三
歐陽率更書九成宮醴泉銘　一二四
王陽明遺像　一三
鋸くず　二四
岡倉天心全集　一四
小笠原家某像　八二
屋形光琳質物手形　二
岡田桑里印譜　四七・一七
岡田（冷泉）爲恭筆墨竹鴉　五〇
岡田正之本十七帖　二四
尾形流四大家畫譜　一七
尾形流百圖　九
尾形流略印譜　四九
恩荷奴金風　一三
恩荷能春風　二〇六
岡本黃石筆陶靖節古詩　一三
岡屋關白記　一四
岡山縣金石史　一三三
岡山梧堂碑銘　二五五
雄賀良能多奇　八四
御狩衣文樣　一四
西南雲晴朝東風　一四
お吉ちらし文　一五〇
沖繩縣寫眞帖　一四
荻生徂徠書簡　四九
奧田小三郎消息　二五
阿國歌舞伎から元祿劇迄　二〇六
於久能宇良々々　八五
奧乃手風俗　八五
於遇濃冬隱　八五
奧村政信畫譜　一三
奧村政信筆島臺　一三
小倉色紙　一四
小くら百首　一四
小倉百人一首　一四
小倉百人一首畫稿　八二
尾崎紅葉作長唄色直老木綠　二四・三二
尾崎紅葉絕筆俳句扇面　一四
尾崎紅葉俳句　五〇
尾崎紅葉筆俳句扇面　二七
小澤蘆菴筆道歌三首　一七
牡鹿の鳴風　一七
小鹿の鈴風　一七
おしゆん傳兵衞十七年忌　二三・二四
遲きくら　八四
御臺場內容圖　四九
織田信長安土之謎繪　一四
織田信長畫像　一三三
織田信長和睦の誓詞　二五五
小田原史蹟名勝寫眞誌　八四
オットー・ワグナー　一四〇
男山放生會圖錄　二〇六
見處女墓作歌　一五
をとり　一五〇
踊之著慕駒連　一四
尾上菊五郎自傳　八五・九〇
小野御幸繪卷　八四
小野のふるさと　二九
小野道風朝臣眞蹟　二七
御纏形萬女集　一〇四・一四一
をふちのまき　八五
オペラ史　一八二・一九二
御室御物實錄　六
於母池碑　三二・六五
思ひ出つるまゝ　六九
おもちや箱　八一
御役筌由緒書　一四七
親船太平記　三二・三七
小山田與清翁自筆斷片　三
小山田與清自筆見沼通船繪圖　二七
女形の前途と歌舞伎の前途　二九
女形の先行者　七三・七七
女形優待論　二六
和蘭陀船圖說　三三
オリエンタル・スタヂオ　三〇
織物圖案二種　三〇・四〇
織物圖案八種　一八一
オルガン奏法　一三五
オルブリッヒ全集　一三五
和蘭文字略考原稿並對譯語彙（寫眞）　八一
尾張芝居雀　二〇六
尾張豐島氏書寫細字音阿彌筆藝道心得書　三三
御糸花師二連木氏　三〇
御糸花師二連木氏由緒書　一五二
音樂界　一九六
音樂解剖學　一八二
音樂改良論　一八〇
音樂教育論　一八二・一九二
音樂教授の實際的指導　一八二
音樂藝術史　一八二
音樂研究　一九六
音樂原論　一八〇・一八一
音樂講義　七六
音樂史的のレコード蒐集　一九二
音樂新報　一九六
音樂心理學序說　一八一
音樂世界　一九六
音樂叢書　一八一
音樂通解　一八一
音樂と音樂家　一九二
音樂と繪畫　二三三
音樂と感化　一八一・二〇六
音樂讀本　一八一
音樂と其趣味　二三三
音樂と其背景　二三三
音樂と蓄音機　一九六
音樂と日本文學　一九五
音樂と文學　二三三
音樂の原理　一八一
音樂の心理學　一八一
音樂入門　一八一
音樂の話と唱歌集　一八一
音樂美學　一八一

音樂舞踊と宗教教育　一八一・一三二
音樂遊戲　一三二
音樂利害　一八一
音曲玉淵集　一九六
音曲ちやん〳〵征伐　一九五
音曲鼻毛抜　一八九
溫故雜帖　二〇
溫故雜帖目錄　二九
溫故抄　一八四
溫古藁彙　一八六
園城寺の繪畫　一四六
園城寺の國寶建築　九四
園城寺の彫像　一三三
音心理學　一八二・一九二
御曹司初寅詣　二〇五・二一三
音程の對數値及び其樂律上の應用　一九一
女歌舞伎　一九七・二〇六
女歌舞伎に關する古畫八種　二一七
女藝文三才圖會　八二
女消息文　一二五
音譜琵琶歌　一八九
陰陽家免狀　三三
音律通致章　一八四

カ

カーボン印畫法　四八
カール・ツアイス鏡玉撰擇法　四八
可庵武清畫稿　二六
嗨庵題跋　五二
海外藝術寫眞界事情　一四八
海外人物輯　八一
繪畫鑑賞の心理　五六
繪畫鑑賞法　五七
繪畫偶評　三四
海岳題跋　二五
海岳名言　一三・一〇六
繪畫講話　五七
繪畫寫眞の研究　一四八
繪畫寫眞複寫法　九五
繪畫清談　九五
開化千字文　一二五
繪畫叢誌　九五
繪畫叢誌插畫集　大
繪畫叢誌哲學論　五九
繪畫と其內容　四
繪畫と日本文學　九四
繪畫之菜　七四・八一
繪畫粉本　八
繪畫論　五九
概觀歐洲藝術史　四二
晦巖筆香畦廬處　四九
怪奇美の誕生　三六
回敎建築　一三〇・一三四
海度畫苑略　一四・七〇
海度畫苑略補遺　一四
何謂藝術　三六
外形と諸部百種　二六
懷月堂筆美人　一〇五
歌意考　五二
外國建築家略傳　一四八
外國條約訂結後の制札　八一
外國の舞踊劇と將來の振事　五六
カイザア解說　五七
厓山　三四
芥子園畫傳　一三・一〇六
芥子園翎毛花果譜　五七
繪事指蒙　一四八
懷紙書式　九五
繪事津梁　一二五
繪事發微　四六・五九
繪事餘言　一〇〇
海舟印譜　大
芥舟學畫編　五九
楷書千字文　四
改正孔方圖鑑　九四
會席畫譜　七四・八一
怪石贊　八
回想のゴツホ　五九
回想のセザンヌ　四二
懷竹抄　四九
懷德堂先賢墨迹　一三五
甲斐國祉寺寶庫目錄　一三・一三五
貝原益軒養生訓　五七
外蕃容貌圖畫　一三五
海豹島　一九一
懷米山房藏器目　二六
外邦織工渡來辨々　二六
蟹滿寺釋迦像考證　一三六
繪妙　七四
會約　三
海洋壽美論　三六
偕樂園記　一六六
海陸御固御役人附　三〇
海陸軍歌新集　一九五
畫引　一三・七四
嘉蔭簃藏器目　一五九
嘉永以前西洋輸入品及參考品　九
嘉永二年版新潟眞景　三〇
嘉永三年八月八日五穀大安寶ノ一枚摺　三〇
嘉永三年琉球聘使略　六
嘉永六年奉行所役付　一三五
嘉永七年付入置申一札之事　文書　一六
嘉永七年八月六日八代目團十郎辭世同繪圖　三〇・一一〇
嘉永年間の日露使節會見かへ歌鴈金之歌　三三
花押藪　一一七
華押譜　一一七
家屋寶渡古證文　一三五
家屋建築說　六
家屋雜考　一六六
家屋圖考抄　八二
畫界漫語　五七
雅樂及麿明圖書展覽目錄　一八四
雅樂解　一八四
雅樂曲調傳　一八三・一八四
畫學捷徑　六四・七四・七五
畫學淺說　一三・六四・七四
雅樂通解　一八四
雅樂と伎樂　五七
畫學南北辨　六四・七四
畫學祕訣　六四・七四
畫家競　六七
畫家知希錄　七〇
加賀藩の能樂　二〇〇
畫家偏評論　五六
鏡と劍と玉　一四二・一五四
鏡前二美人と小供　一〇〇
畫家落款印譜　一七九・一八〇
香川勝廣筆菊慈童之圖紙型　三二
畫鑒　五九・六四
畫眼　一三・七四
過眼餘筆　五二
柿右衛門と色鍋島　一四五
餓鬼草紙　八九・九〇
嘉吉二年六月九日付古文書　三三
書き直されたる人間生活史　一三九
柿本人丸像　三〇
歌經標式　一三・一三五
夏期旅行者寫生法　五七
雅琴名錄　一九二
鄂王遺印　二七
鄂王廟宋敕　二七
學畫問答華椿尺牘　七五

樂家錄　八五
樂經　九二
樂元語　九三
樂縣考　九三
樂考　一五・二六・三九
獲古圖錄　二二・四六・一〇九・一二一・一七四・一七五・一九六
學古篇　格古要論　四〇
窯齋藏器目　一五九
客座私祝　一七一
鶴山題跋　一三五
學山堂印存　一八〇
鶴山野學士詞案　一九
額字集　一一七
岳氏銅骾記　二五・七一
樂社大義　一九三
覺習條條　一三・三五・一九六・九八
學術及工藝寫眞　一四八
樂書　一九三
鶴城風雅集　五一
樂章類語抄　一四四
學書捷徑　四六・一〇九・二一
樂所補任　一八四
樂書目錄類纂　一八四・九三
樂書要錄　一九三
樂對　一九三
厨中美人競笹屋春日野之圖　九八
客廳指令及屆書綴　三一〇
樂調辨覽　一八三・二〇四
樂道雜記　一八三・二〇四
樂道纂解　八四
樂道修身論　八一
各藩發行の藩札　三四
岳飛奏議　二六・七一
岳飛ニ付スル詔書　一七一
岳飛之碑　一九三
樂部　一九三
樂譜集解　一九三
各宮妃殿下御合作君ケ代ノ和歌　二七
樂名記　八五
革命期の演劇と舞踊　二〇三・二三三
革命ロシヤの藝術　三五
樂屋圖會拾遺　二〇九
『赫映姫』について　三三
岳陽樓記　二三
學製　一〇・五六
樂血脈　一八三・一八五
神樂研究　一八五
神樂の研究　一八五
神樂要錄抄　一八三・一八五
神樂和琴祕譜　一八五
樂律義　一九三
樂律雜記　一八三・一九三
樂律集解　一〇四
隱笠節分話　四六・五九・六三・六四・七〇
畫纏　三一
掛緒纏形七種同寸法書　三一
歌劇のことども　八〇
歌劇の輸入　三一
過激派の宣傳列車　三六
畫訣　一一九
花月帖　三六
華原磬考證　三四
畫工印章辨玉集　四六・五七
畫巧潛覽　八四
華光梅譜　八一・九一
畫工便覽　二四
過去現在因果經　六九
かこわれの夜雨　一八一・九一
かさねの傳說　一四
笠雲雀　七五
風卷神社寶物劵　一八〇
華山印譜　三
華山翁刀寧游記　三三
華山畫談　七〇
華山畫譜　九〇
華山研究　一三・一五一
畫山水訣　一〇一
畫山水錄　四五・五九・六四
畫禪室隨筆　八三
華山尺牘　一三・一五一
華山先生筆肖像圖畫　二九
華山先生略傳　七五
畫贊常の山　七五
華山俳畫譜　一五五
畫史　八三
梶田半古筆鷄之圖　九九
鹿島家御藏品入札目錄　一四五
鹿島立御垂跡圖　二九
迦濕彌羅　一三〇
歌者葉記　一九三
畫鑒　一三・一四・七五
畫師友禪　一四六
河州高安薗光寺藏朝比奈三郎義秀書　二六
河州妙見寺物形浦山碑　三・一六六
書趣及詩味　五七
書主文從の代表的假名御傳記に就いての考察　九五
霞城畫論　五九
霞城習畫帖　八三
畫乘要略　二〇・六五・六七
畫說　二〇六
畫說（莫是龍）　二〇
何雪漁印本　三〇
畫箋　三三
畫筌　六七
畫禪　三三
歌僊畫卷　六九
我川寓賞編　一六六
畫山水訣　一六五
畫山水錄　一六五
畫山尺牘　一六五
我川書畫記　一六五
畫贊析覽　一〇二
畫錢譜　一三・五九
畫叢　二六
家藏江戶版畫和蘭繪　一五六
春日釣燈籠一覽　一五四
春日局畫像　八〇
春日局消息　三一
春日版經文斷片　三六
畫國讚文　一一九
和宮樣關東下向行列圖　二六
和宮親子內親王御書翰　三四
霞むつきほしかすむこまがた　八四
和磨學及作曲法　一八一・九一
嘉靖十二年敕書　二四
畫聖雪舟和磨法　六九
畫說（華翼綸）　一八一・九一
畫說（莫是龍）　一四
何雪漁印本　七五
畫箋　一八〇
畫筌　三
畫禪　三・六四・六五・七五
畫禪室隨筆　七〇
歌僊畫卷　九〇
我川寓賞編　一三・一五一
畫山水訣　一〇一
畫山水錄　四五・五九・六四
畫山尺牘　八三
我川書畫記　一三・一五一
畫贊常の山　二九
畫筌析覽　七五
畫錢譜　一五五
畫叢　八三
家藏江戶版畫和蘭繪　九九

畫像作者部類　八二
畫像圖本　九〇
畫像圖本拾遺　九〇
畫像石　二六・一七三
畫則　六四・六五・七五
畫則雜話　四六・六五・七五
片桐市正奉納ノ釣燈籠　二三・一四三
片桐且元鑄物師を招く書　拓本　八四
片桐貞俊肖像　八二
形の問題　三
畫談　七五
畫譚鶏肋　五七・六四・六五
畫壇の人人　七一
片身替萄紅錦　二〇一・二〇二
勝繪　八二・九〇
畫竹譜　七五
花竹幽趣の記　六四
賀知章草體孝經　一三三
花鳥畫譜　八二
花鳥山水細畫圖式　八三
花鳥粉本　八二
華椿尺牘　七五
活映　二三五
勝海舟書　二元
勝海舟筆山猿野鶴　四九
客觀的批評と印象的批評　三
樂器（集古十種）　八五
樂記　一九二
樂器製造記　八三・九三
樂器圖鑑　一八一・一九一
樂曲考　八四・一八五
樂曲製傳記　一八三・一八五
樂曲目錄　八四・一八五
樂穀論　三一・三二
樂器論　一八二・一九二
郭公之句アル古畫　二〇六
各國演劇史　一九三
羯鼓錄　二〇五
葛飾爲齋筆北齋肖像　一〇五
葛飾北齋　九七・九八
葛飾北齋傳　九八
葛飾北齋筆畫小切　二六・二〇二
葛飾北齋筆繪手紙　一〇五
葛飾北齋筆江戸全景　一〇五
葛飾北齋筆馬上鐘馗　一〇五
喝石調幽蘭　八二
合唱史　一九三
合戰圖　九〇
括蒼金石志補遺　一九八
勝手能雄弓　八四
活動寫眞劇の創作と撮影法　二三四
活動寫眞興行の實際的方面　二三四
活動寫眞とわが劇の過去　二二七
活動寫眞「フイルム」目錄　二三四
活動寫眞法　一四八
勝埜正道筆馬子才燕思亭記　一五〇
活版印刷自由自在　一五〇
葛城慈雲尊者書　一二九
桂文治肖像　二八
桂萬葉斷片　二〇三
和亭遺墨展覽會陳列目錄　二三
和亭印譜　一〇二
家庭音樂教育　一八三
家庭造花術全書　三一・三二
家庭のあみもの　一八二・一九二
家庭用兒童劇及びペーヂエント上演顚末　二〇六
家庭用兒童劇の地方巡回公演に際して　一〇五
家庭用竝びに學校用脚本　九七・九八
家庭畫　九八
花傳書逸文　二六・二〇二
花傳書の和州申樂風體論　一〇五
花傳書別紙口傳　一〇五
花傳書・物眞似の人體の順序について　一〇五
畫典通考　一九三
畫道一斑　九〇
畫道金剛杵　一五六
畫道朱拓　四六・五九・六四・六五
畫道傳授口訣　二五
過渡期に於ける住宅平面圖及び其の成形狀態の沿革的考究　一三〇・一三一
畫と鳥　四九
家內裝飾及家具篇（世界美術全集）　一三〇
金澤稱名寺古文書零殘　一三
金澤文庫本武議　一三一
假名消息　一三三
假名書法　一三一
假名散シ書圖案　三〇
『假名手本忠臣藏』の劇としての價値　二三〇
假名の速成　二一
河南石器時代之着色陶器　一四四
金子孫二郎筆五月四日齋藤監物宛尺牘　四八
狩野五家譜　四六・六五・六七・六八
狩野典信印譜　一〇・七三・一七八
狩野周信印譜　一〇・七三・一七八
狩野常信印譜　一〇・七三・一七八
狩野常正筆雪中美人　一〇五
狩野派大觀　六八
狩野元信の馬　三三
鹿子木孟郎畫集　八八
鹿子木孟郎畫伯小傳　八八
畫梅題跋　一三・七五
畫梅譜　七五
畫品（李鷹）　五九・六三
畫品（貼込帖）　九九
果譜（十竹齋）　五一
貨布（拓本）　三・六・三三
瓦譜（拓本）　一七〇
歌舞演劇講話　二〇六
歌舞演劇書追憶　二〇六
歌舞音樂略史　一八一・一九九・二〇六
歌舞音曲考說　一八一・一九七・二〇六
歌舞伎（小宮豐隆）　二〇三
歌舞伎（雜誌）　二三三
歌舞伎繪版畫集　六八・二一七
歌舞伎及び淨瑠璃の起源　二〇六
歌舞伎音樂の研究　一八九
歌舞伎概說　二〇三
歌舞伎畫證史話　二〇六
歌舞伎紀行　二三〇
『歌舞伎脚本傑作集』第三卷　緒言　二一九
歌舞伎狂言往來　二〇三
歌舞伎狂言細見　二〇四
歌舞伎狂言本解題　二〇五
歌舞伎劇以前の女形　二〇八
歌舞伎劇に於ける型の研究　二一三
歌舞伎劇に對する希望　二一九
歌舞伎劇の經濟史的考察　二三〇
歌舞伎劇の徹底的研究　二一九
歌舞伎劇の悩みと女形藝術　二〇五
歌舞伎劇の見方　二〇四
歌舞伎小唄番附盡　二一三
歌舞伎座合評より　二一九
歌舞伎雜俎　二一〇
歌舞伎雜談　二一三
歌舞伎始記評林　一八一
歌舞伎史上の元祿期　二〇七
歌舞伎芝居　二三〇
歌舞伎十八番の圖　二一七
歌舞伎圖說　九九・二一七
歌舞伎草帋繪卷　一〇一・二一七
歌舞伎叢說　二〇七
歌舞伎相續年表　二一〇
歌舞伎第六十一號を讀みて　二一九
歌舞伎通鑑　二〇六
歌舞伎年代記　二〇八
歌舞伎の追憶　二〇七
歌舞伎の風俗　二〇六
歌舞伎舞踊の研究　二〇六
歌舞伎名作一覽　一八四・一八五
歌舞雜議　一九三
樂府雜錄　一九三
樂府指迷　一九三
樂府小議　九〇
佳婦人例　一九七・一九八
歌舞傳腦記　一九三
樂府傳摩　三三
貨布・刀（拓本）　一八五
歌傑品目　六九
華布便覽　一四六
雅邦翁紀念號　六四・六五・七五
畫法綱領　六四・六五・七五
畫法彩色法　六四・六五・七五
畫法自在　七五
畫法小議　四六・六五・七五
畫法詳論　七五
雅邦神髓　八二
雅邦全集　八二
鎌倉一乘院正宗庵丁圖　三一
鎌倉圓覺寺宋版尙書裏張反故文書　三三
鎌倉鏡　三一
鎌倉古瓦譜（拓本）　一七〇
鎌倉時代及德川時代佛像　一九
鎌倉時代と創造的精神　六六
鎌倉時代の繪畫　六六
鎌倉時代の京都火災　三三
鎌倉時代の彫刻　一三七
鎌倉時代の美術　一一
鎌倉時代風俗畫　六六
鎌倉時代佛教史料史蹟　一五
鎌倉中期以後現代に至る草假名　一一六
髮を梳く山姥と金時　一〇三
髮を結ぶ二美人　一〇三
上方演劇史　二〇六
紙芝居に關する調査　二一〇
上下の起原及變遷　三七
上醍醐の國寶建築　三七・一三三
畫名流列傳　七〇
龜田鵬齋・大田蜀山人贊千壽大會圖　二四
龜田鵬齋書硯銘　二六
瓶・壺・皿・茶碗・香爐・置物及釜　四四
カメラ　一三五
假面譜　二〇一
畫論十則　二四
畫論傳受祕事口訣　四六・一〇九・一〇七・一〇八
觀鷺百譚　四六・一〇八・一〇九
觀鷺百譯批考　一四二・一三五
漢式鏡（後藤守一）　二二
漢式鏡（拓本）　一一
川越鎭守簸川神像　二八
「革財布」出典　二九
川路聖謨筆元是布衣革帶身　四九
『河竹默阿彌傳』序　二八
河內交野郡諸村掘地所得鈴圖　三
川端玉章　六九
川村清雄　七〇
觀阿彌研究　一九九
關羽書　一七
寰宇貞石圖　一六
關羽ノ印アル竹畫　三〇
寰宇訪碑錄　一六
寬永錢譜　一五五
寬永大錢　一〇三
寬永八年九月伊香保通拔禁制覺書　二
寬永二十年ノ敕符　二六
觀應二年在銘板碑　一五・六六
觀應三年在銘鍔口　三
勸學院客殿　七〇
勸學院殘瓦竝瓦當（拓本）　二六
觀樂筆談　一八六
漢畫指南　六四・六五・七五
漢畫石譜　七五
漢畫獨樂譜　七六
鑑畫必懷　六六
觀鷺百譚　四六・一〇九・一〇七・一〇八
觀氏家譜　四六・一〇八・一〇九
觀鷺百譯批考　一四二・一三五
漢季章譜　二二
賀茂眞淵翁加筆詠草　二九
加茂眞淵書式紙　二九
加茂眞淵廣澤の池之歌　二
蚊帳外文讀美人之圖　九九
蚊燒遣美人ニ若衆之圖　九九
畫友詩　三三
雅游漫錄　一二七
畫友錄　一一
歌謠の力　六六
唐織金地芭蕉葉蠟模樣　一五
唐織鳥獸畫縫衣裳　一〇三
唐織鳥獸盡縫取　一〇三
鳥丸光廣旅ノ詠歌　二〇六
鳥丸光廣筆手書和歌　二一〇
禍亂の防止策としての公共藝術の奬勵　三七
伽藍編（四天王寺）　三七・一三三
狩衣紺地蜀紅錦袷　一三五
狩谷棭齋手簡　一八六
酣古集　一八〇
酣古帖　五一
菅茶山筆一目千本にて觀山作品集　四九
寒山帚談　八三
寒山堂金石林時地攷　三・一〇六
觀氏家譜　一二五
漢式鏡（後藤守一）　一九九
漢式鏡（拓本）　一四二・一三五

加茂眞淵書式紙　二九
加茂眞淵廣澤の池之歌　二
蚊帳外文讀美人之圖　九九
蚊燒遣美人ニ若衆之圖　九九
畫友詩　三三
雅游漫錄　一二七
畫友錄　一一
歌謠の力　六六
唐織金地芭蕉葉蠟模樣　一五
唐織鳥獸畫縫衣裳　一〇三
唐織鳥獸盡縫取　一〇三
鳥丸光廣旅ノ詠歌　二〇六
鳥丸光廣筆手書和歌　二一〇
禍亂の防止策としての公共藝術の奬勵　三七
伽藍編（四天王寺）　三七・一三三
狩衣紺地蜀紅錦袷　一三五
狩谷棭齋手簡　一八六
酣古集　一八〇
酣古帖　五一
菅茶山筆一目千本にて觀山作品集　四九
寒山帚談　八三
寒山堂金石林時地攷　三・一〇六
觀氏家譜　一二五
漢式鏡（後藤守一）　一九九
漢式鏡（拓本）　一四二・一三五
鑑鏡の研究　一四二・一三五
漢魏六朝墓銘纂例　一六一
玩具を扱ひたる版畫　九七
顏君廟碑　一七一
漢溪書法通解　一一一
寒藥瓔綬　一〇
觀劇の目安　二一九
菅家三代紀略　五一
菅家所用象牙字指圖　三三
管絃音義　一八三・一八五
管絃記　一八五
管絃歌錄　一八三・一八五
翰香館法帖藏板目錄　二九
感光材料及藥品解說　一四七
菅公左遷の乘船面額　三三
菅公眞筆藥師琉璃光七佛本願功德經　一九
韓國建築調查報告　一三三
韓國寫眞帖　一五〇
觀古雜帖　一五
觀古集　一八〇

閒者軒帖考　一二五
甘鼎考古記　一四四
甘粛史前人種説略　一四四
感情移入説非難概括　三
感情移入美學に對する一つの批評　三
感情移入美學に就て　三
灌頂記　一二九
看松居　一三六
間情偶寄　一三二
鑑賞と鑑定乃仕方　一五三
感情の心理と美學　三
寛正四年九月二十八日付古文書　三三
顔眞卿書拓本　三九
顔眞卿法帖　一四四
觀心寺勘錄緣起資財帳　六
菅神眞蹟寫經　二四四
カンヂンスキーの藝術論　四
寛政元年御造營記　一三三
寛政享和を中心としての初代豐國　九七
寛政町内の申合　三三
寛政版記錄　一七七
觀世梅若兩家の確執　二〇〇
觀世音寺大鏡　一五・二六
觀世音寺資財帳　六
觀世音像　二九
漢石經　二四・一七二
漢石經儀禮　一六一
漢石經公羊　一六一
漢石經攷異　一六一
漢石經殘字論語徽子篇　二六・一七一
漢石經尚書　一六二
漢石經魯詩　一六二
漢石經論語　一六二
漢石例　一六一
觀石錄　二一
觀世黑雪の高野山入り　二〇〇
觀世小次郎元頼筆まつやの松の諧　二〇一
觀潮樓一夕話　三八
鑑定新書　一九九
觀世信光と其子孫　一九九
觀世四代史考　二〇〇
觀世流改訂謠本　二〇一
觀世流小鼓手　六〇・六四
鑒禪書適　七三
閑窓茶話　三一
元祖團十郎の懺悔　二一〇
漢代簡策文字附考證　六
健駄羅地方の建築　三一〇・一三四
觀智院客殿　一三五
感忠銘・同見取圖　三
觀潮樓一夕話　三七

享保十七年九月付篠田玉龍署名ノ名乗考證　二六
清川八郎筆狂猿愛古道　四八
玉雨堂書畫記　三三・三五
玉燕樓書法　一四・一七
玉海音樂部　一九三
玉眼入佛像說　二六
玉澗八景圖　八二
玉紀　二二・二六
玉几山房畫外錄　三三・六二
玉紀補　二二・二六
玉考　二六四
玉洲畫趣　六〇・六四・六五
玉章祕傳抄　一二
玉臺畫史　七二
玉臺書史　一〇八
曲附書　一九八
曲亭馬琴八犬傳原稿　二四
極東の三大藝術　四二・九四・二七
玉に對する古代亞細亞民族の先天的崇敬心に就ての考察　一六四
曲馬圖　九〇
曲阜聖廟大成殿寫眞　二七
魚山私鈔　一八五
魚山蘆芥集　一八五
魚拓六種　二七
御風樓詩文鈔　五二
御物釋迦牟尼佛誕生摩耶夫人像　二七
御物喪亂帖　二七
御物標地蓮花大文錦毬毬袋の裂地に就て　三六・一四六
清正爲山籠城中の書狀　三三
清水寺緣起　（八九・九一）
清水寺奉納守本尊義經自佛像銘　二六
清盛自筆の敎免狀　三三
清盛奉獻嚴島經卷　三三
御遊抄　一八三
御遊部類記　一八三・一八五
許六自像眞蹟　八二
儀禮釋宮　一三三
儀禮釋宮增註　一三三
儀禮石經校勘記　一六二
吉良上野介書狀　三二
切支丹宗信徒の所刑　三二
希臘劇・沙翁劇・近代劇　二四
希臘建築　二二五
ギリシヤ建築と朝鮮建築、特に柱について　一三三
希臘古代の演劇に就いて　二六
希臘車輿描寫形式の東漸　二・四二
希臘初期の美術　一〇
ギリシヤの藝術　二六
希臘の美術（世界美術全集）　一〇
ギリシヤの美術（アルス美術叢書）　四二
ギリシア美術概觀　四二
希臘旅行茶話　二〇
基督敎劇　二七
桐竹紋十郎手記　二〇九
桐ニ鳳凰ノ珍金彫鞍ノ銘　三三
桐野利秋筆古之君子無友則　四九
桐生常廟所藏目次　（四六・一〇九・一一）
麒麟抄　一一
麒麟抄增補　一一
切鏡　一四六
裁鑑　一四一・一四六
倚廬殿御學問所圖　一四六
勤王志士伴林光平の布告文　二一七
勤王諸士遺墨帖　一四三
金蘆琳琅　一四三
琴學八則　一四三
近家抄　一六二
琴歌譜　二
近畿地方特別保護建造物表　一三三
近畿能樂記　一九九
金玉瑣碎　一四二
金玉積傳集　一四一・一四六
金玉積傳集兼明親王諸額書　四六・一〇九・一一
次第　四六・一〇九・一一
金玉積傳集諸額次第　一九三・一九四
琴曲譜錄　一四六
金銀貨幣圖　一四六
金銀圖錄　一四六
金銀圖錄續編　一四六
金言古狀揃武雄鑒　一四六
金工鑑定祕訣　二
今古雅俗石亭畫談　一四六
今古參考南水漫遊　（一九〇・二〇五・二三）
近古名流手蹟　二一七
琴史　一九四
金時代鐘銘　二七・七二
金時代雙魚鏡　二六
琴書　一九四
金人に就て　一二六
近世逸人畫史　六五・六六
琴清英　一九四
近世演劇考說　二〇六
近世演劇雜考　二〇六
近世演劇史論　二〇六
近世繪畫史　六六
近世畫家論　五七
近世畫史　六六
近世畸人傳　四七・六五
琴聲經緯　一九四
近世藝園年表　四七
近世劇壇史（歌舞伎座篇）　二〇七
琴聲十六法　一九四
近世叢語　六五・六六
近世泰西風景名畫集　八七
近世哲學上の美的自律性　三
錦政堂版本魚講番附　三三
近世錦繪世相史　九九
近世日本演劇史　二〇七
近世日本劇場復原圖考　二一
近世ノ印刷術記事　三三
近世美學　一
近世美學講話　一
近世美學史　一
近世美術史（板垣鷹穗）　四二
近世美術史（小川銀次郎）　四二
近世美術に於ける樣式發展の問題　一四四
近世武家時代の建築　一三三
近世邦樂年表　一九〇
近世名家自筆歌帖　一二七
近世名家手簡　四五・五七・六四・六五
近世名家書畫談　六六
近世名匠談　一二六
金石彙纂　一三五
金石遺文　一三五
金石遺文別錄　一四六
金石彙目分編　一四六
金石苑　一四六
金石記　一〇・一三五
金石契　一四六
金石古文　一四六
金石索　一四六
金石三例　一四六
金石稱例　一四六
金石圖　一四六
金石萃編　一四六
金石萃編補目　一四六
金石綜例　一四六
金石大字典　一四六
金石揚本考　一三五
金石併用時代の美術　二
金石文字記　一四六
金石文字辨異　一四六
金石文字墨帖一覽　一三五
金石要例　六二
金石流光　一三五
金石例　一六二
金石例補　一六二
金石錄　一四六
金石錄補　一四六
金石錄補續跋　一四六
琴笙　一三・一九四
琴笙圖式　一九四
巾箱畫譜　八三
金粟詞話　三
金粟箋說　一三・一五四
近代演劇の理論と實際　二〇四
近代繪畫史論　六七
近代畫家論　五七
近代和聲論　一八一
近代歌謠史略　一九〇
近代歌謠の研究　一九〇
近代藝術論序說　四
近代劇研究　二〇四
近代劇十二講　二〇四
近代建築樣式概觀　三三
近代ドイツ音樂　（八一・九一）
近代の陶磁器と窯業　四四
近代美術史潮論　四三
近代美術史に於ける「ルネサンス」の概觀　四二
近代美術十二講　四
近代美術の諸問題　一四・一五
近代舞踊史論　二三三
禁中御寶船圖　二六
禁中樣小御所利休茶湯覺書　一三三
欽定西清古鑑　二六〇
禁廷年中行事　九一
欽定武英殿聚珍版程式　一五一
欽定英殿聚珍版程式　一九八
金島集　二一四
金之揮　二一四
金平本高名物語標題插繪　一四
金平本挿畫標本　三三
錦譜　一四〇
琴譜　一九四
金譜續編　一五五
金龍山淺草千本櫻　一〇二
琴歷　一九四

ク

喰競見立角力・生類ノ名ニヨル物見立　二四
寓意編　（一三・一五）
空海畫像　八〇
空海詩帖　一三三
空海鼠心經　一九
空海筆いろは　二六
空中映畫目錄　二三四
苦瓜和尙畫語錄　三・二六
九鬼男爵日本美術論　三五
草雙紙・洒落本の芝居趣味　二〇七
日柳燕石筆戊辰櫛月宿小郡驛記木戸氏話　二三三
櫛を持つ美人　二六
鯨突哥　一三三
葛稚　二六〇
楠正成金剛山城居問壁書　九一
楠正成書　一五一
楠木正成の書翰　一九八
楠正成筆倭歌三首　二一四
楠正行起請文　二一四
楠正行書　三三
楠正行和歌　一四〇
楠正和歌　一九四
九世團十郎　一五五
九世團十郎・五世菊五郎　一〇二
曲舞考　一〇二
曲舞沈疑　一九四
九谷陶工傳　一五
九谷陶磁史鑑　四
百濟觀音　八八
百濟時代圖譜　五三・一七七
下リ八島上リ八島の全貌　一三六
宮内省ニテ用ユル叡覽用紙　一八三
國貞筆艸草紙下繪　三一・一〇三
國芳版畫　二八
君臺觀印譜　八三
君臺觀左右帳記　三三
軍團大毅領一千人圖　四二・七二
慶雲二年枡銘　一六六
藝苑雜稿　一九一
藝苑屆言　四九
藝苑巡禮　二〇五・二一三
藝苑心賞　四四〇
藝苑叢書　八四
藝苑名流系譜　二三三
慶應二年十一月九日江戸大火本調べ圖　二四
慶應三年版萬國新聞　二一四
慶應四年五月出火場所付　一四
藝界きくまゝの記　三〇
慶會樓全圖　一三五
藝鑑　二一一
京畿金石攷　一九六
景敎碑文紀事攷正　一六二
景敎碑文研究　一六二
溪齋英泉　九六
谿山臥游錄　一三・一七七
溪山圖卷　九一
繼志園記　一六六
惠慈孀人墓銘　一六六
藝州嚴島圖會　一九六
閨秀畫家經歷談　六六
藝術一般　三
藝術概論　一四
藝術學　一四
藝術學研究　一三五
藝術學汎論　一四
藝術學は學として可能であ

金石文字辨異　一四六
金石文字墨帖一覽　一三五
金石要例　六二
金石流光　一三五
金石例　一六二
金石例補　一六二
金石錄　一四六
金石錄補　一四六
金石錄補續跋　一四六
琴笙　一三・一九四
琴笙圖式　一九四
巾箱畫譜　八三
金粟詞話　三
金粟箋說　一三・一五四
近代演劇の理論と實際　二〇四
近代繪畫史論　六七
近代畫家論　五七
近代和聲論　一八一
近代歌謠史略　一九〇
近代歌謠の研究　一九〇
近代藝術論序說　四
近代劇研究　二〇四
近代劇十二講　二〇四
近代建築樣式概觀　三三
近代ドイツ音樂　（八一・九一）
近代の陶磁器と窯業　四四
近代美術史潮論　四三
近代美術史に於ける「ルネサンス」の概觀　四二
近代美術十二講　四
近代美術の諸問題　一四・一五
近代舞踊史論　二三三
禁中御寶船圖　二六
禁中樣小御所利休茶湯覺書　一三三
欽定西清古鑑　二六〇
禁廷年中行事　九一
欽定武英殿聚珍版程式　一五一
欽定英殿聚珍版程式　一九八
金島集　二一四
金之揮　二一四
金平本高名物語標題插繪　一四
金平本挿畫標本　三三
錦譜　一四〇
琴譜　一九四
金譜續編　一五五
金龍山淺草千本櫻　一〇二
琴歷　一九四

ク

喰競見立角力・生類ノ名ニヨル物見立　二四
寓意編　（一三・一五）
空海畫像　八〇
空海詩帖　一三三
空海鼠心經　一九
空海筆いろは　二六
空中映畫目錄　二三四
苦瓜和尙畫語錄　三・二六
九鬼男爵日本美術論　三五
草雙紙・洒落本の芝居趣味　二〇七
日柳燕石筆戊辰櫛月宿小郡驛記木戸氏話　二三三
櫛を持つ美人　二六
鯨突哥　一三三
葛稚　二六〇
楠正成金剛山城居問壁書　九一
楠正成書　一五一
楠正成の書翰　一九八
楠木正成筆倭歌三首　二一四
楠正行起請文　二一四
楠正行書　三三
楠正行和歌　一四〇
楠正和歌　一九四
九世團十郎　一五五
九世團十郎・五世菊五郎　一〇二
曲舞考　一〇二
曲舞沈疑　一九四
九谷陶工傳　一五
九谷陶磁史鑑　四
百濟觀音　八八
百濟時代圖譜　五三・一七七
下リ八島上リ八島の全貌　一三六
宮内省ニテ用ユル叡覽用紙　一八三
國貞筆艸草紙下繪　三一・一〇三
國芳版畫　二八
君臺觀印譜　八三
君臺觀左右帳記　三三
軍團大毅領一千人圖　四二・七二
久保扶桑墓碑銘　一六六
熊谷定男作曲集　一九一
熊谷直好筆題竹亭　四九
熊野山開帳　二〇五・二一三
熊野新宮神寶文樣等　四四〇
來目路乃橋　八四
久米舞考　二三三
久米舞考證　一八四・一八五
「雲」と「辯明」と「饗宴」と暗い芝居對明るい芝居　二一四
クライスの美學　一
鞍ノ拓本　三三
グラビヤ印畫法　一四八
グランド將軍來朝と犬追物　三三
栗原柳庵摹寫繪卷殘缺　三一・九一
峒嶸碑　一七一
車の中　四一
久留米彫畫家傳　一五
グローセ「藝術の始源」序文　四
黑田清輝作品全集　八八
群印寶鑑　二〇五
薰窠軒　一七
群書類從管絃部　一三六
君臺官印　八八
君臺觀印譜　三三
君臺觀左右帳記　四二・七二
軍團大毅領一千人圖　二五

るか　三五
藝術家と藝人　三五
藝術家の藝術論　四
藝術教育論　三五
藝術講話　四
藝術雜話　三五
藝術史の課題　四二
藝術社會學　四
藝術社會學序說　五
藝術社會學の諸問題　四八
藝術寫眞總論（中島謙吉）　一四八
藝術寫眞總論（森一兵）　一四八
藝術寫眞總論（福原信三）　一四八
藝術寫眞と構圖　一四八
藝術寫眞のうつし方　一四八
藝術上に所謂歷史的といふ語の眞義如何　二三〇
藝術上の眞　三
藝術資料刊行會叢書　六五・八八
藝術史は如何にして學として可能なるか　三
「藝術創作の心理」序文　三
藝術叢話　三八・三九
藝術哲學（テエヌ）　五
藝術哲學（植田壽藏）　五
藝術哲學としての美學　三
藝術殿　四一・三一
藝術と家庭　二〇四
藝術ト家庭ト社會　二〇四
藝術としての神樂の研究　一八五
藝術と社會　二〇四
藝術と社會生活　五
藝術と宗教　四
藝術と民育　三五
藝術と唯物史觀　四
藝術に於ける個性の表現と客觀的價値　五
藝術に對するフリーチェの見解　四
藝術之起源　三八
藝術の始源　五
藝術のための希望と不安　五
藝術の分析　五
藝術の本質（伊勢專一郎）　三五
藝術の本質（金子馬治）　五
藝術の本質に就て　三
藝術の理解　三
藝術批評　三
藝術民俗學研究　三
藝術樣式の歷史的把握　三五
藝術與現實　三六
藝術與社會　三六
藝術論（大塚保治）　二
藝術論（金子馬治）　五
藝術論（藏原惟人）　五
藝術論（三枝博音編）　三五
藝術論（フイードレル）　五
藝術論講話　五
藝術論の種々形象藝術之要諦　三
傾城王昭君　二〇四
けいせい筑波山　五
けいせい夫戀機　三五
傾情一張弓　三五
傾城佛の原の三の後日「三階藏」　五
傾城三鱗形　四
鷄舌樓雛鶴　四
鷄舌樓雛鶴之圖　四
溪川金石記　五
敬叟摘錄　五
慶長三年天草耶蘇敎會版落葉集　五
慶長十七年鑄物師名越在銘ノ拓本　三
慶長十九年藥師院實祐記　八
慶長年間江戶圖等　三
京兆府學新移石經記　三
景德鎭陶錄　三
毛糸帖　三
競馬　三六
輕筆鳥羽車　三六
經文雙鉤本　三六
藝文類聚樂部　六
啓明會創立十年記念講演集　三五
啓明會創立十年記念展覽會圖錄　五
藝蘭記　五
藝林姓名捷覽　三
藝林蒙求　五・三一
化粧之圖　一〇二
懸想文　三五
月刊樂譜　九六
月刊ライカ　五三
月景撮影法　四七
月耕畫鑑　八三
月照筆竹榭有嘉色　四九
結知識碑　二〇・一六六
獃盡縫箔　一〇一
ゲルハルト・ハウプトマン　二九
建安十五年在銘硯　二
賢外集　二
兼葭堂遺物祁陽石硯屏　二七
兼葭堂藏尺牘　三
元畫錄　七
元龜三年鹿島大神宮符　三三
建久八年在銘拓本　二
建言書　六四
玄々堂銅板畫帖　八八・一五一
現行映畫興行と敎育との關係に關する調査概要　二三四
元寇畫鑑　八三
現行各流劇曲考　二〇〇
現故漢畫名家集鑒　六八
鈴山堂書畫記　一三・一五四
硯史　一三・一五四
玄耳庵支那叢書文字・書道　一〇六
元治元年江戶大火燒場方角付　二七
源氏後集餘情　一〇一
源氏五十四帖繪卷　一〇一
鷄肋雜乘　二三
鷄肋帖　二三
ケーベル博士論文集（獨文）　四
劇　二六・二三一
劇を見て俗に還る　二三
劇界珍話　二三
劇作家への注意　四
劇場音曲の話　一九〇
劇場改良法　二九
劇場史概說　二一
劇場新話　一五
劇場の大き　二九
劇場振附及び舞踊師系譜　二三
劇場漫錄　二〇四
擊壤餘遊　一七
劇壇の現在及び未來　二九
劇壇の最近十年　二九
劇としての罪と罰と　二九
劇と上代文學　二〇七
劇と評論　三一
劇と舞臺面との調和　二九
劇と文學　二九
劇に關する回想　二〇・二
劇に關する論說　二九
劇品劇評　二九
華嚴絲起　八八・八九・九一
華嚴五十五處繪卷　八九・九一
華嚴祖師繪傳　二三〇
戲財錄　四七
戲作者略傳　四七
源氏五十四帖投扇曲點式圖繪　二八
原史時代の美術　二
元時代の美術　三五
現實と藝術　二四
元治二乙丑御歲例番附　二四
元治年間の京都警護圖　二四
源氏物語繪卷　九一
源氏物語繪卷　八九・九一
原始文樣集　一四〇
拳春閣高麗燒寫眞帖　一四四
現象學派の美學　一
拳勝負一札　三五
源氏樣摸圖　八三
玄抄類摘　二一
硏精畫誌　九五
元政詩歌　二一
賢聖障子名臣冠服考證　九四
賢聖之圖　八三
硏精美術　九五
硯箋　五四
原泉帖　二五
現像及定着法一般　一四七
建造物及室內の撮影法　一四七
現存朝鮮小活字使用試刷冊　二四
書治要斷片　三五・二四
現代映畫藝術の理論的展望　三五・二四
現代演劇の展望　三五・二四
現代演劇論　二三〇
現代オランダ建築　一三
現代音樂概觀　一八
現代畫集　七八
元代畫塑記　六七・二七
現代藝術概論　五
現代藝術の展望　三六
現代藝術評論集　三六
現代建築に表れたる日本趣味について　一三
現代寫眞藝術展望　三六・一四八
獻大小王眞跡敍書　三〇
現代大家新作畫集　七八
現代都市に於ける航空港の諸問題　一三
現代の劇場　三二
現代の支那劇　二〇四
現代の日本畫　五七
現代の日本建築界　三六・一三
現代の美學　一
現代の美學思潮　一
現代の美術（世界美術全集）　一二
現代の美術（シュミツト）　五
現代美學の諸問題　一
現代美學の問題　一
現代美學問題　一
現代美術思潮（兒島喜久雄）　五
現代美術思潮（村山知義）　五
現代文藝思潮の一端　二〇六
現代文明問題の觀察　五一
現代名士墨跡　一六
現代ロシア音樂　一八
硯譜（李之彥）　五四
硯譜（蘇易簡）　五四
硯譜（沈仕）　五四
硯譜（高孟彪）　九一
建保職人歌合　一三五
元豐題跋　三六
建保六年八月中殿和謌御會繪詞　九一
硯墨新語　五四
元明書畫考　四七
建武元年在銘下總猿島五霞村發見板碑　二五・一六六
建武二年在銘掛佛　二一・一七〇
建武三年正月廿日付正成書狀　三〇
顯無邊佛土功德經　三一
建武四年九月二十七日付足利尊氏文書　二六
元明天皇那富山御陵碑　二七・一六六
獻物出用帳　八
兼吏曹判書正文金公墓表陰記　一二四
乾隆庚申沈芳撰岳廟之詞外　三〇
硯林　五四・二六
硯林印款　一三・一七四
硯林拾遺　一三・一五四
硯錄　一三・一五四
元祿歌舞伎から次の時代へ　二〇六
元祿歌舞伎小唄番附盡　二一二
元祿歌舞伎と宇治加賀掾の淨瑠璃　二〇七
元祿期歌舞伎劇の音樂に就て　二〇五
元祿期の世話狂言に就て　二〇五
元祿劇以前　二〇五
元祿劇概說　二〇五
元祿五年十二月二十一日付基時筆蹟　三三
元祿古版畫集英　九九
元祿頃ノ遊女ノ文　二四
元祿時代の日本地圖　三三
元祿風花見踊　九〇

コ

梧菴筆元治元年七月天王山慘狀之圖　四九
小伊勢屋おちゑ　一〇一
古印考略　一五四・一七五・一九六
五音の能の心持の事　一九七
古印屏風　一八〇
排灑集　八三
弘安六年在銘板碑　二五・二六六
弘安九年古文書　三三
弘安九年十一月八日付古文書　三三
弘安九年度牒所捺印　三三
弘安催馬樂抄　一八七
光雲懷古談　一七七
廣益諸家人名錄　一〇・四六
光悅　七〇
光悅好寫四方盆　二六

光悦消息名　一九七
光悦派書集　一九七
光悦派三名家集　一九七
後越碑銘集　一九六
光學に關する表及公式　一四八
弘化三年利根川大洪水圖　二七
弘化四年三月廿四日變災當時ノ瓦版　三〇
弘化四年信越大地震繪圖　三一
弘化五年笏澄橋御門内ニテ勘進能興行場全圖　二八
弘化年間諸國長者鑑　三三
紅霞山房印賞　一九八
後書品錄　二〇
後書錄　一四・一四六・二三
廣書錄　二三
皇漢金石文字墨帖一覽　一三五
江漢西遊日記　八三
後觀石錄　一三
江關筆談　一八六
後期印象派　三七
後期印象派の美術　一二
康熙帝臨書蘭亭帖　二五・三一・三三
廣義に謂ふ演劇の定義并びに芝居錦繪の分類　三一七
後期文藝協會興行映畫調査　三一四
高勾麗好太王碑　一六六
高勾麗好太王墓碑文　一七七
高勾麗時代古蹟圖譜　一八
高勾麗時代の美術　一二
高勾麗碑考　一五七
孝經　一三三
孝經印譜　一七八
工藝學概論　五・一三八
工藝圖案法講義　一四〇
工藝叢話　一三八
工藝百圖　三七
工藝品意匠之沿革　一四〇
工藝篇(世界美術全集)　一四八
黃景昉書扇面形　一一
繪繪繡繪爽繪考　三一
光源院殿義輝公御書　一四六
孝謙皇帝御宇云々拓本複製　三三
光賢書　一九七
恒軒所見所藏古金錄　二九
孝謙天皇宸翰封戸敕書　一四三・二〇
孝謙天皇宸翰外諸兄・仲麿等筆蹟　三〇
孝謙天皇施樂院許可證　三三
考古學上より觀たる上代日鮮の關係　三三
考古畫譜　一四二・一五五
皇國史展覽會圖錄　六三
廣谷書帖　一五五
好古雜抄　一三三
考古雜圖　一五
好古小錄　一六
考古圖纂　四〇・五二・一五三
考古圖集　一九
甲骨學　一八
甲骨書錄解題　二
甲骨年表　一五七
甲骨文編　一三三
甲骨文字理惑　一七八
好古堂家藏書畫記　五・一三八
好古日錄　一四〇
好古文華帖　一三八
好古類纂　一四〇
耕筰樂話　四五・四七・一三二・一三八・一五三
高山寺本冥報記卷上　一九五
江氏音樂敘錄　三
公私古印譜　一四六
孔子贊印　一四八
口嗜小史　一四八
弘治二年正月二十一日付古文書　一四〇
孔子の像に就いて　一四〇
侯爵母堂大隈綾子刀自墓誌　一三三
紅朮軒紫泥法定本　一六
浩授奉政大夫賞食五品俸南書房行走特謚忠愍王公墓志銘　一三三
絳帖　一三三
光淨院客殿　一三
江上印集　二四
康正二年上宮王院觀音講枡銘　二〇・一三・一六六
黃漳浦五月江濤送遠人圖册　一三三
香亭雅談　六八
皇帝之寶　一〇・二九
考陶異說　三五
弘道館記　一四八
檮藤子圖　三一・一六六
高等女子習字帖　一五
高等女子文かきふり　一六
廣德寺門　一三三
皇都書畫人名錄　一四七
弘仁時代の美術　一四八
弘仁時代・藤原時代佛像　一一
弘仁二年官物勘錄　一〇八
江寧金石待訪目　一四六
河野鐵兜筆芳野懷古　一四四
考槃餘事　一四九
校碑隨筆　一四四
興福寺大鏡　一六・一九・二九
興福寺伽藍緣起　一三三
興福寺勸禪堂鐘銘　一三三
興福寺諸堂緣起　一三・二九・一五五・一六六
興福寺東金堂記　一三三
興福寺銅燈臺銘　一六・一六六
興福寺濫觴記　一三三
高美蓉先生墓銘　一六・一六六
高辨書狀　一八六
弘法大師いろは　一三
弘法大師七祖贊　一四四
弘法大師請來目錄拔書外八種　一三〇
弘法大師書金剛般若經解題　一三三
皇朝名畫拾彙　六八
香亭雅談　一〇・二九
皇帝之寶　一三五
考陶異說　一四五
弘道館記　三一・一六六
檮藤子圖　二八
高等女子習字帖　一三五
高等女子文かきふり　一六
廣德寺門　一三三
皇都書畫人名錄　四七
弘仁時代の美術　一一
弘仁時代・藤原時代佛像　一九
弘仁二年官物勘錄　八
江寧金石待訪目　一五八
河野鐵兜筆芳野懷古　四九
考槃餘事　四〇
校碑隨筆　一六三
興福寺大鏡　一六・一九・二九
興福寺伽藍緣起　一三三
興福寺勸禪堂鐘銘　一三・二九・一五五・一六六
興福寺諸堂緣起　一三三
興福寺東金堂記　一三八
興福寺銅燈臺銘　一六・一六六
興福寺濫觴記　一三三
高美蓉先生墓銘　一六・一六六
高辨書狀　一八六
弘法大師いろは　一三
弘法大師七祖贊　一四四
弘法大師請來目錄拔書外八種　一三〇
弘法大師書金剛般若經解題　一三三
皇朝名畫拾彙　六八
香亭雅談　一〇・二九
皇帝之寶　一三五
考陶異說　一四五
弘道館記　一四八
檮藤子圖　一四八
高等女子習字帖　一三五
高等女子文かきふり　一六
廣德寺門　一三三
皇都書畫人名錄　四七
弘仁時代の美術　一一
弘仁時代・藤原時代佛像　一九
弘仁二年官物勘錄　八
江寧金石待訪目　一五八
河野鐵兜筆芳野懷古　四九
考槃餘事　四〇
校碑隨筆　一六三
興福寺大鏡　一六・一九・二九
興福寺伽藍緣起　一三三
興福寺勸禪堂鐘銘　一三・二九・一五五・一六六
興福寺諸堂緣起　一三三
興福寺東金堂記　一三八
興福寺銅燈臺銘　一六・一六六
興福寺濫觴記　一三三
高美蓉先生墓銘　一六・一六六
高辨書狀　一八六
弘法大師いろは　一三
弘法大師七祖贊　一四四
弘法大師請來目錄拔書外八種　一三〇
弘法大師書金剛般若經解題　一三三

草稿　三一
弘法大師書流系圖　四六・一〇八・一〇九
弘法大師眞蹟　二九
弘法大師眞蹟執筆使筆法　二一
弘法大師眞筆　三三
弘法大師像　一三五
弘法大師の手帖　三三
弘法大師筆金剛般若經解題　二九
稿本日本帝國美術略史　四三・四四・四四・一三・七一
皇明吳郡丹青志　八三
高名集　一三六
孔明陣太鼓　八〇
孝明天皇宸影　三三
孝明天皇の御禮服　一五七
高名閑人東京古跡誌　一六七
合纂法帖　一六七
高野山阿彌陀二十五菩薩來迎圖　九四
高野山奥院石塔誌　一五七
高野山金石圖說　一五四
高野山丹生社舞裝束　一四〇
高野山の石塔文學　一五七
高野大師行狀圖畫　九一
高野大師三體心經　二一
高野大師眞蹟書訣　二一
高野帝辰諭阿難四事經經筐　二三五
紅葉遺墨百人一首　二一九
紅葉七福神見立揷形同和歌　三〇
合用文籍品目　四六・一〇七・一〇九
高麗國大鑑國師之碑銘　二一七
高麗時代古蹟圖譜　一八
高麗時代の美術　一二
高麗版經片　一六
高麗版古摺父子合集經　一六
高麗碑側古墳ヨリ出タル古瓦　一六
廣隆寺資財交替實錄帳　七
興隆寺版妙法蓮華經　一六
貢龍圖卷　九一
コールユンブンゲン解說　一八一
光琳扇面　八三
光琳筆寒山拾得圖　三〇
紅樓夢圖詠　六五・八三
鴻臚館瓦　一八
幸若舞曲　一九七・二〇四・二〇六
幸若舞曲研究　二〇四・二〇七
幸若舞の研究　二〇三
幸若舞の現在　二〇四・二〇六
婿和使旅館引接寺圖並記事　三三
康和四年贐宜　三三
吳越所見書畫錄　三三
梧園書話　五七
故岡山學士言行錄編纂方法　一六
提要　一六
こをとこのさうし　八三
五音曲條々　一九八
五音三曲集　一九七・一九八
五音次第　一九七・一九八
五音の能の心持の事　一九七
古瓦(拓本)　一六
古瓦(拓本)　二一六
古瓦の研究　一四二・一五五
古鏡の圖紋に就て　三七・一五五
古玉圖攷　一三一・一六四
古玉圖譜　一三一・一六四
古玉素質黃琮　三
胡琴教錄　一八三・一八五
古金眞圖錄　七九
古銀眞圖錄　三五
古琴疏　三
古金襴の色彩美　一九四
古今和歌集(寫刻一葉)　一四六
古今倭歌集(卷第八)　九三
古今和歌集序　六八
古今和歌集斷片　一三
古今和歌集序　一二・一三五
古今和歌集斷片　一九
國書之新的研究　一七〇
國書漫談　三六
國書論　一六
國劇運動　二六
國劇鑑賞法　二六・八三
國劇史概論　三三
國劇小史　一六
國劇要覽　一六
國劇與舊劇　八九・九一
國際映畫新聞　三
極彩色千社札　三
國山碑考　三
國史大圖鑑　一〇・四七・一八
國初より明治までの建築史　一七
國朝畫識　一三四
國朝畫徵錄　二六
國朝畫徵續錄　二六
國朝金文箸錄表　七七
國朝吳郡丹青志　一二〇
國朝畫家筆錄　三七・一
國朝畫人輯略　四七
國朝石經攷異　一〇二
古畫官像　一〇二
古畫眞隨　一〇二
古畫扇面　一〇八
古畫像　一〇
小金御鹿狩之全圖　一〇
小金原御鹿狩圖　一〇
古畫備考　一〇
古畫品錄　一四・一四六・二〇・六三
古瓦譜(拓本)　一〇
古歌舞伎繪　一〇
古瓦編(四天王寺圖錄)　一〇
古畫・漢句切　一〇
古畫武者繪　一〇
古畫摹本　一〇
小鳥丸太刀圖　一〇
粉河寺緣起　一〇
後漢孝堂山石室畫像ノ內伎樂圖　一〇
古奇器錄　一〇
古義堂印譜　一〇
故木戶松菊公ノ記事　一〇
古京遺文　一〇
古器用考　一〇
古鏡五枚(拓本)　一〇
「故鄉」に就いて　一〇

故近衞公對清韓事略　三二
後小松院宸翰　一一〇
壺胡籙圖　三一
試みとしての日本オペラ　三三
古今いろは評林　一三五・一三六・一三七
古今印史　一三五・一三六・一三七
古今印則　一三五・一三六
古今印則序跋　一三五
古今印例　一三五・一三七
古今楹聯彙刻　二三
古今畫家競　六七
古今畫鑑　三・六〇
古今樂錄　一四四
古今樂話　一四三
古今漆工通覽　一四七
古今四場居百人一首　二四
古今事文類聚樂器部　一四四
古今事文類聚書法部　一四四
古今事文類聚文房四友部　五四
古今書畫名家一覽　四七
古今泉貨鑑　五五
古今錢略　一六一
古今丹精競　三一
古今茶人華押叢　二七
古今詩書譜　八〇
古今圖書集成樂律典　一四四
古今圖書集成字學典　一〇六
古今俄選　二一六
古今柏梁歌　一〇四
古今佛師比較論　二七
古今墨蹟鑒定便覽　五三
古今墨論　一三・五六
古今名物茶入茶碗之圖　一四四
古今名物類聚　一四〇・一四四
古今役者物かたり　一〇三・二七
五山十刹圖に就いて　一三〇・一三四
五山巡禮記　一三〇
孤山人卓郎俳句　一三五
後三年繪卷　九一
後三年合戰繪詞　九一
五山版韓昌黎集　一四四
故事談後編畫曲通考　八三
後七日御修法記　二三
ゴシック樣式時代の美術　一
古笏（拓本）　三〇
古寫孝經　二
古社寺保存會規則　九・一三二
湖州鏡（拓本）　二
湖州鏡其他十六面（拓本）　三
五重十操記　一八三・一八五
五十知命殘簡　一八
五十年前の鐵道開通式　一四四
五重塔の女の黑髮　三
五重塔の心柱　一三〇・一三四
五十六種書法　一〇八・一五一・一五六
吳昌碩筆額面　一三三
古淨瑠璃の新研究　九〇
古書題跋　二六
後白河天皇宸影　八〇
古新羅時代古蹟圖譜　一八
古事類苑樂舞部　一三・一五六
後朱雀院宸翰　一四四
古圖類從調度部文書具類　一四〇・一四四
五世菊五郎　三・四二
語石　一三五
吳雪畫　一三〇・一三四
古千字文　一三〇
古錢拓本斷片　一三五
古泉大全　九一
古泉匯　一四四
古草千字文　一三三
子育鬼子母神碑　九七
古袖町勾欄記　二三
こぞのちり　一
古染付の皿　三〇
古代埃及の美術工藝　二三
古代をもしろ繪　九・一三二
五代及北宋時代の美術　二
古代織物　三
古代歌謠の研究　三
古代建築論　一四四
後醍醐天皇宸影　一三三
後醍醐天皇大燈國師問答　一三〇・一三四
五臺山　二
古代太刀ノ帶取　一四四
古代彫刻陶器圖集　一六・一七五・一七六
古代陶器類纂　一三三
五體唐詩選五言絕句　一三五
五大堂ノ銘アル拓本　一四四
古代東洋劇概論　一三
古代の金銅の兜と短甲　一三三
古代風俗畫寫　三二・八三
古代佛像の人類學的研究　一三七
五體墨場必携　一三六
古銅印譜擧隅　一四四
古銅器攷　四六・六〇・六三
後藤芝山書辨則　九
後藤伯象次郎筆誰能思不歌　一三五
後藤銘鑑　五四
後鳥羽院宸翰御首二首　一三五
後鳥羽天皇宸影　八〇
琴引名下司松尾五郎光久請文　一三五
金刀比羅宮繪馬鑑　九七
金刀比羅宮景勝帖　九七
金刀比羅宮ニ於ケル宸翰　一一七
金刀比羅宮寶物目錄　七
壽十八番歌舞妓狂言考　二〇七
壽萬歲會我　九・二一七
子供の生活と藝術　三六
小西商店紀念帖　一四八
小西育學校長點字書簡　三
五人立人物古畫　二六・八三
近衞家寶船圖　二八
近衞家老女村岡筆消息　五〇
近衞公爵御藏器第一回入札目錄　七
近衞三藐院消息　二
近衞前久關ヶ原見聞記　一三四
近衞殿消息　一三五
近衞尙道卿外五名眞蹟小切　一三五
近衞悠山公消息　一三五
近衞豫樂院文房四賢圖　一三四
近衞龍山侯書簡　二
近衞龍山公筆忠度　一〇一
古篆千字文　一一〇
古典派の美術　一一
古銅印譜擧隅　一七
古銅器攷　三・四二
後藤芝山書辨則　一三五
後藤伯象次郎筆誰能思不歌　五〇
後藤銘鑑　一三四
後鳥羽院宸翰御首二首　一七九
後鳥羽天皇宸影　八〇
琴引名下司松尾五郎光久請文　三三
金刀比羅宮繪馬鑑　九七
金刀比羅宮景勝帖　九七
金刀比羅宮ニ於ケル宸翰　一一七
金刀比羅宮寶物目錄　七
壽十八番歌舞妓狂言考　二〇七
壽萬歲會我　九・二一七
子供の生活と藝術　三六
小西商店紀念帖　一四八
小西育學校長點字書簡　三
五人立人物古畫　二六・八三
近衞家寶船圖　二八
近衞家老女村岡筆消息　五〇
近衞公爵御藏器第一回入札目錄　七
近衞三藐院消息　二
近衞前久關ヶ原見聞記　一三四
近衞殿消息　一三五
近衞尙道卿外五名眞蹟小切　一三五
近衞悠山公消息　一三五
近衞豫樂院文房四賢圖　一三四
近衞龍山侯書簡　二
近衞龍山公筆忠度　一〇一
古代風俗畫寫　三二・八三
古代佛像の人類學的研究　一三七
五體墨場必携　一三六
古代名畫補遺　四六・六〇・六三
五代目市川團十郎暫之圖　九
五代目菊五郎自傳　一三五
古代役者せりふほめ言葉　一三四
御大禮記念寫眞帖　一六・七九・一八六・一三五
御大禮の歌舞　一三五
小高翁紀德祝壽碑　一六七
梧竹書　一三〇
古猫柬編　一九七
古猫拾遺　一六〇
古猫箴　一九七
國華　四一
國歌歌詞の變遷　二〇六
國家金銀錢譜　一三五
國家金銀錢譜續集　一三五
國華索引　七
國歌八論　一三・一三五
國家八論餘言　一三・一三五
國歌八論餘言拾遺　一三・一三五
國歌寄せ書　三〇
國華餘芳　一七
滑稽　四
骨董十三說　一三・四〇
骨董祕訣鑑定新書　三六
木片集　一三六
古鐵山房印譜　一九七
古典音樂　一九三

このころくさ　一〇三
このはな　一〇五
此花　一〇五
古梅園墨談略抄　一〇・五四
古梅園墨譜　五四
小早川隆景の書簡　三三
小林良典筆行路花　四八
御判彙　一七
古板江戸方角略繪圖　元
古版繪本斷片　二四
古版小說插畫史　六六
古版小說の插畫と吉田半兵衞　九六
古版商標　二四
碁盤太平記　二〇八
古美術行脚　一四・一五
古美術品圖錄　一六
古美術品展覽會出品目錄　七
古筆と日本文學　二六
古筆名物切鑑證　一〇七
古風今樣舞曲扇林　二〇八・二三三
巨福山建長禪寺住一寧撰文碑　二三
古物金石目錄　二五四
胡文忠公手札　二三
古墳發見石製模造器具の研究　二
御寶物圖繪　一六
古墨齋金石跋　一六三
古墓碣銘　一五七
古本能狂言・間につきての研究　二〇一・二〇七
於御本丸管絃御聽聞御次第書　一九五
駒井勝蔥筆陰脉陽脉論　五〇
駒形日記　八四
古杜寸法書並拓本　二五・二六七
小松圓閣書畫跋　二
小松が原　一〇三
小松帶刀筆寄友人尺牘　四九
後水尾天皇宸影　八〇
ゴム印畫法　一四八
古文字琵琶行　一一〇
古文書摹寫　三三・三一
古文書壹通消息　二五
古文書時代鑑　一一七
古文書消息　三三・三五
小川正太郎先生　七〇
小山鼎浦を懷ふ　四
古窯器攷　三一・四四
後陽成天皇宸影　八四
後陽成天皇の御宸翰　八〇
古流生花宗匠錄　三三
梧陵濱口君紀德碑　三一
コルビュジエ檢討　三一
惟足書假名文字　三三
閻龍世界博覽會美術品書譜　一六
翠色早合點　三三
金剛界五佛眞言七經　二
金剛般若波羅蜜經　二三・一七
金剛峰寺藏空海書狀　二
今夕盦題畫詩　二三・六三
今夕盦讀畫絕句三十四首　二三・六三
昆田文次郎君墓表　一六七
昆蟲寫眞生態　二
金銅佛寫眞集　二一
金堂壁畫　八三
コンドル博士遺作集　八三
今日の一日本住宅　三三
今日の晉樂家　一八三・一八六
今日の建築と工藝の一瞥　一四八
金春家祖先並藝傳來之由緒帳　九一
金春史考　二一一
金春十七部集　一六七
金春元安筆ていこの松の謠　二一一
金毘羅圖繪　三一
コンラアト・フイードレルに就いて　五

サ

齋院歌合　三三
彩華　三一
西鶴と演劇・歌謠　一六七
彩畫職人部類　一三三
細畫圖式　一三三
彩畫錄　一四
西行法師の筆蹟　一六
西行法師筆住吉歌合斷片　一八四・一八六
西行物語繪卷　一八六
最近印畫法　一四四
最近の科學より見たる音樂の現在及び未來　一八三
催馬樂古譜　一八六
催馬樂師傳相承　一八三
催馬樂拍子　一八六
催馬樂祕抄　一八四
催馬樂要錄抄　一八三
催馬樂略譜　一八六
催馬樂錄抄　一八六
最近美學講話　三
最近佛蘭西ポスター集　一四〇
齋宮女御御集斷片　二一八
最高藝術の大星小星　三九
西郷侯爵家藏月照・南洲書　一四四
西郷南洲筆推倒一生之智勇　五〇
在五中將古像　三三
崔氏合祔墓誌銘　二一四
細字千字文　一二五
祭祀と藝術　三六
歲時減法戒　八三
最新家具製作法　一五二
最新寫眞術　一四八
濟生堂五部雜錄　一八一
再續寰宇訪碑錄　一六二
再續三十五擧　二・七五・一六六
西大寺大鏡　一六・一九・二九
西大寺資財流記帳　七
歲且物　一九
祭忠惠公書ノ市河三亥識　一四〇
最澄畫像　二〇七
齋藤月岑自筆識語　二五・八三
齋藤謐物筆黑風夜撼天柱折　八三
齋藤月岑自筆識語　七一
催馬樂古譜　三三
催馬樂師傳相承　三一
催馬樂拍子　一八四・一八六
催馬樂注祕抄　一八六
催馬樂要錄抄　一八四
催馬樂略譜　一八三
催馬樂錄抄　一八六
在銘杖　二一
在銘鉾　二一
西游日簿　八三
西遊旅談　八三
祭要樂錄　一八三・一八六
才葉抄　一一・一二・一二四
材料の選擇及仕上法　一四八
祭禮繪草紙　九一
沙翁劇朗讀レコード　一二一
沙翁碑銘双鉤　一六七
沙翁舞臺とその變遷　二一一
堺阿佐井野宗祐本詩集　三一
境野嘉十郎筆太閤讚　五〇
酒井抱一先生印譜　七三・七六
酒折宮壽詞　一六七
坂川色帶鏡　一一五
榊原康政畫像　八〇
左脅靖侯手札　一一三
嵯峨帝宸翰最澄上人遷化悼詩　二一
嵯峨天皇宸翰　一三
峨嵯天皇宸翰御製詩　一四四
酒人內親王願文　三三
阪本龍馬の書簡　三三
坂本龍馬筆佐々木宛尺牘　五〇
坐間筆譜　一八六
鷺娘　一〇一
作者店おろし　一三五
作の上より見たる我が劇壇　二九
佐久間象山手稿　一三〇

佐久間象山筆送義卿　四九
佐久間艇長の遺書　三三
佐久良東雄筆死變生反乍大王　四八
作良かり赤葉かり　八五
櫻山筑波家所弄目錄　七
狹衣物語繪卷　八九・九一
三座例遺誌　二四
薩珊建築　二三〇・二三四
薩珊朝の美術　一
坐鋪狂言早合點　二・六
佐州塚原山圖　一九
座禪像の木乃伊　三三
左大臣道家公消息　三三
撮影一般　一四七
撮影禁止地域紹介　一四八
皐需會我橘　二三・二七
作曲法概說（弘田龍太郎）　八二・九二
作曲法概說（スタンフォード）　八二
昨今の劇評　二九
雜書琴事　一九四
早速千字文　二五
雜祕別錄　八三・八六
雜物出入帳　八
雜物出入繼文　八
雜木利用最新家具製作法　一五二
薩摩琵琶歌圖式の曲譜　一九〇
佐渡鮎川鹿伏明神境內所出石鏃圖　三
佐藤氏念祖碑　一五七
佐渡嶋日記　二二

讃岐大西拜棣藏高芙蓉十客印譜　四九
讃岐高松城天主臺神鏡　三五
讃岐卿眞蹟　二六
眞道卿眞蹟　二四
佐野川市松人形使圖　九八
佐野川市松久松㊧圖　九九
沙漠風光の近影　三三
樣殿罵　一〇三
繖繪　二六
サラセンの美術　三
サラセンの美術　一
猿樂浩革考　一九九
申樂開書　一九七
猿樂町芝居三座ノ見取圖　三一・三二・二六
猿樂傳記　一九九
申樂免廢論　一九七
猿の毛衣　三三
猿若勘三郎於二御當地一芝居被二仰付一候由諸書寫　二一〇
サロメ　三四
澤田お吉ちらし文　一五
澤宣嘉筆新年祝道の歌　四九
山家遺桂　一六
參海雜志　八三
三貨圖彙　一五五・一五六
三曉庵雜志　六四・六五・六八
三曉庵隨筆　四六・六五・六八
三歎思想研究　三九
三曲　一九六
三瓦會圖集　一四〇

三ヶ津役者評判記　一〇六・一〇九
愧悔物語　本美術精神史　九四
三代目高尾眞蹟　三九
纂言　三
三枝根元記　二四
參考懷紙五張　二六
參考今昔操淨瑠璃外題年鑑　九八
三公山碑　三三
鑿工大鑑　一〇三
鑽工二十八氣象　三六
鑿工譜略　三一
三國時代の美術　一
三國時代佛像圖譜　一九九
山谷題跋　一三〇
三國筆海全書　一七
三國役者舞臺鏡　二二
三五要錄　一九八
三座家狂言幷由緒書　九八
山齋清供箋　二一〇
山左南北朝石刻存目　二四
三酸圖　三七
山紫閑帖　一
三字石經泰秋　一四八
三字石經尙書　三七
三芝居新大改雜書　三七
三芝居役者繪本　三六
三蠻場佛優三十二相　一〇
三藐院假名消息　一三・六二
三州賀茂郡足助村八幡社藏大般若經奧書　二
三十五擧　二六
山門堂舍記　一三三
殘夜抄　一三
三大不動明王像に於ける日本美術精神史　九四
三代目高尾眞蹟　二九
讃嘆　一八六
山中人饒舌　一二・三五・四六・五七・五八・六三・六四・六五
山中問答　一三・三五
山東京傳讀書丸ノ商標　三一
山東京傳外八名家肖像　三一
山東見學旅行記　一三〇
山堂肆考音樂之部　一九四
山東省黃石崖及び玉函山の石窟に就いて　一七
三都藝人番附　二二
三都太夫三幅對之圖　九八
三都役者水滸傳　二一〇
三年寄三芝居吉原長吏由緒書　二一〇
三葉艸　二四
三寶院の庭園　三七
三寶院の庭園に於ける桃山時代の理想　三七
三寶院模繪の筆者を論ず　三七・九四
「三方」ノ銘アル古枡　三三・六七
三輔肖像竝同遺訓　九一
三萬六千頃湖中畫船錄　一三・六二
三藐院假名消息　二
山門阪本來迎寺藏虛堂和尙墨蹟　二六
山門堂舍記　一三三

三谷吉原通馬夫ノ御請負申手形ノ事　二八
暫遊日記　四四
山陽印譜　一〇・四八・一九
算律和解　八三・九四
三論繪詞　九一

シ

思貽齋管城二譜　五四
自意識の過ぎた藝術　二九
ジードルンクの新形態　三一
詩韻扇面白紙摺　三〇
シェヴシックに據るヴァイオリン奏法　一八一
芝園臥龍梅記　五一
鹽田隨齋詩稿　三〇
鹽田隨齋詩稿小品　二六
ジオット　七二
鹽谷良翰　二四
四海餘滴　二六
辭夏岐野葬望圖　八四
詩學　一三・三五
字學憶參　一三・二三
字學新書摘抄　四六・一〇六・一〇九
字學必要　二三
詩學逢原　三・三五
志賀松節一代記　二三〇
自書題語前編　六四
自書題語後編　六四
志雅堂雜鈔　一三・四一
至花道書　二・三五・九七・九八
鞏　二〇一
信樂陶業に於ける經營及支配形態の變遷　一四五
信樂陶業の起原と製品の變遷　一四五
信樂陶業の山房論文　三四
樒草紙の山房論文　四八・一七
紫巖印章花押譜　五三
詩翰姓氏　一九
四季歌合一部　一九
四季女文章　一五
史記古鈔本　二六
式古堂書畫彙考　四五・五六・一〇六
色彩から見た隈取　二〇七
色彩新論　一五
四季座敷之圖　六六・八八・九九・九一
信貴山緣起　九九
信貴山資財寶物帳　一三〇
色紙帖　七
敷島美觀　一五〇
鳴立澤　二〇三
鷄醐摭　二九
四季のはな　六五・一〇三
色名總鑑　三九
思恭永野先生壽碑　一六七
紫禁城建築調査報告　一三三
此君堂後素談　天八・六四
史劇及び史劇論の變遷　二三〇
史劇に關する疑ひを再び『太陽』記者に質す　二三〇
志雅堂雜鈔　二三九
詩僊堂六物圖　二六
自然と文化との諧調　三九
自然美觀　一
自然美に就て　四
自然美論　一
紙鳶譜　五四
思想家としてのシルラー　四
思想建築　三三
時代おくれの脚本　二九
時代を背景としての木版畫　九七
四體書勢　一〇八
四體千字文　一〇・二四
四體千字文國字引　二一〇
色彩論　三・四一
時代人形・屛風・大津繪展觀圖錄　五二
枝下紀行　一〇〇・一〇三
七家印跋　一九四
七言唐詩畫譜　二五
七十一番歌合　三一〇
七頌堂詞繹　七
七頌堂議小錄　八四
七祖贊弘法大師眞蹟　二五
七代目三升發句　一六・一七・二一〇
七福神順配路程　四九
七福神圖　二元
史徵墨寶　三・三七
史徵墨寶考證抄出　八六
執以依憑　二六
作家に及ぶ　二九
詩僊堂六物圖　二六
自然と文化との諧調　三九
自然美觀　一
自然美に就て　四
自然美論　一
紙鳶譜　五四
思想家としてのシルラー　四
思想建築　三三
時代おくれの脚本　二九
時代を背景としての木版畫　九七
四體書勢　一〇八
四體千字文　一〇・二四
四體千字文國字引　二一〇
時代人形・屛風・大津繪展觀圖錄　一六・七八
枝下紀行　八四
七家印跋　一三・七五
七言唐詩畫譜　八〇
七十一番歌合　八三
七頌堂詞繹　二
七頌堂議小錄　二六・七・二一〇
七祖贊弘法大師眞蹟　一六・七・二一〇
七代目三升發句　二四
七福神順配路程　二元
七福神圖　八四
史徵墨寶　二七
史徵墨寶考證抄出　一六
漆苑遺墨しつか　二〇三
漆器種類ノ辨　一四七
漆器圖錄　一四七
實競色の美名家見　一〇一
實驗派美學　一
漆工人名錄　一四七
實際上から見た兒童劇　二〇四
實習寫眞術　一四八
實證美學の基礎　一
實地寫眞術　一四八
執筆撥證法　一〇・四六・一二三
實用藝術之研究　三六
實用刺繡術　三五
實用寫眞術　一四八
實用寫眞總論　一四七
實用圖畫教科書　七
實用茶室構造圖解　三三
實用配色法　七六・一〇〇
紙的藝術　三六
詩的直觀性の意味　二・四二
四天王寺圖錄　二六・二九六・一七七
慈童　二〇一
指頭畫說　三・七六
兒童畫の藝術學的研究　九五
兒童教育と演劇　二〇四
兒童劇に關する若干の疑問　二〇四
兒童劇に對する種々の杞憂　二〇四
兒童劇の扱ひ方　二〇四
兒童劇の效用　二〇四

兒童劇の三種類　二三四
兒童劇の種類及び使命　二三四
兒童劇の進化　二三四
兒童劇の模範實演の必要　二三四
至道要抄　三二・三五・一九七・一九八
支那印刷史　一五一
支那印刷の起原につきて　一五一
支那映畫の過去と現在　二三四
支那音樂思想　二九四
支那繪畫史（金原省吾）　六七
支那繪畫史（中村不折・小鹿青雲）　六七
支那繪畫史（溝口禎次郎・原田謹次郎）　六七
支那畫家人名辭書　七一
支那畫家落款印譜　七三・二六〇
支那畫の遠近法と浮繪　九六
品川御臺場築造圖　三四
品川彌二郎筆雪ときえ花とちりても　五〇
支那金工に就て　四二
支那金石書談　六三
支那劇研究　二〇四
支那現代の美術　一
支那建築　三六
支那建築史　一三〇・一三二・一三三
支那建築と其の裝飾　一三三
支那工藝圖鑑　一三六
支那工藝に關する文獻　一三六
支那古器圖攷　一三六
支那國民性と藝術思潮　一三六
支那國民性とその染織　一四六
支那古陶磁研究の手引　一四四
支那古明器泥象圖說　一二六
支那山水畫史　六七
支那山水畫史附圖　七九
支那山東省に於ける漢代墳墓の表飾　一六三
支那漆藝の發達と其趣味　一四七
支那芝居繪番附　一九・三〇・三一・三二
支那習字手本　二四・二九
支那住宅志　一三三
支那趣味の話　五
支那上代畫論研究　六〇
支那商人帳面斷片　二六
支那書道史　一〇八・一二六
支那大觀　八四
支那陶器新說　一四四
支那陶器の鑑賞　一四四
支那陶磁器史　一四五
支那陶磁雜談　一四四
支那陶磁の色と模樣に就いて　一三七・一四四
支那陶磁の時代的研究　一四五
支那陶磁の妙所と之が鑑賞上の概念　一三七・一四四
支那と佛蘭西美術工藝　一三八
支那南北記　三九
支那の繪畫　六七
支那の瓦塼　一六四
支那の漆漬　三六
支那の金工　一四六
支那の古玉器と日本の勾玉　一四四
支那の住宅　六七
支那の書道　一二六
支那の染織刺繍史　七九
支那の陶磁器　一六三
支那の陶磁器産地城村山林發堀經筒蓋　三・六七
支那の美術に就いて　一四・三六
支那俳優寫眞　二八
支那俳優ノ隈取十四圖　三〇・二三
支那美術思想　五四
支那美術史彫塑篇　一六四
支那百景　二六
支那風俗の一研究　一四八
支那武官徽章　一四八
支那兵士徽章　一四八
支那補釋　一四八
支那文樣の特質　一四八
支那旅行談　一四八
支那歷代名畫論評　一四八
信夫恕軒書送柏木探古序　一四八
信夫山招魂社碑　一四八
芝居繪　一四八
芝居繪と豐國及其門下　一四八
芝居繪本壽萬歲曾我　一四八
芝居繪本蒐藏之記　一四八
藏場樂屋圖會　一四八
藏場訓蒙圖彙　一四八
芝居見物心得　二〇四
芝居細見三葉艸　二〇四
芝居と映畫筋書　二三一・二三五
芝居と史實　二三一
芝居錦繪集成　九六・二一七
芝居年中行事　二三一
芝居乘合話　二〇五・二三一
芝居番附　二三一
芝居町ゐ御觸書　二〇七
勾欄藪の中　二〇七・二三三
勾欄類見聞　二〇七
勾欄類雜集錄　七〇
柴田畫禪氏の畫と人試筆　四六・一〇六・一〇九
紙譜　五四
澁谷流に就いて　二〇〇
紙墨筆硯箋　一三・五四
地本錦繪問屋譜　一〇五
島津齊彬筆三原藤五郎宛尺牘　四九
島原手跡文章　一一五
島原城耶蘇教徒攻圍陣形圖　三三
島原騷亂の眺魁所持の旗　三三
誌銘廣例　一〇三
紙名盡壽語六　二九
下瀨火藥發明者下瀨雅允氏　九六・二七
謝肱　三
下毛足利學校聖像　一七〇
下野足利鑁阿寺靈寶目錄　九
下毛野國天明鄉當神廟碑銘　二一一
並序　二三三
下村正太郎氏第四回入札目錄　七
自問自答　四
社會學上より見たる藝術　五
社會學的に見たる藝術　五
社會學より見たる藝術　四・五
社會經濟より見たる元祿劇　二〇五
社會と宗教と藝術　三六
釋迦像の研究　三九・二七
釋荷亭詩稿　二五
弱者の歌謠　二〇八
若沖居士畫像石圖　二六
尺八ひとりけいこ　一九〇
釋椋　二三
寂蓮筆歌二首　一九
寫山水訣　六四・六六
寫山要訣　七六
寫山樓印譜　一〇・七二・一九
寫山樓記　七〇
寫山樓之記　七〇
寫山樓描法　一〇・七六
寫山樓無聲詩話并處世七難　五六
寫實劇と素人俳優　二九
寫場人物撮影法　一四八
寫眞印畫法　一四八
寫眞及幻燈　一四八
寫眞及製版用藥品解說　一四八
寫眞化學　一四八
寫眞器及用具解說　一四八
寫眞鏡圖說　一四八

寫眞月報　一五三
寫眞光學　一四八
寫眞雜誌　一五三
寫眞自在　一四八
寫眞術　一四九
寫眞術階梯　一四九
寫眞術講演　一四九
寫眞術講話　一四九
寫眞術全書　一四九
寫眞術獨習書　一四九
寫眞術の一般知識　一四七
寫眞處方集　一四九
寫眞新書　一四九
寫眞新法　一五三
寫眞新報　一四九
寫眞數學　一五〇
寫眞製版術　一四八
寫眞製版法　一四八
寫眞設計及暗室設備　一五三
寫眞タイムス　一四九
寫眞の一日　一四九
寫眞のうつし方　一四九
寫眞の栞　一五三
寫眞の趣味　一四九
寫眞の撮り方　一四九
寫眞秘訣　一四九
寫眞寶鑑　一四九
寫眞藥局　一四九
寫眞藥功用略解　一四九
寫生寫意　一三三
寫生旅行　一三五
釋敎三十六歌仙　一四八
瓜哇古面譜　一五三
闇婆佛蹟ボロブヅウル　一四八
シヤヴンヌ　一四九
ヂヤバンポンチ　一四九
遢羅の美術　一四八
寫樂　一五三
江汝の衙門ヨリ得タル印度ニ通ズル旅行券　一四九
ジヤン・フランソア・ミレエ　一四九
從一位大勳位侯爵大隈公墓誌　一四七
朱印船貿易地圖　一四九
驟雨　一四九
秀英舍沿革誌　一五三
秀英舍定款等　一四九
秀英舍報告書　一五〇
周易注疏卷第六古寫本斷片　一四八
秋園雜佩　一四八
集晉書　一五三
周漢遺寶　一四九
周漢古銅器及其紋樣　一四九
重刊博古圖・金索華寫　一四九
周漢陵墓石闕集　一四九
集義外書　一四九
宗敎音樂　一四九
宗敎改革期之畫家デューラー　一四九
宗敎神話西洋名畫解說　一四九
宗敎と樂劇　一四九
宗敎と美術　一四九
秋興八首　一三五
粟玉紙集　一五四
拾玉得花　一三五
十九世紀英國畫派と北歐の美術　一四七・一五九
十八世紀自然派の美術　一四七
自由劇場　一四七
集古印藪　一四七
集古十種　一四七
集古十種ノ內十圖　一四七
集古圖　一四七
集古圖卷三拔書尺度圖・斗量圖　一三三・一六〇
集古帖　一六〇
從古堂款識學　一四七
集古妙蹟　一五一
集古錄　一五一
集古錄跋尾　一五一
集古錄目　一三
重言くらべ番附　一三〇
十七世紀南歐北歐の美術　一二
習字手本　一二五
宗旨人別改帳　一四四
十旬花月帖　一五一
秋水園印說　一三・一五五
秋水園印譜　一六〇
修正及調色法　一四七
秋齋館集　一四八
修整法　一六・一七
衆清錄　一五五
集石鼓文　一七
十操記　一四九
宗祖大師御墨蹟　一四九
住宅建築寫眞集成　一三三・一六〇
十竹齋書畫譜　一六〇
掛滴帖　一五九
周銅鼓考　一五九
習道書　一五九
十二因緣繪卷　一五九
十二因緣之圖　三一
十二畫伯　一三三・一六〇
十二畫家　一三・一〇六
十二石齋記　七
十二段草子考　一三三
十二刀法詳說　一三三
十八番考察　一三三
十八羅漢尊名古磚印玩　一三三
十八世紀フランス繪畫の研究　六七
繡譜　一三・一三三
十七世紀南歐北歐の美術　一二
習字手本　一二五
宗旨人別改帳　一四四
十旬花月帖　一五一
秋水園印說　一三・一五五
修正及調色法　一四七
秋齋館集　一四八
修整法　一六・一七
衆清錄　一五五
集石鼓文　一七
十操記　一四九
宗祖大師御墨蹟　一四九
住宅建築寫眞集成　一三三・一六〇
十竹齋書畫譜　一六〇
掛滴帖　一五九
周銅鼓考　一五九
習道書　一五九
十二因緣繪卷　一五九
十二因緣之圖　三一
十二畫伯　一三・一六〇
十二畫家　一三・一〇六
十二石齋記　七
十二段草子考　一三三
十二刀法詳說　一三三
十八番考察　一三三
十八羅漢尊名古磚印玩　一三三
十八世紀フランス繪畫の研究　六七
繡譜　一三・一三三
宗門改一札書式　二六
十友圖贊　一三九
重要美術品等認定物件目錄　七
デューラー　一三・一四五
朱臥庵藏書畫目　一三・一四五
儒家小誌　一六〇
樹下美人論　三六・九五
縮景園行幸記　一三五
縮刻唐石經　六三
綜藝種智院式並序　一三〇
手工と圖案　一五二
硃砂魚譜　一三
守山侯賴寬印譜　一七八
朱之瑜詩　三
須靜齋雲煙過眼錄　一三・四一
出土品より見たる奈良時代の文化　一八
出版編輯事典　一四〇
首都の邦樂分布　一九〇・一九七・二〇六
種梅記　一六七
入木抄　一三三
入木道　一〇六
入木道傳書目六　一〇七
入木道傳書目錄　四六・一〇七・一〇九
入木要筆傳　一一三
趣味雜話　一四・三九
趣味寫眞總論　一四七
趣味叢書　一四
趣味の建築講話　一三六
首楞嚴義疏注經第十卷末　三

儒林墨寶　一〇・一七・一三四
春雨雜述　一一三
春覺齋書論　六〇
淳化祕閣法帖考正　一三五
淳化法帖　一三四
淳熙祕閣續法帖　一三三
荀勗笛律圖注　一三・一九四
滑縣彝器　一四三・一六〇
春始御祝　一三〇
純粹繪書論　五八
純粹直觀と藝術の抒情詩的生命　三
純粹直觀と藝術の抒情詩的特性　三
純粹美學原論　一
純正寫眞術　一四九
春朝秋夕　二一九
春冬堂上放鷹之圖　八五
順德院御琵琶合　一八三・一八六
順德帝行宮遺蹟碑　二七
春波樓筆記抄　六一・六四・六五
春夜宴桃李園序　一一五・一二四
小亞細亞橫斷旅行談　一三〇
承安五節圖　九二
承安二年尙齒會繪詞　九二
聖一國師消息　三一
松陰快談　一〇
賞延菜心錄　一三・一五三
松鶴遐齡集　四五
小學唱歌集　一九五
小學書法辨　一三
松鶴堂臨本　一三
昌化縣守夜巡牌　二一・三
松花堂印譜　一〇・一四八・一七九
松花堂畫帖　一〇・一八四
松花堂畫譜　八四
松花堂昭乘翁筆消息　一三〇
松花堂法帖　一三〇
貞觀經斷片　一八
貞觀公私畫史　一三・一四六・二三
貞觀三年十月十九日付常土寶買渠田立券文　三三
貞觀七年正月二十一日付水間寺古文書　三三
正觀音御體所御祭繪圖　三〇
娼妓畫帳　一〇三
彰義隊動靜報告の書簡　三三
承久元年度牒　三三
商業美術家協會內容一覽　三九
商業美術展覽會圖錄　一七
商業美術論集　一四六
將軍塚繪卷　九二
嘯月樓印賞　一四・一七五
松香館印譜　一七八
紹興內府古器評　一四二・二〇
松壺畫憶　一四・一七六
松壺畫贅　一四
證古金石集　一五四
松谷花鳥畫譜　八四
松谷漫畫　一三
上古時代の住宅　一三
聖語藏の古經について　二一・三
上古奈良平安時代圖鑑　一〇・一四八・一七九
尙古年表　八四
上古の服飾　一三〇
鐘鼓類集　一三〇
象山先生遺墨帖　一三〇
情死　一三
貞治三年舞御覽記　一三
成就院信海筆樵路踟躕・牛歌　一四八
松洲作卯年ノ繪曆　一三
小戎車圖　一三
上州新川善昌寺在源義貞墓圖　一三
小松園閣書畫跋　一三〇
消息耳底祕抄　一三
消息集　一七
裝束織文　六
裝束織文圖會　一四〇
上代歌謠の研究　一八六
上代歌謠の展開と律的現象　一八六
昭代金石文　一五四
上代染織眞譜　一四〇
上代文樣集　一四〇
小竹齋詩帖　一三〇
掌中要錄　一八三・一八六
掌中要錄祕曲　一八三・一八六
勝地臨亳　八四
嘯堂集古錄　一六〇
聖德太子畫像　八〇
正倉院沿革史　二六
正倉院樂器の調査報告　一一・一八六
正倉院木・牙尺(寫)　二五
正倉院御物古文書(複製)　二三
正倉院御物紫檀柄香爐(石版)　二三
正倉院御物漆藝品の概觀　二六・一四七
正倉院御物修繕の話　二六
正倉院御物纖石尺八・大魚骨笏・刀子(拓本)　一三・二六・二四四
正倉院御物年表　一三〇・一七〇
正倉院御物之圖　九・二六
正倉院御物佩劍(拓本)　一七
正倉院御物鼻高履(石版)　一三
正倉院御物琵竹筆(寫)　一三
正倉院御物目錄　一三
正倉院金銀平文琴(拓本)　二・一七〇
正倉院御開封勘例等御尋之日記　八
正倉院御開封記草書　八
正倉院古劍(拓本)　三
正倉院古墨(拓本)　二五・一七〇
正倉院式文樣集　一四〇
正倉院十二稜鏡(拓本)　三・一三・一七〇
正倉院勅封庫の記事　二六
正倉院に保存せらるゝ公驗　二六
正倉院年表　二六
正倉院の校倉　二六
正倉院の記　二六
正倉院の金工に就いて　二六・一四二
正倉院の研究　二六
正倉院の衆　七
正倉院の書道　二六・二六
正倉院の刀劍　二六
正倉院寶器圖　七
正倉院寶物御開封事書　八
正倉院寶物古裂類臨時陳列目錄　一四六
正倉院文書　二六
正倉院文書に見えたる美術工藝に關する記事に就て　二六・二六
脊像篇(世界美術全集)　一
裝束厚板唐織　二〇一
消息往來　一二五
裝束唐織　二〇一
消息集　一三
裝束織文圖會　一七
裝束織文圖會　一四〇
上代歌謠の研究　一八六
成就院信海筆樵路踟躕・牛歌　一四八
松洲作卯年ノ繪曆　一三
小戎車圖　一三
上州新川善昌寺在源義貞墓圖　一三
小松園閣書畫跋　一三〇
消息耳底祕抄　一三
消息集　一七
裝束織文　六
裝束織文圖會　一四〇
上代歌謠の研究　一八六
上代歌謠の展開と律的現象　一八六
昭代金石文　一五四
上代染織眞譜　一四〇
上代文樣集　一四〇
小竹齋詩帖　一三〇
掌中要錄　一八三・一八六
掌中要錄祕曲　一八三・一八六
勝地臨亳　八四
嘯堂集古錄　一六〇
聖德太子畫像　八〇
聖德太子の御事蹟と御體質　一二七
正德朝鮮信使登城行列圖　九二
正德通善曾我　二〇五・二一〇
稱德天皇百萬塔圖　二八
庄內藩罪人追放手形　三三
小兒風俗　一〇三
少年時に觀た歌舞伎の追憶　二〇七
商賈往來　一二五
召波居士に宛たる蕪村翁の墨蹟　三一
商八天字鏡　三三
筆譜　一八六
昌平坂學問所烙印　二三五
正平八年十二月二十七日付足利尊氏文書　二六
正平十四年紀州日高川道成寺鐘銘　一六七
正平版論語模刻　二四
障屏篇(世界美術全集)　一
勝寶感神聖武皇帝銅板詔書　一三五
小蓬萊閣金石文字　一五九
翔鳳嶺　一七二
正本と臺帳と　二一九
聲明概說　一八六
聲明集　一八六
聲明の歷史及び音律　一八六
聲明本展觀目錄　一八六
聖武帝宸筆泥金寫金光明最勝王經　三〇
聖武帝宸筆太方廣佛華嚴經　三〇・六七
聖武帝銅板詔書(拓本)　三〇・六七
聖武天皇皇太子那富山墓隼人石(拓本)　二〇・二七・七〇
聖武天皇宸翰般若心經　二一
鐘銘(集古十種)　一三五
上毛金石文年表　一三四
遊遙印譜　一七八
常用漢字のくづし方　一三〇
遊遙劇談　二四
遊遙子と烏有先生と　一九四
鍾律緯　二〇・六四・六五
松柳問答　一九〇
淨瑠理原始　一九〇
淨瑠璃史(寺山啓介)　一九〇
淨瑠璃史(水谷不倒)　一九〇
淨瑠璃詞章の鑑賞について　二〇七
淨瑠璃史要　一九〇
淨瑠璃所作事全覽　三一・三三
淨瑠璃絕句　一〇三
淨瑠璃大系圖　一九〇
淨瑠璃通鑑綱目　一六一
淨瑠璃の話　一九〇
淨瑠璃祕曲抄　一九〇
淨瑠璃譜　二〇九
青蓮院尊道法親王眞蹟　一三
青蓮院尊朝親王筆蹟　一三
承和三年七月二十七日付空海書　一三
正和二年古文書　一三
貞和二年在銘板碑　一三五・六七
承和年間の地券證文　一三
書影擇錄　一三・一〇六
書苑　一四四
書苑見本摺物等　五五
書畫苑　一三五
書畫鑑定必携儒家小誌　一三
書畫金湯　一三
初學記樂部　一三
書學史　一三五
書學捷要　一四四
書學新講　一九四
書學筌　一九〇
書學緖聞　一九〇
書畫研究法　一九〇
書畫五十三驛　一九〇
書畫骨董鑑賞と鑑定乃仕方　二〇七
書畫史　一三
書則　一三
初代櫻田治助の傳　一三九
諸大名の起請文　一四四
諸大名の誓紙　一三三
畫斷　九五・一〇九
女中風俗玉鏡　一〇三
女中風俗艷鏡　一〇〇・一〇三
蜀江織猿樂小袖摹　一四一
蜀紅錦　二〇一・二〇二
書幟　一〇五
徐電發楓江漁父小像題詠　一三・二三
書畫浩革一覽　一二六
書道及畫道　五六・九五・一二六
初等教育に於ける演劇　二四四
初月樓論書隨筆　一三・一〇六
諸國色里直段正札附　四四
諸國紙名錄　五五
諸國封戶牒狀　五六
書齋　六四
所作入由來入人倫訓蒙圖彙　一〇三
書札法式　一三
書札法式拔萃　一三
書史　一三五
書史千字文　一〇九
諸職繪づくし　一〇五
如水會館　一五六
如水帖　九
ジョセフ・ギルト希臘建築概論　一三
書箋　一三
書則　一三
初代櫻田治助の傳　一三九
諸大名の起請文　一四四
諸大名の誓紙　一三三
畫斷　九五・一〇九
女中風俗玉鏡　一〇三
女中風俗艷鏡　一〇〇・一〇三
蜀江織猿樂小袖摹　一四一
蜀紅錦　二〇一・二〇二
書幟　一〇五
徐電發楓江漁父小像題詠　一三・二三
書畫浩革一覽　一二六
書道及畫道　五六・九五・一二六
初等教育に於ける演劇　二四四

書道訓　四六・一〇九・一一三
書道研究　一一六
書道講義　一一二
書道講習錄　一一二
書道講話　一一三
書道新解　一一三
書道全集　一一六・一五九・一八〇
書道手引　一一三
書の科學及書の教授　一一三・一一三
書筏　一八三
ショパン　一八三
ショパンの生涯　一八三
女筆指南集　一一五
書評（韋續）　一〇六
書評（袁昂）　一〇六
書評（梁武帝）　一〇六
書品　五三・一〇六・一〇七・一一五
書品優劣　一〇七
書譜　四六・一〇九・一一三
諸府縣印譜　一九八
書文式　一一三
書法　一一三
書法雅言　一三・一三
書法群碎　一一三
書法源流考　一〇七
書法三角論　一一三
書法三昧　一〇九・一一三
書法式　四六・一〇九・一一三
書法粹言　一三・一一三
書法正傳　一〇九
書法千字文略解　一一三
書法通解　一一三
處方と調合　一四八
書法發揮　四六・一〇九・一一三
書法祕訣　一一三
書法辨　一一三
書法約言　一一三
諸民族の藝術　四三
諸名家印譜　一七八
所望於藝術教育運動者　一三六
女優生活廿年　二一〇
庶有編　一五六
女用訓蒙圖彙　一四一
諸流茶人略譜　三一
祥瑞（ショウズイ）の研究　一四五
シラー美學論集　三
白石噺の作者　二〇五
白河桑名藩出身者碑文集　一五七
白河古關碑　三一・六七
白河城外南湖詩歌　三一・六七
新羅古瓦の研究　一五七
新羅彫刻建築集　九八
新羅統一時代古蹟圖譜　八一
新羅統一時代の美術　一一
白拍子　三三一
知られざる傑作　四
芝蘭堂新元會圖　八四
尻燒さるひと跋文　二五
叙利亞沙漠　一〇〇
シリヤの美術　一一
思陵書畫記　一一三
史林粟芳　一一三
シルラーが美學上の效績　一四八
シルレルが醫たりし時の事を記す　四六・一〇九・一一三
司隷校尉魯峻碑題額　一一三
素人狂言藝古本茶番三階圖繪　三一・一一三
素人寫眞術　四三
詩論　一七八
新印畫法　三六
新印象派の美術　二一〇
心越禪師遺愛胡銅文鎭　一五六
心越禪師畫　一四一
心越禪師將來七絃琴虞舜　三一
新演劇の現在　一四五
眞角　三
新學異見　二〇五
新樂劇論　一五七
心畫集　三
新樂府斷簡　三一・六七
秦漢印統序　一五七
秦漢瓦當文字　九八
秦漢時代の美術　一一
新議院建築の批判　三三一
新脚本と其前途　四
心經印譜　四
秦曲正名閣言　二五
神宮寺伽藍緣起並資財帳　八四
辛苦遭遇之詩　二五
新軍歌　一〇〇
新群書類從演劇之部　二〇五
新群書類從舞曲之部　二〇三
宸奎閣碑銘　一一〇
新藝術論　五
新劇原論　二〇五
新劇史　二〇七
新劇と舊劇　二〇五
信玄書　二一
新校正珍貨圖鑑凡例　一四九
新興獨逸建築工藝　一三六
新興獨逸建築工藝展覽會記錄　一一六
新興獨逸建築工藝展覽會出品目錄　一一三
新興バレエの道　三五・一三三
新刻繪事指蒙　一六
新刻圖書要略　一六
新刻征討軍歌大全　一九五
清國征伐軍歌　一九五
清國染織刺繡物ニ關スル意匠圖按調査報告　一四〇
清國大家書集　一三三
新刻百錢譜　一三六
清國北京皇城寫眞帖　一三六
清國北京紫禁城殿門の建築　一三〇・一三三
新國民演藝としての英米のペーヂェント　二〇四
新古美術出品圖錄　一七
荏胡麻油の濫觴と其古文書　一四
眞言高僧坐像　八四
眞言宗雇明治革史概說　一八七
眞言辨　一三・三五
震災記念堂　一三〇・一三四
仁齋先生法帖　一三四
新作脚本と舊俳優　三一九
新猿樂記　一九六
清三家書論　一〇九
神事行燈　九九
晉予遺墨　一三〇
新式寫眞活法　一四九
新時代に對する藝術の職能　二〇四
清時代の美術　一一
秦鷹搴寫三種　一一
新釋輿地圖說原稿竝對譯語彙（寫眞）　二四
神社建築に就いて　一三三
新寫廣弘明集卷二三跋文　二一〇
神社と其の建築　一三〇・一三四
神社佛閣印影　一九六
心中萬年艸合評より　二一九
新趣味の袋物拵へ方　一五二
新鈔西清古鑒　一四三・一六〇
眞書千字文　一一五
清人藝林姓名捷覽　四七
信西古樂圖　一八八
人生と趣味　三九
人生に於ける藝術の意義　三
新撰浮世繪年表　九七
新撰御ひいながた　一四一
新撰樂道類聚大全　一八三
新撰草花　八四
新撰古泉名鑑　一五六
新撰字鏡卷第六卷尾　三三
新撰錢譜　一五六
新撰討清軍歌　一九五
新撰日本書畫人名辭書　四七
新撰要記鈔　一八三・一八七
新撰類林抄卷第四　一三〇
新撰朗詠集　一八三
人像畫法　七七
人造光撮影法　一四七
眞草千字文　一一〇・一二五・一二四
秦箏相承血脉　一八三・一八七
深窓祕抄　一三〇
新增補浮世繪類考　九七
沈存中圖畫歌　四六・二〇・六三
新大改雜書　三一
身代限を釀す所以の圖　三三
人體畫法　七七
神代古今本朝萬物始番附　三〇
人體美と形象藝術　五
新中學毛筆畫　七八
信中碑文錄　一五七
清朝書畫一覽　四七
新鄭彝器　一四三・一六〇
心底抄　一一三
寢殿造りの考究　一一三
神傳八雲琴譜　一八〇
神道集と近古小說　三九
神道無念流道場壁書　二三〇
親德和歌　二六
新富街の劇を瞥見す　二二九
奉眞如法親王空海筆いろは　二六
親王位記草案　一七二
晉王羲之誓字碑　一七二
晉故振威將軍建寧太守曇府君之墓　一七二
秦李斯會稽山碑　一七二
新佛譜美學　一
新板改正大平武官信範記　三〇
新板美人繪つくし　二八
審美　九九
審美假象論　四・九五
審美極致論　一・三四
審美綱領　一・三四
新美人合自筆鏡　六五・一〇三
審美新說　一・二・三四
審美論　一一七
審美論集　二
神品百碑　一六三
人物畫を描く人へ　七七
人物作畫法　一六二
人物撮影法　七七
人物圖繪　四・九五
人物略畫　一・三四
新舞踊劇の試演に就いて　一・三四
神傳八雲琴譜　八四
隨身庭騎圖　八四
隨身騎馬人物圖　三三
水心題跋　三三
醉鴻曇君題語　一三・六二
水郷めぐり　七九
水月帖　五一
醉古帖　一七
推古より天平へ　四三
水彩畫帖　八八
水彩畫の描き方　七八
水彩寫生旅行　三九
水西莊帖　一四七
水石堂印譜　一四七
誰是美的判斷者　三六
水僊書屋印艸　三六
瑞竹圖　三六
隋唐石刻拾遺　一四三
隋皇甫府君碑　一七一
水原縣符信薩摩政府古銅印　一五三
翠釜戲畫譜　三五・七八
水府志士尺牘卷　二七
水府光圀詩　五〇
水墨畫　二
垂裕閣法帖　一四八
菘翁いろは帖　二
菘翁印譜　一四七
嵩鶴畫談　一〇・七三・一七
素謠世々之蹟　五八・六五
素謠世々の蹟と其の著者　一九七・二〇三
嵩洛訪碑日記　一九九
末次平藏・伊藤小左衞門の判決文　一六三
圖繪實鑑　三三
圖繪寶鑑續編　七一
圖畫一覽　六三
菅江眞澄集　八四
素顏のハリウツド　三四
圖畫科　七六
圖畫刊行會叢書　六五
圖畫見聞誌　六〇・六四
圖畫考　四六・五八・六五・六八
圖畫講義　七六
圖畫精意識畫論　一三・六三
圖畫精意識畫論　一三・六三
委繪百人一首　九九・一〇三
圖畫碑帖　四一
圖畫碑帖續鈔　四一
圖畫要略　七六
『菅原傳授手習鑑』　二一〇
「菅原」と「忠臣藏」の改作　二〇七
過ぎし日の音樂家　一九二
數寄屋建築　一三一
數寄屋工法集　一三一
數寄屋聚成　一三六
數寄屋寸法圖　八七
スケッチ畫集　一四八
スケッチ作畫法　一三
資熙和歌短册　一三
助六淨瑠璃年代考　一九七・二〇六

助六は下劣か　二九
スコアの讀み方（奥熊二）　一八二
總譜の讀み方（服部龍太郎）　一九二
子昂大學　二四
筋書　三二・三五
鈴（能具）　二〇一
鈴木重胤筆寄日祝　四九
秀酒企乃濕濤　八四
鈴木春信　九七
圖說日本美術史　四三
スタイン氏發見の燉煌畫に就て　九五
すつるもおし　二九
周布政之助壬戌歲旦七律　五〇
スポーツ及動體撮影法　四七
須磨秋月　二九
須磨寺櫻之高札　二六
須磨寺藏平敦盛書和歌　二六
スマトラの佛教遺蹟　三三
栖家の山　八五
角田川七福遊圖　二九
隅田川雪景圖卷　九二
隅田川兩岸一覽　六五・一〇一
住吉内記粉本　五一
住吉廣賢摹駿牛圖斷片　二六
住吉廣行粉本　八五
住吉物語　八九・九一
住吉慶恩筆浩物語繪卷　三二
相撲圖　九二
相撲人圖　九二
相撲之圖式　八五
相撲見立古物金石目錄　一五四
摺師系圖　九七
摺物　七九
駿河舞　一〇〇・一〇三
圖錄繪卷物小釋　八八
洲輪の海　八四
駿府奈吾屋神社後丘出土古鏡　三三

セ

世阿彌十六部集　一九
世阿彌と其の藝術思想　一九
世阿彌の能樂論に於ける「位」の問題　一九
世阿彌の「花鏡」に就いて　一九
世阿彌筆阿古屋の松の諸　二〇一
世阿彌父子の失脚　二〇〇
世阿彌元清　二〇〇
世阿彌元清の研究　一六
西域考古圖譜　二〇五
西域南蠻美術東漸史　四三
西域發見の繪畫に見えたる服飾の研究　九四
成海九鬼先生達麿圖　七〇
青海波垣代之圖　八七
青霞館論畫絕句一百首　一三・六一
聲樂　一八一・九一
星岳畫集　七九
聲樂鑑賞法　一八二・一九二
聲樂史　八五
西樂と幸田氏と　一五四
聲畫集　九七
清河書畫舫　七九
生活最小限の住居　一〇〇・一〇三
生活的演劇化　八八
清河祕篋書畫表　八四
西夏文字宴臺訪碑　三三
星巖印譜　一〇一・一〇四・一七八・一七九
青巖竹堂翁墓銘　一六七
清儀閣金石題識　一五九
清儀閣雜詠　一三・三八
清儀閣藏器目　一六〇
西魏藏經斷片　八六
正氣歌印譜　一六〇
青邱遺稿　四九
清狂筆春風酒盃　八四
聲曲界　八四
製曲枝語　二〇〇
聲曲類纂　二〇〇
聲曲類纂補遺　一六
成蹊居士眞野氏墓銘　四三
聖賢像贊　一三
齊行記　九四
齊侯四器考釋　七〇
西湖臥遊圖題跋　八七
青在堂朔毛花果譜・制作　一三・六一
製作と理論　一八一・一九一
西山題跋　七九
成山帖　三〇
姓字彙例　四七
世子七十以後口傳　一九
世子諸署名題詠摸寫　一九
生日不受賀賦詩　一六
清修妙論帖　一三〇
青少年の映畫興行觀覽狀況調査概要　二四
整色攝影法　四七
世子六十以後申樂談儀　一九八
征清軍歌　一九五
盛衰記畫譜　一九五
西清古鑑　八五
西清續鑑　一四三・一六〇
聖像　八五
西走七卿筆短册　三五
靜潮　一九六
聖朝名畫評　四六・六一・六三
聖堂講釋の圖・寺子屋の圖　二九
西洞清賞　五一
聖德記念繪畫館壁畫集　九八
生に徹する藝術　五
青年唱歌集　一九五
齊武平九年二月古隸　二八・七一
製版印刷術　一五一
征蠻將軍李光先書　三一
清祕藏　一三・四〇
靜物作畫法　一四八
西方亞細亞の美術　二一
西洋印刷文化史　一五一
西樂史　九一
西樂と幸田氏と　一九一
聲畫集　九一
清河書畫舫　一九一
生活最小限の住居　一八三
生活的演劇化　一八三
清河祕篋書畫表　一八三
西夏文字宴臺訪碑　一八二・一八三
星巖印譜　一八三
青巖竹堂翁墓銘　一八三
清儀閣金石題識　一九一
清儀閣雜詠　一九一
清儀閣藏器目　一九一
西魏藏經斷片　一八三
正氣歌印譜　一八三
青邱遺稿　一九一
清狂筆春風酒盃　一八三
聲曲界　一八三
製曲枝語　一八三
聲曲類纂　一八三
聲曲類纂補遺　一九一
成蹊居士眞野氏墓銘　一八三
聖賢像贊　一八三
齊行記　一八三
齊侯四器考釋　一八三
西湖臥遊圖題跋　一九一
青在堂朔毛花果譜・制作　一八三
製作と理論　一八三
西山題跋　一九一
西洋音樂解說　一九一
西洋音樂概說　一九一
西洋音樂概論　一九一
西洋音樂史（石倉小三郎）　一八三
西洋音樂史（門馬直衛譯編）　一八三・一九一
西洋音樂史（湯淺永年等）　一八一・一八三
西洋音樂史概說　一八三
西洋音樂名家軼事　一八三
西洋音樂物語　一九一
西洋繪畫小史　六七
西洋畫談（司馬江漢）　二三・三五・六一・六四・六五
西洋畫談（高森觀好）　六一
西洋脚本の幕切　三九
西洋劇場史研究　三一
西洋建築圖集　一三六
西洋工藝史　一三九
西洋最近美術史　四三
西洋芝居の番附　三九
西洋芝居土産　二〇五
西洋定芝居の始　二九
西洋東洋建築樣式　一三
西洋の影響を受けたる日本畫　六六
西洋版畫篇（世界美術全集）　一一
西洋美學史　二
西洋美術史（玉置邁）　四三
西洋美術史（森谷延雄）　四三・一五二
西洋美術史（ライナック）　四二・四三
西洋美術史研究資料　八七

西洋美術史講話　四三
西洋美術史要（岩村透）　四三
西洋美術史要（板垣鷹穗）　四三
西洋美術讀本　五
西洋美術に於ける東洋的要素　三五・三六
西洋名畫解說　八七
西洋名彫刻　二九
成陽靈臺碑　一五九
西琳寺流記　一三三
清麗集　六四
正隸千字文　二〇・二四
青樓上草履　二四
青樓藝者撰いつとみ之圖　九八
青樓十二時　一〇一
青樓仁和嘉女藝者之部　一〇一
青樓年中行事　一〇〇・一〇三
青樓美人合姿鏡　六五・九九
蜻蛉　一四一
征露詔敕印譜　一七九
青灣茗醾圖誌　八・八四五
青灣茗醾書畫展觀錄　八
世界印刷通史　一五一
世界印刷文化史年表　一五一
世界映畫藝術發達史　二三四
世界音樂　一九六
世界音樂講座　一八一・一九一
世界藝術發達史　四三
世界建築集成支那建築　二六六
世界工藝美術物語　二六六
世界寫眞圖說　一三〇
世界出版美術史　一五一
世界大音樂家訪問記　一八三
世界大戰後に於ける繪畫の展望　三六・九五
世界に類例の無い我が芝居繪の價值　九六・二一七
世界の名畫　六七
世界美術史　四三
世界美術全集　一〇・一一
世界美術全集總索引　一一
世界美術年表　一一
世界文藝映畫傑作集　二三四
世界名畫物語　五八
瀨川菊之丞舞臺姿之圖　九八
石隱硯談　一四・一五五
石印集說　一七五
夕雨俗話　一九五
赤外線寫眞　一四九
關ヶ原合戰繪卷　九三
石渠隨筆　五三
拙言錄　一二六
積古齋鐘鼎彝器款識　一六〇
積古齋藏器目　一六〇
續語堂論印彙錄　一三・一七五
石山齋茶具圖譜　六四
昔時の錦繪草紙問屋　三三
石泉書屋藏器目　一六〇
石鼓　二
雪治藏印影　一七八
攝州今宮蛭子境内ニテ熊野三山御富興行場所圖　二九
雪舟畫集　二九
雪舟畫像　二三・五一
雪舟流及雲谷派繪畫　二七
雪村所摹牧溪玉澗八景　一六・一七・八五
雪中美人と若衆之圖　七五
攝津摠衣之玉川　一六三
攝津廣濟寺集林子位牌　五三
攝津守正敦悼歌　一三
說案　七三
雪堂墨品　五八
節分豆打圖考　二
攝陽奇觀　一三三
瀨戶窯系圖　一三四
責馬之圖　一〇七
施藥院請物文書　五四
施藥院勸學院印　一二
世話千字文（爲窓）　一四七
世話千字文（篠崎小竹）　五九
世話千字文（聚玉堂）　一六三
世話物略史　一六三
泉貨鑑　一六三
前漢曹參墓誌銘　一九五
前九年繪卷　一三五
先賢遺芳　一三二
錢譜益屬面　一七二
前賢故實　一三・一五五
石帶（拓本）　二三・一七二
石亭畫談　一七八
釋奠器圖篇　一三四
尺牘三種　一四・一五五
尺牘・文書等　一七五
石譜　一七五
石佛所在地圖　一九五
石聘君六六山人墓誌銘　一四九
石法十八銖　九三
石墨鐫華　五三
石門題跋　一六〇
石友贊　一六〇
セザンヌ　一一
セザンヌ以後　二三四
世尊寺侍從行李二十ケ條追加　二三
世尊寺大納言行成卿書　一四・一五五
世尊寺法書　一七五
世尊寺累代能書人々現過錄　一九五
攝河泉金石文　一六〇
石器時代の美術　九三
雪景及山岳撮影法　五三
石經閣金石跋文　一六〇
石經考（市島謙齋）　一六〇
石經考（顧炎武）　一六〇
石經考（萬斯同）　一六〇
石經考異　一六〇
石經殘碑　二三四
設計圖案集　一七二
石經毛詩　一六〇
說硯　二
前賢肖像　九二
善光寺　二三〇・二三四
善光寺緣起繪　二九
戰國時代武將の印章　二四
千歲香・萬金丹商標　三二
泉志　一六一
泉志校誤　一六一
先史時代の美術　一〇
千字文（孫不顯）　二一〇・二四
千字文（學古堂）　一五五
千字文（韓濩）　一六
千字文（谷鎭臣藏本）　一五五
千字文（源君岳）　一六
千字文（陽守敬）　一六
千字文大全　一六〇
千字文斷簡　一六八
千社札一種　三〇
選集漢印分韻　一八〇
泉州木寺氏藏慈眼大師書　二六
泉州堺と能樂　一〇〇
泉州米田村久米仙人寺瓦當　三三
染織及服飾篇（世界美術全集）　一二
染色界の恩人畫師友禪　一四六
染織史考　一四六
染織と風俗　一四六
染色文樣史の研究　一四六
先人遺墨　一三〇
先秦時代の美術　一二
前塵夢影錄　一三・四一
扇子勳功誌繪抄　一二四

選青閣藏器目　一六〇
禪竹集　一九八
禪竹文正應仁記　一九八
煎茶醉古雜略　三一
禪茶錄　三一・三五
先哲遺芳　一二七
先哲遺墨集　五二
先哲書影　一二七
錢塘臨清逸題研銘　二
宣德九年在銘馬牌　二
宣德鼎彝譜　二三・二四
宣和書譜　七一
宣和博古圖其他金石書解題　一元
宣和博古圖錄　一四三・一六〇
宣和論畫雜評　一四六・一六一
錢譜　一五六・一六一
禪風申樂談儀　一九七
錢幣略記　一五六
千蹤亭古塼圖釋　一六四
禪風習道目錄　一九九
前北齋卍翁著彩色通之一　一五六
扇面形平仄式　一元
扇面形和歌　三一
扇面古寫經　九九
扇面寫經　九九
扇面相撲番附小切　二四
旋律作曲法　一六二
宣爐歌註　一三一・一四二
錢錄　一五六・一六〇・一六二
宣爐博論　一三一・一四二

ソ

草藁　一一〇
曾威毅伯手札　一一三
帥雲印譜　一〇一・一七九
增女　二〇一
總州小金原御鹿狩圖　五二
曹繪畫韻　七三
宋畫華譜　五二
雙鶴瓦譜　一五七・一七〇
造花實習　一五三
造花術全書　一五三
草花粉本　八五
雙眼寫眞法　一四七
增感法と鈍感法　一四八
創業五十年誌　一五一
掃雪庵　一五一
曹全碑　一五五
雙倉北雜物田用帳　一八七
創造藝術　一九〇
造像銘記　一九〇
早大演劇博物館開館五周年　一三四
記念特別展覽會目錄　一六三
宋代金文篆錄表　一六三
宋拓顏魯公大麻姑仙壇記　一六三
宗達畫集　一六三
宋朝詩人圖贊　一一〇
叢傳抄　一〇一・一四三
宋故龍驤將軍護鎭蠻校尉寧　一四二
州刺史邛都縣侯墓使君之碑　一七二
「外濱奇勝」　八五
率土が濱つたひ　八四
創作戲曲　一六〇
創作圖案集　一八三
草字彙　一九八
造寺司請沙金文書　一一三
曹氏墨林　一五六
相州高座郡星谷村飯島家所　一〇一・一七九・一九二
傳鞍　二〇一
總州小金原御鹿狩圖　五二
草書韻會　七三
草書淵海　一五七・一七〇
裝飾圖案法　一五三
速成書法實行論　一五三
草書習字本　八五
草書千字文　二一〇
草書大字典　一四七
草心樓讀書集　一四八
掃雪庵　一五一
曹全碑　一五五
雙倉北雜物田用帳　一八七
創造藝術　一九〇
造像銘記　一九〇
早大演劇博物館開館五周年　一三四
記念特別展覽會目錄　一六三
宋代金文篆錄表　一六三
宋拓顏魯公大麻姑仙壇記　一六三
宗達畫集　一六三
宋朝詩人圖贊　一一〇
叢傳抄　一〇一・一四三
宋故龍驤將軍護鎭蠻校尉寧　一四二
州刺史邛都縣侯墓使君之碑　一七二
「外濱奇勝」　八五
率土が濱つたひ　八四
宋政和禮器文字攷　一六〇
宋版經文音義三種　一三三
宋版大藏經函銘　二〇
宋版焚薪經斷片　二八
總譜（スコア）の讀み方　一九二・二〇五
曾文正公手札　八五
漱芳閣書畫記　一三三
漱芳閣書畫銘心錄　五三・六四・六五
增補浮世繪類考　九七
增補華布便覽　一八〇
增補考古畫譜　一四六
增補尚古年表　一六〇
增補事類統編音樂部　一三五
增補日本金石年表　一五四
草木花詩譜　八〇
霜夜學談　一九五
爽籟館欣賞　五一・七九
蒼浪閣印譜　一〇・四八・一七九
草露貫珠　一一〇
藏六菴記　一六七
副島種臣書　一九七
副嶋伯種臣筆靈雨既云零　五〇
續印人傳　一七六・一七七
續浮世繪類考　九七
素空公墨蘭畫存　八五
續學古編　一七四・一七五・一七六
續畫品　一四・四六・六二・六三
續畫品錄　一四・四六・六二・六三
續近世叢語　六五・六八
續群書類從管絃部　八三
續古泉大全　一五六
續三十五擧（桂馥）　一三・一七五・一九六
續三十五擧（黃子高）　一三・一七五
續收書畫奇物記　五三
續書品　一〇七
續書譜　四六・一〇九・一二三
速成畫法　六六
速成書法講義　一二三
速成書法實行論　一二三
續續歌舞伎年代記　二〇七
續園菊以後　二一〇
續茶器備討集　三
續長崎畫人傳　六五・六八
續耳塵集　三一
續文房圖贊　五五
足本芥子園畫譜　六六・七九
續本朝畫史　四六・六五・六八
續梁塵要錄抄　一八三・一八四
續論畫詩　一六三
蘇齋唐碑選　一六三
蘇氏印略　一八〇
蘇州寒山寺楓橋夜泊詩碑　二六・一七一
蘇東坡紀年　三一
蘇東坡壽老　六八
楚塔賀濱風　八四

卒堵婆小町合評より　二九
曾根崎心中劇の變遷　二〇八
蘭・井上兩家及び井上家の文　二〇〇
書に就いて　六六・一〇六
その頃の染織美術　二〇五
ソヴエト演劇の印象　四三
ソヴエト藝術の二十年　六六
ソヴエートロシアの藝術　二
素描篇（世界美術全集）　一六四
蘇米齋蘭亭攷　九
塑壁殘影　二六
祖徠印譜　一〇・四八・一七九
祖徠假名帖　二〇
祖徠先生天狗說　二〇
それからそれ　二〇
尊圓親王秋田ノ和歌短册　二一
尊圓親王和歌　二三
孫虔禮書譜　一四〇
孫子養正樓印存　一四〇

タ

大安寺大鏡　一八・一九・二六
大安寺伽藍緣起並流記資財帳　八
大安寺碑文一首並序　一五七
體育ダンス論　一八三
第一回應募脚本の選拔にて　二六
大永鈔本論語集解　二四
對外關係美術史料年表　一九
對外史料美術大觀　八
大學石經　一六三
大家笛血脈　一八四・一八七
大雅堂　七〇
大雅堂楷書千字文　二四
大雅堂書譜　一〇・八五
大雅堂作印（萬物一馬）　三六・一七九
大雅堂山水樹石畫譜　八五
大歌舞伎外題年鑑　二〇六
大觀作品集　八五
大觀錄　五三・六二・二五
體源鈔　八七
太閤記金賦之事　一五六
太閤書翰　二四
太閤武者立內野備　二三
大黑　二〇一
大黑天像　二六
醍醐寺五重塔板繪に就て　三七・九五
醍醐寺五重塔の文樣に就いて　三七
醍醐寺殘瓦　三一
醍醐寺什寶品目　八
醍醐寺の研究　三六
醍醐寺の如意輪と藥師像　三七
醍醐寺美術關係年表　三七
醍醐寺靈寶集　二四
醍醐の花見　三六
太鼓夕顏　二〇一
對山印譜　一〇・七三・一七九
對山印譜補　一〇・七三・一七九
泰山經石峪磨崖金剛經殘字　一二三
泰山石刻殘石　一二三
泰山磨崖碑　一六三
大宇結構八十四法　一〇五
臺子圖　三三
第七至九・十二回臨時議會衆　一七七
議院席次表　二三三
大捷軍歌　一二七
題紹興六年墨敕後　元
大正記云々ノ文書　一九四
大正五年競技設計圖案集　三一
大正五年の我が劇壇　二四
大滌子題畫詩跋　二六
對照世界美術年表　五五
大小鼓筒面箱・祕傳書箱　三三
大正天皇宸翰　元
大正天皇宸筆　二三
大正二年三月飛雲閣茶會目錄　一〇五
大乘佛教藝術史の研究　八〇
大しよくはん　一一八
大秦景教流行中國碑　一一八
大震災より得たる教訓　二五
大臣圖　八五
大成陶誌　八五
泰西美學史　一九五
泰西名畫家傳　一五〇
泰西名作集　一八
體操一斑　三三
大蘇芳年　一二六
大智院殿芳墨詩歌　一五〇
大智禪師碑　一二
大通寺書院　一二
大唐王居士甎塔銘　一二
類廢しつゝある我が木版術　九七
太白堂孤月發句椿山畫　二六
大般若經　三三
大嚢簍小嚢簍考　一八七
代表的型物　二三三
大佛師運慶　一二七
大平記云々ノ文書　元
太平御覽樂部　一九四
泰平震華鑒要　三一
泰平御代藍　二四
大方廣佛花嚴經　二六
大墨鴻壺詩集　五五
大名の借金證文　三三
太陽を慕ふ者　元
太陽の畫論　二四
平重盛畫像　八〇
平重盛書狀斷片　一一八
平信範書狀　一一八
內裏圖　二五
對柳居畫譜　八五
對體餘藻　二一〇
臺灣及琉球の音樂に就きて　一九五
臺灣寫眞帖　一五〇
臺灣の原始藝術　一八
臺灣發行彩票　三三
臺灣蕃族工藝圖說　一二六
臺灣名所寫眞帖　一五〇
當麻中將姬まんだらの　二〇五・二一三
由來　一八・一二六
當麻寺大鏡　一八・一二六

當麻曼陀羅緣起　八九・九二
高城胤辰同胤則捺印　一三
高國入道道永書　一三
高島秋帆筆繞瓊山款往事　四九
多賀城古趾の圖　二七
多賀城碑　一六七
多賀城碑發見紀事　一五七
高杉東行筆與愛妾宇乃書　三〇
高野長英先生遺墨　一三〇
高橋家御藏品入札目錄　四九
高橋石齋之碑　七
高久靄厓四君畫册　一六七
高松日記　一〇・八五
高松松平家藏書印　八四
高間筆子詩畫集　二五
鷹見十郎左衞門肖像　八八
隆光達シ書　三
高屋連枚人墓誌　三
高山仲繩遺墨　二〇・二一・六七
高山彦九郎家田の書置　一三
高山彦九郎の借用證文　一三
高山彦九郎正之日記斷片　三
高山正之筆哀傷　三五
高山正之和歌　三五
寶船　三五
瀧尾山塔銘　一八
薪猿樂　一〇
瀧澤馬琴遺愛芳流ノ額字　二〇〇
瀧澤馬琴遺愛屋島燒陶枕　二六
瀧澤馬琴墓銘　二六・六七
打毬圖　九二
打球之圖　九二
澤庵和尙詩　二一
澤庵和尙詩歌　二一
澤庵和尙傳來高卓圖取　二六
澤庵和尙の絕筆　三三
田口朋良藏古器物圖　八
拓本陳列目錄　一六三
武田勝賴の感狀　三三
武田機關座　二〇八・二〇九
武田耕雲齋筆蘭墨竹　四九
武田信玄揮毫の指物　三三
武田信玄の遺言狀　三三
武田信玄和睦の書面　三三
武田晴信畫像　八〇
武市瑞山筆安政五年夏日所畫墨竹　三〇
武市半平太獄裡の戲畫　三三
竹取物語圖　九二
竹內式部ニ就テ吉田東伍氏ノ考證　二七
竹內百太郎筆福田宛尺牘　四九
竹乃里人手形　三〇
竹之亟　二七
竹の屋劇評集　二〇六
竹本劇と其作家　一一三
竹本攝津大掾　一九〇・二〇九
竹本豐竹淨瑠璃譜　一八三
多胡碑　四六・五五・六八
多胡碑幕刻竝考證　九二
太政官札・民部省札　五五
糺河原勸進猿樂日記　六五・六八
多田親愛翁遺墨立春帖　三六
橘逸勢筆眞跡　三三
橘逸勢筆伊都內親王願文　三四
橘守部筆蹟　一七
立原杏所筆無花無酒過晴明　三
立美人之圖　六三
伊達安藝家臣の血判狀　八五
伊達綱宗公家寶刀　四九
伊達綱宗の自像畫　三三
伊達正宗消息　三三
伊達正宗城の東京日記　三三
伊達宗城筆九月盡　八〇
田中軍太郎筆千嶽萬峯春已幽　一〇・一一三
田中青山伯影像　三
田中伯筆東行高杉晉作獄中の作　一七
田中良舞臺裝置圖集　四九
たなくひあはせ　三
谷文晁翁之記　五五
谷文晁筆闍魔王廳　六五・六八
谷文晁本朝畫纂大全　三六
種板及印畫の失敗と其救濟法　一四八
田能村竹田全集　六三
多賓塔　一三〇・一三四
玉蟲厨子圖　一七
玉蟲厨子に關する考察　二・四二
田丸稻之衞門筆寄齋藤監物尺牘　一四
田道ノ碑　三
田宮如雲筆詠諸葛武侯　二〇
爲恭筆重盛諫言圖　八五
爲永春水自筆草稿　三六
陁羅尼集經　三
熾仁親王印譜　三五
達磨屋吾一自筆小切　三
たわむれ功能草　三
田原阪戰捷碑　八五
濃圖題跋　一六七
丹鶴圖譜　三三
短歌と民謠　三三
斷簡一則　二
團菊以後　二四九
恥奇漫錄　二四九
端溪硯坑記　八
端溪硯坑考　二〇六
端溪研坑考　一四・一五五
端溪硯史　一五五
端溪硯石考　二三
端溪硯譜　一四一
談藝錄　六五・七〇
段氏述筆法　三三
國洲百話　六八・七九
國十郎異聞　二一〇
國十郎が創めた荒事　二一〇
國十郎の芝居　二一〇
丹青一斑　一三・一五五
丹青志　一四一
丹青若木集　四六・五五・六八
談石　一三
端石擬　五五
膽大小心錄　六五・六八
談談藝術運動　三六
壇の浦海戰圖　三三
壇ノ浦戰兵船圖　二四
丹波桑田郡田雲村田雲社狛犬圖　三五
斷碑　一七三
探幽印譜　一〇・七三・一七九

チ

近頃の劇の面白からぬ理由　二一九
近松が音樂上に於ける大集成　一九〇・二〇八
近松が世話淨瑠璃の初作　一九七・二〇六
近松忌　二〇六
近松研究の過去と將來の命題　二〇七
近松研究の手引　一九七・二〇六
近松作の歌舞伎狂言　二〇八
近松時代の大阪の遊里及び遊女　二〇六
近松縱談　二〇六
近松淨瑠璃曲年表　一九〇
近松對シェークスピヤ對イプセン　二一〇
近松著作雜考　一九七・二〇六
近松と山本角太夫　二〇六

近松人形淨瑠璃の研究　一九〇・二〇六
近松の脚本　一九七・二〇六
近松の作品　二〇六
近松の時代淨瑠璃　二〇七
近松の新改作　二一〇
近松の用ひし自誓の詞　一九七・二〇六
近松ペーヂェント　二四
近松門左衞門平家女護島草稿　二四
竹塢寫朱竹圖　三三
蓄音機の知識　一九五
筑後國印アル古文書　二〇
筑後の美麗田樂　二〇一・二〇七
ちくさ　一四一
千種有功筆墨梅　四九
千草結び色葉八卦　二一七
竹人錄　一三・一五二
筑前誓固殘瓦　三三
筑前宗像碑阿彌陀經　一六七
竹田印譜　一〇・六三・七三・一七九
竹田翁尺牘　三三
竹田歌集　四四
竹田畫譜　八五
竹田居士略傳　六三・七〇
竹田詩集　四四
竹田自筆ノ讒　三三
竹田莊師友畫錄　六三・六五・六六
竹田莊詩話　四四
竹田莊茶說　四四
竹田莊泡茶訣　四四
竹田文集　四四
竹田布衣詞　四四
竹洞印譜　一〇・七三・一七九
竹洞畫稿　八五
竹洞畫論　六二・六四・六五
竹派（吳鎭）　七一
竹派（蓮儒）　七一
竹譜（李衍）　三・一六
竹譜（胡正言）　五一
竹豐故事　一九〇・一九一・二〇九
竹嶼畫牘　三六二
竹嶼畫牘附錄　三三
竹嶼續畫牘　三三
竹嶼墨君題語　三六二
竹里畫者詩　三三・七一
ちしまのいそ　八五
智誌磨濃膽岨　八五
知新帖　三三
致全國藝術界書　三六
智泉本圖相の研究　三七
秩父三十四所御寶印影　一七
茅根伊豫之介筆學校意見　四八
千葉郡太郎筆父君宛尺牘　四八
千葉縣滑川家・茨城縣神原家・小原家所藏品入札目錄　七
千春筆薩摩糸雛縮封筒　二六
西藏の美術　一一
地方能樂の片影　二〇〇
地方舞踊の危機　二〇八・二三三
茶經　一三
茶家印譜　一〇・四八・一七九
茶器圖　七
茶器辨玉集　六七
茶式建築及庭園　三
茶室構造　九五
茶室構造圖解　一三・六一
茶室構造建圖　八五
茶室構造法　五三
茶室寸法繪圖　三一
茶室庭園書帖　一四三
茶室と茶庭圖解　二五
茶室の思想的背景と其構成　一三
茶人花押藪　一七二
茶席墨蹟宗派圖　一四三
茶席墨蹟宗派圖續　一四三
茶席墨寶祖傳考　八五
茶說　三三
茶箋　三六
茶道一會集　三七
茶道歌五十首　五三
茶道五宗匠茶道系譜　一三
茶道總系圖　三三
茶道の政道の助となるべきを論へる文　八九・九二
茶道要訣茶室構造法　一八
茶の書　一三
茶の湯　二一
茶の湯茶碗類　一三
茶の湯日々草　一五一
茶番狂言早合點　一五一
茶番三階圖繪　一四四
茶番由來　四〇
チヤムの美術　三
茶碗目利之次第　三六
中央亞細亞の美術　三三
中央美術　三三
註解千字文　三三
中學畫手本　三三
忠義王事兵の檄文　三三
中級寫眞術　三六
中京能樂記　三三
書錦堂記　三三
中空鍥　一七
中古戲場說　三三
中國繪畫史　二一〇
中國畫的特色　三三
中國畫與西洋畫　一四
中國雕板源流考　一三
中國陶瓷史　一四五
中國美術年表　三三
中國明器　二六
中州金石目錄　三
忠臣藏（浮世繪）　一〇三
忠臣藏狂畫十二段　八五
忠臣藏四段目の由良之助役　二〇七
中世思想より見たる美の哲學　二
中世獨逸演劇史　二〇七
中世の建築　一三
中尊寺大觀　一四
中等習字教本　一〇三
中等日本臨畫帖　二一六
駐蹕之碑　一九九
忠愍公手書　一一
中平三年造雙魚洗　一四四
忠勇軍歌集　一一
中麓畫品　一一
朝雲帖　四一
張憶娘薈花圖卷題詠　一一六
張公碑　七六
彫工名譜　二一〇
徵古畫傳　六三
彫刻及提影術　三六
彫刻と生命　三六
彫刻の話　一四五
徵古圖錄　四三
帖史　一四三
張之洞ノ計　一九五
鳥獸人物畫卷　一〇三
長春閣鑒賞　八五
趙子昂眞書九十二法　一八
長頭丸（松永貞德）長歌　一一三
帖箋　一一三
朝鮮印刷史　一一三
朝鮮活字印刷資料展觀目錄　一五一
朝鮮活字見本　一五一

朝鮮金石總覽　一四四
朝鮮建築　一三六
朝鮮國贈嘉善大夫吏曹參判韓公師說墓誌銘　一三二
朝鮮古蹟圖譜　一八・七九・二元・二六
朝鮮國寶大觀　八
朝鮮戶籍簿　二七
朝鮮古文書　三
朝鮮三國時代の美術　二
朝鮮使節送迎船　三三
朝鮮時代繪畫　八
朝鮮時代城郭・壇及廟祀・學校及文廟・客舍・史庫・書院及先儒住宅・王陵　八
朝鮮時代陶器　八
朝鮮時代の美術　二一
朝鮮時代佛寺建築　八
朝鮮寫本錦繡段跋文　三二
朝鮮鐘寫眞集　一四三・一五五
朝鮮書道史　一〇八・二六
朝鮮書道菁華　一八
朝鮮總督府博物館陳列品圖鑑　一六・二九
朝鮮總督府博物館報　三九
朝鮮奏文　二三四
朝鮮朝景福・昌德・昌慶・慶熙四宮の建造物　八
朝鮮陶器について　三五・一四四
朝鮮の歌と滿洲の歌　一九五
朝鮮李王家の古樂舞　一八七
銕筆集說　一七五
銕壁岩禪師書釋文　三
鐵炮洲燈籠略圖　八六
鐵網珊瑚　五三・六二・二五
手習仕用集　二三
手前味噌　二一〇
天一閣北宋石鼓文　二四
篆印發徵　二一三・二五・一六
電影的神奇　三六
田園生活者の住家　一三
天海僧正書　二
天海僧正補任狀　二
篆學瑣著　一五二・一六
田樂史　一九七・二〇三・二〇六
篆學指南　一三・一五・一六
田樂法師由來之事　二〇二
傳華山筆高島秋帆洋式練兵之圖　一七
傳成陽宮古瓦　二六
傳奇作書　二一〇・二一
傳記大日本史學藝篇　一五
傳敎大師戒牒　三
傳敎大師御繪傳　九二
傳敎大師と弘法大師　三七
天狗の詫狀　三三
天竺　二九
天竺地獄圖　八六
篆刻思源　一六
篆刻十三略　一五・一六
篆刻鍼度　一六
傳古別錄　一三・一九
天際烏雲帖攷　一三・二三五
傳慈圓書狀　二八
墳詞圖譜　六四
天治本催馬樂抄　八七
天壽國曼荼羅銘文考　一四
天壽隨筆　一五
天壤閣雜記　三・一九
天正二年筱香記　八
天正二年七月二十九日付古文書　三
天正四年近江安土版來朝唐人圖　三七
天正十五年十一月二十日付古文書　三三
天正十八年七月秀吉下知狀　三一
天正十八十二月二十九日付算用狀之事　三三
天章筆杞憂菴雜咏百二十八首之一　四九
篆書唐詩選五言絕句　二一〇
天神緣起繪卷　一四
天心全集　一四
天心先生歐文著書抄譯　一四
天心先生追想錄　一四
天心先生年譜　一四
天心先生略傳　一四
傳神祕要　一三・一六
傳神餘事　九五
天心略傳・年譜　一四
傳住吉慶恩筆平治物語畫卷　三〇
天平寶字六年八月十八日付田券　三五
傳藤原忠通書狀　二八
天保四年正倉院御寶物目錄　八
天保十三年十月十二日禁中ヨリ拜領ノ奉書包　三五
天保十四年九月上覽相撲勝負附　三
天保通寶錢母　三・一五六
天保の改革と質屋仲間　三三
傳坊門局消息　二八
天佑帷　一三六
篆林捷徑　一一〇
篆隸千字文　一一〇
天平寶字六年八月十八日付田券　一八七
傳藤原忠通書狀　二一三
天保四年正倉院御寶物目錄　一〇七
天保十三年十月十二日禁中ヨリ拜領ノ奉書包　三五
天保十四年九月上覽相撲勝負附　一〇三
天保通寶錢母　一四八
天保の改革と質屋仲間　二五
傳坊門局消息　四八
天佑帷　三三
篆林捷徑　三三
篆隸千字文　三〇・三四

ト

獨逸演劇史　二〇七
獨逸皇帝退位の勅書　三三
獨逸の劇場年報　二九
獨逸の新戲曲　二九
獨逸文吉雄幸載・檜林宗建傳　二四
土肥賴時翁百壽字塔　一三〇・二三四
東亞錢志　一六一
唐阿郎夫人墓誌銘　三・七二
東亞美術史綱　四三
闘飮圖卷　八六
蕩除令張遷碑　二四
桐陰論畫　三三
東藥戲臺之圖　二六・二一七
東叡山諸堂建立記　一三三
東瀛珠光　一八
道惠尺牘　三三
唐永隆鐘銘　二〇・一七一
唐王勃集殘卷　二三
唐阿蘭陀持渡金銀錢圖鑑　一五六
冬花庵題畫絕句　一四・六二
唐解元倣古今畫譜　八〇・八六
東海道五十三驛續畫　一〇三
東海道五十三驛道中細見雙六　一〇三
東海道五十三次（岸畑瀧山）　八八
東海道五十三次（水島禪保布）　八八
東海道五十三次繪卷　九
東海道勝景　一〇・八六
東海道摺扇法一班　一〇五・一五一
東海道膝栗毛畫帖　八六
東海道名所圖橫濱風景　三〇・一〇三
陶界謎の人高原五郎七　一四五
唐樂曲譜　一九四
東郭散人七絕　二五
董華亭書畫錄　五三
桃華老人申樂後證記　一九七・一九八
唐官女之圖卷　九二
鄧完白篆　三〇
東觀餘論　四六・一〇九・一二五
銅器　一四三
トーキー　二三四
トーキー映畫館の構成について　一三一

長曾我部元親筆鐵砲濫出の禁制書　二四
張長史十二意筆法　一三二
重定金石契　一五六
重定續三十五舉　一七・一七六
朝堂院殘瓦　三三
張白雲選名公扇譜　八〇
長物志　一四〇
張平山筆故門之圖　三〇
朝陽閣鑑賞錦繡帖　一〇・一四六
朝陽閣集古　一二八
重立漢武氏祠石記　一七一
長祿三年上宮王院地子枡銘　一三・一六八
直現藝術論　五
直入畫集　八六
勅封藏開檢目錄　八
勅諭四體帖　一一〇
千代の友つる　一〇三
千代見草　二一〇
貯目出腕錄　八六
褚摹袖珍蘭亭序　一三三
散シ書消息　一三三
智蓮獨入眞蹟　一三一
椿岳漫畫　八六
陳觀帖　五一
珍奇集　三三
陳賢筆觀音圖　七七
椿山印譜　一〇・七三・一七九
椿山畫譜　一〇・八六
椿山先生柳溪尺牘　一三四
鎭西公神像　三〇
鎭西八郎爲朝ノ矢ノ根　二三
陳簠齋文筆記附手札　一七二・一七六
陳簠齋傳古別錄　一〇六
陳眉公重訂書品　一四四〇

ツ

追賛一話　一〇・一四六
通俗美學講話　一六二
塚原卜傳家名招牌　七一
津可呂の奥　一〇三
都介呂迺遠地　一三三
追柯呂能迺度　二七・七一
つきかけ　一三三
月影帖目錄　一三四
月草の紋　一七九
築地小劇場　一三五
月夕のあそび　一六二
築島　一三三
月出羽道　一三三
月迺遠呂智泥　一三一
黃楊古櫛圖　八六
對馬住吉神社神寶曲玉圖　八九・九二
土蜘蛛雙紙　一六五
筒井吉十郎鎗踊之圖　七一
筒井城圖　一五六
筒井夔溪筆苦惱世上誹歌百首　六一・六四・六五
帝室博物館鑑賞錄　一四三・一五五
帝室博物館圖錄　一八
帝室博物館藏釋奠器圖篇　一二
帝室博物館特別展覽會列品目錄　一六八
帝室博物館年報　一六五
帝室博物館復興翼贊會事業報告　一六五
貞松堂集古遺文（補遺・續編共）　一六〇
貞松堂藏吉金墨本　一六〇・七一
テイチアン　七一
貞德狂歌集　一〇三
鄭板橋四子書眞蹟　一三三
鄭板橋潤例　二七・七一
鄭板橋先生眞墨　一三三
鄭板橋墨蹟　一三四
定武樓印彙　一七九
丁酉以來寓目記　一五二
程幼博墨苑　一五五
鼎錄　一四二・一六〇
テイントレット　七二
適應觀衆的心理與偉大的創作　一六六
手鳴堵庵像　八六
緩遺齋彝器款識考釋　一六〇
鐵雲藏龜　一六五
鐵圓畫談　一六八
鐵翁畫談　六一・六四・六五
鐵橋金石跋　一五九
鐵石印譜　一〇・一六八・一七九

テ

庭園篇（世界美術全集）　一一
定家卿眞蹟小倉色紙　一六・一七
定家卿筆諫口訣　一一三
定家卿和歌　一三三
定家消息　一一二
定家の歌に於ける象徵性　二〇八
鄭季宣碑碑側　一七二
鼎錄　一四二・一六〇
テイントレット　七二
適應觀衆的心理與偉大的創作　一六六
手鳴堵庵像　八六
緩遺齋彝器款識考釋　一六〇
鐵雲藏龜　一六五
鐵圓畫談　一六八
鐵翁畫談　六一・六四・六五
鐵橋金石跋　一五九
鐵石印譜　一〇・一六八・一七九
帝室博物館鑑賞錄　一四三・一五五
帝室博物館圖錄　一八
帝室博物館藏釋奠器圖篇　一二
帝室博物館特別展覽會列品目錄　一六八
帝室博物館年報　一六五
帝室博物館復興翼贊會事業報告　一六五
貞松堂集古遺文（補遺・續編共）　一六〇
貞松堂藏吉金墨本　一六〇・七一
テイチアン　七一
貞德狂歌集　一〇三
鄭板橋四子書眞蹟　一三三
鄭板橋潤例　二七・七一
鄭板橋先生眞墨　一三三
鄭板橋墨蹟　一三四
定武樓印彙　一七九
丁酉以來寓目記　一五二
程幼博墨苑　一五五
鼎錄　一四二・一六〇
テイントレット　七二
適應觀衆的心理與偉大的創作　一六六
手鳴堵庵像　八六
緩遺齋彝器款識考釋　一六〇
鐵雲藏龜　一六五
鐵圓畫談　一六八
鐵翁畫談　六一・六四・六五
鐵橋金石跋　一五九
鐵石印譜　一〇・一六八・一七九

トーキー日本帝國史　二三五
陶器考　一四五
陶器辭典　一四五
陶器小志　一四五
董其昌書・米芾書　二六
陶器圖鑑　一四五
陶器樂草　一四五
銅器銘文　二
陶器燒附畫工祕傳新書　一四五
東京演藝地圖　二三
東京救火六十隊伍目標　三
東京近郊寫眞の一日　一四九
東京劇壇の現況と外國劇界の趨勢　二一〇
東京古跡誌　五七
東京市都市形態の變遷　二三
東京寫眞研究會第二回品評會畫集　一五〇
東京地誌繪畫寫眞索引　六三・一四九
東京帝室博物館講演集　三・三七
東京帝室博物館美術課列品繪畫彫刻目錄　六三・一六六
東京帝室博物館美術課列品建築目錄　二三三
東京帝室博物館美術課列品寫眞目錄　一四九
東京帝室博物館美術課列品書蹟目錄　一〇七
東京帝室博物館美術課列品目錄　八
東京帝室博物館美術工藝部目錄　一三五
東洲齋寫樂　一三七
洞簫曲　一三七
道成寺（繪卷）　一三七
道成寺（諸本）　二一四
道成寺緣起　九八
道成寺藝術の展開　二一七
道成寺鐘銘　一〇三
道招提寺大鏡　八六
道招提寺金堂　一六
道招提寺寶物冊銘　一四五
唐昭陵石蹟考略　九六
唐書日書文字次第　一四二・一六二
唐人及唐船　一四二
冬心畫梅題記　一四二
冬心畫馬題記　一四二
冬心畫佛題記　一四二
討清軍歌　一四二
冬心自寫眞題記　一四二
唐人寫經四種　一四五
唐人書　二〇一
冬心先生畫記五種　二五
冬心先生畫竹題記　一四二
冬心先生雜畫題記　一四二
冬心先生隨筆　一四二
討清珍々集　一四二
討清武勇軍歌　一〇二
東井院斷碑　三〇八
當世鄙子揃　三三
當世かもし雛形　一一
陶靖節五柳先生傳　二
當世武勇傳　二八
陶說　九七
唐石經攷異（錢大昕）　一三・一四五
唐石經攷異（馮登府）　一三五
唐石經考異補　一三五
唐船阿蘭陀船舶來金銀略圖　一五六
揚屋志　一五三
唐船入津丸荷役圖　二四
唐宋元明清書畫家人名辭書　四七
唐宋元明名畫大觀　七九
東莊論畫　一三・六一
唐大興禪寺故大德大辨正廣智三藏和尚碑銘　一七三
東大寺大鏡　一八・九・二一
東大寺戒壇院四天王像考證　二六・七〇
東大寺瓦當　八・三〇
東大寺獻物牒　八
東大寺古文書目錄　八
東大寺金銅碑文　一五五
東大寺三月堂諸佛像考證　一二六
東大寺三倉開封勘例　八
東大寺三藏御寶物御改之帳　八
東大寺什文治三年ノ銘アル拓本　二
東大寺正倉院開封記　八
東大寺正倉院古文書　三
東大寺正倉院寶物圖　八
東大寺造立供養記　一三六・一三三
東大寺大佛記　一三八
東大寺大佛堂緣起碑文　一五七
東大寺大佛の頭頂を補鑄せる山田道安に就いて　七〇
東大寺大佛蓮瓣刻畫　二一・七〇
東大寺勅封藏目錄記　八
東大寺銅大燈臺銘　一五五
東大寺東塔・大極殿甬礎之圖　三
東大寺八幡宮所藏錦紋之圖　一四一
東大寺屏風獸物牒　三〇
東大寺法隆寺の美術　三七
東大寺法華堂花瓶並花舍銘　一五五
東大寺藥種獸物牒　三〇
銅鐸（拓本）　三・七〇
唐拓十七帖　一三三・二四四
銅鐸の研究　一四二・一五五
刀中子銘　三
道澄寺鐘銘　二〇・六八
唐朝名畫錄　三・四六・六三・七一
洞天清祿　四〇
洞天清祿集　一三・四〇
藤堂高敏所藏尺六種　二五
唐揚武梁祠象　一五九
遠江國濱名郡大福寺什卜部季武笈　二五
唐土奇談　二〇五
道德的美　四
東都劇場沿革誌　二〇七・二一一
東都明治演劇史　二〇九
東都三十六景　二〇二

唐賀鑒墨跡孝經　二四四
唐太宗溫泉銘　一七三
唐太宗告少林寺　一三三
唐則天武后飛白書　二六
唐陶翰贈鄭員外詩殘簡　二八
唐南陽張氏墓誌銘　二六・一七二
唐裴氏子墓誌銘並序　一七二
唐裴氏墓誌銘　二六・一七二
唐李公墓誌銘　二六・一七二
唐凌烟閣功臣畫像　二四
東坡遺蹟圖　三三
答俳優某論自愚書　二九
東坡蘇城云々詩　一七二
東坡定惠院海棠詩　三三
塔婆之研究　一三三
答評劇者某論夢幻劇書　二九
東福寺瓦當　二・二六・一七二
東福門院和歌　二
道府縣及び都市に於ける教育映畫利用狀況　二三四
道府縣・市に於ける利用映畫に關する調査　二三四
童舞抄　一九七
東方染色文化の研究　一四六
答某論劇評放實書　二九
刀法論攷　一六六
唐本蔭題集　一三三
透明陽畫　一四七
東洋小野先生遺墨　三三
東洋音樂概說　一八二
東洋繪畫叢誌　九六
東洋繪畫叢誌插畫集　八三
東洋繪畫に於ける自然　一四・九五
東洋畫解　五八
東洋畫概論　六四
東洋畫論集　六四
東洋畫論集成　四一・五六・九五・一二六
東洋藝術　六四
東洋藝術資料　一八・二五・一三六・一四三・一六二
東洋藝術に於ける宗教　一四・三七
東洋藝術の系統　三五・四三・一三〇・一三四
東洋藝術論　五一・一四
東洋建築　一三六
東洋建築史概說　一三〇・一三四
東洋建築の研究　一三〇・一三三
東洋最古代の女人畫に就て　三七・九五
童謠作曲法　一八二
東洋漆工史　一四七
東洋寫眞會第一回展覽會優等印畫帖　一五〇
當用書札集要　一三六
東洋に於ける美術鑒識の性質及價値　一四・三七
東洋の理想　一四・四三
東洋版畫篇（世界美術全集）　一一
東洋美學　二
東洋美術　四一
東洋美術研究文獻目錄　九
東洋美術史（一氏義良）　三
東洋美術史（大村西崖）　四三
東洋美術思潮　六
東洋美術史の研究　一九
東洋美術大觀　三四
東洋美術の「樣式」について　四
唐類函樂部　六四
ドガ　一四一
徒歌原始錄　一九一
ドガの「舞姫」　三
土偶土馬模型說明　一三
德川家茂長州征伐行列の圖　一三三
德川家綱書簡　三三
德川家齊直書大奧御掟　一四四
德川家光畫像　六三・六五
德川家康畫像　一三
德川家康所持の置時計　一四
德川家康生母傳通院夫人畫像　九・一三
德川時代後期世態の歷史　六六・七九・八六
德川時代後期風俗畫　六六・七九・八六
德川時代初期の社會　六六・七九
德川時代初期風俗畫　六六・七九・八六
德川時代中期の世態　七〇
德川時代中期風俗畫　九三
德川時代登城の盛觀　一四四・一四三
德川時代の音樂　二・四三
德川時代の生絲貿易　一四
德川時代の藝術と社會　一四
德川時代の梟首　九
德川時代の朱印狀　一四
德川時代の千兩箱　三
德川時代の美術　一一
德川時代民間覓換券　三
德川氏の大阪城普請丁場割見取圖　一四四
德川鶴松所用の玩具　三三
德川齊昭筆世の中に何にはあれとも　五〇
德川幕府の御船藏　三三
德川幕府の兵船天地丸　八〇
德川秀忠畫像　八〇
德川光圀畫像　五〇
德川光圀筆堀田兵部宛返翰　三四
德川慶喜自筆の附札　三三
德川慶喜朝延への歎願書　三三
德川慶喜の感狀　四九
德川慶喜筆得心應手　八〇
德川吉宗畫像　三三
德川歷代將軍の印　二九
德川實紀　三一
德川齊昭筆世の中に何には　五〇
德川幕府の御船藏　三三
德川幕府の兵船天地丸　八〇
德川秀忠畫像　八〇
德川光圀畫像　五〇
德川光圀筆堀田兵部宛返翰　三四
德川慶喜自筆の附札　三三
德川慶喜朝延への歎願書　三三
德川慶喜の感狀　四九
德川慶喜筆得心應手　八〇
德川吉宗畫像　三三
德川歷代將軍の印　二九
德川實紀　三一
德川齊昭筆世の中に何には　五〇
德川幕府の御船藏　三三
德川幕府の兵船天地丸　八〇
德川秀忠畫像　八〇
德川光圀畫像　五〇
德川光圀筆堀田兵部宛返翰　三四
德川慶喜自筆の附札　三三
德川慶喜朝延への歎願書　三三
德川慶喜の感狀　四九
德川慶喜筆得心應手　八〇
德川吉宗畫像　三三
德川歷代將軍の印　二九
德川實紀　三一
德川齊昭筆世の中に何には　五〇
德川幕府の御船藏　三三
德川幕府の兵船天地丸　八〇
德川秀忠畫像　八〇
德川光圀畫像　五〇
德川光圀筆堀田兵部宛返翰　三四
德川慶喜自筆の附札　三三
德川慶喜朝延への歎願書　三三
德川慶喜の感狀　四九
德川慶喜筆得心應手　八〇
德川吉宗畫像　三三
德川歷代將軍の印　二九
德川實紀　三一

外山正一氏の畫論を再評し て諸家の駁説に旁及す　二四
外山正一氏の畫論を駁す　二四
外山博士ノ演説ヲ讀ム　九五
豐國筆風俗版畫　二六
豐田天功筆高橋多一郎・金子孫二郎宛尺牘　五〇
豐臣時代大阪城圖　二四
豐臣時代の世相　二四
豐臣時代風俗畫　六六
豐臣與高山國書　二四
豐臣秀吉花押竝朱印　二三
豐臣秀吉畫像　八〇
豐臣秀吉北政所畫像　八〇
豐臣秀吉所持印籠圖　二五
豐臣秀吉征韓之文書　三三
豐臣秀吉に贈れる印度副王の書　三三
豐臣秀吉の拋げた明國封册文　三三
豐臣秀吉の毒繪鞍　八〇
豐臣秀吉母大政所畫像　二四
豐臣秀賴之眞蹟と其書簡　二六・二六
豐宮崎那流文庫碑　九七
鳥居清長　二六・二八
鳥居清滿芝居看板圖取　二元
鳥居强右衞門旗印　二
搗在日本朝鮮人民通譯文　三一
西ノ三月五日付古文書　六九
屠龍之技　二〇
土耳古・埃及旅行茶話　八八
土耳古畫觀　二三
トロイカ　二三
十曲湖　八四
十和田勝景畫譜　八六
鉢吟書要　三・一〇七・一〇九
曇華院宮瓦當　三三
燉煌田土品に就いて　三五
敦煌太守裴岑紀功碑　一七
敦好堂論印　一七六
燉煌祕籍留眞　一三三
遯叟雜稿　一三
敦有御記　八三

ナ

內外圖案叢書　一四一
內閣祕傳字府　一二四
內侍所御神樂部類　八七
內地で初めて觀た外國俳優のシェークスピヤ劇の印象　二一〇
內殿燕樂筆談　八六
內府本王羲之摹本　一三四
內府本左傳　二四
那翁の軍隊輸送靜　三三
永井介堂筆竹石之圖　四九
中井敬所作早稻田大學石章　三五
長唄　一九六
長唄協會々報　一九六
長唄稽古手引草　一九一
中江藤樹畫像　八八
中江藤樹書簡　二三
長岡監物筆初春待花　二三
中岡愼太郎筆嫌疑多稱察　八四
長尾秋水筆海城寒柝月生潮　八六
中川蘆雪印　二五・一七
名古屋勾欄（シバイ）續々誌　九九・一〇〇
名古屋城の金鯱　五六・六六
奈須國造碑　六六
那須國造碑考　一〇・一四七
那須國造碑釋文竝跋　一四七
那須信吾筆養父俊平宛尺牘　一四
那須與市射落の扇面　三三
那智發掘佛敎遺物の研究　四三
夏草　九九
夏の富士　三一
何故に新しき劇を必要とするか？　三三
何故に日本人が沙翁を記念するか？　二一〇
浪華擷芳譜　一〇・七九
難波色紙百人一首　八六
浪花十二月畫譜　八六
浪花人物誌　一二
浪花其末葉　一〇・一四七
浪華帖假名　一九一・二〇九
浪花の梅　二八六
難波昔語　八六
難波昔語三番續　二四
浪速名家墓所記　二三
難波屋おきた　一五七
鍋島閑叟公米艦訪問圖　一〇〇・一〇一
生成　一四九
生麥事件償金運搬の繪面　一四九
並木五瓶の傳　三一
並木正三一代咄　二〇五
泪如來損像　三
南無阿彌陀佛　三
南無妙法蓮華經淸正等銘アル拓本　二
南無阿彌陀ナル銘アル拓本　二
奈與竹物語　八六・九二
奈良繪本阿國歌舞妓　八六・二八
奈良縣高市郡志料碑銘褒狀　一五七
奈良縣名勝寫眞帖　一五〇
奈良興福寺北圓堂藏經板式　三
奈良時代及平安前期の服飾　一三〇・一三四
奈良時代の文樣　一三〇・一三四
奈良帝室博物館書蹟一覽　九一
奈良帝室博物館彫刻一覽　一〇七
奈良の落葉　一六
奈良美術史料　一六
奈良平安時代の世相　四三
奈良平安時代風俗書　六六
業平河內通　六六
鳴嶋和鼎遺墨　三五・二三
奈留美加多　三
南圓堂燈臺銘　一四一
南海普陀山　一五五
南畫鑑賞　二三〇・二三四
南畫新論　九六
南畫の鑒賞法　九六
南畫の見方　九六
南蘋畫樂事業部摘要　一九五
南蘋譜曲沿革史　二〇〇
南湖道印　二五・一七五
楠公社墓銘　二六・二六六
楠公千面鏡　三
南清地方探檢略記　一三〇
南水漫遊　三一〇・三一
南宗畫苑　一七九
南宋時代の美術　一
南田畫跋　六二・六四
南殿障子賢聖之圖　八三
南都海龍王寺に藏する五扇塔婆模型　一三〇・一三四
南都七大寺大鏡　九九・一二六
南都東大寺內四聖坊坐敷　三
南派原委　一三四
南蠻紅毛人の渡來と歌舞伎　二〇七
南蠻寺鐘銘　三一・一六六
南蠻寺鐘ノ圖　三
南蠻人上陸圖　二七・三三
南蠻人の風俗　一三四
南蠻美術考　四三
南蠻屏風大成　一七九
南蠻屏風風俗觀目錄　六六
南蠻屏風の研究　六六・一七九
南部繪曆　一六
難波圖　九三
南部錢譜　一六六
南部錢譜別集　一六六
南部の盲曆　三三
南米繪の旅　一三五
南米の美術　一二
南方錄　三一・三五
難野郎古たゝみ　二三四
南陽張公墓誌銘　一七三
南陽法書表　一〇七
南陽名畫表　六三

ニ

新潟縣第二區人物月旦番附　三
新潟古圖　一七
耳比摩利帖　一三四
贊能辭賀樂美よろこび　八四
二王腰　一四一
二曲三體繪圖　一一〇
二月十七日付圓光寺云々口上書古文書　三三
二世市川團十郎和藤內荒事之圖　一九九
二倉道具目錄　三三
日英博覽會出陳古新美術品圖錄　七七
日米初度應接之地圖　六四
日蓮聖人繪詞傳の研究　七
日蓮上人寺泊御書　六四
日蓮上人幼時の繪畫　六四
日蓮布敎免許狀　六四
日朗獻松碑　六四
日露戰役紀念碑　六四
日韓合邦敕諭・同諭達文　一三四
日光山皇嘉門　一四六
日光山鐘銘竝序　一四六
日光中禪寺簽銘　一四四
日光廟建築論　一四四
日支名家印譜　四八・一七
日淸韓軍歌　一九五
日淸生命保險株式會社圖案　一三五
日淸戰鬪軍歌　一九五
日淸對戰軍歌　二四四
日淸日露戰役回顧錦繪展覽會陳列品解說　一七三
日宋文化交涉に於ける人的要素　九
新田義貞の兜　二〇
ニツポン　三三
二宮尊德畫像　九七
日本アルプス縱走　八一
日本印刷史　二三四
日本印人傳　一五五
日本映畫書誌　一七
日本繪卷物集成　三四
日本繪類考　六六・八九
日本演劇史　一〇・五六
日本演劇史概說　二〇七
日本演劇史論叢　二〇七
日本演劇史上史の編著に就いて　二〇七
日本演劇の研究　二〇七
日本演劇の前途　二〇七
日本演劇の展開　二〇七
日本及朝鮮古塔表　一三四
日本繪物概說　一四六
日本繪物說　一四六
日本音樂　一四六
日本音樂概論　一四六
日本音樂史　一四六
日本音樂文化史　一四六
日本繪畫沿革說　一四六
日本繪畫史（大村西崖）　六六
日本繪畫史（橫井時冬）　六六
日本繪畫史讀本　六六
日本繪畫史の研究　六六
日本繪畫小史　六六
日本繪畫ノ未來　九五
日本畫沿革史　六六
日本花押大觀　一四六
日本家屋寫眞叢書　一四六
日本畫家大辭典　六六
日本各時代古文書寫眞集　一四六
日本樂道叢書　一四四
日本畫僧　六六
日本畫速成法講義　七七
日本畫談大觀　六四
日本畫帖　六四
日本活版製造始祖故本木先生小傳　六
日本畫論大觀　一五一
日本刊書の沿革略　六四
日本紀に見ゆる法隆寺　九六
日本舊土人「コロボツクル」石斧ヲ研ギ獸肉ヲ煮ル圖・解說共　一五四
日本敎育映畫總目錄　一五四

日本金工史　一四三
日本近世舞踊史　一三三
日本金石年表（奥田一夫）　一五四
日本金石年表（西田直養）　一五四
日本金石文綱要　一五四
日本金属器財志　一四二
日本倶楽部寫眞集　一三七
日本藝術の新研究　六
日本藝術の民族的特色　三七
日本藝術様式の研究　六
日本劇史の略説　一〇八
日本劇場図史　二一
日本劇場讀史表　二二
日本原始繪畫　六六・一五四
日本建築史（岸田日出刀）　一三三
日本建築史（佐藤佐）　一三三
日本建築史（藤島亥治郎）　一三三
日本建築辭彙　一三一
日本建築史講話　一三三
日本建築史圖錄　一三七
日本建築重要遺構一覽　一三三
日本建築圖集　一三七
日本建築圖錄　一九・一三七
日本建築に及ぼせる大陸建築の影響　一三四
日本建築の研究　一三〇・一三四
日本建築の變遷　一三〇・一三四
日本建築様式　一三一
日本古印刷文化史　一三一
日本工藝沿革史　一三九
日本工藝史　一三九
日本好色美術史　四三・九七
日本古畫大系　九七
日本古錦圖錄　一四三・一五五
日本國寶及特別保護建造物目錄　九・一三三
日本國寶全集　一九
日本國民性と藝術思想　三七
日本古建築菁華　一三七
日本古刻書標本　一四四
日本古今勇士力士ノ體重身長表　一九
日本古代演劇史　二〇七
日本古代佛像説　一三七
日本古代模様　一四一
日本古美術案内　四三
日本最大の藩札　三三
日本使節の羅馬入府式　三三
日本使節（維新當時）派遣サレシ時ノ米國新聞　三七
日本漆器種類　一四七
日本漆工の研究　一四九・一五〇
日本寫眞年鑑　一三三
日本宗教建築史　一三三
日本住宅史　一三三
日本手工原論　一五三
日本上古音樂史　一八三
日本肖像大觀　九七
日本書畫苑　四六・六五・一〇九
日本書畫骨董大辭典　九
日本書畫人名辭書續編　四七
日本初期洋畫史考　六七
日本女裝　九
日本書道史　一四三・一五五
日本神社建築史　一
日本神社建築の發達　一三〇・一三四
日本人の手になつた最初の汽車の雛形　一三四
日本人の美術鑑賞　一三七
日本圖案の應用　一四四
日本精華　六
日本精華及建築工藝畫鑑合本　一〇・九六
日本製品圖説　一四四
日本染織史　六六・八〇・九九
日本鑄工史稿　九九
日本彫刻史　一五三
日本彫刻大觀　四三
日本帝國海外旅券章　三三
日本帝國美術略史稿　四四
日本で演ずる「ハムレット」　四四
日本的見地より見たる現代美術　一四七
日本哲學全書藝術論　一三〇・一三四
日本陶磁器圖説　一三三
日本陶磁器全書　一三三
日本陶瓷史　一三三
日本刀の造り方　一八三
日本南畫史　七九
日本に於ける洋風畫の沿革　一九
日本に沙翁劇を興さんとする理由　二〇八
日本の浮世繪師　九七
日本能書家年表　一〇八
日本農民建築　一三七
日本のおどり　二三三
日本の覺醒　一四
日本の古建築　一三四
日本の言葉と唄の構造　一九六
日本の住宅　一三三
日本の石佛　一三七
日本の立場より見たる西洋美術　三七
日本の能樂　二〇三
日本之美術　六
日本の美術に就いて　一四・三七
日本の民家　一三三
日本の名畫　六七
日本之名勝　一五〇
日本のレヴュー　三六・三三
日本埴輪圖集　一三九
日本玻璃七寶説　一三五
日本美術　四一
日本美術沿革　四四
日本美術協會第五十五回展覽會新古美術出品圖錄　一七
日本美術協會之員名簿　三九
日本美術協會報告　三九・四一
日本美術協會役員名簿　三九
日本美術史（飛鳥圖）　四四
日本美術史（岡倉覺三）　四四
日本美術史概説　四四
日本美術史講義　六七
日本美術史講話（林田春潮・森口多里）　四四
日本美術史講話（黒田鵬心）　一四・四四
日本美術思潮　六
日本美術史年表　四四
日本美術史未定稿　四四
日本美術性質　三七
日本美術讀本　六
日本美術と佛教との關係　三七
日本美術年鑑　九
日本美術由來　四四
日本風俗畫大成　六六・八〇・九九
日本風俗圖繪　九九
日本寶物史　一五三
日本佛教音樂　八七・二〇六
日本佛教繪畫史　六七
日本佛教圖像史　四四
日本佛教美術の研究　四四
日本佛像彫刻説　一三七
日本佛塔建築の沿革　一三〇・一三四
日本佛塔建築の變遷　一三三
日本舞踊改造の最後の一策　二三三
日本舞踊史　二三三
日本舞踊の現在及び將來　二三三
日本舞踊文化史　二三三
日本文化私觀　三九
日本文化史圖錄　一九
日本文化圖錄　一九
日本寶玉説　一五二
日本蒔畫沿革　一四七
日本民屋地理　一三三
日本民家史　一三三
日本民謡辭典　一三三
日本名畫鑑　六六・八〇
日本名家書畫談　四七
日本名畫百選　八〇
日本名山圖會　八六
日本木偶劇の傳統　二〇八・二〇九
日本木彫史　一三七
日本より羅馬法王に呈せる書　三三
日本歷史參考圖　八六
日本歷史圖錄　九
日本歷代人傑大鑑　八六
ニューギニアパプア族作品集　四一
入門記　三・三五
丹羽花南筆詠史　五〇
丹羽正雄筆濕紅葉　四九
人形芝居の研究　二〇九
任興帖　五一
人間方面的藝術傾向　三六
仁孝天皇宸影　八〇
仁和寺御室御物實錄　九
仁平二年高山寺什具注曆　三

ヌ

縫衣裳　二〇一
貫名菘翁書石峰寺若沖之碑　二九
抜荷禁制の奉行制札　三三

ネ

寧壽鑑古　一四三・一六一
根岸武香藏石器・石人・埴輪圖　三〇
禰宜町往來　二〇八
寢覺物語繪卷　八九・九三
熱河　一三七
熱河遺跡の建築史的價値　一三四
子ノ面　二〇一
年中行事繪　九三
年中行事繪朝覲行幸　九三
年中行事繪抜書川渡之卷　九三
年中行事繪卷　八九・九三
年中行事繪野行幸　九三
年頭所感に代へて　三四

ノ

能　一九八
能謡秘訣　一九九
能苑日渉　二〇〇
能樂　二〇三
能樂以前の野外舞臺　二三
能樂概説　一九八
能樂書譜　一九九・二〇一
能樂劇以前の屋外舞臺　二〇八
能樂研究書誌　一九八・二〇〇
能樂研究の順序　二三三
能樂源流表彰會圖書展覽會場　二〇一
能樂考　一九九
能樂古今記　一九九
能樂史（佐成謙太郎）　二〇〇
能樂史（野々村戒三）　二〇〇
能樂史餘錄　一九八
能樂史料　二〇〇
能樂總説　一三四
能樂大觀　一三四
能樂泰斗金剛謹之助舞影一斑　二〇一
能樂圖書陳列品目錄　二〇一
能樂の將來につきて　九三
能樂祕傳書　九三
能樂百物語　九三
能樂百話　八九・九三
能樂文獻に關する考證斷片　九三
能樂大和四座考　二三
能樂謡曲大辭典　二三
能狂言　一九九
能狂言のかぶき化　一九九
能狂言の説明　二〇〇
能作書　二〇三
能裝束模様百佳選　二〇三
能書事蹟　二三
能書術　一九九
能書錄　二〇一
嚢中錦心　二〇八
能と其歷史　二〇〇
能の再生　二〇〇
能乃留張　二〇一
能の舞臺的特質　一九九
能の物學の人體と風流　二〇〇
能評判うそ咄　二〇〇
能舞臺の松　一九八
能本作者註文　二〇〇
能面　二九・一三四
能面史話　一三七・二〇一
能面大鑑　一九九
能面に關する貴族の著書　二〇〇・二〇一
乃木大將の遺書　三三
乃木大將の面影　三三
鳶迺金様棠（ムクノヤマブキ）　八四
野澤如洋　七〇
野に山に　八六
野之口一家語學指掌圖　二四
野村空梨筆梅花詩畫　三〇
野村彝之助筆晩秋初六從取手到小金途中作　三〇
野村望東尼筆竹のみうつはに酒をいれてたまはりしみかへし　三〇

ハ

ヴアーグナア　一八三・一九三
ヴアークナーの立場　一九三
ハアゲマン氏の事　二三九
梅花古筆傳　二〇八
梅逸印譜　一〇・三〇・一九
俳諧繪文匣　八一
俳諧十論　一三・三五
俳諧名人三十六歌仙　八六
俳諧名物鑑　八六
俳家畫像　八六
誹歌仙　八六
梅花草盦藏器目　一六一
陪觀日記　六三
梅渓筆蹟　三三
梅見門見取圖　二六
梅幸集　二〇五
梅幸年譜　二一〇
梅村壽庭圖錄　一七九
梅道人遺墨　五一
梅譜　一四・六三
佩文齋書畫説輯要　五一
佩文齋書畫譜略　五八
バイヤア解説　四七
俳優尾上松緑筆能樂圖　一八
俳優息辰錄　二五・二一
俳優考　一九四・二〇〇・二〇八
俳優三十二相　二四
俳優生活　二三
俳優渡英の議に就て　二三
俳優評判記　二九

俳優分業の完成まで　二〇
俳優世々の接木　二一
葉うた虎之巻　九八
博多仁和加集　二六
博多の方言　二六
馬韓時代古蹟圖譜　八
萩野伊三郎井桁荒事之圖　九九
萩原秋巖眞行絕句　二一
馬琴所藏印　二五
白隱和尚遺墨集　二三
白雲金洞　二六
白鸚鵡賦　七二
白眼居士印譜　七九
博山居印譜　七九
曝書亭金石文字跋尾　一三・二三
曝書亭書畫跋　四八・一九
白石印譜　二〇一
白藏主　九五・二三
白雉帖　二三
幕府が獻上を拒んだ巨象　二四
幕府軍艦咸臨丸圖　二七
幕府時代の海里程表　三三
幕府時代の奉公人受證　三三
博物館　三九
博物寫眞　四七
博聞錄律曆門圖　三三
白鳳時代及天平時代佛像　一九
白鳳時代の美術　二
幕末危急當時の書翰　三三
幕末時代の寄附上納金　三三
幕末騷擾の繪卷物　三三
幕末の物價と觀進能　三三
幕末紛擾當時の密敕　三三
幕末明治英傑遺墨集　五一
白樂天新樂府脫簡　二三
白龍遺稿　八六
白龍山人畫譜　八六
白鷺洲　一〇
八橋帖　一七二
發掘せる人骨入りの石棺　九三
八集畫譜　二四
八駿圖　二四
發靡法　一二
八帖花傳書考　一九二
バッハからシューベルトまで　一三
初夢の曲と振　八四
花兜名香鎧　二〇一
鼻箇數請取の記錄　七〇
花咲爺繪卷　七〇
はなし看板畫　四八
花相撲源氏張膽　四八
花のいでゝはぢ　九三
花の出羽路　八二
花江都歌舞妓年代記　二
花江都歌舞妓年代記續編　一七二
花のしぬのめ　二五
花の卷　九七
花の眞寒泉　九六・九七
はなふくさ　九七
英一蝶畫譜　六三
秦宿禰竹田金春家略系　一九七
八音抄　一八三・一八七
塙敬太郎集古印史開板伺書　一九
塙輪家衆成　二一
塙輪考　二六
塙輪集成圖錄　二〇一
塙輪に關する二三の考察　一九
塙輪の種類と異說　一九
葉のうらの記　一六
「パノラマ」の事に就きて某に與ふる書　三
パプア族作品集　二四
濱口容所君略傳　一八一・一九二
濱田彌兵衛總督を捕ふる圖　一九六・二〇〇
濱村藏六作雙魚提額　一九二
ハムレット（レコード）　二三三
「ハムレット」公演後の所感　一〇四
「ハムレット」公演に先きだちて　二〇
ハムレットと烏鷄國太子と　九三
「ハムレット」に就いて　二七
早合點　二七
林鵞梁筆嘉永甲寅正月無由　八四
揮劍斬長蛇　八四
林子平案文武兼備大學校圖　二九
林子平畫像　二九
林子平辭世之和歌　八八
林子平寫和蘭人宴會圖　八四
林子平肖像竝碑銘　二四
林子平書簡　二四
林子平尺牘　一五二
林子平筆羽州龜岡文殊緣起　一九七
林逸齋筆書影鈔玉篇古本後　三
林圖書頭宛幕府召狀　一六
林忠正氏の演說　一六
林道春畫像　一六
林道春尺牘　一六
早飛脚に扱はれた公文書　一六
早見年代重寶記　一六
破來頓等物語　一六
原田直二郎　一四一
原田直二郎に與ふる書　一四一
原田の記念會　一四一
巴里繪日記　一四一
巴里萬國裝飾美術工藝博覽會の狀況及歐洲に於ける最近意匠の傾向　一四一
針口天秤　一四一
針口天秤使用之圖　一四一
春雨傘の評　一四一
パルテノンとピタゴラス學派　一四一
春信淸長寫樂論　一四一
春信筆美人畫　一四一
バルビゾン畫派の美術　一四一
萬安橋記　一四一
半迂刻印　一四一
版畫卽夢幻美　一四一
版畫禮讚　一四一
版木師系圖　一四一
板橋題畫　一四一

番組記　二〇一
ヴン・ゴオグ　七二
萬國奇觀　八八・一五二
萬國人物圖　八四
萬國圖案大辭典　一四一
范式碑殘石　一九七
播州尾上之鐘由來書　二八
播州高砂尾上相生古松由來　三〇
播州高砂尾上曾根松圖同由來　三〇
播州本間氏所藏品入札目錄　三〇
播州蟲送歌　七
萬象千字文　二六
番匠の祖神と其の神社　二一〇
ハンス・カルゼルの指環　一三〇・一三四
ハンスリツクの音樂美論　四
范石湖絕句　一八一
伴大納言繪詞　一七二
半島めぐり　八九・九三
判取帳　八〇
鑁阿寺靈寶目錄　五二
般若寺藏古刹銘　九
般若心經（拓本）　二・一六八
伴信友遺墨　一六八
伴信友翁草稿　一三三
槃礴脞話　六一・六三・六四・六五
萬媚　二〇一
萬物繪本大全調法記　八六
萬寶書畫全書　五三
版本ハルマ和解卷頭竝稻村三伯筆蹟　二一四

ヒ

ピアノ演奏技巧　一八一
ピアノ音樂　一八二・一九二
ピアノ音樂概說　一八二・一九二
美意識論　二
柊の花　七二
非煙香法　一三
比遠能牟良君　八四
檜垣女形自像　二
美學（阿部次郎）　二
美學（植田壽藏）　二
美學（內田周平）　二
美學（大西昇）　二
美學（谷川徹三）　二
美學（リップス）　二
美學及藝術學史　二
美學及藝術史研究　二
美學及藝術論　二
美學及美學史　二
美學及美術上の研究　二
美學概說　二
美學概論（大塚保治）　二
美學概論（島村瀧太郎）　二
美學概論（バアカー）　二
美學各論　二
美學研究　二
美學原論（大西克禮）　二
美學原論（クロオチエ）　二
美學原論（渡邊吉治）　二
美學講義　二
美學講話（石田三治）　二
美學講話（瀧村斐男）　二
美學史要　二
美學上の研究　二
比較人種學的美學藝術の始源　五
美學と藝術學（櫻田總子）　二
美學と藝術學（深田康算）　二
美學に於ける形式の問題　二
美學の基礎に就ての考察　二
美學の根本問題　二
美學の話　二
美學汎論　二
美學未定稿　二
美學論集　二
東久世通禧筆墨竹竝題詩　二
東山時代の美術　二
光と其諧調　二・四二
費漢源山水畫式　二
比企郡書記松崎君紀念碑　二
引伸寫眞術　二
悲劇に固有なる快感　二
「悲劇の誕生」その體驗及び　二・四二
論理　二
悲劇美の美學　二
眉公書畫史　二
飛鴻堂印譜　二
肥後金工錄　二
ピザ及ラヴエロの說教臺に　二
師の地位　九五
美術辭典　九
美術史に於ける時代の問題　四四
美術史の基礎概念　四四
美術史の根本問題　四四
美術寫眞畫報　一五三
美術粟英　八〇
美術上の釋迦　元・一七
美術眞說　六
美術新報　四一
美術新論　四一
美術正論　四一
美術世界　九六
美術叢書　一三
美術叢話　元
美術大觀　元
美術的建築　一三
美術的照相　三六
美術展覽會參考品目錄（第四十回）　四五
美術展覽會出品陳列目錄（第卅六回）　四六
美術と宗教教育　三六
美術と服飾との關係に就て　三七・三八
美術に於ける裝飾的要素　四
美術年契　四四
美術の秋　四四
美術之日本　四一
美術批評の意義　四
美術百科全書（西洋篇）　六・九

美術評論　四一
美術より觀たる日光　一三〇・一三一
美術論場の爭闘は未だ其勝敗を決せざる乎　三四
美術論萃　三六
美人嬰兒を抱くの圖　一〇〇
美人繪つくし　九九・一〇四
美人氣量競の内花扇　一〇〇
美人花合の内朝顏の圖　一〇〇
日高川繪巻物　九三
日高秩父書御手植樹ノ銘　三六
常陸筑波郡小田村三村清冷院極樂寺古瓦（拓本）　三
常陸國海雲山長勝禪寺鐘銘　一六八
篳篥延曲譜　一八七
篳篥格　一九四
篳篥羯鼓譜　一八七
篳篥高麗鄂曲儛馬樂今様譜　一八七
篳篥殘樂譜　一八七
篳篥師傳相承　一八四・一八七
篳篥序破遠曲譜　一八七
筆意斷　一二四
筆學要論　一二四
筆諫　一三六
筆經　五五
筆語　三三
筆史　一三・五五
筆者朱詳消息　一八六
筆陣圖　一二四
筆神佩阿君像　三六
筆陣八面鉾　一一〇
筆體論　一二四
筆勢論略　一二四
筆躰抄　二一・二三・二四
備中吉備津彦名神庫内鈴鏡　三〇・一四〇
備中矢田部益足買地券　三六
筆道三部書　一二四
筆道指南手引草　一二四
筆道指南早學問　九三
筆道祕傳鈔　四六・一〇九・一二四
飛濤亭　一三六
筆皮譜　三一
筆法記　四六・六三・六四・七七
筆法才葉集　四六・一〇九・一二四
筆鋒本原　一二六
筆法禮義集　一二四
秀家書簡　二一
美的假象　三
美的現象と批判的美學　二・四三
美的自律性の問題　三
秀郷紳紙　八八・九三
秀衡狀　二二
秀麿・春亭筆漫畫　一九
秀吉家康和睦の碁盤　三三
碑傳集　一六三
キトウルキウスの「理論」　一三一
人に親しき自然　九六
一幕物の流行と現代語の史劇　二九
人麻呂集斷片　一二九
一本草　一一〇
ひとりごち　一二四
夷舍奴安裝婢　一二四
美の具象性　一九四
美之國　四
美の研究　一四
美の哲學（クロオチエ）　一四
美の哲學（ロザア）　一四
碑文摘奇　一四
美文としての謠曲文　一四
備忘雜抄　一三六
氷面鏡　一四
百ケ條　一四
百花鳥　一四
百活矢　一四
百家美人畫譜　一四
百漢碑　一四
百鬼夜行　一四九
百鬼夜行圖　一四九
白狐　三
百孝圖　二二
百壽字　一三三
百女賦　一九八
百塔考　一九八
百人一首　一九八
百人首色紙書法　一四八
百人女郎品定　八七
百馬之圖　一三
百富士　一三三
百物語化物雙六　一三三
ピユギス・ド・シヤヴンヌ　七二
徒具のしをり　五四
琵琶錄　一九四
キンケルマンに就て　四
備後國八幡社藏神護景雲八年書寫順正理論卷二三跋文　一〇
備後御調郡八幡神宮寺藏大般若經跋　二七
頻羅庵書畫跋　一三・一四
頻羅庵論書　一三・一四
琵琶血脈　一八三・一八七
琵琶匣見取圖　一三五
琵琶錄　一九四
キンケルマンに就て　四
備後國八幡社藏神護景雲八年書寫順正理論卷二三跋文　一〇
備後御調郡八幡神宮寺藏大般若經跋　二七
頻羅庵書畫跋　一三・一四
頻羅庵論書　一三・一四

7

武惡　二〇一
ファン・ホッホ論　七二
フイードレル藝術論　五
フイデリオの雛形　二九
フイヒテの生涯　四
フイルム寫眞　一五〇
フキルム寫眞の撮り方　一四九
フイロストラトスの「構想力」　三
楓園集古印譜　一八〇
風搖青桐　一三三
風曲集　一九八
風景畫を描く人へ　七八
風景作畫法（平尾鉦爾）　一四八
風景作畫法（米谷紅浪）　一四八
風景名畫集　八七
風信帖　一三
風俗　一八三

風俗浮世八景　一〇二
風俗繪巻　九三
風俗繪巻圖書刊行會叢書　六五・八九
風俗繪巻見山　九九・一〇四
風俗資料　六六
風俗圖繪集　一〇〇
風俗圖鑑　一六
風俗譜　八七
風流五葉の松の内文の使ひ　一〇〇
風流四季歌仙（卯月）　九九
風流四方屏風　二三八
風流照葉狂言集　二一三
風流俄天狗　二一六
風流もじ繪　九五
ブウルデエルの言葉　二二九
武英殿聚珍版程式　一四・一五一
フエノロサ筆浮世繪展覽會目錄　一〇五
フオト・タイムス　一五三
深川藝者之圖　九九
舞樂記　一八四・一八七
深草元政書　二四
富獄三十六景深川萬年橋之圖　九九
舞樂裝束書　一八三・一八七
舞樂小錄　一八三・一八七
舞樂圖　一八七
舞樂圖記　一八八
富獄百景　一〇四
舞樂要錄　一八三・一八八
深田康算全集　三
不縣敦盞銘考釋　二四〇
舞曲口傳　一八三・一八八
舞曲集要書　一八三・一八八
舞曲扇林　二〇八・二三三
不空絹索神咒心經　一二八
福王氏族考　一〇〇
複式能の化現本體　二〇五
福島安正歸朝歡迎獻立書　三三
福聚ノ銘アル水滴　三三
複製繪畫四枚　二九
福田俠平筆陣中之作　五〇
福田半香自筆書狀封筒　三
福德惠方參　一〇四
福富草紙　九三
福羽美靜作桃太郎誦哥　二四
福原五岳書簡　二八
福原信三寫眞畫集　一五〇
復平予尚　三三
負喧野錄　三三・三五・一〇七
武江扁額集　八〇
釜山鴨綠江間寫眞帖　一五〇
豐山蒐粹　一九
藤井藍田筆山人觀瀑圖　五〇
富士三十六景　八七
藤田小四郎筆尺蠖之屈欲其信也　四九
藤田東湖畫像　八一
藤田東湖書扇畫　二八
藤田東湖筆對酒　五〇
不二のますかた　八七
富士百景　四四
藤磨筆七美人　二〇六
伏見院御集斷片　四四
藤本鐵石筆夏山煙雨の圖　四四
藤森弘菴筆嘉永辛亥十月二十四日梅村歌　四四
武州善國寺毘沙門天開運守　四四
豐州磨崖石佛　三三
婦女金魚を捕ふる圖　三三
婦女臺所炊事の圖　二九
婦女人相十品（文讀美人）　四四
婦女人相十品（文讀美人・振袖・喫煙女）　四四
婦女人相十品（年增の女）　九三
婦女螢狩之圖　二四
藤原家隆筆歌二首　二八
藤原佐理消息斷片　一五〇
藤原時代以後の日本美術史概觀　四四
藤原時代の彫刻　四四
藤原時代の美術　四四
藤原惺窩書像　四四
藤原惺窩書簡　四四
藤原忠通請文　四四
藤原忠通書狀　四四
藤原定家筆歌一首　四四
藤原道長書　四四
藤原基俊筆朗詠抄斷片　四四
婦人手業操鑑（麻績み）　四四
婦人手業十二工（手習・機織）　四四
婦女泊り客　一〇二
婦人文庫　一〇〇
扶桑畫人傳　六九
扶桑鐘銘集　一五五
扶桑書畫款印集覽　四七・五七・一七九
扶桑名畫傳　六九
扶桑名公畫譜　一〇・六九
扶桑翁傳・年譜竝落款印譜　四七
扶村畫集　八七
扶村畫譜　一〇〇
扶村書畫戩之記　六六・八七
舞臺　二
舞臺戩曲　二三三
舞臺藝術　二三三
舞臺構造樣式の分類及び進化　一〇〇
舞臺上の色彩と舞踊劇　二九
舞臺轉換　二三三
舞臺之圖　二一八
舞臺の圓十郎　一九七
舞臺の人人　四四
舞臺百箇條　二一
舞臺評論　二一
再び劇を論じて世の評家に答ふ　三
再び原田の記念會に就いて　二一八
再び洋畫の流派に就きて　二一八
再び歷史畫を論ず　二一九
補陀洛山（那智）寶物　二六
普通の見物人の好まぬ劇　二一八
佛教藝術とその人物　一〇〇
佛教藝術の研究　一〇〇
佛教聖歌募集を賛す　二四
佛教之美術及歷史　二〇六
佛教の美術と歷史　四四
佛教美術（小野玄妙）　四四
佛教美術（グリユンウエデル）　四四
佛教美術研究　四二・二六
佛教美術研究の現在竝に將來を考へて苗本圖像の研究に及ぶ　九五
佛教美術講話　四四
佛教美術史　四四
佛教美術に於ける印度と支那との關係　三七・四四
佛教美術に關する豫測　二〇四
佛國下議院之圖　一九
佛國滑稽畫家　二四
佛國寺と石窟庵　一九・二九
佛國大統領選擧當時發賣肖像畫　三
佛說阿彌陀經　三七
佛說師子素駄婆王斷內經　三一
佛像　一九
佛像瓦當　二六・三〇
佛像寫眞集　一九
佛足石（拓本）　一九
佛足石歌碑（拓本）　一九
佛足石歌碑は斷じて藥師佛のために建てられず　二〇七
佛足石記（拓本）　一九

佛足石碑並記　一五七
物徂徠尺牘　二一
佛頂尊勝陀羅尼經幢　一六八
佛都會津榮光記　四〇
佛筆反故　二一
佛法僧鳥　二〇六
佛領印度支那　一三〇・一三四
不動講式　一八
舞踏史　一八二・二三三
不動尊袒械鎖繫之艸紙　九三
舞踏法　一八二・一九二・二三三
武都太守耿勳碑　一七三
武都太守李翕西狹頌　一三三
舟橋大宮司家所藏古印　三一
船氏銅墓板　三一
船首王後墓誌　二〇・二一・二六
布帛帖　一四六
扶風縣石刻記　一六三
文かきふり　二一六
文氏墓誌考實圖　三二・三五
文忌寸禰麿墓誌考　二〇・二五・二六
文讀美人　一〇一
舞踊藝術敎程　二三三
舞踊藝話　二三三
舞踊劇　二三三
舞踊劇に對する予が作意の過去及び將來　二三三
舞踊史概說　二三三
舞踊と歌劇　一九二・二三三
舞踊について　二三三
米艦の幕吏招待圖　二三
平曲　一八八
平家音樂史　一八二
平家古瓦　八九・九三　三三
平家納經　二四
平家物語　二四
米國内各博物館の敎育事業に就いて　二六
米國白堊館招待宴會圖　二三
瓶史　九三
平治物語繪詞　八九・九三
平治物語繪卷　一二三
敝帚帖　一二四
平城京及大内裏考　一二四
平城宮阯調査報告　一二五
丙申秋季畫評　二四
米僊畫談　五八
平泉寺の美術　二六
平脫及平文の手法について　二六
蔽芾堂　二六
平文平脫の解　二三
平民工藝論　四
ヘーゲルの美學　四
ヘーゲル美學の辯證法　四
ベーデエントと戸外劇　二四
ベーデエントの適用範圍　二四
ベートオズン（ローラン）　一八三
ベエトオヴエン（ベツカア）　一八三
ベートーフエンの一生　九三
屁合戰繪卷　

壁畫及佛畫　一九・八〇
壁畫の盛衰　三七・九五
壁畫篇（世界美術全集）　一一・六
日置郷公墓誌銅版考　一五五
碧落碑　一三三
碧落碑釋文　一七三
北京皇城ノ建築裝飾調査報告　一二四
ヘツベルの美學　四
紅寶おまん之圖　九九
ヴエニスの石　一三一
ゑニスの商人　二三三
波斯の美術　一
ペルシヤ旅行談　一五五
ペルリ浦賀來航當時の刷物　一三三
ペルリ應接所の見取圖　一三三
ペルリ及アダムスの肖像　一三三
ペルリ饗宴ノ圖　三一・三三
ペルリ提督饗應圖　三三
ペルリ提督久里濱上陸　三三
ペルリ提督獻上汽車鐵形運轉の圖　三四
扁額（集古十種）　一二八
扁額軌範　八〇
辨欵石誌　一三・一五・一六六
辨玉集　四〇

ホ

抱一上人寶雲抄　七三
寶永時代女風俗之圖　八九・九三
望遠撮影法　一八一・九二
法皇帝誕上に顯れたる法隆寺鮑臆圖丈手記　一三四
芳崖と雅邦　一三三
邦樂界の現狀　一三三
邦樂實演會詞曲・朗詠譜・法相聲明譜・天台聲明譜　一九一・二〇八
邦樂の將來　八
寶器搜索觸書　一三三
法窟　一
曠卦　一三五
鳳闕　一三五
鳳闕見聞圖說　一三三
鳳闕見聞錄　一三三
寶月樓古鑑圖譜　一三三
法眼菊川鑑定書　一三四
豐公遺寶圖略　一三三
豐公陣羽織　一三三
豐公醍醐花見の圖に就て　一三四
邦彩鑾華大寶鑑　一三四
寶子山宗珉鑄好古社印　一三四
房住山普物語　一三三
蓬楓閣小林氏所藏品入札目錄　八〇
北條氏康畫像　四
法帖刊誤　一五四
寶生勸進能繪卷　一五四
寶生源流考　一五四
鳳笙師傳相承　一三
北條早雲畫像　三
寶章待訪錄　一三・四六・一九九・二三五
法帖定家卿眞蹟小倉色紙　一三一
北條時政兵糧米の停止請文　一三四
北條時賴畫像　四六・一〇九・一二五
法帖譜系　一三五
法帖譜系雜說　一三五
寶生友干の實父　二〇〇
寶生流謠傳諺察形子」と其著者　二〇一
法書苑　二〇〇
法書考　一二四
鳳聖殘帖釋文　一〇七
法書名畫見聞表　一二五
法書名家列傳　一〇七
法書要錄　一四四・一五五
澧書聯　二八
寶眞齋法書贊　一〇九
奉眞如法親王空海筆いろは　一二五
豐太閤と義演准后　三六・九五
彭大司馬手札　一九
望太白積雪之詩　一三五
封泥攷略　八四
封泥存眞　七
寶鐵齋金石文跋尾　四
奉天昭陵圖譜　四
奉天の一劇場　二三四
奉悼歌　八三
ボオドレエル藝術論集　一八四・一八八
法然上人繪傳　八〇

舞踊論　二三三
プラトーの美學　三
佛蘭西及支那美術代表作集成　一九・七八
フランス繪畫の研究　六七
〔佛蘭西科學〕美術史　四四
フランドル・蘭流派の美術　三六
振袖姫　一一
古い藝術觀と新しい藝術觀　一〇一
古河（河竹）默阿彌　三
古田織部消息　二三〇
古袋圖　二三五
不留旁繪詞　八八
古朴寸法書並拓本　二三五・二六七
ブレイク論稿　一五・一五
フレツチヤア建築史　一三三
プレ・ローマネスク時代の美術　二
ブロムオイル轉寫印畫法　一四八
文安田樂能記　二〇一・二〇三
文安四年經筒刻文　二〇
文草　二七
文永五年院舞御覽記　二〇三
文永十一年賀茂祭繪詞　一八三
文學上の創造權　九三
文學としての我が在來脚本　二二九
文化五年三月中村座繪番附　二四・二二三
文化史より觀たる西蜀　三七
文化と印刷　二三三
文畫誘掖　三
文化力としての童話及び童話術　六四・六五・七七
文人畫三大家集　二〇
文人畫選　八〇
文人畫の復興　五八
焚薪經斷片　三三
文政元年荒見川畝圖　二九
文政七年寶島漂來異國船並人物圖　九三
文政十年四月越後椎谷ノ海岸ニ打寄タル娥眉山下橋杭　二六・七二
文政十一年版草木撰種錄　二六
分析藝術論　三六
文晁畫山二翁繪畫展覽會目錄　六三
文晁畫談　一〇・四六・五六・六四・六五
文晁山水畫譜　八七
文晁ノ落款　三三
文徵明行書千字文　二四
文徵明書懷歸詩　二三
文徵明明妃曲　二四
文晁摹刻寶船圖　二六
文帝展二十五年史物語　四五
文展　七六
文武之訓　一二六
文房（集古十種）　四四・五六
文房器具箋　一三・五五
文房圖贊　五五
文房圖贊續　五五
文房約　五五
粉本九枚　二九
文盟消息帖　二二六
文明二年刻木銘　二〇
文明五年九月付古文書　二三
文明八年般若寺古梵銘　三三・六六
文明十三年正傳寺衆僧等謹言上書　二五
文彌淨瑠璃　一九七・二〇六
文樂座人形芝居展覽會目錄　二〇五
分離派建築會の作品　二七
文林摘葉　二六
文祿武癸巳年十月五日於禁裏御能組　二〇二
文祿五年八月二十七日付古文書　二三

ヘ

米庵墨古百一詩　一三・五三
平安館藏器目　二六一
平安紀念印集　一九六
平安京・大内裏及び内裏の建築　一三〇・二四
平安時代の藝術　四五
平安城都定　四三
平安神宮圖繪　二九
平安人物誌　一〇
米菴先生藏筆譜　五五
米菴墨談　一四
平安名勝畫帖　八〇
米海岳年譜　四七
米家書訣　四六・一〇九・一一四
瓶花譜　一三
瓶花論　六四

法隆寺金堂佛像の銘文に就いて　一四
法隆寺金堂壁畫　八七
法隆寺釋迦像光背銘　二〇・三一・六九
法隆寺出土古瓦の研究　一五八
法隆寺所傳鍍牙尺・岩代郡慧日寺所傳瑠璃尺　三五
法隆寺諸佛光背銘　六九
法隆寺藏釋迦三尊光背銘　二〇・六九
法隆寺藏百萬塔　九五
法隆寺藏鸞鳳圖　一四一
法隆寺東院の香木堂に就いて　一五四
法隆寺の金石文に關する二三の問題　一五四
法隆寺の諸問題　一五四
法隆寺の銘文　一五四
法隆寺佛名料銘　三一・六九
法隆寺壁畫　八七
法隆寺寶物考證　九八
法隆寺寶物圖繪　一九
法隆寺寶物圖繪　一九
法隆寺法起寺法輪寺建立年代の研究　一三四
法隆寺藥師像光背銘　二〇・二一・九五・一六九
芳陵子の洋畫小言　三四
法輪寺大鏡　一九・二九
法輪寺十一面觀世音大像考證　二六
ボール・セザンヌ　七二
寶暦二年六月付家屋讓渡證文　三
寶暦四年市村座春芝居　三七
寶暦十一年奥田小三郎式目　二六
寶暦年中古代役者せりふほめ言葉　三四
鳳朗集　一四
補寰宇訪碑錄　一六一
慕歸繪詞　八八・九三
北越聖龍山絲丸栖木　二六
墨海　二六
墨客草園　一一〇
墨華册　五一
北鷺筆驪濱之圖　二六
墨記　三三・三六
墨經　三二・三六
牧溪八景圖　八七
墨香居畫議　七一
北齋大達磨縮圖　二七
樓齋尾島先生書則　一二三
北齋改名考　九八
北齋畫苑　一〇四
北齋畫譜　一〇四
北齋圖式　一〇四
北齋達磨大畫之記　一〇四
北齋道中畫譜　一〇四
北齋漫畫　二八・一〇四
北山移文合璧　一三三
墨志　三・三六
墨場錦囊　二六
墨場必携　二六
北清建築調査報告　一三〇・一三三
北清征討軍歌　二四
墨水畫塵　一三五
北齊及隋時代の美術　一三七
墨蹟祖師傳略記　三四
北宋石經攷異　二六
北宋拓聖教序　三三
星亭逝去通知狀　三三
保科正之畫像　八〇
補色　三四
戊辰戰記畫卷　九三
ボストン美術館の東洋藝術品に就いて　一四・三八
細川義勝像　八七
牡丹圖　一九七
ぼたん法語　四六・一〇七・一〇九
北海道釧路國上川郡土中所獲鐵鉾圖　三三
北海道寫眞帖　一五〇
北海の奇觀海豹島　三四
法華寺大鏡　一九・二〇・二九
法華寺十一面觀世音菩薩像　二八
考證　四六・六五・六九
本朝畫史　四六・六五・六九
本朝畫人傳補遺　一〇六
本朝畫人傳補遺　一〇六
本朝金石文展覽目錄　一五四
本朝古今新增書畫便覽　四七
本朝古碑考　一五七
本朝雜記　一六
本朝三字經　一三
本朝十二文錢　三三
本朝世事談綺文房　三五
ボロブヅウル　二九
本願寺石山本山總構圖　二四
本願寺書院　一三五
本光國師外國文書の草案　二四
梵字拓本　二六
梵字佛背又ハ天蓋　三三
本所七不思議　九八
梵書朴筆手鑑　一二
梵字蓮坐アルモノ一枚摺　二六
梵僧指空禪師と達磨大師の畫像　九五
本多錦吉郎　七〇
本田善光日本鑑繪盡　二八
本朝浮世畫人傳　九七
本朝繪畫考　六七
本朝畫印　六九
本朝畫家人名辭書　六九
本朝畫家落款印譜　七三・七九
本朝畫工便覽　六九
本朝畫纂大全　六八・七九
本朝畫史　四六・六五・六九
本朝畫人傳　六九
本朝畫人傳補遺　一〇六
本朝金石文展覽目錄　一五四
本朝古今新增書畫便覽　四七
本朝古碑考　一五七
本朝雜記　一六
本朝三字經　一三
本朝十二文錢　三三
本朝世事談綺文房　三五

本朝茶經　一六
本朝陶器攷證　一四五
本朝美術　六
本朝寶貨事略　一五六
本朝名公墨寶　一八
本阿彌光悦　一五
本阿彌光悦消息　二
ほんのおはなし　九六
ボムペイの美術（世界美術全集）　一一
ボムペイの美術（原浩三）　四五
本邦樂舞史竝に先行舞臺史の研究　二〇〇・二三
本邦古寫經と繪卷形式との關係に就いて　二・四二
本邦最初の電信及郵便　三三
本邦佛教各宗の建築　一三〇・一三四
本邦梵鐘說　一三〇・一三四
本邦洋樂變遷史　八二
翻譯劇　二九

マ

舞御覽記　一八八
每月抄　三・三五
埋髀發香　一七九
傑圖　一八八
枚人碑　一六六
舞の本　二〇三
マイヨールの藝術　一五
マウントメリック刺繍圖案集　一五三
前田利家畫像　八〇
前田利家の書簡　三三
前田陸山筆疾苦曾諳凍餒民　五〇
前原一誠筆强兵在富民　五〇
勾玉考　一五三
摩訶般若波羅蜜多心經帖　一二四
蒔繪器物及能面　一九・四七
蒔繪師傳　一四七
蒔繪師塗師兩工傳　一〇・四七
蒔繪通覽　一四七
まきのあきつゆ　八五
牧の冬かれ　八五
眞木保臣筆蛙の歌　四九
枕草子繪卷　八九・九三
マクラメレースの編み方　一五二
孫次郎　二〇一
正岡子規肖像　二九
正岡子規發句　二四
間崎滄浪筆追悼竹原古屋翁　三三
正木岡書藏古文書　三三
正宗恒丁　一三
馬島杏雨翁愛藏品展覽入札目錄（儒者文人書畫目錄）　七
馬島杏雨翁愛藏品・能州茶家藏品入札目錄　七
益田香遠作縢王閣序全文　二五
十寸見蟬曲編年集　一九一
又兵衛論爭の渦中へ　二・四二
松井子爵家御藏品（松平周防侯遺愛之品）入札目錄　八八・八九・九三
松崎天神緣起　一五〇
松島寫眞帖（三澤書店）　一五〇
松嶋寫眞帖（宮城縣轄）　三
松平伊豆守外二名連署書狀　八二
松平定信畫像　四九
松平春嶽筆名所の花　五〇
松平頼福書七絕德川光圀添削　三三
劍幅　三三
松平樂翁筆樂其樂園ノ額字　七
松永貞德像　二五
松之圖　一九一
松林飯山筆水面不生波　二三
松本謙三郎筆一場綺夢忽驚廻　四八
松本順筆淺絳山水　四九
松本亦太郎博士著作目錄　二〇一
松浦多氣志樓筆一笏一笠裏糧行　五〇
松浦之能　三
松浦伯爵家蓬萊園ノ圖　二四
萬葉集拔書　一三
萬葉集の遊女　二
滿蒙美觀　二六
ミ
三浦子爵家御所藏品入札目錄　七
美香弊乃譽路曾　八四
三河國法藏寺御寶物記　七〇
ミケネ時代の美術　二九
曼荼羅壺銘　一四・一四五
漫畫一年　八八
漫畫百女　一〇四
滿漳寫眞帖　一五〇
滿支圖案精華大成　一四一
萬字文　一二六
滿洲金石志　一九五
滿洲金石志稿　一六四
滿洲古碑拓陳列目錄　一六四
滿洲聖人達海の碑　一六四
滿洲の佛寺建築　一三〇・一三三・一三五
滿洲の文化と遺跡の史的考察　一三〇・一三三
萬女集　一三五
滿繍浩線寫眞帖　一五〇
滿繍通覽　一四七
漫堂書畫跋　一三・一三五
漫堂墨品　一三・一五六
マンドリン奏法　一八一
萬葉遺漏詠夢長歌竝短歌　一八一
萬葉假字小くら百首　一五六
萬葉集拔書　一二五
萬葉集の遊女　三
滿蒙美觀　二〇六
ミケルアンジエロ　一五・一七・二七
ミケルアンジエロ及ミレー　一五・一七・二・二七
みづゑ　九六
水島卜也肖像　八七
水野越前守自筆題簽　一六
見立遊女張果郎之圖　九九
三たび夢幻劇を論ず　三〇
密敎版畫集成　八〇
密著及引伸印畫法　一四八
光信畫譜　一〇四
三峰山大權現女男犬圖　一六
御堂關白記　一二八
御堂關白記古鈔本　一二八
御堂御記抄　一二八
水戸景山公書茶說　三一
水戸志士稻田正辰與宍倉村庄屋書翰　五〇
水戸志士遺墨展覽會目錄　四六
水戸先哲遺墨帖　一二八
水戸光圀卿消息　一三五
水戸烈公君臣十四家書牘　五〇
水戸浪士東禪寺討入　三三
皆川政之允碑　一六九
源家長書狀　一二八
源家長筆朗詠切　一二四
源爲朝朝臣箭鎌圖　三一
源仲綱書狀　一二八
源頼家畫像　八〇
源頼家手寫心經　三一

源頼朝畫像　八〇
源頼政請文　一二八
美努岡萬墓誌　二〇・二六
簑張草　二三四
任那時代古蹟圖譜　一八
宮川長春筆雲中美人　一〇五
宮城野　八七
三宅克己自傳　六九
都名所畫譜　八〇
宮本茶村筆曉入西園行露稠　四九
宮本武藏遺墨集　五一
見ゆる世界　四
三好長慶像　八七
未來記　二〇三
未來派研究　六・五六
未來派とは？答へる　六・五六
觀る方からの演劇の趣味　二九
ミレー畫譜　八八
ミレー評傳　七二
民家圖集　一三七
明畫錄　一四・七一
明仇十洲臺灣泰覬圖　九四
眠獅選　二〇五・二一一
明時代の美術　一
民衆教化と演劇　二〇四
民衆娯樂問題　二〇四
民衆的藝術　三六
民衆本位と我が劇の前途　二〇四
明人藝林名譜　四七
民族藝術　四・二三四
民俗藝術篇（世界美術全集）　一一
民族的色彩を主とせる近代美術史潮論　四二
民族と建築　一三一
明代軍功系譜零本　二六
明代建築大事年表　一三五
明帝封豐公書　二二四
明遺老騰衛指揮僉事李鍾英先生碑文　一六四
明皇寫黑碼ノ字　三七
明宣德銅器文樣　三一
民諺と世相　二〇八
民諺の背景　二〇八

ム

夢庵藏印　八〇
夢庵藏專　一六四
夢庵藏陶　一六四・一七三
夢英篆書千字文　一六九
古今東名所（むかしのわかうどがた）　一六六
剣野老（むかしの若女がた）　二一四
武藏足立郡氷川社藏北條泰時奉納太刀圖　三
武藏田土埴輪圖　二二四
武藏國江戸庄鎧渡圖　三〇・二一九
武藏國隅田川名所繪圖　二七
武藏野七ツ井之名稱　二六
武藏野役者談衛門（むさしのやくしゃだんえもん）　二〇〇
武藏野略圖　六七
武藏坊辨慶書顯微鏡（むさしぼうべんけいがしょけんびきょう）　一三一
結記　二六
娘孝行記　一〇五
娘日時計　二二四
無聲　一〇
無聲詩史　一九五
無聲詩話　一九五
無聲詩論　二一
夢跡一紙　二〇八
無線電話　二〇八
无咎題跋　一六
陸奥山王社碑　二六
陸奥千鳥　一〇
陸奥國白川郡王城目村碑　一三五
宗像神社阿彌陀經碑考　一五七
胸算用嘘店卸　一〇
無名翁隨筆　一六
紫式部日記繪詞　一六
紫式部日記繪卷　六五・八九・九四
紫野大德寺中客殿畫之知簿　六三
村田清風筆風水有天變　五〇
村田了阿筆小品　二二四
村野山人氏所藏品入札目錄　七
村山半牧筆曲水宴之圖　一七
無量壽佛光背銘　三
明治十四年十二月大日本名家演說人名錄　三〇
明治唱歌　一九五
明治以降の建築史　一三〇・一三四
明治維新後の京阪能樂界　二〇〇
明治以前洋畫類集　八七
明治演劇史（秋庭太郎）　二〇九
明治演劇史（伊原青々園）　三三
明治改元詔敕の草稿　二〇九
明治元年德川龜之助への御沙汰書　三四
明治軍歌　一九五
明治劇界小史　二一九
明治五年正倉院開封に關する日記　九・三六
明治座のオセロ　二一九
明治三十年大阪築港基石拓本　一七
明治三十年大阪築港當時ノ謝狀　一七
明治三十一年十一月十日第四師團偕行社ニ於ケル大宴會參入證　三三
明治三十九年特別展覽會列品目錄　九
明治時代圖鑑　一六
明治時代の美術　一一
明治時代風俗畫　六六
明治時代風俗概觀　六六
明治七年臺灣事件清國ト取爲換ノ和解書　一七
明治十四年十二月大日本名家演說人名錄　三〇
明治唱歌　一九五

室町時代の演能時間　二〇〇
室町時代の繪畫　六七
室町時代の工藝　一九
室町時代の小歌　一七・一〇六
室町能樂記　二〇〇

メ

名媛と筆蹟　一〇六
明應二年鳳笞灌頂記　一八三・八六
名家遺文　一八
名家遺墨　一九八
名畫記　二〇九
名家手簡　五三
名家手翰　一九九
名家眞筆帖　九八
名家短册帖　一六
名家蓄音器批判　一五七
名畫の筆意にもとづく新舞踊劇　一九六
名家筆蹟　二三三
名歌舞伎略解　一八
名家墨蹟增補鑒定便覽　二一三
名畫獵精　四七・五三
名曲解說全集　七七
明月餘情　一九二
名賢手札　二六
茗壺圖錄　一三・四五
名作歌劇解說　一九三
明治以降東京市街建築の變遷　一三〇・一三四

明治初期の洋風建築　一三五
明治初年太田陣屋の英式訓練　二四
明治初年太政官命令書　三三
明治初年に於ける京阪能樂師の動靜　一九九
明治初年の正倉院曝涼　九・三六
明治初年版新聞雜誌番附　二四
明治神宮の建築に就いて　一三〇・一三四
明治大正時代の美術　一二
明治大正昭和三聖代名作美術展目錄　七
明治・大正・昭和名作美術展覽會圖錄　七
明治大正書畫大觀　五一
明治大正日本印刷術史　一三一
明治天皇宸翰　三三
明治二十八年三月帝國軍艦命名式案內狀　三三
明治の舞師　二三三
明治文化版畫大鑑　一〇〇・二一八
名所腰掛八景の內手鏡持つ女　一〇〇
明治四年新貨幣位早見　三三
明治四年の伊藤博文　三四
明治六年版東京○持長者競　一〇・一五
名人忌辰錄　八七
名人のおもかけ　二四
名臣法帖　五三・六四・七七
名數畫譜　一〇九・一三三
名迹源流　八〇
名僧手簡　二八
明堂問　一三五
明妃出塞圖卷　九四
名物織もの目錄　一四六
名物きれ　一四六
名物裂の研究　八〇
名物古畫　一四一
名物集　一四五
冥報記上卷々末　二四
名優寫眞畫集　二一八
名優破型の理由　二一八
名流書翰　五三
名流精華集　三三
明曆三年の大火　一八三・一八六
迷路抄　三四
明和頃田島和蘭商館の圖　九四
明和二年宇和島藩狩獵繪卷　一四六
メストロウイッチの彫刻集　一四六
珍らしい寫眞　八〇
目の色　一四五
甿池五瑞碑　一七三

モ

モイマン現代の美學　一
摹印述　一三・一七六
摹印傳燈　一三・一七六
毛公鼎銘考釋　一六〇・一六一
蒙古襲來繪詞　六五・八九・九四
蒙古襲來圖　九四
蒙古襲來圖卷　二八
蒙古襲來我軍奮戰圖　一三五
毛端私珍抄　九四
毛利空桑筆泣血錄　一四六
毛利敬親筆墨竹　一四六
毛利元就畫像　八〇
毛利元德筆寄山祝歌　一四五
默阿彌作「網模樣燈籠菊桐」　二四
木庵藏器目　三
木繪考　二一八
木翁諷文竝小品　五三
木契　三三
木屋居　三三
木師抄　一八三・一八六
木本花鳥譜　三四
模刻古本論語集解　九四
本居宣長翁自畫像　一三六
本居宣長翁筆詠楠公　一三〇
本居宣長畫像　四
本居宣長肖像　七三
基勝消息　一
本木先生小傳　一
元長菊之和歌　一三・一七六
基熙筆短册　一三・一七六
元政書小切　一六〇・一六一
物眞似狂言盡鸚鵡石　二五三・二五四・二六一
模倣としての藝術　二五三・二五四・二六一
桃太郎　二五三・二五四・二六一
桃山荷稻鷺日　二五三・二五四・二六一
桃山初期の障屏畫圖集　八〇
桃山時代の建築　一三〇・一三四
桃山時代の美術　一一
桃山天井繪圖集　一四一
模樣編と新型スエターのあみかた　一五二
模樣畫譜　一四一
盛岡碑文集　一五七
森五六郎筆帶郭柳提吾舊居　四八
森田勘彌由緒書寫　二一
森有禮自筆の草稿　三四
諸藩與州黑　二一八
諸藩與州黑　二一
文覺書　二一
問奇亭印譜　八〇
文字　一八三・一八六
文字鏡　八〇
文字與圖畫同是藝術嗎　三六
文選印譜擊壤餘遊　一七六
門と玄關百種　一三六
文部省教育映畫時報　五〇
文部省推薦映畫目錄　八〇
文部省推薦認定レコード目錄　八七
文部省第三回美術展覽會受賞品集　一九六
文部省認定重要美術品目錄　三一
文部省美術展覽會圖錄　九
文部省美術展覽會創立二十五周年記念遺作展覽會圖錄　二〇
文樣集成　一四一
紋樣纏形　二五三・二五四・二六一

ヤ

夜鶴書札抄　四六・一〇九・一一四
夜鶴庭訓抄　一一四・一八三・一八六
野干　二〇一
藥師寺大鏡　一九・二〇・二一九
藥師寺金石記　二五四
藥師寺金堂及講堂諸佛像考證　一六
藥師寺東塔擦銘　二〇・二一・二六
藥師寺の花會式　二〇八
藥師寺佛足石記　二一・六九
藥師寺佛足石・同記・同歌碑　二七・六九
役者有難（やくしゃありがてい）　二三五
やくしや雷　二三四
役者一代男　二三四
役者一陽來（やくしゃいちようらい）　二三五
役者色景圖　二三四
役者兎の手柄　二三五
役者內百番　二三五・二六
役者繪盡し　二八
役者大雛形　二三四
役者大通鑑　二三五・二六
役者開帳（やくしゃかいちょう）　二三四
役者歌計（やくしゃうたばかり）　二三五・二六
役者清神葉　二三四
役者口三味線　二一一
劇子系話餘稿（やくしゃかけいわよりかき）　二一一
役者刪家系（やくしゃすがけい）　二三四

役者懸想文　二四
役者外題撰　二五
役者現銀店　二五
役者拳角力　二五
役者御吉慶　二五
役者言葉花　二五・二六
役者壽　二五・二六
役者金剛傳　二五
役者歲旦帳　二五
役者早速跑　二五・二六
役者三ケの角文字　二五
俳優三十二相　二四
戯子卅六歌撰檜色紙　三一・三八
役者三世相　二五
役者産物合　二五・二六
役者四海波　二五・二六
役者四季詠　二五
役者田世咄　二五
役者田世（代）噺　二五・二六
役者正月詞　二四
役者商賣往來　二五
役者正札附　二五
役者諸藝金之揮　二四
役者甚考記　二五
役者神事競　二五
役者新世帶　二五
役者新綿船　二五
役者酸辛甘　二五
役者雪月花　二五
役者節用集　二五
役者千兩箱　二五
役者早料理（文政五年）　二五
役者早料理（嘉永三年）　二五・二六
役者大學　二五・二六
役者大極丸　二五
役者大福帳　二五
役者寶舟　二五
役者仔言草　二五・二六
役者譬節　二五・二六
役者珠玉盡　二五・二六
役者多見賑　二五
役者談合膝　二五
役者段階子　二五
役者智惠鏡　二五
役者註眞庫　二五
役者灘名位　二五
役者眞壺錺　二五
役者手鑑　三三
役者手かゞみ　五三
役者手はじめ　二五
役者手柄競　二五・二六
役者黛紫選　二五
役者當世鏡　二五
役者當撰鏡　二五・二六
役者投扇曲　二五
役者登志男　二四
役者年越草　二五
役者名古屋帶　二四
役者男紫花　二五
役者謎懸論　二五
役者夏の富士　二五
役者二挺三味線　二五
役者日本鑑　二五・二六
役者人相鏡　二五・二六
役者子佳算　二五・二六
役者年中行事　二五
役者年内立春　二五
役者柱伊達　二五・二六
役者初白粉　二五・二六
役者初庚申　二五・二六
役者始開暦　二五・二六
役者初相場　二五
役者花くるま　二五
役者花見幕　二五
役者桔槹　二五
役者繁榮話　二五
役者久意物　二五
役者ひめ飾　二五
役者評判色三味線　二五
役者評判記　二五
役者評判記（高野辰之）　二五
役者評判記古今題名通覽　二五
役者評判記年表稿本　二五
役者福若志　二五
役者舞臺扇　二五
役者懷世帶　二五
役者武勇競　二五
役者舞遊問答　二五
役者不老花　二五
役者豐年歲　二五
役者舞扇子　二五
役者松囃子　二五・二六
役者巡炭　二五
役者萬年曆　二五・二六
役者簪筥　二五
役者三都鑑　二五
役者三醜面　二五
役者三叶和　二五
役者三津物　二五
役者都名所　二五
役者紫源氏　二五
役者名山盡　二五
役者名所圖會　二五
役者名物合　二五
役者名物略委　二五・二六
役者日利自慢　二五
役者旦生言語備　二五
役者紋選　二五
役者夕圓居　二五
役者弓初　二五
役者優眼合　二五・二六
役者金色　二五
役者吉野山　二五
役者よし〳〵　二五
役者世鳳凰　二五・二六
役者論語　二五
役者渡初　二五・二六
役者初渡橋　二五
役の性根　二五
野筆自造救像三體三所之内　二五
艷言葉　二四
艷筆八里徘　二四
やしま　二五
鎌拓本　二三
屋代弘賢影寫本　二三
屋代弘賢手蹟　二三
安井御殿舊藏賴光禁札　二四
痩男　二四
耶蘇教禁制に用ひられた踏繪　二四
柳川書譜　八七
梁川星巖筆送森田梅嗣歸土州　四九
柳原前光筆戊辰之冬甲城偶作　四九
矢野一宇聞書　二〇一
やのね五郎　二一三
矢野文雄氏と九鬼隆一氏との美術論　三四
耶馬溪寫眞帖　一五〇
耶馬溪眞景畫帖　八七
耶馬眞景畫帖附言　九五
野服考　一三
流鏑馬之卷　九四
野不題詩　三〇
病草紙　八九・九四
山岡鐵舟舊幕尊信葵觀世音　建立奬勵書　二九
山岡鐵太郎筆不二山　四九
山縣有朋筆征清之役取九連城所感　五〇
山口古菴　三四
山口兵武傳　七五
山國喜八郎筆齋藤鑑物宛尺牘　四九
山崎美成自筆題簽　二六
山科言繼筆寄雲戀　四九
山城太秦廣隆寺傳來周尺　三五
山城金州墓誌銘集大成　二七
山田長政　四・四四・四六
山田長政の戰艦圖　三三
山田仁左衞門肖像　三〇
山田赤助詠雪竹　三〇
大和栗原寺塔露盤銘　二〇・二六
やまと繪序說　五六
大和耕作繪抄　九九・一〇〇・一〇四
大和上代寺院志　一二五
倭千字文　二六
大和添上郡櫟本鄉人磨歌塚　碑銘竝碑陰記　一六
大和竹野王碑　二〇・二六
日本武尊御筆蹟　三三
やまとの大寄　一〇四
大和國葛下郡田券　六八
大和國奈良興福寺伽藍記　一二五
倭の光　二〇
大和訪古志　一〇・一五四
大和法隆寺藏古鈴圖　三三
大和三輪山所掘陶器圖　三三
山中笑氏藏銅印　三三
山梨縣下國賓竝保護建造物　一覽　九
山名村碑　補刷　六
山內一豐夫人畫像　八〇
山村長太夫座番附　二四
山本和谷頌德碑　一六九
山本四郎美德筆咏八幡太郎　四八
野良闕相撲　二六
野郎大佛師　二六
野郎にぎりこぶし　二六
野郎蟲　三〇
八幡寺名所圖　三〇
湯上り美人　一〇二
遊樂習道見聞書　二・三五・一九八・一九九
夕烏後日の兼言　二六
結城合戰繪詞　九四
結城氏聯芳遺墨　二四
結城入道考證　二七
遊具箋　三三
幽谷印譜　一〇・四八・一八〇
優者年表　一九
祐乘傳記　一三
遊女佛入歌川　二〇八
融通念佛緣起　八九・九四
夕露消息　三三
友禪ひいながた　一四三
游相日記　八七
右筆條々　一二四
郵便報知新聞第一二六三號　一四
有樂茶室　二五
岡廬賦　二九
勇盧開詰　二四
ゆかた合　二四
ゆきかひぶり　九四
行成筆　二六
雪能飽田寢　五〇
雪乃膽澤邊　二六
雪の田羽路　二六
雪田羽道　二四
雪能哀呂智泥　四八
雪乃道奧雪の田羽路　一三
雪のやま蹈え　一七三
雪見淺酌の圖　一〇三
夢二書集　一〇五
ゆめのたゞち　一〇・四八・一八〇
ユリウス・バアブの戯曲論　三一〇

ヨ

洋外貨品　一三
洋畫印象錄　一三
洋樂鑑賞法　一三
幼學綱要領賜敕諭　一三
洋樂變遷史　一三
洋貨圖錄　一三
洋畫手引草　一三
洋畫南派　一三
楊貴氏墓志　一三
與謝蕪村筆蛙ノ句　二五
義貞於鎌倉首實檢之圖　二九
吉田秋主肖像　二九
吉田松陰草稿　二四
吉田松陰筆拜鳳闕之作　四八
義經一代記圖抄　九四
吉成信貞筆上烈公書　五〇
吉野吉水院樂書　一八三・一八八
芳野金陵自筆封皮　二六
吉野室町桃山時代圖鑑　一六
義政和歌短册　二四
吉村寅太郎筆兩親宛尺牘　四八
輿車圖　一三三
豫州從事尹宙碑　一七三
吉原傾成新美人合自筆鏡　一〇三
吉原戀の道引　一〇五
吉原春秋二度の景物　二一六
吉原たん歌　一〇五
吉原美人合　一〇〇・一〇五
四たび夢幻劇を論ず　三一〇
余丁町の演劇研究所　三〇八
四辻大納言外連名達書外三種　三〇
夜なかに思つた事　三四
予の日本建築史觀　一三〇・一三四
ヨヘイ畫集　八八
よもの山　三四
代々木葬場殿式場　三三
鎧威鑑　二六
弱法師　二〇一

山口兵武傳　七五
山國喜八郎筆齋藤鑑物宛尺牘　四九
山崎美成自筆題簽　二六
山科言繼筆寄雲戀　四九
山城太秦廣隆寺傳來周尺　三五
山城金州墓誌銘集大成　二七
山田長政　四・四四・四六
山田長政の戰艦圖　三三
山田仁左衞門肖像　三〇
山田赤助詠雪竹　三〇
大和栗原寺塔露盤銘　二〇・二六
やまと繪序說　五六
大和耕作繪抄　九九・一〇〇・一〇四
大和上代寺院志　一二五
倭千字文　二六
大和添上郡櫟本鄉人磨歌塚　碑銘竝碑陰記　一六
大和竹野王碑　二〇・二六
日本武尊御筆蹟　三三
やまとの大寄　一〇四
大和國葛下郡田券　六八
大和國奈良興福寺伽藍記　一二五
倭の光　二〇
大和訪古志　一〇・一五四
大和法隆寺藏古鈴圖　三三
大和三輪山所掘陶器圖　三三
山中笑氏藏銅印　三三
山梨縣下國賓竝保護建造物　一覽　九
山名村碑　補刷　六
山內一豐夫人畫像　八〇
山村長太夫座番附　二四
山本和谷頌德碑　一六九
山本四郎美德筆咏八幡太郎　四八
野良闕相撲　二六
野郎大佛師　二六
野郎にぎりこぶし　二六
野郎蟲　三〇
八幡寺名所圖　三〇
湯上り美人　一〇二
遊樂習道見聞書　二・三五・一九八・一九九
夕烏後日の兼言　二六
結城合戰繪詞　九四
結城氏聯芳遺墨　二四
結城入道考證　二七
遊具箋　三三
幽谷印譜　一〇・四八・一八〇
優者年表　一九
祐乘傳記　一三
遊女佛入歌川　二〇八
融通念佛緣起　八九・九四
夕露消息　三三
友禪ひいながた　一四三
游相日記　八七
右筆條々　一二四
郵便報知新聞第一二六三號　一四

ユ

ヨ

洋外貨品　一三
洋畫印象錄　一三
洋樂鑑賞法　一三
幼學綱要領賜敕諭　一三
洋樂變遷史　一三
洋貨圖錄　一三
洋畫手引草　一三
洋畫南派　一三
楊貴氏墓志　一三

洛陽智恩院松蔭之研圖竝記文　三一・三六
洛陽田樂記　二〇三
洛陽道詩　一三
樂浪　一四七
樂浪王光墓　一四七
樂浪郡及帶方郡時代古蹟圖譜　一八
樂浪彩篋塚　一四七
樂浪時代の美術　一一
樂浪封泥續攷　一七六
羅山先生書ノ跋　一八
羅生門の榜札　三四
羅振玉篆篇額　三五
ラスキン研究　六
ラスキンの經濟的美術觀　六
落款記　四八・七三・二〇
落款譜　四八
嵐溪摹張秋谷墨菊　三三
蘭人ケンプエルの將軍謁見　三四
嵐雪肖像眞蹟　八三
蘭竹畫譜　七八・八七
蘭亭考　二三五
蘭亭序　二三
蘭譜（十竹齋）　三五
亂舞之雜錄　一九九
欄間百種　一三六

リ

琉球紀行　一三〇
琉球藝術の性質　三六
琉球建築　一三七
琉球國攝政王子男爵今歸仁朝敷氏之印章　三一・一八〇
琉球漆器考　一四七
琉球染色に就きて　三五・一四六
琉球中山王尺牘　二一
琉球の音樂に就いて　一六六
琉球の美術　一一
琉球の風俗　三三
琉球美術工藝に就きて　一三九
隆慶六年在銘馬牌　三三
隆慶六年十二月在銘馬牌　三六
流沙墜簡　一三三
流沙墜簡考釋補正　一三六
留眞研譜　一三五
留眞錄　九
劉生畫集及藝術觀　一四四
龍蛇帖　一三三
隆達の小歌　三六
柳亭淨瑠璃本目錄　一九一
柳亭種清自筆稿本　二六
龍笛高麗鄂曲催馬樂今樣譜　一八八
龍笛笙拍子箏譜　一八八
龍笛序破遠曲譜　一八八
龍笛琵琶羯鼓拍子譜　一八八
龍の傳說　三三
龍舟遺墨　三五
龍眠山人印譜　一八〇
龍鳴抄　一八三・一八八
龍門石窟　二九
龍門造像銘　一三三
遼廓亭　一三六
兩岸一覽　六五
兩漢金石記　一三九
良寬禪師遺物　一三三
良寬禪師詩碑　一六九
良寬墨跡　二七
良寬墨跡　一三三
遼金時代ノ建築ト其佛像　三〇・二九・三七
菱湖書牘選　一三三
菱湖唐詩帖　一三三
良山堂茶話　一〇
兩周金石文韻讀　一三九
兩周金文辭大系　一六一
兩周金文辭大系攷釋　一六一
兩周金文辭大系圖錄　一四四・一六一
梁塵愚案抄　一八四
梁塵祕抄口傳集　一八三・一八六・一八九
梁塵要錄抄　一八三・一八九
陵東居　一三六
了得寺ノ名アル眞如常性之月云々　三一
梁元帝山水松石格　一四・七七
李陽冰三墳碑　一三四
兩疊軒藏器目　一六一
李陵答蘇武書斷簡　一二九
輪翁畫譜　四六・九七・六四・六五

臨書收小　八七
林氏妙貞之墓銘　一六八
林泉高致　一三・六四・七七
林則徐眞蹟　三一
臨池管見　一三・一四
臨池心解　一三・一四
臨池清談　四六・一〇九・一一四
臨摹書畫錄　五三

ル

類苑叢寶筆墨門　五六・一六八
ルイ王朝様式の美術　一一
涙襟集　二七・二一九
類聚世話百川合海　一八一
ルネッサンス史概說　四五
ルネサンス文化の研究　四五
琉璃志　一三・一五三

レ

靈雲院書院　一三五
靈元院般若心經　一三三
靈山子遺墨集　一三五
隷釋　一三五
冷泉爲相書狀　一八
冷泉爲相筆古今和歌集一部　一二九
冷泉爲頓卿消息　一三三
隷續　一三五
隷辨　一二
レオナルドダヴインチ研究寄與　五一
Leonardo　二・四三
レオナルド・ダ・ヴインチ（兒島喜久雄）　一五
レオナルド・ダ・ヴインチ（グロナウ）　七三
レオナルド・ダ・ヴインチの「レダ」に就て　二・四一
歷史敎授用參考掛圖　八〇
歷史藝術世界寫眞帖　三一〇
歷史小說・歷史書・歷史劇　三一〇
歷代畫史彙傳　七二
歷代君臣圖像　八七
歷代鍾官圖經　一六一
歷代書體遷變圖竝略說　三一
歷代大佛師譜　一二七
歷代帝王宅京記　一三五
歷代天皇御宸翰　三二
歷代名畫記　四六・六二・六三・六四・七二
歷代名瓷　一四五
レコード音樂　一九六
レコード音樂名曲解說全集　一九二
レコードによる古典音樂　一九二
レコードによるロマン派の音樂　一九二
レコード目錄　一九六
烈公寶船　一七〇
レヰウの軌跡　三六・三三
戀愛の男女　一〇〇
煉毛譜　二・四三
レオナルド・ダ・ヴインチ（グロナウ）　七三
レオナルド・ダ・ヴインチの「レダ」に就て　二・四一
歷史敎授用參考掛圖　八〇
歷史藝術世界寫眞帖　三一〇
歷史小說・歷史書・歷史劇　三一〇
歷代畫史彙傳　七二
歷代君臣圖像　八七
歷代鍾官圖經　一六一
歷代書體遷變圖竝略說　三一
歷代大佛師譜　一二七
歷代帝王宅京記　一三五
歷代天皇御宸翰　三二
歷代名畫記　四六・六二・六三・六四・七二
歷代名瓷　一四五
レコード音樂　一九六
レコード音樂名曲解說全集　一九二
レコードによる古典音樂　一九二
レコードによるロマン派の音樂　一九二
レコード目錄　一九六
烈公寶船　一七〇
レヰウの軌跡　三六・三三
戀愛の男女　一〇〇

六大浮世繪師決定版　九七
蘆臺題畫稿　三一・六三
六代目菊五郎傳　三一
六玉川（陸奥千鳥）　九八
六玉川（雛鶴）　一〇〇
六無齋遺墨　一三三
六無齋遺墨題簽　一九五
六無先生考坪碑　三一・三五
六名家書談　一〇七
六輪一露　三一・三五・一九八・一九九
六輪一露之記　一九七・一九九
魯公筆法記　一三六
露西亞藝術　三四
ロシヤ使節書簡二通　二一〇
魯西亞錢譜　二一
露西亞舞踊　三一
ロダン　三〇
ロダン藝術觀　一三七
ロダンの言葉　四
ロダンの遺言　九五
ロダンの遺言　一三一
六歌僊和歌　一一
ロツツエの美學　一三三・一三五
六方ことはロマン派の音樂　一〇
論印絕句　四
論畫瑣言　一一
論畫雜詩　一二六
論畫詩　一三・二三
論畫絕句　二三・二四・二五
論畫偶筆　二三・二三
論國劇運動　八九
論書法　二三五
論書贅語　一三・二四
論篆　一〇九・一七五・一七六
論墨　一三・一五六

ワ

蓮華往生祕密ノ一片椿　三六
聯合艦隊の馬關砲擊　一三・二四
レムブラント　一三五

ロ

朗詠九十首抄　一三七・一〇九
朗詠集斷片　一〇七
朗詠集零篇　一三五
朗詠集零本　一〇七
朗詠要集　一三〇
朗月齋主人に與ふる書　四九
老近松を世界に紹介すべし　二一九
老尼肖像　二一九
良辨大德天平等寫書造菩薩願文　一八三
我が演劇の前途　二一九
我が舊劇に似た外國の劇　一九九
我邦音樂の發達に就て　一八三
我が國の古舞古樂　一九八・二〇八
我が國の古舞古樂に就きて　一八九
我國の山間地方に見らるゝ校倉　一五六
我が國の史劇　三一〇
我國發見の塼佛に就いて　一三八
我國洋畫の流派に就きて　一四四
わが劇畫に現はれたパセチツクなアプナ趣味　二一七
和歌小切　一七
わかこゝろ　八四
わが在來の舞踊に就いて　三三三
若衆歌舞伎歌　二〇八
和歌二首　一五

56
43

わが舞踊の行くべき道　二三三
わが六大舞踊派の特質　二三三
和漢印人傳　一七七
和漢印畫　五三・一七七
和漢軍談紀略考　三一
和漢研譜　一六・三六
和漢合類繪本鑑　八三
倭漢三才圖會樂器類　一六六
和漢字府諺解　一三五
倭漢抄一部　一八八
倭漢抄斷片　二一八
和漢書畫古筆驗定家印譜　三一
蘇漢諸體一覽　二一一
和漢對照書札　一一四
和漢對照陶說　一四五
和漢茶入譜　三一
和漢筆道手習指南　一三五
和翰名蒐　一二六
和漢名畫選內容見本　二六
和漢歷代名公法帖　一二七
脇方の發生と其の傳統　一九六
倭寇圖卷　九四
和國諸職繪盡　九六・一〇〇・一〇五
和國百女　九六・一〇〇・一〇五
和琴血脈　一八三・一八九
和州香具山土中所獲古鈴圖　三一
早稻田建築學報　一三八
早稻田大學御手植樹記　一六九
早稻田大學恩賜紀念館記　一六九
早稻田大學恩賜紀念館篆額　一六九
早稻田大學敎旨　一七〇
早稻田大學圖書館主催江戶美術展覽會出陳物寫眞　一〇五
早稻田大學圖書館主催能樂源流表彩展覽會出陳物寫眞　二〇一
早稻田文學の後沒理想　一三四
早稻田文學の沒卻理想　一三四
私の希望する家庭童話劇　二〇四
渡邊華山（笹川臨風）　七〇
渡邊華山（長田權次郎）　七〇
渡邊華山畫　二四
渡邊華山畫像　八一
渡邊華山逮捕の自畫　三三
渡邊華山筆老狸鼓腹之圖　四四
渡邊華山墓誌　一七〇
渡邊家年譜　六九
委奴國王印考　一七七
和譯桐陰論畫　六一
和樣書道史　一〇八・一一六
笑の研究　四
和林金石錄　一五九
我等の劇場　三一〇

書名索引終

昭和十四年一月三十日印刷
昭和十四年二月三日發行

非賣品

編輯兼發行者　早稻田大學圖書館　東京市淀橋區戸塚町
印刷者　五十嵐良晃　東京市牛込區榎町七番地
印刷所　大日本印刷株式會社榎町工場　東京市牛込區榎町七番地

56
4

562
43

56
43

562
43